

大手前大学 通信教育部

2020年度 シラバス

「調整中」となっている科目は現在制作中の科目です。
各科目の最新シラバスについては、el-Campus(エルキャンパス)より確認してください。

- ※ 索引ページの科目名をクリックすると、該当の科目にジャンプします。
- ※ 各科目のページ左上の『索引へ』をクリックすると、索引ページにジャンプします。

シラバス凡例項目

項目名	記載内容の説明
メジャー名	科目に該当するメジャーが記載されています。該当しない科目もあります。
授業科目名	授業科目名称が記載されています。
担当者	科目の担当教員名が記載されています。
レベルナンバー	基礎・発展の度合いを示す指標です。 数値が低いほど基礎的な内容に、高いほど発展的な内容になっています。
単位数	単位数が記載されています。
授業方法	科目の授業方法が記載されています。 ◆通信授業：教材（教科書、PDF教材）とデジタル教材を併用した授業 ◆メディア授業：主にデジタル教材を中心に教材（教科書、PDF教材）を併用して期間内に学習を進める授業 ◆メディア授業（ライブ型）：受講する日程があらかじめ決められている授業 同時双方向性を確立した学習で、定められた開講日程にてライブ配信される授業を受講 ◆スクーリング：各会場（キャンパス等）の教室で受講する授業
デジタル教材活用度	★が多いほどデジタル教材が充実、活用されています。 ★★★ デジタル教材を中心に学修を進めます。 ★★☆ デジタル教材と教科書を併用して学修を進めます。 ★☆☆ 教科書を使用して学習を進め、与えられた課題に取り組みます。 ☆☆☆ スクーリング
単位修得試験 受験資格	単位修得試験を受験するための資格が記載されています。 ◆通信授業：全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業：受講クール内に全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業（ライブ型）：すべての授業への出席、課題提出等が指定されています。 ◆スクーリング：すべての授業への出席、課題提出等が指定されています。
単位修得試験 実施方法	単位修得試験の実施方法が記載されています。 ◆通信授業 Web試験：el-Campusで実施する試験 レポート試験：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆メディア授業・メディア授業（ライブ型） Web試験：el-Campusで実施する試験 レポート試験：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆スクーリング(詳細は授業中に教員が指示します。) 現地試験：スクーリング最終日に受験する筆記試験等 現地試験（レポート）：スクーリング最終日に受験するレポート試験 現地試験（課題）：スクーリング最終日に受験する課題試験 レポート：作成したレポートを教員が指示した期日までに el-Campus で提出する試験 注）上記の他に、提出課題、平常点を重視する科目もあります。
単位修得試験会場	スクーリングにて現地試験が行われる会場名（キャンパス等）が記載されています。
資格名	資格関連科目である場合、「資格名」が記載されています。
特記事項	特記事項が記載されています。
学習目標	学修目標が記載されています。
学習の進め方	効果、効率のよい学修の進め方が記載されています。
授業時間外学習	授業時間以外の予習、復習に必要な学修活動が記載されています。
学習内容	各回ごとの学修内容がタイトルと概要に分けて記載されています。
課題	各回に指定された課題が記載されています。課題には、確認テスト、レポート等があり、科目ごとに異なります。
成績評価方法	評価材料および評価の基準、配分等が記載されています。
教科書	使用する教科書の情報が記載されています。教科書を使用しない科目は「なし」と記載されています。
参考書（任意購入）	使用する参考書名等が記載されています。
必修ソフト・ツール	受講（試験受験時）に必要なソフトやツールが記載されています。
備考	スクーリングの受講者上限人数（目安）や履修に関する注意事項等、モバイル端末対応科目について記載されています。

索引

	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
英字	Web制作応用	栗谷 幸助	通信授業	1
	Web制作入門	栗谷 幸助	通信授業	3
	Webマーケティング	高田 晃	通信授業	5
	Webライティング	福田 多美子	通信授業	7
ア	アカデミック・ライティング	杉田 米行	通信授業	8
	アジアの文化と歴史	チャン キグォン、丹羽 博之、渡邊 温子、坂本 真司、于 亜	通信授業	9
	アメリカの文化と歴史	田中 紀子	通信授業	10
	異文化コミュニケーション	神谷 善美	通信授業	11
	異文化コミュニケーション演習	安藤 幸一	スクーリング	13
	医療人類学入門	野波 侑里	メディア授業	14
	宇宙科学	山田 義弘	通信授業	15
	英語Ⅰ	石野 尚	通信授業	16
	英語Ⅱ	石野 尚	通信授業	18
	映像制作入門	小倉 以索	通信授業	20
	音楽とコミュニケーション	萬 圭介	通信授業	21
	オンライン教育概論	合田 美子	通信授業	22
	カ	カウンセリング心理学	【夙川】辻野 達也、【東京】具 英姫	スクーリング
化学概論		牧野 壯一	通信授業	24
学習・言語心理学		枚田 香	通信授業	25
家庭の経営		未定	メディア授業	27
韓国語Ⅰ（基礎）		村上 純	通信授業	29
韓国語Ⅱ（応用）		村上 純	通信授業	30
感情・人格心理学		横山 仁史	通信授業	31
企業経営論		小江 茂徳	通信授業	33
基礎英語Ⅰ		山田 泉	通信授業	35
基礎英語Ⅱ		山田 泉	通信授業	37
基礎ゼミナールⅠ		野波 侑里、畑 耕治郎、本田 直也	通信授業	39
基礎ゼミナールⅡ		野波 侑里、畑 耕治郎、本田 直也	通信授業	40
キャリア概論		岩波 薫	スクーリング	41
キャリアの心理学		坂本 理郎	スクーリング	42
キャリアをつくる技法		山縣 康浩	スクーリング	43
教育・学校心理学		寺田 未来	通信授業	44
行政法		野村 康春	メディア授業	46
暮らしから見る福祉		未定	通信授業	48
経営学総論		藤本 秀俊	通信授業	49
経営組織論		小江 茂徳	通信授業	51
経済学基礎		金森 啓介	通信授業	52
経済学入門		大沼 穰	通信授業	54
経済原論		金森 啓介	メディア授業	55
計量言語学		中俣 尚己	通信授業	57
健康・医療心理学		北島 順子	通信授業	58
言語とコミュニケーション論		石井 誠	通信授業	60
憲法		山谷 真	メディア授業	61
考古学の世界		川口 宏海	メディア授業	63
行動の科学		櫻本 和也	メディア授業	65
心と身体のセラピー演習		野波 侑里	メディア授業	66
子育てと仕事		細見 正樹	メディア授業	67
子育てと食育		山下 陽子	メディア授業	68
コミュニケーション概論		森川 知史	通信授業	69
コンピュータと通信	中崎 修一	メディア授業	71	

索引

	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ
サ	産業・組織心理学	服部 泰宏	通信授業	72
	質的調査法	畑山 直子	通信授業	74
	社会科学	岩波 薫	メディア授業	76
	社会心理学	森下 朝日	メディア授業	78
	社会福祉援助技術	須川 重光	スクーリング	79
	社会福祉概論	須川 重光	スクーリング	80
	ジャパノロジー入門	田中 キャサリン	通信授業	81
	宗教学	中村 玲太	通信授業	82
	障害児・障害者心理学	楠 敬太	通信授業	83
	障害者福祉	須川 重光	スクーリング	85
	生涯発達心理学	松並 知子	通信授業	86
	消費者のための法律知識	日野 勝吾	メディア授業	87
	情報活用 I (基礎)	野波 侑里、本田 直也、畑 耕治郎	スクーリング	89
	情報機器プレゼンテーション	佐々木 英洋	通信授業	93
	情報セキュリティ事例研究	鳥巢 泰生	メディア授業	95
	資料分析学	近藤 伸彦	通信授業	97
	人事・労務管理	中嶋 哲夫	通信授業	99
	身体科学	渡辺 勉	通信授業	101
	心理学概論	松並 知子	通信授業	102
	心理学研究法	西本 実苗	通信授業	103
	心理学実験演習 A	【夙川/名古屋/岡山/仙台】布井 雅人 【夙川】八木 彩乃、高橋 裕美 【東京/札幌/福岡】櫻本 和也	スクーリング	104
	心理学実験演習 B	【夙川/名古屋/岡山/仙台】布井 雅人 【夙川】八木 彩乃、高橋 裕美 【東京/札幌/福岡】櫻本 和也	スクーリング	106
	心理学総合演習	【夙川】枚田 香、【東京】具 英姫	スクーリング	108
	心理学統計法	西本 実苗	通信授業	109
	スイーツ学でお菓子探訪	松井 博司	スクーリング	111
	数学	浦畑 育生	通信授業	112
	政治学	石黒 太	通信授業	113
	精神分析学	赤坂 和哉	通信授業	115
	青年心理学	芳田 茂樹	通信授業	117
	生物学概論	杉本 敏美	通信授業	118
	生命科学	渡辺 勉	メディア授業	120
	世界の日本語教育	恩塚 千代	通信授業	121
	卒業研究	石毛 弓、浦畑 育生、川口 宏海、 野波 侑里、酒井 健、鈴木 基伸、 武藤 麻美、奥村 紀之、仲谷 伸子	通信授業	206
タ	対照言語学	石井 誠	通信授業	122
	対人関係論	森下 朝日	通信授業	123
	対人コミュニケーションのトレーニング	後藤 亮子	スクーリング	125
	多変量解析法	安藤 仁朗	通信授業	126
	地域デザイン演習	谷村 要、坂本 理郎、森元 伸枝、藤田 昌弘	スクーリング	128
	地域の日本語教育	清水 泰生	通信授業	130
	中国語応用	公文 三佐子	通信授業	131
	中国語入門	公文 三佐子	通信授業	132
	調査研究方法 I	谷村 要、坂本 理郎、酒井 健、中嶋 哲夫	通信授業	133
	調査研究方法 II	内田 啓太郎	通信授業	135

索引

	授業科目名	担当教員	授業方法	ページ	
タ	データベース論	森本 雅博	メディア授業	137	
	デジタルデザイン入門	栗谷 幸助	通信授業	139	
	哲学	石毛 弓	メディア授業	141	
	統計入門	浦畑 育生	通信授業	142	
	特別演習Ⅰ（対話を見える化するコミュニケーション）	鈴木 沙代	スクーリング	144	
	特別演習Ⅰ（目標達成のための行動変容技術）	永谷 研一	スクーリング	145	
ナ	日本語学研究	石井 誠	通信授業	146	
	日本語教育	加藤 恵梨	通信授業	147	
	日本語教育演習Ⅰ	梅野 由香里	メディア授業	149	
	日本語教育会話演習	吉崎 奈々	メディア授業（ライブ型）	150	
	日本語教育作文演習	清水 泰行	メディア授業（ライブ型）	151	
	日本語教育実習	石井 誠、鈴木 基伸、加藤 恵梨、井上 里鶴	スクーリング	152	
	日本語教育聴解演習	吉崎 奈々	メディア授業（ライブ型）	153	
	日本語教育と音声	須藤 潤	通信授業	154	
	日本語教育読解演習	加藤 恵梨	メディア授業（ライブ型）	155	
	日本語教育特講	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里	通信授業	156	
	日本語教育文法Ⅰ	建石 始	通信授業	157	
	日本語教育文法Ⅱ	野田 大志	通信授業	158	
	日本語教育文字・語彙演習	井上 里鶴	メディア授業（ライブ型）	159	
	日本語教授法A	加藤 恵梨	通信授業	160	
	日本語教授法B	加藤 恵梨	通信授業	161	
	日本語表現	秋田 久子	通信授業	162	
	日本の文化と歴史	盛田 帝子、鈴木 基伸	通信授業	163	
	認知行動療法	池田 浩之	スクーリング	165	
	認知心理学	高橋 賢司	通信授業	166	
	脳の科学	西村 治彦	通信授業	168	
ハ	俳句－十七字の世界－	水野 達朗	メディア授業	169	
	パズルで情報活用	本田 直也	メディア授業	170	
	働くことを考える	後藤 亮子	スクーリング	172	
	犯罪心理学	枚田 香	通信授業	173	
	阪神間の文学めぐり	盛田 帝子	スクーリング	175	
	阪神間の歴史紀行	川口 宏海	スクーリング	176	
	ビジネス日本語教授法	加藤 恵梨	通信授業	177	
	ひとと動物の心理学	中島 由佳	メディア授業	178	
	ファイナンシャル・プランニング	伊藤 亮太	メディア授業	179	
	物理学概論	庭瀬 敬右	通信授業	180	
	プレゼンテーション演習Ⅰ（基礎）	福井 愛美	メディア授業	181	
	プレゼンテーション演習Ⅱ（応用）	福井 愛美	通信授業	183	
	プレゼンテーション概論	大塚 英美	メディア授業	184	
	文化心理学	鳥山 理恵	通信授業	186	
	法学基礎	福田 高之	通信授業	188	
	簿記	坂元 英毅	通信授業	190	
	マ	マーケティング論	岡田 裕幸	メディア授業	192
		マネジメントとリーダーシップ	山縣 康浩	通信授業	194
民法		高村 麻実	メディア授業	196	
ヤ	ヨーロッパの文化と歴史	武内 英公子	通信授業	198	
ラ	臨床心理学	酒井 健	通信授業	199	
	臨床心理学実習	酒井 健、辻野 達也	スクーリング	201	
	倫理と道徳	石毛 弓	通信授業	203	
	ロジカル・シンキング	今宮 信吾	通信授業	204	
ワ	私のライフデザイン論	中島 剛	通信授業	205	

メジャー(専修)名				授業科目名	Web制作応用		担当者	栗谷 幸助
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	エディター（Dreamweaverなど）を活用して、HTML5の仕様によるコーディングやCSS3によるレイアウト設定を行ないながら、複数ページを持つ企業サイトを作成することによって、Web標準に沿ったサイト構築の流れと情報量の多いWebサイトの制作手法を理解する。また、JavaScriptやjQueryによるプログラミングにより、いくつかの動的表現を作成することによって、動きのあるWebサイトの構築の流れと基本を理解する。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。また、単位修得試験（制作試験）の標準所要時間は7時間です。適切な学習スピードの自己管理をお願いします。							
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したHTML5、CSS3、JavaScriptに関連した専門用語を理解しておくこと							
学習内容	概要							課題
	第1回 企業サイト(HTML)							レポート
	企業サイト(HTML)							
	第2回 企業サイト(HTML) 第1回の続き							レポート
	企業サイト(HTML) 第1回の続き							
	第3回 企業サイト(HTML) 第2回の続き							レポート
	企業サイト(HTML) 第2回の続き							
	第4回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分)							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分)							
	第5回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分) 第4回の続き							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分) 第4回の続き							
	第6回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分) 第5回の続き							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分) 第5回の続き							
	第7回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分) 第6回の続き							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(home部分) 第6回の続き							
	第8回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(about部分) 第7回の続き							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(about部分) 第7回の続き							
	第9回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(about、works、contact部分) 第8回の続き							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(about、works、contact部分) 第8回の続き							
	第10回 企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(contact部分) 第9回の続き/企業サイト(CSS)(PC用)(home部分)							レポート
	企業サイト(CSS)(スマートフォン用)(contact部分) 第9回の続き/企業サイト(CSS)(PC用)(home部分)							
	第11回 企業サイト(CSS)(PC用)(home、about部分) 第10回の続き							レポート
	企業サイト(CSS)(PC用)(home、about部分) 第10回の続き							
	第12回 企業サイト(CSS)(PC用)(about、works部分)							レポート
	企業サイト(CSS)(PC用)(about、works部分)							
	第13回 企業サイト(CSS)(PC用)(contact部分)/サーバーへのアップロード							レポート
	企業サイト(CSS)(PC用)(contact部分)/サーバーへのアップロード							
	第14回 Javascript							レポート
	Javascript							
	第15回 Javascriptワーク							レポート
Javascriptワーク								

成績評価方法	<p>評価項目：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において100点満点中90点以上の場合 HTML5の仕様則りmeta要素の記述やページ内の情報に対しての適切な要素でのマークアップが行なえていれば「30点」まで加点 ページの見た目やレイアウトに関するスタイルシートの設定において、CSS3のプロパティを正しく使用したCSSコーディングが行なえていれば「30点」まで加点 レスポンシブWebデザインの動作が適切に実装されていれば「10点」まで加点 Webページのデザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ無駄のないコーディングが行なわれていれば「10点」まで加点 JavaScript およびjQueryの課題について、すべての項目を正しく実装することが行なえていれば「20点」まで加点</p> <p>【B評価】 単位修得試験において100点満点中80点以上89点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p> <p>【C評価】 単位修得試験において100点満点中70点以上79点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p> <p>【D評価】 単位修得試験において100点満点中60点以上69点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	<p>「Adobe Creative Cloud」または、「Dreamweaver CC」を単体でご用意下さい。 CS6以前のバージョンは不可です。 パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認ください。 ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html</p>
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「Web制作入門」を修了していること、または、これに相当する知識を持っていること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Webサイトを通して、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができます。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	Web制作入門		担当者	栗谷 幸助
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	<p>エディター（Dreamweaverなど）を活用して、HTML5の仕様によるコーディングやCSS3によるレイアウト設定を行ないながら、1ページ完結型のWebサイト作成を行なうことにより、Webサイト構築の流れと基本を理解する。また、Webサイトのレイアウトを様々なデバイスに適応させる「レスポンシブWebデザイン」の手法も身につける。さらに「Web概論」や「Webデザインのためのワークフロー」などのWeb制作を行う上で必要な知識についても学んで行く。</p>							
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。単位修得試験（制作試験）の標準所要時間は4時間です。適切な学習スピードの自己管理をお願いします。</p>							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 なし</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した授業内で紹介したHTML5、CSS3に関連した専門用語やWebデザインの知識を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 Web概論とWebデザインのためのワークフロー							確認テスト
	Web概論とWebデザインのためのワークフロー							
	第2回 Web制作のオリエンテーション							レポート
	Webの基本、HTMLの基本							
	第3回 HTMLを記述する							レポート
	HTMLを記述する際の注意、リンク構造、要素（テキストコンテンツ、コンテンツセクションング）							
	第4回 画像とマルチメディアに関する要素/テーブルに関する要素/フォームに関する要素							レポート
	要素（画像とマルチメディア、テーブル、フォーム）							
	第5回 その他覚えておきたい要素/SEO対策/地図・動画の読み込み/コンテンツモデル							レポート
	その他覚えておきたい要素 SEO対策 地図・動画の読み込み コンテンツモデル							
	第6回 CSSの基本/セレクターの種類/疑似クラス、疑似要素/セレクターの組み合わせ							レポート
	CSSの基本 セレクターの種類 疑似クラス、疑似要素 セレクターの組み合わせ							
	第7回 CSSを記述する際の注意/文字・行に関するプロパティ/トピックス/背景に関するプロパティ							レポート
	CSSを記述する際の注意 文字・行に関するプロパティ トピックス 背景に関するプロパティ							
第8回 ボックスに関するプロパティ/表示・配置に関するプロパティ/アニメーションに関するプロパティ/レイアウト/@規則について							レポート	
ボックスに関するプロパティ 表示・配置に関するプロパティ アニメーションに関するプロパティ レイアウト @規則について								
第9回 Webデザインで使う色の基本原則							確認テスト	
Webデザインで使う色の基本原則								
第10回 アプリサイト（HTML）							レポート	
アプリサイト（HTML）								
第11回 アプリサイト（HTML） 第10回の続き/アプリサイト（CSS）（PC用）							レポート	
アプリサイト（HTML） アプリサイト（CSS）（PC用）								
第12回 アプリサイト（CSS）（PC用） 第11回の続き							レポート	
アプリサイト（CSS）（PC用）								
第13回 アプリサイト（CSS）（PC用） 第12回の続き							レポート	
アプリサイト（CSS）（PC用）								
第14回 アプリサイト（CSS）（PC用） 第13回の続き/アプリサイト（CSS）（スマートフォン用）							レポート	
アプリサイト（CSS）（PC用、スマートフォン用）								
第15回 アプリサイト（CSS）（スマートフォン用） 第14回の続き							レポート	
アプリサイト（CSS）（スマートフォン用）								

成績評価方法	<p>評価項目：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において100点満点中90点以上の場合 DTD宣言文やmeta要素、タイトルなどHTMLファイル作成において必要な基本記述が全て記述されていれば「10点」まで加 ページ内の情報がHTML5の仕様に則り もれなく全てマークアップされていれば「25点」まで加 情報に対して適切な要素（タグ）が選ばれていれば「15点」まで加 ページ内の情報に必要な見た目やレイアウトに関する設定がもれなく行なわれていれば「25点」まで加 見た目やレイアウトに関する設定を行なう上で適切なプロパティが選ばれていれば「15点」まで加 Webページのデザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ無駄のないコーディングが行なわれていれば「10点」まで加</p> <p>【B評価】 単位修得試験において100点満点中80点以上89点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p> <p>【C評価】 単位修得試験において100点満点中70点以上79点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p> <p>【D評価】 単位修得試験において100点満点中60点以上69点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	<p>「Adobe Creative Cloud」または、「Dreamweaver CC」を単体でご用意下さい。 CS6以前のバージョンは不可です。 パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認ください。 ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html</p>
備考	<p>【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 Webサイトを通して、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名		授業科目名		Webマーケティング		担当者	高田 晃
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場
資格名							
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の事業経営におけるWebマーケティングの重要性を理解する。 ・ビジネスモデルに応じたWebマーケティング戦略を、適切に策定できるようにする。 ・Webマーケティングにおける各種基本戦術(施策)を理解する。 						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 学んだ内容を生かして、気に入った商品・サービスのWebマーケティング戦略を自身の視点で考察してみる。						
学習内容	概要						課題
	第1回 Webマーケティングの前提知識						確認テスト
	Webマーケティング全体の概要と基本的な考え方						
	第2回 Webマーケティングの戦略設計						確認テスト
	ビジネスモデルに即したWebマーケティング戦略の立案方法と手順						
	第3回 Webサイトの制作・運営						確認テスト
	Webサイト(ホームページ)の制作と運営方法						
	第4回 SEO基礎						確認テスト
	SEOの基礎知識						
	第5回 インターネット広告の基本と実践						確認テスト
	インターネット広告の全体像理解、及び利用頻度の高い手法の基礎知識習得						
	第6回 コンテンツマーケティングの基本						確認テスト
コンテンツマーケティングの全体概念と、代表的な手法の基本知識習得							
第7回 SNSマーケティングとメールマーケティングの基本						確認テスト	
SNSを活用したマーケティング施策の全体概念と潮流の理解と、メールマーケティング(メールマガジン運営)の基本概念と知識を習得する。							
第8回 Googleアナリティクス入門						確認テスト	
Googleアナリティクスの基本設計理解と、データ分析手法							
成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 100点満点中、90点以上。 試験内で指定する6つの要件全てに触れられていれば、10点×6枠=60点。 以下8つの観点でチェックして、1チェックあたり5点×8=40点で加点対象とする。 ・ブログサイトは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・Facebookページは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・見込客のリスト獲得を、どのように実現しているか？ ・見込客のリスト獲得のための工夫(テクニック)は、どんな点にあるか？ ・LINE@は、何を目的として運営されているのか？ ・メールマガジンは、何を目的として運営されているのか？ ・見込客を顧客化するためのセールス活動は何か？</p> <p>【B評価】 100点満点中、80点以上。 試験内で指定する6つの要件全てに触れられていれば、10点×6枠=60点。 以下8つの観点でチェックして、1チェックあたり5点×8=40点で加点対象とする。 ・ブログサイトは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・Facebookページは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・見込客のリスト獲得を、どのように実現しているか？ ・見込客のリスト獲得のための工夫(テクニック)は、どんな点にあるか？ ・LINE@は、何を目的として運営されているのか？ ・メールマガジンは、何を目的として運営されているのか？ ・見込客を顧客化するためのセールス活動は何か？</p> <p>【C評価】 100点満点中、70点以上。 試験内で指定する6つの要件全てに触れられていれば、10点×6枠=60点。 以下8つの観点でチェックして、1チェックあたり5点×8=40点で加点対象とする。 ・ブログサイトは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・Facebookページは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・見込客のリスト獲得を、どのように実現しているか？ ・見込客のリスト獲得のための工夫(テクニック)は、どんな点にあるか？ ・LINE@は、何を目的として運営されているのか？ ・メールマガジンは、何を目的として運営されているのか？ ・見込客を顧客化するためのセールス活動は何か？</p> <p>【D評価】 100点満点中、60点以上。 試験内で指定する6つの要件全てに触れられていれば、10点×6枠=60点。 以下8つの観点でチェックして、1チェックあたり5点×8=40点で加点対象とする。 ・ブログサイトは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・YouTubeチャンネルは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・Facebookページは、何を目的として、どのように活用&運営しているか？ ・見込客のリスト獲得を、どのように実現しているか？ ・見込客のリスト獲得のための工夫(テクニック)は、どんな点にあるか？ ・LINE@は、何を目的として運営されているのか？ ・メールマガジンは、何を目的として運営されているのか？ ・見込客を顧客化するためのセールス活動は何か？</p>						
教科書	なし						
参考書(任意購入)	『小さな会社 ネット集客の鉄則』 著：高田 晃 クロスメディア・パブリッシング 2016年 1,580円(税抜) 『ネット集客のやさしい教科書。』 著：高田 晃 MDNコーポレーション 2017年 2,200円(税抜)						
必須ソフト・ツール	なし						

備考	【履修の前提とするもの】 インターネットを日常生活で使用できる程度の知識 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。
-----------	--

メジャー(専修)名				授業科目名	Webライティング		担当者	福田 多美子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	<p>Webライティングの役割、重要性を以下の5つの視点から理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【基礎】基本的な文章の書き方として、正しい文章、分かりやすい文章が書けるようになる。 ・【集客】SEOの基礎を知り、検索されやすいライティングができるようになる。 ・【成約】エモーショナルライティングを習得し、読む人に行動させる文章が書けるようになる。 ・【成約】キャッチコピーが作れるようになる。 ・【リピート】メールマガジン/ステップメールの活用方法が分かる。 							
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。また、中間課題の標準所要時間は4時間、単位修得試験(制作試験)の標準所要時間は8時間です。適切な学習スピードの自己管理をお願いします。</p>							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 インターネットで、気に入った商品/サービスの説明文を見つけておく。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 学んだ内容を生かして、気に入った商品/サービスの説明文を分析してみる。新たな説明文を書いてみる。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 Webライティング概論							確認テスト
	Webライティング概論							
	第2回 ロジカルライティング(1)							確認テスト
	ロジカルライティング(1)							
	第3回 ロジカルライティング(2)							確認テスト、中間課題
	ロジカルライティング(2)							
	第4回 SEOライティング(1)							確認テスト
	SEOライティング(1)							
	第5回 SEOライティング(2)							確認テスト
	SEOライティング(2)							
第6回 エモーショナルライティング							確認テスト	
エモーショナルライティング								
第7回 キャッチコピー							確認テスト	
キャッチコピー								
第8回 メールマガジン/ステップメール							確認テスト	
メールマガジン/ステップメール								
成績評価方法	<p>評価項目：中間課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中160点以上。 中間課題では、提出用パワーポイントのシートにしたがって、コラムを1本仕上げていただきます。シート内に配点を記入してありますので参考にしてください。 単位修得試験では、設問1～5がすべて埋まっています、テキストの内容から逸脱していないければ1問あたり10点×5問=50点。仕上げた原稿を以下の5つの観点でチェックして、1チェックあたり10点×5=50点とする。 チェックの観点は、以下の通りです。 ・AIDCASの法則、またはPASONAの法則の流れになっているか(漏れなく、順番があっているかどうか) ・キャッチコピーが適切か ・3つの理由が適切か ・CTA(Call to Action)直前に書くべきことが書かれているか ・クロージングにつながっているか</p> <p>【B評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中140点以上。 観点は、A評価の欄に書いた通り。</p> <p>【C評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中120点以上。 観点は、A評価の欄に書いた通り。</p> <p>【D評価】中間課題と単位修得試験において200点満点中100点以上。 観点は、A評価の欄に書いた通り。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	『SEOに強いWebライティング 売れる書き方の成功法則64』、ふくだみこ、ソーテック社、2,138円(税込)、2016年							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint							
備考	<p>【履修の前提とするもの】 インターネットを業務で使う程度の知識</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>							

メジャー(専修)名				授業科目名	アカデミック・ライティング		担当者	杉田 米行
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	大学で書くレポートの最低限のルールを身につけながら、レポートを学術的に書くことができるようになる。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 第1、2、4、7回では、ワークシートを使った演習を行います。							
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 レポートは「楽しくない」と考え、楽しみながら最後までやると決意して下さい。 el-Campus、その他の学習内「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 習ったことをしっかりと身につけましょう。ワークシートは何度も復習しましょう。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 アカデミック・ライティングとは？						レポート(ワーク・課題シート提出)	
	アカデミック・ライティングの特徴を学ぶ。							
	第2回 最小単位である「文章」の上手な書き方						レポート(ワーク・課題シート提出)	
	適切な文章の書き方を学ぶ。							
	第3回 パラグラフ・ライティングI						レポート(課題シート提出)	
	適切なパラグラフの書き方を学ぶ(その1)。							
	第4回 パラグラフ・ライティング						レポート(ワーク・課題シート提出)	
	適切なパラグラフの書き方を学ぶ(その2)。							
	第5回 パラグラフからパラグラフへ						レポート(課題シート提出)	
パラグラフとパラグラフの関係を学ぶ。								
第6回 レポートの構成						レポート(課題シート提出)		
レポートの構成を理解する。								
第7回 序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレート						レポート(ワーク・課題シート提出)、レポート		
序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレートを理解する。								
第8回 アカデミック・ライティングのまとめ						レポート(課題シート提出)		
総復習をして理解を深める。								
成績評価方法	<p>評価材料：提出された課題と試験の成績</p> <p>【A評価】すべての面にわたって極めて良好な理解をしている。 材料さえあれば、独力でレポートを書くことができる能力がある。</p> <p>【B評価】すべての面にわたって良好な理解をしている。 材料さえあれば、参考書等をみたりしながらでも、独力でレポートを書くことができる能力がある。</p> <p>【C評価】弱い部分もあるが、参考書やまわりの人と相談しながら前向きにアカデミック・ライティングの力を付けようと努力している。 参考書のみだけでなく、教員や友人などまわりの人と相談することができれば、レポートを書きあげることができる能力がある。</p> <p>【D評価】前向きに努力をしており、今後経験を積むことによって、レポートを形式面で向上させることができる潜在能力がある。 アカデミック・ライティングを身につけたいという不断の努力をし、失敗をしても、何度も挑戦していく能力がある。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word 2010以上またはWord for Mac 2011以上							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます							

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	アジアの文化と歴史			担当者	チャン キグオン, 丹羽 博之, 渡邊 温子, 坂本 真司, 于 亜
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	本講義を通して、アジア各国の文化と歴史に触れ、アジアの多様性を感じると同時に、日本はアジアの一員であることを再認識する契機となることを期待する。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 各回の授業の前に、該当する国や地域の基礎知識に関する内容を調べておく。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回に提示される課題に取り組むと同時に、授業中に紹介された参考文献をできるだけ読む。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 韓国文化における風刺と批判精神の伝統				レポート				
	韓国の伝統芸能を伝承してきた旅芸人について学習する。伝統仮面劇「タルチュム」の発達と、朝鮮王朝時代後期の社会相について考察する。タルチュムの演劇的形式と、罽罽構造の特性について分析する。風刺に潜む批判精神と同時に和解の精神について理解する。								
	第2回 黄河文化と都市				レポート				
	黄河上流域における甘肅省蘭州市の自然や歴史を概観し、そこから民族集団や生活文化の考察を通して蘭州都市の性格について学ぶ。								
	第3回 唐代の日中文化交流				確認テスト				
	八世紀の日中交流について学ぶ。阿倍仲麻呂と王維との交友について学ぶ。阿倍仲麻呂と李白との交友について学ぶ。漢詩について解説する。								
	第4回 玄宗と楊貴妃				確認テスト				
	玄宗の治世と生涯について学ぶ。楊貴妃の生涯について学ぶ。長恨歌について学び、長恨歌の源氏物語への影響について解説する。								
	第5回 遠くて近い国バングラデシュ				レポート				
南アジアの一国バングラデシュの人々の暮らしは、日本人のそれと大きく異なるが、類縁性も見られる。同国の文化について、日本の場合との比較から解説する。									
第6回 バングラデシュのIT文化				レポート					
貧困国とされるバングラデシュでは、ITの普及が急速に進んだ。そしてそれは、貧困を背景にしていた。これらの点を解説する。									
第7回 魅惑のインド				レポート					
インド文化は、宗教を抜きにして考えることはできない。インドの人々の世界観の根底にある宗教を紹介した上で、現在インドに見られる文化の多様性を学ぶ。									
第8回 世界の屋根チベット				レポート					
まずはチベットの位置を確認した上で、チベットの人々の世界観の根底にある宗教について学習する。そして、チベットの伝統的な暮らしと現代の暮らしについて学ぶ。									
成績評価方法	<p>評価材料：レポート、単位修得試験</p> <p>【A評価】 評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが、論文型レポート作成の非常に優れた水準に到達している。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが論文型レポート作成の非常に優れた水準に到達している。</p> <p>【B評価】 評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが、論文型レポート作成の優れた水準に到達している。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが論文型レポート作成の優れた水準に到達している。</p> <p>【C評価】 評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが、論文型レポート作成の標準水準に到達している。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが論文型レポート作成の標準水準に到達している。</p> <p>【D評価】 評価材料ごとの行動や結果 アジア各地の文化と歴史に関する基本的概念・理論、日本語文法・表記・表現についての理解、情報検索ツールの活用、論文型レポート作成のための基礎知識の理解の到達レベルが、単位修得最低水準である。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 論文型レポートのテーマと問いを設定し、そのために必要とされる文献リスト・アウトラインの作成および自分の論文についての概要説明と分析・推敲・発表の到達レベルが、単位修得最低水準である。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	アメリカの文化と歴史			担当者	田中 紀子
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	日本の文化に多大な影響を及ぼしてきたアメリカの文化と歴史を客観的にとらえ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解し議論できるようになる。アメリカに関するニュースと、講義で学んだ内容を結び付けて考えることができる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 その他の学習内「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題に進みましょう。								
学習内容	概要								課題
	第1回 アメリカの象徴的な事柄								レポート
	アメリカで身近に目にする事柄の中から、その国の根底を支える精神を表している物を紹介する。								
	第2回 アメリカ先住民と文化								レポート
	アメリカの先住民、すなわちアメリカインディアンの現状と、彼らの来歴、そして以前の暮らし方を知り、代々伝えられてきた伝説とメディスンマンたちの言葉も味わってみる。								
	第3回 アメリカの「発見」～合衆国の成立								レポート
	ヨーロッパ各地からの探検家、入植者によって今のアメリカが「発見」、開拓され、植民地が合衆国という一つの独立した国家に発展した経緯を学習する。								
	第4回 奴隷制度と南北戦争								レポート
	アメリカ、特に南部の経済を支えた奴隷制度と、三角貿易、南北戦争、エイブラハム・リンカーン、戦後の南部の反発について学習する。								
	第5回 領土の拡大～19世紀末								レポート
	アメリカの独立以降の急速な領土拡大の進捗状況とその影響、水上と陸上交通の進展、工業国として世界のトップにのし上がっていったアメリカについて考える。								
	第6回 20世紀初頭～1920年代								レポート
国家として好調な発展を続けた20世紀初頭から1920年代における、「明」と「暗」の部分について考察する。									
第7回 1930年代以降								レポート	
大恐慌から国を立ち直らせたフランクリン・ルーズベルト大統領と第二次世界大戦、1950年代の反共主義、繁栄を謳歌したアメリカ国民とその対極にあった黒人たちについて考察し、また今日に至るまでの主な出来事を概観する。									
第8回 アジア系アメリカ人(中国と日本からの移住)								レポート	
中国、そして日本からの移民が直面することになったアメリカ人の言動とアメリカ政府の対応、活躍を見せた中国系と日系のアメリカ人などについて考察する。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 各回の課題では、その回の感想において講義内容への理解度が十分示されていて、また自分の選択した事柄(あるいは人物)についてうまくまとめられている。単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて十分に調べ、資料からの引用などを適切に用いながら論理的にまとめられており、自分の意見には十分な説得力がある。</p> <p>学習目標と照らし合わせた能力の状態 アメリカという国およびアメリカ人を客観的に見つめ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解し、自らの意見を的確にまとめることができる。アメリカの文化と歴史について興味を持ち、深く探求する力を備えている。</p> <p>【B評価】 各回の課題では、その回の感想において講義内容への理解度が示されていて、また自分の選択した事柄(あるいは人物)について分かりやすくまとめられている。単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて調べ、資料からの引用などを適切に用いながら論理的にまとめられており、自分の意見には説得力がある。</p> <p>学習目標と照らし合わせた能力の状態 アメリカという国およびアメリカ人を客観的に見つめ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解し、考察を行うことができる。アメリカの文化と歴史について興味を持ち、探求する力を備えている。</p> <p>【C評価】 各回の課題では、その回の感想において講義内容への理解度が示されていて、また自分の選択した事柄(あるいは人物)についてまとめられている。単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて調べ、まとめられており、それに基づいた自分の意見も述べられている。</p> <p>学習目標と照らし合わせた能力の状態 アメリカという国およびアメリカ人を客観的に見つめ、アメリカで起きているさまざまな事象を理解している。アメリカの文化と歴史について興味を持ち、自分なりに調べるができる。</p> <p>【D評価】 各回の課題では、その回の講義内容を十分に理解できていないが、自分なりに感想を述べ、自分の選択した事柄(あるいは人物)についてまとめられている。単位修得試験レポートにおいては、自分の選択したテーマについて調べ、まとめられており、説得力には欠けるが自分の意見も述べられている。</p> <p>学習目標と照らし合わせた能力の状態 アメリカで起きているさまざまな事象を理解している。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	異文化コミュニケーション		担当者	神谷 善美
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異なった文化の他者と円滑なコミュニケーションをすることの重要性を理解し、そのことをコミュニケーション相手にも伝わるように説明できるようになること。 ・日本社会のグローバル化により多様な考え方が増えた昨今、「他文化を知ることとは自文化を知ることである」という認識を持ち、他者との適切なコミュニケーション方法を見つけることができるようになること。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 異なる文化をもつ仲間やグループに、積極的に接することができるような環境を作ることを勧める。 パソコン操作に関する基本的な知識を身につけておくこと。 el-Campus「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で学んだことを自分の体験と照らし合わせて理解しておくこと。 授業内容をよく理解した上で、課題および次回の学習に取り込むこと。</p>						
学習内容	概要					課題	
	第1回 異文化コミュニケーションについて					ディスカッション	
	異文化コミュニケーションの基礎概念の定義、学ぶ目的、意義、自分にとっての意味を考える。						
	第2回 常識を疑う					確認テスト	
	文化の概念の中で、自分の常識が人にとってどう映るかを考え行動したり、コミュニケーションを行えば、結果的に自分のためになること、ともに相手を理解するきっかけになること、お互い理解し合える足掛かりとなり、平和への第一歩になることを理解する。						
	第3回 文化と価値観					レポート	
	価値観とは何かを学び、価値観を持つことや価値観形成に与える影響、他者の価値観を認めることが自分自身の成長につながることを理解する。						
	第4回 コミュニケーションとステレオタイプ					確認テスト	
	コミュニケーションや異文化コミュニケーションの基本概念を学ぶ。 ステレオタイプについて学ぶ。 偏見・差別について考える。						
	第5回 異文化理解					確認テスト	
	異文化理解のプロセスを学習する。 偏見や差別に対する考え方を理解する。 異文化への態度について考える。						
	第6回 コミュニケーションスタイル					確認テスト	
	コンテキストについての定義や概念を学ぶ。 コンテキストによるコミュニケーションの違いを比較し、自身のコミュニケーションスタイル探り、理解を深める。						
	第7回 異文化比較					レポート	
	異文化と自文化の比較の意義を考え、自文化と他文化の比較方法を考察する。						
	第8回 コミュニケーションの道具としての言語					確認テスト	
世界の言語事情を考察し、世界の共通語としての位置付けについて考える。 コミュニケーションの道具として言語をどう扱うかを考察する。							
第9回 言語コミュニケーション					確認テスト		
言語に対して、構造的、実用的、文化的、角度から分類し考察するとともに、言語と文化の密接な関係について、そして言語メッセージを通して行うコミュニケーションについて考察する。							
第10回 非言語コミュニケーション					確認テスト		
非言語コミュニケーションの特徴を理解する。非言語コミュニケーションの種類を挙げ、比較文化的視点で考察し理解を深める。							
第11回 異文化理解トレーニング					ディスカッション、レポート		
カルチャーショック、クリティカル・インシデントについて学びその事例を考察する。							
第12回 異文化適応力					確認テスト		
自己解決力を高めるために、自己向上を図ることの大切さを考察する。							
第13回 アイデンティティと文化					確認テスト		
アイデンティティとは何かについて考察し、個人が持つアイデンティティの種類、社会の中でのアイデンティティ形成について考察する。							
第14回 異文化コミュニケーション・スキル					確認テスト		
異文化理解について考え、異文化理解メソッドの活用法を考察する。							
第15回 異文化コミュニケーションを学んで考えること					レポート		
第1回から第14回までの講義全体をまとめる。							

成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション、レポート、単位修得試験（Web試験）</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるとともに、他者への意見にコメントや質問を行い、積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べ、他の人の意見に関心を持ってコメントができていること。 レポートでは、課題に対し、的を射た内容や意見が具体例を挙げて記載されていること。 単位修得テストでは、要求されている的確な答えを選択できていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、異文化の相手に対し適切なコミュニケーション手段をもって積極的に行動に移すことができる。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるとともに、他者への意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、適切な内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、適切なコミュニケーション手段をもって行動に移すことができる。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、自分の意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、適切な内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、適切な手段をもって行動に移そうとする姿勢を身につけることができる。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べることができていること。 レポートでは、課題に対し、習ったことがあるレベルの内容が記載されていること。 単位修得テストでは、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 異文化コミュニケーションの重要性を理解・納得することができるようになるとともに、行動に移そうとする姿勢を身につけることができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を履修するまでに、自分と違う習慣や文化を持っている人や集団を見過ごさず注意深く観察しておく。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	異文化コミュニケーション演習			担当者	安藤 幸一
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席課題等、教員への指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	外国文化だけでなく、日本文化の中にも存在する、異なった文化間のコミュニケーション技術を学びます。アクティビティやグループ活動、ディスカッションを多用し、頭だけでなく心と身体で学ぶことができるようになります。								
学習の進め方	初日の1時限に「アイスブレイク」として、講師そして受講者が互いに知り合い、リラックスした環境で講義が進むようにアクティビティを準備しています。2時限以降は、各回のテーマに関する簡単な講義を行い、グループ討論、ゲーム、アクティビティ及び映像教材を使い、その内容を全身で理解できるような授業展開を予定しています。受講者一人一人の積極的、主体的な参加を期待します。								
授業時間外学習	初日終了後に2日目授業に向けた課題を提示します。2日目終了後に単位習得試験(レポート)を提示します。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 アイスブレイク・互いを知る								
	互いを知ること、「人間関係」を、アクティビティを通じて実感する。								
	第2回 文化とは何か								
	映像教材を使って「常識」と「自文化」について学び、異文化を鏡とする「自分自身の発見」について考える。								
	第3回 コミュニケーションとは何か								
	コミュニケーションの様々な形について学び、アクティビティを通じて対話の基礎を学ぶ。								
	第4回 言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション・母語・外国語								
	非言語による意思疎通、母語の重要性、及び「共通語としての」英語習得法について学ぶ。 【演習2日目に向けた課題の提示】								
	第5回 ステレオタイプと偏見								
異文化コミュニケーションを阻害する要因である「偏見」について映像教材を使って学び、グループディスカッションを行う。									
第6回 意見の対立と合意の形成									
アクティビティを使って、異なった意見の対立とことに異文化間の問題解決の方法について学ぶ。									
第7回 文化比較の意味									
日本と西欧を対照的に比較し、グループごとにその違いを数分で表現できるようなスキット(寸劇)を作り、演じ、相互評価を行う。									
第8回 異文化コミュニケーションの方法									
2日間の演習の総まとめを通して、授業終了後に戻っていくそれぞれの「日常世界」における「異文化コミュニケーション」の実践を考える。 【単位修得試験レポート提示・説明】									
成績評価方法	評価対象活動：アクティビティ、グループ活動、ディスカッション、単位修得試験(レポート) 【A評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの3つのいずれについても、本演習の中で大きな進歩があった。 【B評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの3つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で大きな進歩があった。 【C評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの3つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。 【D評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの1つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	「異文化コミュニケーション ワークブック」、八代京子・荒木晶子・樋口容視子著、三修社、2001年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	【受講者上限人数】 夙川会場：50名 東京会場：30名								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	医療人類学入門			担当者	野波 侑里
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<p>・医療人類学的研究を通して、健康・病気・医療について社会・文化との関係を学ぶことにより、健康・病気・医療に関する自らの考えをふりかえり、多様な観点から現状を理解し、比較し、分析して自らの意見を述べるができるようになる。また主体的に医療を選択できるようになる。</p> <p>・異なる社会、文化における医療、病気、健康に関する考え方を学ぶことを通して、グローバル社会における異文化理解を深め、他の社会文化の価値観を理解し、尊重できるようになる。</p>								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ノートを一冊「アイデアノート」として使用しますので準備してください。詳細はオリエンテーションで説明します。ノートの代わりにワークシートも配布資料として準備していますので、利用することも可能です。各回の開始前に、回のポイントとなる事項について、既存の知識や考えを記入します。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に、学んだこと、考えたことを「アイデアノート」に記入します。「アイデアノート」は、単位修得試験の参考にすることができます。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 医療人類学とは								確認テスト
	人類学、医療人類学という学問分野の誕生とその背景、研究分野と具体的研究例を学ぶ。								
	第2回 医療的多元論								確認テスト、ディスカッション
	医学と医療の違い、医療的多元論について概説する。								
	第3回 ヘルスケアシステム								確認テスト
	医療人類学における疾病/病い/病気、治療と癒しの違い、ヘルスケアシステムについて概説する。								
	第4回 病いの語り								レポート
	病いにおける病者とその家族の語りの特徴とその意味について概説する。								
	第5回 医療化								ディスカッション
医療化について、様々な具体例をもとに学ぶ。									
第6回 病人と社会								確認テスト	
病いになった時の社会と個人の関係について、特に生物医学の医療現場における医師と病人の関係について学ぶ。									
第7回 心と身体と文化・社会								確認テスト	
心と身体が文化と社会とどのように関係しているかについて様々な観点から学ぶ。									
第8回 近年の日本における医療人類学的研究								レポート	
近年の日本の医療人類学研究から、文化人類学・医療人類学的研究について学ぶ。									
成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、レポート課題、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験</p> <p>【A評価】各回の確認テストにおいて満点に近い成績をおさめている。ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。レポート課題において、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。単位修得試験では、本授業で学習した以上の成果をもって独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、独創的で論理的な解決法を見つけて意見を述べるができる。</p> <p>【B評価】確認テストにおいてほぼ満点に近い成績をおさめている。ディスカッションにおいて、適切な受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。レポート課題において、論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。単位修得試験では、学習内容をもとに、論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、論理的な解決法を見つけて意見を述べるができる。</p> <p>【C評価】確認テストにおいて、所定の条件を充足している。ディスカッションにおいて、双方向に何らかの話題が通し合っている。レポート課題において、自らの意見を述べるができる。単位修得試験では、学習内容をもとに、自らの意見を述べるができる。病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、分析し、ある程度納得できる解決法を見つけて意見を述べるができる。</p> <p>【D評価】確認テスト、ディスカッション、レポート課題、単位修得試験において、所定の条件を充足している。全ての課題を通して、学習内容を理解していることを示している。病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、解決法を見つけていることができる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	各回の授業でお知らせします。								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます								

メジャー(専修)名				授業科目名	宇宙科学			担当者	山田 義弘
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	教科書とデジタル教材から「宇宙科学」全般を学ぶことにより、宇宙の過去・現在・未来を理解する。								
学習の進め方	教科書とデジタル教材を活用します。「太陽系」、「恒星」、「銀河」、「宇宙論」、「宇宙開発」を学習しますが、天体の概説、宇宙論の基礎、宇宙開発の諸分野で、理解の難しい現象や概念は、デジタル教材で数式を使わないで説明しますから、容易に理解できると思われま								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の星や天文現象に興味を持っておくこと。 ・興味を持ってた分野や現象をさらに深く探ってみること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 オリエンテーション								ディスカッション
	「宇宙科学」の概要説明 各自が掲示板に感想を掲載する								
	第2回 太陽系								確認テスト
	約46億年前、太陽を中心とする太陽系ができた。太陽系には8個の惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星)が太陽の周りを回り、約200個の衛星が惑星の周りを回っていることを理解する。 小惑星は火星軌道と木星軌道の間の小惑星帯に集中している。軌道が確定した小惑星の数は、約60万個(2020年1月現在)ある。また“ほうき星”とも呼ばれる彗星も小惑星と同様に太陽系の一員であることを理解する。								
	第3回 恒星								確認テスト
	1年間の星の動きを追うと見える星の位置は変わる。地球が太陽の周りを公転しているからだ。太陽が天球上を通る道を黄道と呼ぶ。星占いで使われる“黄道12星座”とか全天に88星座があることを理解する。 人に誕生と死があるように、夜空に輝く恒星にも誕生と死がある。太陽の誕生も別の恒星の死がきっかけだった。星々の生と死は連続とつながっている。恒星の一生とは、いったいどのようなものかを理解する。								
	第4回 銀河								レポート
	私たちがいる銀河を「銀河系」と呼ぶ。銀河系は直径10万光年(1光年は光が1年間に進む距離)、数本の腕をもつ渦巻状の銀河だと考えられている。その中で私たちの太陽系はどのような位置にあるのかを理解する。 現在、最も遠くの銀河をとらえたのは、日本の“すばる望遠鏡”(国立天文台ハワイ観測所の口径8.2m反射望遠鏡)だ。2003年3月、約128億年前の銀河をとらえることに成功した。遠い銀河について理解する。								
	第5回 宇宙論								レポート
宇宙が膨張していることを発見したのは、エドウィン・ハッブル。それまで宇宙は大きさの変化しない定常宇宙という考え方が主流だった。ハッブルによって、宇宙は膨張し進化する事が明らかになったことを理解する。 宇宙の終わりはいったいどうなるのだろうか。50億年後には、太陽の膨張によって地球は太陽に飲み込まれる。宇宙はお構いなく膨張を続ける。現在の宇宙は加速膨張しているとさえいわれていることを理解する。									
第6回 宇宙開発								レポート	
宇宙に思いを馳せ、その謎を一步一步解き明かしてきた無数の科学者がいるのと同じように、宇宙へ行きたいという夢が人を突き動かし、その夢と技術がリレーされて宇宙開発が進められてきたことを理解する。 日本の宇宙開発は、全長23cmの「ベンシルロケット」から始まった。いま日本の宇宙開発は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が担い、世界でもトップクラスの宇宙開発と宇宙探査を目指していることを把握する。									
成績評価方法	確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)より総合評価する。								
教科書	著書 『宇宙のしくみ』 著者 渡部 潤一(監修)、坂元 志歩(執筆・編集) 出版社 新星出版社 出版年度 2010年6月15日 ISBN 9784405106512								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール	なし								
備考	天文台の大型望遠鏡で月面、惑星、星雲・星団を見たい人が多ければ、兵庫県内の天文施設で1泊2日の観測体験ツアー(実費)を実施したい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	英語		担当者	石野 尚
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)							
特記事項								
学習目標	外国人のひととの効果的なコミュニケーションについて学ぶ動画コンテンツを視聴し、トピック別、シチュエーション別の会話場面を学習することで、重要語句の定着、英語音声の論理的分析力、自然な応答を選択できる会話力を向上させる。アクセントやイントネーション、隣り合う音がつながったときに起きる変化に焦点をおいて発音の練習をし、身近な話題の会話力の向上につなげ、自信を持って英語を発話できるようになる。							
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。el-Campusのオンデマンド教材とEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 各動画教材(EnglishCentral)の「学習テキスト」で動画の字幕を確認しておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材・動画教材を繰り返し視聴して、会話表現を確実に身に付けること。各回の確認テストは何度も繰り返し受験して満点を目指すこと。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 出合いと別れ							確認テスト
	出合いと別れの会話表現の中でも、同僚と空港で会う、タクシーに乗る、お別れパーティに参加する、さよならを言う、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
	第2回 必要なものを探す							確認テスト
	必要なものを探すときの会話表現の中でも、家探し、電化製品を買う、車を購入する、銀行口座を作る、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
	第3回 日常生活の英語							確認テスト
	日常生活での英語表現の中でも、スーパーで食料雑貨を買う、ファーストフードを注文する、ピザを注文する、バスに乗る、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
	第4回 しなければならない事を伝える							確認テスト
	しなければならないことを伝える会話表現の中でも、国際電話カードを買う、書店で本を探す、ネットカフェに行く、美容室へ行く、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
	第5回 出かける							確認テスト
	出かけるときの会話表現の中でも、服を買う、素敵な食事ができるレストランで、バーで飲み物を注文する、映画を観に行く、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
	第6回 特別なイベント							確認テスト
	特別なイベントの会話表現の中でも、パーティに行く、バスケットボールのゲーム観戦、ゴルフをする、サンクスギビングでの場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
	第7回 休暇にすること							確認テスト
	休暇にすることの会話表現の中でも、夏の計画を立てる、旅行プランの比較をする、伝統的な料理について知る、ナイトクラブについてたずねるという場面を中心に、会話表現を学ぶ。							
第8回 海外で仕事をする							確認テスト	
海外で仕事をするときの会話表現の中でも、請求書とトラブル、残業をする、職場でのイライラ、職場における激励の言葉、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第9回 トリビアの話							確認テスト	
トリビアの会の会話表現の中でも、好きな映画俳優について語る、テレビ番組について話す、雑誌について話す、新聞の広告を読む、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第10回 ニュースの話							確認テスト	
ニュースについての会話表現の中でも、スポーツについて、選挙について、経済について、環境について話す、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第11回 留学準備 - 総合演習(1) -							確認テスト	
留学準備の会話表現の中でも、学校を選ぶ、書類を準備する、宿泊場所の手配、何をもっていこうか考える、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第12回 出入国 - 総合演習(2) -							確認テスト	
出入国の会話表現の中でも、予定を確認する、税関と出入国管理、滞在予定を入国審査官に伝える、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第13回 ホストファミリーに会う - 総合演習(3) -							確認テスト	
ホストファミリーに会うときの会話表現の中でも、空港での出迎え、家族に会う、新しい家に慣れる、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第14回 イベントに参加する - 総合演習(4) -							確認テスト	
イベントに参加するときの会話表現の中でも、友人と出かける、ボランティアをする、ハウスパーティをする、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								
第15回 帰国 - 総合演習(5) -							確認テスト	
帰国するときの会話表現の中でも、友人に感謝する、先の予定について話す、という場面を中心に、会話表現を学ぶ。								

成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、単位修得試験</p> <p>【A評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、重要語句の定着、英語音声の論理的分析力、自然な応答を選択できる会話力の3つの技能すべてにおいて大きな進歩を達成し、単位修得試験は満点に近い成績をおさめている。</p> <p>【B評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、重要語句の定着、英語音声の論理的分析力、自然な応答を選択できる会話力のうち少なくとも2つの技能において大きな進歩を達成し、単位修得試験はほぼ満点に近い成績をおさめている。</p> <p>【C評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、重要語句の定着、英語音声の論理的分析力、自然な応答を選択できる会話力のうち少なくとも2つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は所定の条件を満たしている。</p> <p>【D評価】 外国の人との効果的なコミュニケーションの理解を通して、重要語句の定着、英語音声の論理的分析力、自然な応答を選択できる会話力のうち1つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は単位を満たす最低限の成績をとっている。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	<p>EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレス（EnglishCentralへの登録に必要） ・ブラウザ「Google Chrome」もしくは「Mozilla Firefox」 ・マイク
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 英会話の表現、発音練習に興味があること。 リーディング・ライティングに焦点をおいた「英語」と併せて受講し、四技能をバランスよく伸ばしていくことを勧めます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	英語		担当者	石野 尚
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)							
特記事項								
学習目標	世界の色々な場所をめぐる動画コンテンツを視聴し、描写や説明の仕方、物語の語り方について学習することで、重要語句の定着、英文構造の論理的分析力、英文読解力を向上させる。 正確な文法知識を基に、文章の構造を正確に分析し、身近な話題の読解力の向上につなげ、自信を持って英語を読解できるようになる。							
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。 el-Campusのオンデマンド教材とEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 各動画教材(EnglishCentral)の「学習テキスト」で動画の字幕を確認しておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材・動画教材を繰り返し視聴して、語彙や表現を確実に身に付けること。 各回の確認テストは何度も受験して満点を目指すこと。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 西ヨーロッパ							確認テスト
	ドイツ、スイス、イギリス、ベルギー、オーストリアの各国の文化について学ぶ。							
	第2回 南ヨーロッパ							確認テスト
	スペイン、イタリア、トルコ、クロアチア、ギリシャの各国の文化について学ぶ。							
	第3回 アフリカ							確認テスト
	ナミビア、ルワンダ、エチオピア、モーリタニア、ガーナの各国の文化について学ぶ。							
	第4回 ロシアとインド							確認テスト
	ロシアとインドの文化について学ぶ。							
	第5回 アメリカとカナダ							確認テスト
	アメリカとカナダの文化について学ぶ。							
	第6回 南アメリカ							確認テスト
	ペルー、アルゼンチン、ブラジル、エクアドル、チリの各国の文化について学ぶ。							
	第7回 オーストラリアとニュージーランド							確認テスト
	オーストラリアとニュージーランドの文化について学ぶ。							
	第8回 中東							確認テスト
オマーン、アラブ首長国連邦、レバノン、ヨルダン、イスラエルの文化について学ぶ。								
第9回 極東							確認テスト	
中国、日本、モンゴル、ヒマラヤ山脈、香港の文化について学ぶ。								
第10回 東南アジア							確認テスト	
マレーシア、カンボジア、タイ、ラオス、ベトナムの文化について学ぶ。								
第11回 Capital Cities - 総合演習(1) -							確認テスト	
オランダ、エクアドル、ベルギー、トルコの首都について学ぶ。								
第12回 Landmarks - 総合演習(2) -							確認テスト	
フランス、アメリカ、オーストラリア、ロシアの観光名所について学ぶ。								
第13回 Seasonal Wonders - 総合演習(3) -							確認テスト	
ノルウェー、北極圏、日本、フィジーの季節ごとの美しい自然について学ぶ。								
第14回 Extreme Adventures - 総合演習(4) -							確認テスト	
南アフリカ、ドバイ、マダガスカルの過激な冒険について学ぶ。								
第15回 Food and Culture - 総合演習(5) -							確認テスト	
食文化、タブーやテーブルマナーなどについて学ぶ。								

成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、単位修得試験</p> <p>【A評価】外国の文化への理解を通して、重要語句の定着、英文構造の論理的分析力、英文読解力の3つの技能すべてにおいて大きな進歩を達成し、単位修得試験は満点に近い成績をおさめている。</p> <p>【B評価】外国の文化への理解を通して、重要語句の定着、英文構造の論理的分析力、英文読解力のうち少なくとも2つの技能において大きな進歩を達成し、単位修得試験はほぼ満点に近い成績をおさめている。</p> <p>【C評価】外国の文化への理解を通して、重要語句の定着、英文構造の論理的分析力、英文読解力のうち少なくとも2つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は所定の条件を満たしている。</p> <p>【D評価】外国の文化への理解を通して、重要語句の定着、英文構造の論理的分析力、英文読解力のうち1つの技能において一定の進歩があり、単位修得試験は単位を満たす最低限の成績をとっている。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	<p>EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレス（EnglishCentralへの登録に必要） ・ブラウザ「Google Chrome」もしくは「Mozilla Firefox」 ・マイク
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 外国の観光地や文化に興味があること。 リスニング・スピーキングに焦点をおいた「英語」と併せて受講し、四技能をバランスよく伸ばしていくことを勧めます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	映像制作入門			担当者	小倉 以索
レベルナンバ	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士								
特記事項									
学習目標	自分自身の作品をPremiereを使って編集し、AfterEffectsを使って映像加工を行うことができるようになる。								
学習の進め方	プロの使用ソフトを使い、様々な映像制作を通して、映像編集の基礎を学んでいきます。その上で、テーマ性を持たせたオリジナル映像を反復制作していきます。また、中間課題の標準所要期間は2週間（構想から制作まで）、単位修得試験（制作試験）の標準所要期間は1ヵ月（構想から制作まで）です。適切な学習スピードの自己管理をお願いします。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと								
学習内容	概要								課題
	第1回 講義								確認テスト
	映像制作の考え方・フローの大枠を掴む								
	第2回 Premiere基礎								確認テスト
	Premiere基礎								
	第3回 ロゴ								確認テスト
	ロゴアニメを作成する								
	第4回 写真アニメ								確認テスト
	写真アニメを作成する								
	第5回 YouTube風動画								中間課題
	YouTube風動画を作成する								
	第6回 モーショングラフィックス								確認テスト
	モーショングラフィックスを作成する								
第7回 3D								確認テスト	
3Dアニメを作成する									
第8回 Tips									
Tipsとしての各技術									
成績評価方法	<p>評価項目：中間課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が90点以上の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構想から制作技術に至るまでオリジナリティが十分に認められ、AfterEffectsとPremiereを連携とそれらの基礎・応用操作を十分に駆使できている状態。</p> <p>【B評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が80点以上89点以下の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構想から制作技術に至るまでオリジナリティが認められ、AfterEffectsとPremiereを連携とそれらの基礎・応用操作を駆使できている状態。</p> <p>【C評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が70点以上79点以下の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構想から制作技術に至るまでオリジナリティは弱い、AfterEffectsとPremiereを連携とそれらの基礎操作を駆使できている状態。</p> <p>【D評価】 中間課題と単位修得試験の平均評価（それぞれ100点満点換算）が60点以上69点以下の場合。 中間課題並びに単位修得試験では、与えられた条件下で、コンセプト構想から制作技術に至るまでオリジナリティは認められない、AfterEffectsとPremiereを連携とそれらの基礎操作を必要最低限駆使できている状態。</p>								
教科書	なし								
参考書（任意購入）	なし								
必須ソフト・ツール	「Adobe Creative Cloud」または、「After Effects CC」と「Premiere Pro CC」と「Illustrator CC」と「Photoshop CC」を各々単体でご用意下さい。CS6以前のバージョンは不可です。パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認下さい。ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 映像を通じて、自分で発信したいコンテンツ・テーマ・被写体等を持っていると、具体的に理解を深めることができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	音楽とコミュニケーション			担当者	萬 圭介
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	音楽の科学的な要素を理解し説明することができる。 音楽の効果、その仕組み等を理解し、その魅力を人に伝えることができる。								
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	・教科書は一通り目を通しておく事。どこから読んでも構いませんので興味を持った項目から読み進めましょう。 ・受講後には、単位習得試験で取り上げたテーマを実践しましょう。それぞれに音楽でのコミュニケーションを積極的に楽しんで頂ければと思います。								
学習内容	概要								課題
	第1回 音楽はどうやって私たちの耳に届くのか								確認テスト・レポート
	音の性質を理解し、その伝わり方、その要素について学習します。								
	第2回 音楽を作るもの								確認テスト・レポート
	音楽の3要素についてとその役割、また様々な音階などを学習します。								
	第3回 音楽を奏でる								確認テスト・レポート
	発音方法により分類されたそれぞれの楽器の特徴を学習します。								
第4回 音楽の楽しみ方と技術革新(1)								確認テスト・レポート	
オーディオの仕組み、メディアの進化や歴史を学習します。									
第5回 音楽の楽しみ方と技術革新(2)								確認テスト・レポート	
音響技術やその原理、レコーディングやエフェクターについて学習します。 また映像に対する音楽の影響力についても学習します。									
成績評価方法	各回の課題(50%)、単位修得試験(50%)								
教科書	著書 『CDでわかる 音楽の科学』 著者 岩宮眞一郎 出版社 ナツメ社 出版年度 2011年3月30日 4版 ISBN 9784816347771								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト ・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	オンライン教育概論		担当者	合田 美子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	オンライン教育・eラーニングを活用し教育効果を考慮した授業設計と運用方法について説明することができる。オンライン教育・eラーニングに関わるICT技術の基礎を理解しラーニングシステムの教育への応用方法を提案できる。							
学習の進め方	eラーニングシステム上のオリエンテーションに従って学習を進めること。まず、各章にある学習目標とポイントの解説教材を視聴し、事前に該当範囲の教科書を一読しておく、より理解が深まります。読み終わったら、理解度の確認のために確認テストを受験すること。							
授業時間外学習	・インターネット上でオンライン(eラーニング)教材を検索し、どんな教材が提供されているか観察し、学習の効果・効率は上がりそうか、興味は維持できそうかなど、検討してみる。 ・受講後は、授業での学習内容を踏まえて、インターネット上のオンライン(eラーニング)教材をいくつか検索し、教材の良い点、改善ができそうな点を考え、提案書としてまとめる練習をする。							
学習内容	概要				課題			
	第1回 eラーニングの基礎知識(1)(教科書:第1章)				確認テスト			
	eラーニングとは、eラーニングの学習形態							
	第2回 eラーニングの基礎知識(2)(教科書:第2章)				確認テスト			
	eラーニングプロフェッショナルの種類							
	第3回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(1)(教科書:第4章)				確認テスト			
	インストラクショナルデザイン(ID)とは、ADDIEモデル							
	第4回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(2)(教科書:第6章)				確認テスト			
	分析・設計・開発フェーズ、IDを支える学習理論							
	第5回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(3)(教科書:第8章)				確認テスト			
	実施フェーズ、学習支援の大切さ							
	第6回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(4)(教科書:第9章)				確認テスト			
	評価フェーズ、eラーニングにおけるPDCA							
	第7回 ICTとラーニングシステムとコンテンツ(教科書:第12章)				確認テスト			
ラーニングシステムとは								
第8回 《参考教材》eラーニングのための法的知識の基礎(教科書:第10章)				確認テスト				
eラーニングに必要な法的知識								
第9回 ICT活用による企業内教育と新たな人材開発(教科書:第2章)				確認テスト				
eラーニングを活用した企業内教育の現状と可能性								
第10回 まとめ				確認テスト				
オンライン教育・eラーニングの現状と今後の課題								
成績評価方法	学習活動(ディスカッションなど)への参加状況と確認テスト(40%)と単位修得試験(60%) ・確認テストは、各章の内容から5問出題。合格基準は80%である。合格するまで何度でも受験可。 ・単位修得試験は、授業範囲内から選択式問題と記述式問題を出題する。 第8回のオンデマンド教材は、eラーニングに関する法が変わっているため「参考教材」とする。							
教科書	著書 『これ1冊でわかるeラーニング専門家の基礎 -ICT・ID・著作権から資格取得準備まで-』 著者 玉木欽也監修 出版社 東京電機大学出版局 出版年度 2010年3月30日 1版 ISBN 9784501547608							
参考書(任意購入)	1.インストラクショナルデザインを使って教材を作成するコツを紹介している『教材設計マニュアル』、鈴木克明、北大路書房、2,200円(税抜)、2002年 2.eラーニング専門家の職責をインストラクショナルデザインのプロセスに沿って解説している『eラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン』、玉木欽也監修、東京電機大学出版局、2,400円(税抜)、2006年							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	カウンセリング心理学		担当者	辻野 達也、具 英姫
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全授業への出席		単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)		単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)東京会場
資格名	認定心理士						
特記事項							
学習目標	カウンセリング心理学の定義、起源、歩みについて講じるとともに、代表的なカウンセリングを概観する。また、カウンセラーに必要な基本的態度に触れ、面接のプロセス時における課題や留意点について概説する。						
学習の進め方	パワーポイントを用いて説明する。必要に応じプリント類、ビデオを使用する。 また、カウンセリングのためのワーク、エクササイズも適宜行う。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は積極的にノートテイキングし、その後の復習に役立てること。 ノート、配布資料等に加え、授業中に紹介する関連図書も読み、復習することを推奨。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 カウンセリング心理学の定義						
	定義を学ぶ						
	第2回 カウンセリング心理学の起源と歩み						
	歴史について知る						
	第3回 カウンセラーに必要な基本的態度 その1						
	ラポールについて学ぶ						
	第4回 カウンセラーに必要な基本的態度 その2						
	質問することについて考える						
	第5回 カウンセリングルームについて						
	快適な相談室の環境について考える						
	第6回 面接の実際 受面接における課題や留意点						
	実際にカウンセリングするときに必要なことを押さえる						
	第7回 面接の実際 沈黙について						
	クライアントの沈黙の意味を考える						
	第8回 面接の実際 自己開示について						
クライアントが話をすることに思いを馳せる							
第9回 人間主義的理論におけるカウンセリング その1							
ロジャーズの理論を学ぶ							
第10回 人間主義的理論におけるカウンセリング その2							
ロジャーズの理論を学ぶ							
第11回 「グロリアと3人のセラピスト」について							
ビデオ鑑賞の前に必要な解説をする							
第12回 「グロリアと3人のセラピスト」							
実際のカウンセリングを鑑賞する							
第13回 「グロリアと3人のセラピスト」 の解説							
ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ							
第14回 「グロリアと3人のセラピスト」							
ゲシュタルト療法のカウンセリングを学ぶ							
第15回 「グロリアと3人のセラピスト」							
論理療法のカウンセリングを学ぶ							
成績評価方法	授業中のレポート(60%)と出席状況(20%)、授業態度(20%)により評価する。						
教科書	なし						
参考書 (任意購入)	なし						
必須ソフト ・ツール	なし						
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名						

メジャー(専修)名				授業科目名	化学概論		担当者	牧野 壯一
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	本授業で習得した化学の知識によって、日常生活における化学の役割を理解できるようになる。身のまわりに存在する化学物質について正しい知識を得ることで、健康や環境を害する危険性の少ない生活を送る「賢い消費者」になることができる。							
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目に関連した内容を参考図書などで自己学習すること。 ・受講は、各自で定期的に学習すること。 ・課題は納得できるまで取り組むこと。 ・不明な箇所は辞典や専門書などで調べること。 							
学習内容	概要							課題
	第1回 食の化学							確認テスト
	フグはなぜ自分の毒で死なないのか？握り寿司は化学の宝庫だった！？ 食生活における化学の役割について学習する。							
	第2回 環境の化学							確認テスト
	環境にやさしい農業とは？空から「鬼」が降ってくる！？ 私たちの身近な環境における化学の役割について学習する。							
	第3回 化学の不思議							確認テスト
	焦げ付きにくいフライパンとは？悪臭を消す魔法とは？ 私たちの身の回りに存在する便利な製品に使われている化学物質や技術について学習する。							
	第4回 魔法の化学							確認テスト
	微生物が食べるプラスチックとは？味覚を変える魔法の物質！？ 私たちの生活の中に存在する不思議な物質や現象に隠された化学の秘密を探る。							
	第5回 健康と薬の科学							確認テスト
DHAを食べると頭がよくなる！？上手なお酒の飲み方とは？ 私たちの健康に関与する化学物質やメカニズムについて学習する。								
第6回 生物の不思議なしくみ							確認テスト	
植物の色や香りの仕組みとは？ゲノムってなんだろう？ 生命誕生と進化、子孫を残すための工夫など生物の不思議について学習する。								
成績評価方法	各回の課題（30%）と単位修得試験（70%）による総合評価							
教科書	著書 『マスコミに見る化学』 著者 津波古充朝、小山淳子、上地真一 出版社 廣川書店 出版年度 2003年9月20日 ISBN 9784567203005							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	学習・言語心理学		担当者	枚田 香
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	学習心理学と言語心理学の主要な用語について簡潔に説明できるようになる。 学んだ理論を自分自身の日常生活に活用できるようになる。 他人の行動を望ましいものに変容させる方策を考え、具体的に述べられるようになる。 他人に言語を教える際に、効果的なプランを述べられるようになる。						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 シラバスを読んで理解できなかった心理学用語を心理学の入門書や辞書等で調べておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材の中で理解しにくかった箇所のスライドを再度読み、レポート等の課題に必要な理論の意味を理解できるようになっておくこと。						
学習内容	概要					課題	
	第1回 学習・言語心理学とは					レポート	
	学習・言語心理学という科目はどのようなことを学ぶのか、どのような目的で学んでいただきたいのか、心理学の歴史を通して実感していく。						
	第2回 学習とは					確認テスト	
	行動主義、認知心理学、脳科学、情報科学、言語心理学など、さまざまな立場からの学習へのアプローチの特徴について学ぶ。						
	第3回 古典的条件づけ					確認テスト	
	一般的に条件反射として知られている古典的条件づけの理論を学び、日常生活に活用する方法について考える。						
	第4回 オペラント条件づけ					確認テスト	
	一般的にはアメとムチとして認識されているオペラント条件づけの理論を学び、日常生活に活用する方法を考える。						
	第5回 その他の学習理論					確認テスト	
	前出の条件づけ以外に学習に影響を与える理論と、学習に動機づけについて学ぶ。						
	第6回 社会的学習					レポート	
	学習者が直接経験する学習とは異なり、代理経験から成立する社会的学習について学ぶ。						
	第7回 技能学習					レポート	
	技能学習において、どのような現象が起こりえるか学び、良い作用を活用し、良くない作用を防ぐ学習法について考える。						
第8回 記憶					確認テスト		
記憶の仕組みと時間や覚えている内容による違いによって分類される記憶の種類について学ぶ。							
第9回 忘却					確認テスト		
忘却とはどのような現象なのかを学び、忘却しにくくするという方向から記憶術について考える。							
第10回 表象とイメージ					確認テスト		
人間の心の中の表象とはどのようなものか、どのような性質を持っているか学ぶ。							
第11回 思考と問題解決					確認テスト		
問題を解決しなければならない場面で人間の高度な脳の活動である思考がどのように働くのか学ぶ。							
第12回 概念と言語					確認テスト		
意味記憶としての概念と言語を使って概念を表現する能力の発達について学ぶ。							
第13回 言語の獲得					確認テスト		
人間の言語能力の進化と子供が言語を獲得する過程、言語に関連する脳の部位、脳損傷と失語症について学ぶ。							
第14回 異文化と外国語の学習					レポート		
日本語と外国語の違い、文化や価値観の違いによる外国語修得における心理的な問題について学ぶ。							
第15回 学習の障害と適切な援助					レポート		
学習に影響を与える障害について正しい知識と適切な援助法について学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（確認テストまたはレポート）、単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。全ての確認テストが満点に近く、レポートはオンデマンド教材の内容を適切に引用して中核となる理論の要点を簡潔に説明しつつ、自分自身の考えが含まれた考察が充実しており、レポートで取り上げたテーマが抱える問題点について、根拠が明確、かつ、具体的な対策案を述べている。さまざまな種類の学習の内容の性質を詳細に把握している。自分自身や周囲の人が特定の学習をする際に、その学習内容に対して最も効果的な学習方法を的確に定め、科目で学んだ内容を適切に引用しつつ、自分の考えを具体的に考察として提案できている。</p> <p>【B評価】 各回で学んだ内容をほぼ完全に理解できている。全ての確認テストが満点に近く、レポートはオンデマンド教材の内容を適切に引用しており、ある程度の考察ができている、レポートで取り上げたテーマが抱える問題点について、具体的な対策案を述べている。さまざまな種類の学習の内容の性質を把握している。自分自身や周囲の人が特定の学習をする際に、効果的な学習方法について、科目で学んだ内容を引用しつつ、自分の考えを提案できている。</p> <p>【C評価】 各回で学んだ内容をある程度は理解できている。確認テストはほぼ正解で、レポートではキーワードを定めて適切に専門用語を使えており、ある程度の考察と対策案が記載できている。自分自身や周囲の人が特定の学習をする際に、効果的なアドバイスについて、科目で学んだ用語を盛り込んで説明できる。</p> <p>【D評価】 各回で学んだ内容を最低限は理解できている。確認テストは、合格基準以上正解しており、レポートは出題に沿った内容となっている。自分自身や周囲の人が効果的に学習する方法について、簡単な説明ができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学の専門用語を自力で調べた術を持っていること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイルで視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	家庭の経営		担当者	
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	人々の生活や家庭がどのように成り立っているのかについて経営的な視点から学ぶことにより、生活時間・消費生活・労働・ジェンダーなどに関する現代的な課題について考察するとともに、自らの意見をまとめ、説明することができる。						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 なし</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の終わりに自身の理解度を自己評価してください。自信がない場合には教材を読み直して復習をしてください。 また授業前後に参考資料が指定された場合には、必ず読むようにしてください。</p>						
学習内容	概要			課題			
	第1回 生活と家庭の経済			ディスカッション			
	生活や家庭とお金の関係、そのマネジメントについて、その概要を学ぶ						
	第2回 家庭の変遷			レポート			
	我が国における家族のあり方変遷と、それに伴う生活、経済の変化について学ぶ						
	第3回 家計とは			ディスカッション			
	家庭の経済について用いられる収入や支出、家計等の言葉の基本的な概念について学ぶ						
	第4回 生活とライフプランニング			レポート			
	生活とライフサイクルの関係、ライフサイクルの変遷や生活設計、社会保障との関わりについて学ぶ						
	第5回 生活設計とリスクマネジメント			ディスカッション			
	生活設計の必要性やあり方、リスクマネジメントについて学ぶ						
	第6回 育児、教育と経済			レポート			
	我が国における子育て世代を取り巻く現状と、それに関わる経済的な状況、課題について学ぶ						
	第7回 格差と貧困			ディスカッション			
	我が国における経済的な格差や貧困に関する現状と課題について学ぶ						
第8回 家庭の経営と労働(1)労働の形			プレゼンテーション				
我が国における労働の現状と課題について学ぶ							
第9回 家庭の経営と労働(2)労働とジェンダー			レポート				
我が国におけるジェンダーの現状と、それらに関する所得、経済の課題について学ぶ							
第10回 消費者問題			レポート				
我が国における消費者問題の現状と課題について学ぶ							
第11回 社会保障とは			確認テスト				
私たちの生活と社会保障の関係について、その概要を学ぶ							
第12回 社会保障の内容			プレゼンテーション				
社会保障の具体的な内容と、現状や課題について学ぶ							
第13回 高齢期の生活と経済			レポート				
我が国の高齢化の現状と、高齢期における経済生活やその課題について学ぶ							
第14回 家庭の経営に関する教育			ディスカッション				
経済活動に関する教育のあり方について学ぶ							
第15回 家庭の経営と今後の課題			プレゼンテーション				
これまでの回で学んできたことを基に、家庭の経営の現状と課題について振り返り、自身の生活と照らし合わせながら今後のあり方について考える							

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（確認テスト、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 確認テスト・単位修得試験において満点に近い成績を修めている。 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べるとともに、他者との協働的学習を行うことができる。 レポート課題において課題に関して調査を行い、課題背景と自身の意見を論理的にまとめることができる。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、論理的でわかりやすい資料を作成できている。</p> <p>【B評価】 確認テスト・単位修得試験においてほぼ満点に近い成績を修めている。 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べることができる。 レポート課題において、自身の意見を論理的にまとめることができる。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、わかりやすい資料を作成できている。</p> <p>【C評価】 確認テスト・単位修得試験において標準以上の成績を修めている。 ディスカッションにおいて自身の意見を述べることができる。 レポート課題において自身の意見を述べることができる。 プレゼンテーションにおいて、わかりやすい資料を作成できている。</p> <p>【D評価】 確認テスト・単位修得試験において最低限の成績を修めている。 ディスカッションに参加することができる。 レポート課題において規定文字数以上の記述ができている。 プレゼンテーションにおいて、資料を作成できている。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint
備考	<p>【履修の前提とするもの】 Microsoft Office Word、Microsoft Office Power Pointの基礎的な操作スキルを身につけておくこと</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 学習内容と自身の生活を関連付けて推論する態度を持っていること</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語 (基礎)		担当者	村上 純
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	韓国語の入門講座として、文字(ハングル)の読み方とその発音練習、簡単な単語や文法および会話の表現などを学習し、韓国語に対する基礎知識を身につけることを目標としている。							
学習の進め方	各回の授業ごとに文字・単語・文法・会話のコーナーがあり、それぞれ講義画面やスキット映像を視聴しながら学習を進める。							
授業時間外学習	韓国ドラマや映画、音楽、料理など、様々な方向から韓国語に触れる機会を増やしてみましょう。また、ハングルを見かけたら意識して読んでみましょう。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 まずは基本の母音から学びましょう/アンニョンハセヨ						確認テスト	
	文字	基本母音						
	単語	家族を表すことば						
	文法	語順について						
	会話	「アンニョンハセヨ(こんにちは)」						
	第2回 基本子音を学びましょう/カムサハムニダ						確認テスト	
	文字	基本子音						
	単語	自分や相手を表すことば						
	文法	文体について						
会話	「カムサハムニダ(ありがとうございます)」							
第3回 平音・激音・濃音を学びましょう/アンニョンヒ ケセヨ						確認テスト		
文字	平音・激音・濃音							
単語	国を表すことば							
文法	「名詞+ です/ですか」							
会話	「アンニョンヒ ケセヨ(さようなら)」							
第4回 複合母音を学びましょう/マシッソヨ						確認テスト		
文字	複合母音							
単語	食べ物を表すことば							
文法	「はい/いいえ」							
会話	「マシッソヨ(おいしいです)」							
第5回 パッチムを学びましょう/ケンチャナヨ						確認テスト		
文字	パッチム							
単語	数を表すことば							
文法	「～は」「～が」「～も」「～と」							
会話	「ケンチャナヨ(だいじょうぶです)」							
成績評価方法	確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語 (応用)		担当者	村上 純
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	韓国語の基礎の段階から、応用の段階へステップアップをはかる。 韓国語を用いて様々な学習活動を行う。 受講生同士のコミュニケーションを図りながら、韓国語学習に楽しく取り組む。							
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材、オンデマンド教材を副教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	韓国ドラマや映画、音楽、料理など、様々な方向から韓国語に触れる機会を増やしてみましょう。また、ハングルタイピングのアプリなどを用いて授業時間以外にも練習してみましょう。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 コンピューターでハングルを書いてみよう						レポート	
	パソコン上でハングルの文字を表す方法を学ぶ							
	第2回 名前や地名をハングルで表してみよう						レポート	
	自分の名前や地名など、日本語の固有名詞をハングルで表す方法を学ぶ							
	第3回 韓国語でプロフィールを作成してみよう						プレゼンテーション	
	自分を紹介するプロフィールを韓国語で作成する							
	第4回 数の表現を学んでみよう						確認テスト	
	韓国語の数字体系について学び、それを用いた様々な表現を学ぶ							
	第5回 いろいろな文章表現を学んでみよう						確認テスト	
	文章の作り方のパターンを学び、それを用いた応用練習を行う							
	第6回 韓国語の歌を聞いてみよう						ディスカッション	
歌を通して韓国語を学ぶ								
第7回 韓国レストランに行ってみよう						ディスカッション		
食事に関する韓国語や料理の注文の仕方などを学ぶ								
第8回 韓国語でビデオレポートを作成してみよう						プレゼンテーション		
授業で学んだ内容を生かし、韓国語でビデオレポートを作成する								
成績評価方法	課題(50%)、単位修得試験(50%)							
教科書	著書 『Let's enjoy ハングル』 著者 村上純 出版社 有限会社 国宗 出版年度 2011年4月20日							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Power Point(2003以上)、マイク							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	感情・人格心理学		担当者	横山 仁史
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人格とは何か、といった人格の概念を自らの考えと合わせて説明できるようになる。 ・人格の形成過程を理解し、人格に関する遺伝的要因と環境的要因を関連付けられるようになる。 ・人格の類型や特性等について、歴史的展開も合わせてその特徴を説明できるようになる。 ・感情の理論や機序について、神経科学的視点も踏まえた理解を通して自身の感情について記述できるようになる。 ・感情が行動に及ぼす影響を理解し、日常における感情の役割を提案できるようになる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した用語や理論について自分なりに理解し、生活場面での適用を考えておくこと。 繰り返し視聴し、内容をよく理解したうえで次の学習を進めること。</p>						
学習内容	概要						課題
	第1回 人格心理学における“人格”						確認テスト
	人格心理学における基本的事項を学ぶ。同時に最も身近な人格である自己概念を取り上げ、体系化されている構造理論や自己の機能的側面を学ぶ。						
	第2回 人格の諸理論 ー精神分析的理解ー						ディスカッション
	人格を理解するためのさまざまな理論や研究について、主に精神分析的立場から学ぶ。						
	第3回 人格の諸理論 ー行動主義的理解ー						レポート
	行動主義的立場から見た人格理論を学ぶ。前回の精神分析的立場との相違点にも着目し、人格に関する洞察を深める。						
	第4回 類型論・特性論						確認テスト
	人格理論の潮流を学び、それぞれの時代における人格の捉え方を時系列的に学ぶ。						
	第5回 人格の脳科学						ディスカッション
	脳科学の発展と人格心理学との接点について触れ、脳科学を通して人格やそれに関連する感情をどのように見ることができると学ぶ。						
	第6回 感情とは						ディスカッション
	感情とは何か、自分自身の経験と合わせて感情の種類・表出などの基本的概念について学ぶ。						
	第7回 感情の喚起と制御						ディスカッション
	感情がどのように喚起され、あるいは制御されるのか、神経科学的見解も含めた感情機能について学ぶ。						
第8回 感情と行動						確認テスト	
感情が行動に及ぼす影響について学び、行動科学的見解も含めた感情機能について学ぶ。							
第9回 人格の病理						確認テスト	
人格が問題として扱われる状態について理解する。ここでは主に精神疾患・人格障害と言われる臨床場面における問題について学ぶ。							
第10回 人格の病理						レポート	
人格が問題として扱われる状態について理解する。ここでは対人関係や社会問題などを背景とした問題について学ぶ。							
第11回 人格の発達理論						ディスカッション	
人格の形成過程を理解し、生涯における人格形成を学ぶ。							
第12回 愛着と人格						ディスカッション	
愛着という概念に触れ、幼児期から成人期における愛着スタイルから人格の形跡を理解する。							
第13回 社会・文化における人格の形成						確認テスト	
社会・文化における人格理論について、個 個だけでなく、個 - 集団, 集団 - 集団という観点について学ぶ。							
第14回 人格の研究法・アセスメント						レポート	
これまで学んできた人格理論がどのような方法で提唱され、実証されてきたのか、について人格心理学の研究法を学ぶ。							
第15回 学習成果のまとめ						ディスカッション	
講義全体の内容を振り返り、再度、人格とはなにか、感情とは何かについて統一的に学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：毎回の課題（確認テスト・レポート・ディスカッション）と単位修得試験</p> <p>【A評価】 確認テストにおいて毎回9割以上正答しており、レポートでは指定されたテーマに沿って論理的に自身の考えを述べられていること。ディスカッションにおいても、自身の意見を明確に述べるとともに、他者の意見に対しても適切にコメントし、積極的に参加していること。 単位修得試験では、感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して満点近い正答を示していること。 人格とは何か、といった人格の概念をこれまで提唱されてきた理論の歴史的展開も合わせて自らの考えとして説明できるようになっており、人格の形成過程についても遺伝的要因と環境的要因を関連付けて述べられるようになること。 感情の理論や機序について、神経科学的視点も踏まえた理解を通して自身の感情について記述でき、感情が行動に及ぼす影響を理解し、日常における感情の役割を提案できるようになること。</p> <p>【B評価】 確認テストにおいて毎回8割以上正答しており、レポートでは指定されたテーマに沿って比較的論理的に自身の考えを述べられていること。ディスカッションにおいても、自身の意見を明確に述べるとともに、他者の意見に対しても適切にコメントし、積極的に参加していること。 単位修得試験では、感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して8割以上の正答を示していること。 人格とは何か、といった人格の概念および形成過程についてこれまでの理論に自らの考えを踏まえながら説明できるようになっていること。 感情の理論や機序について、神経科学的視点も踏まえた理解を通して自身の感情について記述でき、感情が行動に及ぼす影響を理解し、日常における感情の役割を提案できるようになること。</p> <p>【C評価】 確認テストにおいて毎回7割以上正答しており、レポートでは指定されたテーマに沿って自身の考えを積極的に述べられていること。ディスカッションにおいても、自身の意見を述べられていること。 単位修得試験では、感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して7割以上の正答を示していること。 人格とは何か、といった人格の概念および形成過程についてこれまでの理論を説明できるようになっていること。 感情の理論や機序、および行動に及ぼす影響について、神経科学的視点も踏まえた説明ができるようになっていること。</p> <p>【D評価】 確認テストにおいて毎回6割以上正答しており、レポートでは自身の考えを積極的に述べられていること。ディスカッションにおいても、自身の意見を述べられていること。 単位修得試験では、感情・人格に関する幅広い分野における専門的知識を問われる問題に対して5割以上の正答を示していること。 人格とは何か、といった人格の概念および形成過程について自身の言葉で説明できるようになっていること。 感情の理論や機序、および行動に及ぼす影響について自身の日常に置き換えて説明ができるようになっていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし（必要に応じて講義内で紹介する）
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 感情・人格心理学は、臨床心理学・発達心理学・認知心理学・神経心理学など他の心理学領域と接点を多く持つため、他の心理科目を同時に履修できるとより学習を深められる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	企業経営論		担当者	小江 茂徳
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営について説明できるようになる。 ・会社制度の基本的な仕組みについて説明できるようになる。 ・事業運営に必要な経営戦略、マーケティングの基本について説明できるようになる。 ・企業の内部管理の基本として人事制度、生産管理の基本について説明できるようになる。 ・国際経営の基本的な考え方について説明できるようになる。 ・事例を調べて、企業の具体的な取り組みについて説明できる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、新聞や雑誌、テレビなどのメディアを通じて企業経営に関する情報や知識を得ておくこと。 <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門用語を理解し、説明できるようになること。 ・オンデマンド教材を振り返ること。 ・職場やアルバイトなどの仕事の場面において、学んだ経営学の知識の観点から問題点を導き出し、解決策を自分なりに考えてみる。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 経営と経営学						確認テスト
	この回では、経営学を学ぶ上での基本事項である経営や企業の意味、そしてそれらを研究対象とする経営学とその誕生の背景について学びます。						
	第2回 会社制度の仕組み						確認テスト
	この回では、企業や会社の種類とその特徴について学びます。						
	第3回 経営戦略 経営戦略と環境分析						レポート
	第3回から第5回にかけて、企業の活動を方向づけるために必要になる経営戦略について学びます。その中でもこの回では、経営戦略の定義や特徴、そして経営戦略の策定に必要な環境分析の考え方について学びます。						
	第4回 経営戦略 企業戦略						確認テスト
	この回では、企業全体に向けた戦略である企業戦略について学びます。経営戦略の土台となる経営理念やアンソフの成長ベクトル、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて学びます。						
	第5回 経営戦略 事業戦略						確認テスト
	企業の各事業部が市場対応のために策定する事業戦略について学びます。具体的には、代表的な3つの競争戦略やバリューチェーン、そして製品ライフサイクル別の事業戦略について学びます。						
	第6回 マーケティング 基本とプロセス						確認テスト
	企業のマーケティングの基本的な考え方とその具体的な活動であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学びます。						
	第7回 マーケティング マーケティング・ミックス						確認テスト
	マーケティングプロセスの第3段階であるマーケティング・ミックスについて学びます。具体的には、製品政策、流通政策、販売促進政策、価格政策について学習します。						
第8回 生産管理						確認テスト	
企業の生産活動の管理に関する基本的な考え方を学びます。具体的には、生産管理の基礎となった科学的管理法や、今日までの企業の生産体制の変遷と生産体制の特徴、そして生産管理の基本的な考え方について学習します。							
第9回 日本の経営						確認テスト	
日本経済を支えてきた日本企業に共通する経営スタイルについて学びます。具体的には、3種の神器と呼ばれる終身雇用や年功序列、企業別組合を含む代表的な特徴と、日本の経営が持つ長所と短所、そして今日の日本の経営の変容について学習します。							
第10回 企業の人事管理						確認テスト	
この回では、企業が人材をどのように管理しているのかについて学習します。具体的には社内にはどのような社員区分を設けているのか、またその区分を基礎としてどのように人材を評価し、昇進を管理しているのか、その基本的な考え方について学びます。							
第11回 企業の人材育成						確認テスト	
企業の人材育成について、その考え方や具体的な手法、そして人材育成の新たな試みについて学びます。							
第12回 国際経営の基本						確認テスト	
国際経営の基礎として、企業が経営の国際化を進める背景や国際経営の基本枠組みについて学びます。							
第13回 企業の海外進出と経営						レポート	
この回では、企業が海外進出する際に採用すべき組織形態やマーケティング活動、そして生産拠点移転の基本的な考え方について学びます。							
第14回 ベンチャー企業の経営						確認テスト	
経済の活性化に重要な役割を果たすベンチャー企業とその特徴や、資金調達の方法、そしてベンチャー企業における成長マネジメントのあり方について学習します。							
第15回 ベンチャー企業の経営						確認テスト	
この回では、ベンチャー企業における成長マネジメントと、起業家に求められる能力、成功するベンチャー企業のポイントについて学びます。							

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験（Web試験）、レポート課題</p> <p>【A評価】 単位修得試験ではほぼ満点を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項をほぼ説明できること。またレポートを通じて、具体的な企業の事例について自分で調べ、適切に説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識をほぼ理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、適切に説明できる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験で高得点を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項を大部分説明できること。またレポートを通じて、具体的な企業の事例について自分で調べ、十分に説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識を大部分理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、十分に説明できる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験で一定以上の点数を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項を一定程度説明できること。またレポートを通じて、具体的な会社の事例について自分で調べ、一定程度説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識を一定程度理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、一定程度説明できる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験で一定の点数を獲得し、会社制度の仕組み、事業運営、会社内部の管理、国際経営についての基本事項をある程度説明できること。またレポートを通じて、具体的な会社の事例について自分で調べ、ある程度説明できること。 講義で学んだ企業経営に関する知識を最低限求められる程度理解しており、企業の事例に対して自分で調べ、最低限の説明ができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎英語Ⅰ			担当者	山田 泉	
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★			
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—	
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)									
特記事項										
学習目標	英語でコミュニケーションをとれるようになることが目標です。そのためには、相手の言うことを聞き取れる、listening能力が不可欠です。さらに、listening能力をみがくには、自分の口から英語を発することが大切です。自分が言えない単語、フレーズは聞き取ることができません。何度も繰り返し言ってみましょう。									
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。el-Campusのオンデマンド教材とEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。									
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した単語、フレーズは、覚えるまで繰り返し使ってみてください。									
学習内容	概要								課題	
	第1回 ABC 123									確認テスト
	日常生活で役に立つフレーズの数々を学びます。									
	第2回 You & Me									確認テスト
	あいさつ、身の回りのことについての表現を学びます。									
	第3回 Describe It									確認テスト
	周りの状況、自分の気持ちの表現を通して、前置詞、形容詞を学びます。									
	第4回 What's Happening?									確認テスト
	毎日すること、できること、今している動作の表現を通して、現在進行形、助動詞canを学びます。									
	第5回 Word Power									確認テスト
	反対の意味を表す形容詞や、好きな物・嫌いなものの表現を学びます。									
	第6回 Media									確認テスト
	テレビ、映画、音楽についての知識を深め、自分の好みの表現の仕方を学びます。									
	第7回 Going To School / How Many Hearts?									確認テスト
	交通手段、体の部位について学びます。									
	第8回 Useful Yellow / Tree Homes									確認テスト
色について、動物の住む場所について学びます。										
第9回 Swimming / July									確認テスト	
天気・気候の表現、接続詞when、知覚動詞を使った表現を学びます。										
第10回 Do You Like It? / Painting									確認テスト	
好きな食べ物や色の話題を通して、like, like toの表現や、三単現を学びます。										
第11回 Two, Four, Six, More! / How Many Countries?									確認テスト	
動物園やいろいろな国の話題を通して、there構文、現在完了を学びます。										
第12回 Play It / My Book Bag									確認テスト	
楽器の名前、I'd like to-の表現を学びます。										
第13回 English Here and There / Eyes									確認テスト	
国・言語・人種の表現の仕方、家族の関係性を学びます。										
第14回 Expressing Emotions									確認テスト	
好き、嫌いを含めたいろいろな感情表現を学びます。										
第15回 Making Small Talk									確認テスト	
初めて会った人、久しぶりに会った人への声かけの仕方、電話での対応の仕方を学びます。										

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験でほぼ満点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話で意志を通じさせることができる。 物事の状況や様子を自分の言葉で説明できる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験で高得点を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話でほぼ意志を通じさせることができる。 物事の状況や様子を説明できる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験で一定以上の点数を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話で相手の言うことが聞き取れて、短い応答ができる。 物事の状況や様子をおおよそ説明できる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験で一定の点数を獲得し、各回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 日常会話で相手の言うことがほぼ聞き取れて、短い応答ができる。 物事の状況や様子を説明できる単語を習得している。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	
必須ソフト ・ツール	<p>EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレス (EnglishCentralへの登録に必要) ・ブラウザ 「Google Chrome」 もしくは 「Mozilla Firefox」 ・マイク
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎英語 II			担当者	山田 泉
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	外部教材を除く全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	文法的理解を深め、話し言葉としての英語に慣れ、自らの意見を発信できるようにしましょう。そのためには、英語をまとまりとして聞き取ることが必要です。聞き取るためには、単語一つ一つではなく、フレーズをまるごと、自分の口で言ってみることが大切です。何度も繰り返して言ってみましょう。								
学習の進め方	この授業では、EnglishCentralを外部教材として利用します。el-Campusのオンデマンド教材とEnglishCentralを並行して受講し、学習を進めてください。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各動画教材の「学習テキスト」で動画の字幕を確認しておくこと。 また、テレビ、雑誌などで外国の文化に関する知識を増やしましょう。 【学習後に復習として実施すべきこと】 身につけたフレーズは、忘れないように繰り返し使ってみてください。								
学習内容					概要			課題	
	第1回 到着				不定詞副詞的用法、使役動詞の使い方を海外に到着した場面から学びます。			確認テスト	
	第2回 トラブル				不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法を、海外ではつきもの様々なトラブルの場面を通して学びます。			確認テスト	
	第3回 交通移動				目的地までの道案内の仕方、様々な旅の仕方、間接疑問文について学びます。			確認テスト	
	第4回 ホテル				ホテルについてのあれこれと、I'd like to を使った表現、受け身の表現を学びます。			確認テスト	
	第5回 レストラン				レストランでの注文の仕方を学びます。			確認テスト	
	第6回 旅行の計画				旅の計画についての表現と、後置修飾を使った表現を学びます。			確認テスト	
	第7回 移動中に				飛行機に搭乗、入国、ホテルまでの移動を経験してみましょう。			確認テスト	
	第8回 到着したら				目的地に到着してからの場面を通して、関係代名詞whatや電車を乗り換えるときの表現を学びます。			確認テスト	
	第9回 文化を学ぶ				外国との文化の違いに触れながら、関係代名詞whatやwillを使った未来の表現を学びます。			確認テスト	
	第10回 訪れたい場所				世界のいろいろな場所を紹介する場面を通して、whereの3種類の使い方や、ずっと行きたかった場所の表現を学びます。			確認テスト	
	第11回 映画を観に行こう!				いろいろなジャンルの映画の一部を視聴し、字幕を見ずに理解できるよう学習します。			確認テスト	
	第12回 コマーシャル				コマーシャルに使われる英語が聞き取れるよう学習します。			確認テスト	
	第13回 面白い番組ある?				アメリカで放送されているテレビ番組を視聴し、字幕を見ずに概要が理解できるよう学習します。			確認テスト	
	第14回 有名人たち				有名人たちの出ているコマーシャルを視聴し、字幕を見ずにメッセージが理解できるよう学習します。			確認テスト	
	第15回 ゲーム天国				様々なゲームを通して、迫力のある英語表現を学びます。			確認テスト	

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験ではほぼ満点を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語を身につけ、適切な場面で使える。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、理解できる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験で高得点を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語を身につけ、適切な場面で、ある程度使える。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、おおよそ理解できる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験で一定以上に点数を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語をある程度身につけ、短い応答ができる。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、ある程度理解できる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験で一定以上の点数を獲得し、毎回の課題も合格点に達していること。 ■学習目標と照らし合わせた能力の状態 実用的な英語をある程度身につけ、少なくとも相手の言うことを理解できる。 映画、テレビで話される英語のスピードに慣れ、ある程度理解できる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	
必須ソフト ・ツール	<p>EnglishCentralを受講するにあたり、下記を事前に準備しておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレス (EnglishCentralへの登録に必要) ・ブラウザ「Google Chrome」もしくは「Mozilla Firefox」 ・マイク
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 基礎となる語彙、フレーズを身につけていること。 基礎英語Ⅰと併せて受講しましょう。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎ゼミナール			担当者	野波 侑里、畑 耕治郎、本田 直也
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<p>この授業は、高校を卒業して間もない若年者に大学での学びに馴染んでもらうことを目指し、学ぶことを学ぶための科目です。高校までの学びと大学での学びの違いを比べながら、学習の方法やコツ、科目や専門の選び方について学んでいきます。近い世代、同じ立場の学習者同士の様子を互いに報告したり、本学キャンパスなどで直接対面したりするなど、交流を図りながら共に学んでいくことも目指します。さらには、学習継続が困難とされる通信教育では、自身の学習に対する姿勢を認識することが大切です。この授業を通して、自身の行動パターンを認識し、自身に適した学習習慣を見つけることも目指します。</p> <p>【この授業の学びを通してできるようになること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校までの学びと、大学での学びの違いを把握し、説明できるようになる。 ・本課程の学びの特徴を理解し、少し先までの具体的な履修計画を立てることができるようになる。 ・自身の学習が計画通り順調に進んでいるかどうか自身で状況を認識し、他者に話すことができるようになる。 ・学習のポイントを押さえたノートテイキングができるようになる。 								
学習の進め方	<p>本科目の学習期間は第1クールのから第4クールの1年間です。学習開始は入学直後のクールとし、単位修得試験は第4クール末に実施します。主な学習内容は以下の通りです。</p> <p>【ライブ学習：年6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学習では、「大学での学び」についてゲストスピーカーを招いて学習を進めます。 ・ライブ学習は原則、平日の19時から約1時間程度とし、専用のビデオチャットシステムを用いて行います。 ・ライブ参加が困難な回は、収録された映像による学習も可能です。 <p>【オンデマンド学習：年10回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学習では、eラーニング学習で必要とされる効果的なノートテイキングを実践的に練習します。 ・具体的には、10週間にわたって、週毎に指定の動画教材（～の10種類、各15分程度）を視聴し、ノートテイキングに取り組みます。動画教材にはTEDで公開されているさまざまな分野から魅力的な動画を使用します。 ・TEDは世界中の著名人によるさまざまな講演会を世界規模で開催している非営利団体です。 <p>【面談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者本人と教員との間で、面談（電話やSkype、対面など、形式や時期は応相談）を行います。 								
授業時間外学習									
学習内容	概要				課題				
	ライブ学習				レポート課題				
	<p>第1回 04/14 (火) ガイダンス</p> <p>第2回 06/30 (火) 在学中の先輩を招いて (テーマ: 学修)</p> <p>第3回 09/19 (土) 卒業生を招いて (テーマ: 学修と進路)</p> <p>第4回 10/13 (火) 図書館スタッフを招いて (テーマ: 図書館活用)</p> <p>第5回 12/15 (火) キャリアカウンセラーを招いて (テーマ: キャリアデザイン)</p> <p>第6回 01/22 (金) 1年間の振り返り</p> <p>開催日および学習テーマは予定であり、変更することがあります。</p>								
オンデマンド学習				ノート提出					
<p>【第1クール】</p> <p>04/20 (月) - 04/26 (日) オンデマンド学習</p> <p>04/27 (月) - 05/03 (日) オンデマンド学習</p> <p>05/04 (月) - 05/10 (日) オンデマンド学習</p> <p>05/11 (月) - 05/17 (日) オンデマンド学習</p> <p>05/18 (月) - 05/24 (日) オンデマンド学習</p> <p>【第2クール】</p> <p>07/06 (月) - 07/12 (日) オンデマンド学習</p> <p>07/13 (月) - 07/19 (日) オンデマンド学習</p> <p>07/20 (月) - 07/26 (日) オンデマンド学習</p> <p>07/27 (月) - 08/02 (日) オンデマンド学習</p> <p>08/03 (月) - 08/09 (日) オンデマンド学習</p> <p>【第3クール】</p> <p>10/19 (月) - 10/25 (日) オンデマンド学習</p> <p>10/26 (月) - 11/01 (日) オンデマンド学習</p> <p>11/02 (月) - 11/08 (日) オンデマンド学習</p> <p>11/09 (月) - 11/15 (日) オンデマンド学習</p> <p>11/16 (月) - 11/22 (日) オンデマンド学習</p> <p>【第4クール】</p> <p>12/14 (月) - 12/20 (日) オンデマンド学習</p> <p>12/21 (月) - 12/27 (日) オンデマンド学習</p> <p>01/04 (月) - 01/10 (日) オンデマンド学習</p> <p>01/11 (月) - 01/17 (日) オンデマンド学習</p> <p>01/18 (月) - 01/24 (日) オンデマンド学習</p> <p>補足</p> <p>【第1クール開始の方】</p> <p>第1クールと第2クールにオンデマンド学習 - 、 - の順で取り組んでください。</p> <p>【第2クール開始の方】</p> <p>第2クールと第3クールにオンデマンド学習 - 、 - の順で取り組んでください。</p> <p>【第3クール開始の方】</p> <p>第3クールと第4クールにオンデマンド学習 - 、 - の順で取り組んでください。</p>									
成績評価方法	<p>以下の評価項目により総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライブ学習の取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ・各回課題の提出状況 ・ライブ授業の参加状況 (最低1回以上のライブ参加) 2. オンデマンド学習の取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ・各回課題の提出状況 3. 面談の実施状況 4. 単位修得試験 (レポート試験) 								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>18～22歳までの入学初年度の学生を対象とした授業です。「高校と大学の学びの違い」をテーマとする大学への導入教育や社会での経験が必ずしも豊富ではない若年者向け・未就業者向けのキャリア教育を行うため、対象者を限定しています。この科目は第1クールから第4クールまで継続して学んでいく科目となっています。対象の学生は入学直後のクールにて履修登録の上、学習を開始してください。なお、第4クールでの履修登録はできません。第4クールより学習を開始する学生は、次年度 (2021年度) の第1クールにて「基礎ゼミナール」を履修してください。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎ゼミナール		担当者	野波 侑里, 畑 耕治郎, 本田 直也
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	<p>この授業は、高校を卒業して間もない若年者に大学での学びに馴染んでもらうことを目指し、学ぶことを学ぶための科目です。高校までの学びと大学での学びの違いを比べながら、学習の方法やコツ、科目や専門の選び方について学んでいきます。近い世代、同じ立場の学習者同士の様子を互いに報告したり、本学キャンパスなどで直接対面したりするなど、交流を図りながら共に学んでいくことも目指します。さらには、学習継続が困難とされる通信教育では、自身の学習に対する姿勢を認識することが大切です。この授業を通して、自身の行動パターンを認識し、自身に適した学習習慣を見つけることも目指します。</p> <p>【この授業の学びを通してできるようになること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の大学生生活とライフデザイン、キャリアデザインの第一歩が描けるようになる。 ・学習者同士で交流を図り、語り合えるようになる。 ・学習のポイントを押さえたノートテイキングができるようになる。 ・学習ノートを活用して、学術的なレポートが書けるようになる。 							
学習の進め方	<p>本科目の学習期間は第1クールから第4クールの1年間です。 学習開始は第1クールとし、単位修得試験は第4クール末に実施します。 主な学習内容は以下の通りです。</p> <p>【ライブ学習：年6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学習では、キャリアデザインを主たるテーマにしてゲストスピーカーを招いて学習を進めます。 ・ライブ学習は原則、平日の20時30分から約1時間程度とし、専用のビデオチャットシステムを用いて行います。 ・ライブ参加が困難な回は、収録された映像による学習も可能です。 <p>【オンデマンド学習：年4回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学習では、eラーニング学習が必要とされる効果的なノートテイキングを実践的に練習するとともに、ノートを活用した学術的なレポートの書き方を練習します。 ・具体的には、クール毎に指定の動画教材を視聴し、ノートテイキングに取り組み、課題テーマに沿って自身の考えをまとめます。 ・単位修得試験では、4本の動画から得られた知見を元にレポート作成に取り組みます。 ・なお、動画教材にはTEDで公開されているさまざまな分野から魅力的な動画を使用します。 ・TEDは世界中の著名人によるさまざまな講演会を世界規模で開催している非営利団体です。 <p>【面談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者本人と教員との間で、面談（電話やSkype、対面など、形式や時期は応相談）を行います。 							
授業時間外学習								
学習内容	概要						課題	
	ライブ学習						レポート課題	
	<p>第1回 04/14(火) ガイダンス 第2回 06/30(火) レポートの書き方 第3回 09/19(土) 卒業生を招いて(テーマ:卒業後の進路と将来設計) 第4回 10/13(火) レポートの書き方 第5回 12/15(火) キャリアカウンセラーを招いて(テーマ:キャリアデザイン) 第6回 01/22(金) 1年間の振り返り 開催日および学習テーマは予定であり、変更することがあります。</p>						レポート課題	
成績評価方法	オンデマンド学習						レポート課題	
	【第1クール】 オンデマンド教材						レポート課題	
	【第2クール】 オンデマンド教材						レポート課題	
教科書	【第3クール】 オンデマンド教材						レポート課題	
	【第4クール】 オンデマンド教材						レポート課題	
	以下の評価項目により総合的に評価する。						レポート課題	
参考書(任意購入)	なし						レポート課題	
必須ソフト・ツール	なし						レポート課題	
備考	<p>2017年度～2019年度の入学者で19～23歳の学生を対象とした授業です。 「高校と大学の学びの違い」をテーマとする大学への導入教育や社会での経験が必ずしも豊富ではない若年者向け・未就業者向けのキャリア教育を行うため、対象者を限定しています。 「基礎ゼミナール」を履修していない方も履修することができます。 この科目は第1クールから第4クールまで継続して学んでいく科目となっています。対象の学生は第1クールにて履修登録の上、学習を開始してください。</p>							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリア概論			担当者	岩波 薫
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	ー
資格名									
特記事項									
学習目標	キャリア形成に関連する最近のトピックや入門的な理論を取り上げ、キャリアについて学ぶための基礎作りを行う。また、自分自身の個性やキャリアに対する考えなどを理解し、将来キャリアをデザインするためのヒントを得ることができるようになる。								
学習の進め方	一方向的な講義は必要最小限にとどめ、ワークシートやアセスメントなどを用いた個人ワーク、少人数でのグループ・ワークを多用する。受講者どうしの様々な「対話」の方法も試しつつ、相互に理解をしながら、キャリア形成に対する自分自身の考え方を理解できるようにする。また、テーマに沿った話題提供のために、TV番組やビデオなどの視聴も行う。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 講義開始1週間前を目処に、スクーリングで使用するレジュメをel-Campusにアップするので、事前に目を通しておいて下さい。 スクーリング終了後、講義内でのグループワークの内容を更に個人で深めていく形で個人レポートが課されます(原則ワードで作成)。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 仕事選びの基準とは 「やりたいこと」と「できること」								
	「やりたいこと」を仕事にするべきか、「できること」を仕事にするべきか、若者たちの事例を用いて議論する。								
	第2回 仕事選びの基準とは 「やりたいこと」と「できること」								
	前回内容に関する議論と講義。								
	第3回 仕事選びの基準とは 才能と努力								
	努力は才能を超えるか、ある若者の事例を用いて議論する。								
	第4回 仕事選びの基準とは 才能と努力								
	前回内容に関する議論と講義。								
	第5回 就職氷河期								
	キャリアの入口で若者をつまづかせている「就職氷河期」。その要因と対策について考える。								
	第6回 就職氷河期								
	前回内容に関する議論と講義。								
	第7回 ライフサイクルとキャリア ワークライフバランス								
	仕事と家庭の両立(統合)はどのようにすればよいのか。事例および自身の体験に基づいて議論する。								
第8回 ライフサイクルとキャリア ワークライフバランス									
前回内容に関する議論と講義。									
第9回 キャリア形成とメンタルヘルス									
働く人のメンタルヘルスの現状と課題を、マネジメントの視点も含めて議論する。									
第10回 キャリア形成とメンタルヘルス									
キャリア形成に関するストレス要因とその対策について。									
第11回 キャリア形成と人間関係									
キャリア形成に影響を与える他者との人間関係について議論する。									
第12回 キャリア形成と人間関係									
前回内容に関する議論と講義。									
第13回 グループワーク									
ここまでで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。									
第14回 グループワーク									
ここまでで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。									
第15回 グループワーク発表									
グループワークの結果を発表する。									
成績評価方法	講義への参加(ディスカッションなどへの)とその貢献度合い(量と質):(40%)、レポート:(60%)								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	大久保幸夫著『キャリアデザイン入門I(基礎力編)』日本経済新聞出版社								
必須ソフト・ツール	最終グループ発表をまとめる際には、各自Microsoft Office PowerPointが使えることが望ましい。スクーリング終了後に全員提出の個人レポートは原則Microsoft Office Wordを使用する。								
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名。 3日間のスクーリング形式での講義ですので、シラバス上の回数にはとらわれず適切な時間(60分程度)ごとに休憩を入れる形で講義を進行します。								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	キャリアの心理学		担当者	坂本 理郎	
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング			デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全授業への出席		単位修得試験実施方法	現地試験		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)	
資格名	認定心理士							
特記事項								
学習目標	世界が大きく変化しつつあるいま、私たちが職業に就き、職業人として充実した人生を歩んでいくことは、以前よりもますます困難になってきている。このような時代の中で、キャリア形成に関連する理論を学ぶことは、今後の自身のキャリアを考えるうえで重要な指針を得ることになる。加えて、企業の管理職、教育者、あるいはキャリア・カウンセラーとして、他者のキャリア形成を支援するうえでも、たいへん役に立つものである。そこで本講義では、主に心理学の分野からキャリアに関する重要な理論をいくつか取り上げ、自分自身や他者への実用を意識しながら、学んでいくことを目的とする。							
学習の進め方	本授業では、キャリア形成に関する重要な理論を中心に学ぶと同時にキャリアカウンセリングの基礎的技法についても学ぶ。講義中心ではあるが、理論を自分自身に適用してみるためのワークやディスカッションも可能な限り取り入れる。							
授業時間外学習	・授業時間中の事前・事後課題の指示にしたがって、学習を行うこと。							
学習内容	概要			課題				
	第1回 スーパーの理論	キャリアの自己概念、ライフ・スパン、ライフ・スペース						
	第2回 ハンセンの理論	統合的人生計画						
	第3回 シュロスバーグの理論	キャリアの転機を活かす						
	第4回 ホランドの理論	パーソナリティ・タイプと職業選択						
	第5回 クルンボルツの理論	学習経験と職業選択、ブランドハブスタンス理論						
	第6回 SCCT理論	自己認知がキャリア形成に与える影響						
	第7回 第6回までのまとめ	第6回までのまとめ(中間試験による復習)						
	第8回 シャインの理論	組織と個人のニーズの調和、キャリアサイクル						
	第9回 シャインの理論	キャリア・アンカーとキャリア・サバイバル						
	第10回 ホールの理論	変幻自在のキャリア(プロテアンキャリア)						
	第11回 メンタリング	キャリア形成を支援する人間関係						
	第12回 ナラティブ・アプローチ	物語としてのキャリア						
	第13回 キャリア・カウンセリングの技法	カウンセリングの基本的考え方、マイクロ・カウンセリング技法を中心とした基礎スキル、キャリア・カウンセラーに求められる資質と能力。						
	第14回 ケース・スタディ	仮想のクライアントの事例を用いて、理論的な分析を試みる。			「順子さんのケース」			
	第15回 まとめ	単位修得試験の実施						
成績評価方法	中間試験(30%)、単位修得試験(70%)							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	『キャリアカウンセリング入門 人と仕事の橋渡し』、渡辺三枝子、ナカニシヤ出版、2,200円(税抜)、2001年							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名 【その他】 本授業では、組織人事コンサルタントおよび若者向けハローワークでのキャリアカウンセリングでの経験を、授業の中に織り交ぜることによって、理論的内容を分かりやすく講義する。							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	キャリアをつくる技法		担当者	山縣 康浩
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング		
単位修得試験 受験資格	全ての授業に出席すること		単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)		単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名							
特記事項							
学習目標	キャリアの概論・理論を学習し、いよいよキャリア形成に向けての実践段階となる。この講義では、現実の社会・組織・自己をどのように見据えるのか、事例を踏まえ検討していく。そして、今までとは異なる視点を取り入れて、実践に向けた第一歩を踏み出す持論を形成する。						
学習の進め方	今、現実はどうなっているだろうか? キャリアの理論が捉えている現実だけでは不十分なため、様々な学問が踏まえる現実の捉え方を紹介する。それらを自分のこととして置き換え、実践のためのアジェンダを作成する。 気づきの場を共有するため、個人演習の後、グループワークなどを行う。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 「働くことを考える」「キャリアの心理学」を受講済が望ましい。 グループワークでは、自分自身の考えを持ち、メンバーに伝えられるようにしておくこと。最近の大きな社会の出来事などに興味を持っておくように。						
学習内容	概要						課題
	第1回 キャリアの技法について						
	この講義の主旨や考え方を説明し、これまで学習した理論と統合していく。						
	第2回 キャリアをつくる技法						
	コミュニケーションの考え方を紹介するとともに、その観点から社会や組織を捉える。						
	第3回 キャリアをつくる技法 の演習						
	個人演習の後、グループワークにて「気づき」を共有する。全体でも共有することとする。						
	第4回 キャリアをつくる技法						
	「自分がよければ・・・」が最悪の結果を招く、合成の誤謬について考える。						
	第5回 キャリアをつくる技法 の演習						
	個人演習の後、グループワークにて「気づき」を共有する。全体でも共有することとする。						
	第6回 キャリアをつくる技法 -1						
	個人を取り巻く環境変化についての視野を広げる。(今、何が起きているのだろうか?)						
	第7回 キャリアをつくる技法 -2						
	第6回のつづき 個人を取り巻く環境変化についての視野を広げる。(今、何が起きているのだろうか?)						
第8回 気づきを深める							
グループワーク、全体の質疑応答も含め、自分の考えを深めていく。							
第9回 共通前提を構築する							
他者とかわかるための共通前提を考え、その基盤構築の実践を考える。							
第10回 ここまでの学びを振り返る							
個人演習の後、グループワークにて発表する。							
第11回 実践での変化							
学習した内容を踏まえ、自分にどのような変化があったのかを話し合う。							
第12回 キャリアをつくる技法							
ネットワーク構築とアジェンダ設定について説明する。							
第13回 キャリアをつくる技法 の演習							
ワークシートを作成し、自分自身の現状を把握する。							
第14回 目指すべき方向性の確認							
キャリア形成に向けた実践を検討する。							
第15回 宣言						レポート	
自分で決めたアジェンダを、自分の言葉で記述し、宣言する。							
成績評価方法	アジェンダ設定と今後の実践に向けた取り組み内容を記述するものとし、アジェンダ設定(50%)、今後の実践に向けた取り組み内容(50%)にて評価する。 アジェンダ設定では、講義の内容や自分自身の気づきを踏まえ、直線的ではなく紆余曲折の中でも、大きな方向性を捉えていること、その方向性が今後の社会的な動きとマッチしている度合いをみる。 また、実践に向けた取り組みでは、実現可能性の内容であること、自身の発達につながる内容であることをポイントとする。						
教科書	なし						
参考書 (任意購入)	なし						
必須ソフト ・ツール	なし						
備考	受講者上限人数 グループワークを含む40名 【その他】 本授業は、人事全般の業務経験を生かして、人そのもの、制度や仕組み、時代背景といった自律的キャリア形成に影響をもたらす要因を題材にあげ、その考察および実際の場での経験を通して、意識の変化や気づきを支援する講義を行う。						

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	教育・学校心理学		担当者	寺田 未来
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	レポート		単位修得試験 試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	・児童・生徒の発達過程、パーソナリティ、学習、人間関係や集団心理の理論や概念を説明できるようになる。 ・学校教育について解決すべきテーマを自ら設定し、習得した内容をもとに解決策を考察することができるようになる。						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 心理学概論の教科書や入門書にふれておくこと。 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したサイトを閲覧しておくこと。 専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>						
学習内容	概要						課題
	第1回 発達						確認テスト
	認知や思考、言語の発達についての理論を学ぶ。また幼少期における養育者とのかかわりについて愛着の形成を学ぶ。						
	第2回 発達						確認テスト
	児童・生徒の自己概念の形成や自己主張・自己抑制について学ぶ。						
	第3回 パーソナリティ						確認テスト
	パーソナリティの測定方法と捉え方を学ぶ。さらに児童・生徒におけるパーソナリティの形成と、さまざまなパーソナリティの特徴や学校生活に及ぼす影響を学ぶ。						
	第4回 学習						確認テスト
	学習の形成・成立とそのメカニズムを学ぶ。 また児童・生徒の効果的な学習として、自己調整学習とは何かを学ぶ。						
	第5回 学力と学習観						確認テスト
	学力に関する問題の現状を学ぶ。また児童・生徒が知識を習得する際のポイントとして学習観について学ぶ。						
	第6回 動機づけ						確認テスト
	動機づけに関連する理論を学び、動機づけの種類や、そのメカニズムを学ぶ。						
	第7回 動機づけ						確認テスト
	動機づけに関連する理論を学び、児童・生徒がいかにして学習に動機づけられるかについて学ぶ。						
第8回 学習方略						確認テスト	
学習の進め方(学習方略)にはどのようなものがあるのかを学ぶ。							
第9回 学習方略						確認テスト	
わからないことがあったときの援助の要請方法について学ぶ。 個による学習だけでなく、仲間との教え合いなどの協同学習について学ぶ。							
第10回 効果的な学習指導・学習支援						確認テスト	
自律的な学習者を育成するための効果的な学習指導・学習支援について介入方法や促進方法を学ぶ。							
第11回 効果的な学習指導・学習支援						確認テスト、レポート	
学校教育や学習支援の場面で実践されている学習指導・学習支援を学ぶ。							
第12回 対人関係						確認テスト	
児童・生徒を取り巻くさまざまな人間関係について、相互作用のあり方や、それぞれのもつ対人トラブルについて学ぶ。							
第13回 集団関係						確認テスト	
学校生活におけるクラスや部活動などの集団について、リーダーシップやネットワーク、集団の一員としてのアイデンティティについて学ぶ。 また集団であるがゆえに起こりうるトラブルについて学ぶ。							
第14回 学校生活で抱える問題						確認テスト、レポート	
学校適応とは何かについてふれ、学校教育における問題の実態と背景要因について自己制御、統制の所在という観点からアプローチする。							
第15回 心理教育的援助サービス						確認テスト	
学校教育における心理教育的援助サービスの実態にふれ、カウンセリングマインドや学校教育の指針について学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：レポート、単位修得試験</p> <p>【A評価】レポート：テーマに沿って自らの意見が論理的に述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容をもとに自らの意見が論理的に主張されている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題に対し、専門的な知識をふまえながら自らの意見を考察し、解決策にアプローチすることができる。</p> <p>【B評価】レポート：テーマに沿って自らの意見が論理的に述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容と、これまでの先行研究で得られた知見をもとに自らの意見がまとめられている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題に対し、専門的な知識をふまえながら問題にアプローチすることができる。</p> <p>【C評価】レポート：テーマに沿って自らの意見が述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべきテーマを設定し、習得した内容をもとに一般的な解決策がまとめられている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。 学校教育の現場における解決すべき問題を、専門的な知識をもとに理解することができる。</p> <p>【D評価】レポート：テーマに沿って一般的な意見が述べられている。 単位修得試験：学校教育において解決すべき何らかのテーマが記載されている。 教育・学校心理学について専門知識を習得し、他者に説明することができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学概論の教科書や入門書などにより、一通りの心理学の基礎知識をもっておくことで理解がスムーズになる。 学校教育に関連する現場での実務経験をふまえておくことで理解がより深まる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	行政法			担当者	野村 康春
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	社会福祉主事【任用資格】								
特記事項									
学習目標	公務員試験の行政職区分において、法律専門科目として出題される行政法について、基礎的な法用語、条文知識、判例知識、並びに公務員試験問題へのアプローチができるようになることを目指します。 本授業を通して基礎力を養い、過去問演習など本格的な試験対策への橋渡しができるようにしましょう。								
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 事前準備は原則として不要です。受講後の復習に重点を置いて学習して下さい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 1.授業で解説された法用語、条文知識、判例知識を確認する。 2.授業で指示された範囲の教科書を読み込み、授業で解説された事項と関連する事項についてまで理解を深める。 3.教科書掲載の確認問題に取り組み、問題演習の反復により、知識の基礎を固める。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 行政と行政法								確認テスト
	まず、行政、行政法という用語を説明し、行政法の基本原理及び公法と私法の関係についての判例を解説する。								
	第2回 行政手続法								確認テスト
	行政作用の一般法ともいべき行政手続法の概略並びに第2章申請に対する処分及び第3章不利益処分について解説する。								
	第3回 行政手続法								確認テスト
	行政作用の一般法ともいべき行政手続法の第5章届出及び第6章意見公募手続等並びに第1章について解説する。								
	第4回 行政不服申立て								確認テスト
	総説～審査請求の手続の終了について解説する。								
	第5回 行政不服申立て								確認テスト
	執行停止～不服申立前置の見直しについて解説する。								
	第6回 行政事件訴訟								確認テスト
	行政事件訴訟の意義と特徴～抗告訴訟について解説する。								
	第7回 行政事件訴訟								確認テスト
	取消訴訟（狭義の訴えの利益まで）について、訴訟要件を解説する。								
第8回 行政事件訴訟								確認テスト	
取消訴訟（被告適格以降）～情報提供（教示）制度について解説する。									
第9回 国家賠償								確認テスト	
国家賠償法の成立～国家賠償請求の手続について解説する。									
第10回 損失補償、行政組織、公物								確認テスト	
前回の国家賠償に続き、国家補償分野から損失補償を解説し、その後、行政組織、公物について解説する。									
第11回 地方の行政組織								確認テスト	
地方自治法の重要部分について解説する。									
第12回 行政行為								確認テスト	
講学上の「行政行為」の概念について、行政事件訴訟法等実定法上の「処分」に関する手続上の規律と関連付けながら、確認する。									
第13回 行政上の強制措置								確認テスト	
行政上の強制執行、即時強制、行政罰について解説する。									
第14回 その他の行政作用形式								確認テスト	
行政立法、行政計画、行政契約について解説する。									
第15回 その他の行政作用形式								確認テスト	
行政指導、行政調査について解説する。									

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において90以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも対応できるレベルである。以下の4種類の能力について総合的に非常に高いレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力が十分に備わっている。</p> <p>【法学用語】行政法学に関わる講義上及び実務上の概念を正しく理解している。 【条文知識】行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等の基礎的な条文内容を理解している。 【判例知識】行政事件訴訟法、国家賠償法等の基礎的な判例の事案及び判旨の重要部分を理解している。 【運用能力】法学用語、条文知識、判例知識を用いて、公務員試験問題の読解及び分析並びに正答することができる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題にはほぼ正しく解答できることに加え、初歩的な応用問題であれば対応できるレベルである。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的に高いレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力が備わっている。</p> <p>【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であればある程度正しく解答できるレベルである。 A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しており、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための基盤的能力の基礎が備わっている。</p> <p>【D評価】 単位修得試験を受験し、50以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる水準にある。 A評価基準に示した4種類の能力について、教科書掲載の法学用語、条文知識、判例知識を用いて公務員試験の問題解答を行うための最低限の水準にとどまる。</p>
教科書	<p>著書 『大卒程度 公務員試験準拠テキスト - 行政法 - 』 編著 東京アカデミー</p>
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 行政法では、憲法及び民法の知識を前提とした解説箇所が頻繁に生じますので、可能な限り憲法及び民法の授業を履修の上で受講するように心がけて下さい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	暮らしから見る福祉			担当者	
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	社会福祉や社会保障制度の基本的な仕組みや人々の暮らしとの関連を理解し、説明ができる。さらに福祉的な視点をもち現代的な課題について考察し、自らの考えをまとめ、説明することができる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 なし</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の終わりに自身の理解度を自己評価してください。自信がない場合には教材を読み直して復習をしてください。また授業前後に参考資料が指定された場合には、必ず読むようにしてください。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 社会保障とは								ディスカッション
	私たちの生活と社会保障の関係について、その概要を学ぶ								
	第2回 年金保険制度								レポート
	年金保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ								
	第3回 医療保険制度								レポート
	医療保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ								
	第4回 介護保険制度								ディスカッション
	介護保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ								
	第5回 労働保険制度								ディスカッション
	労働保険制度の仕組みや種類、課題について学ぶ								
	第6回 生活保護制度								レポート
	生活保護制度の歴史や概要、その内容と今日的な課題について学ぶ								
第7回 障害者福祉制度								レポート	
障害者制度の歴史や概要、その内容と今日的な課題について学ぶ									
第8回 社会保障の現状と課題								プレゼンテーション	
これまでの回で学んできたことを基に、社会保障制度の現状と課題について振り返り、今後のあり方について考える									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（ディスカッション、レポート、プレゼンテーション）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べるとともに、他者との協働的学習を行うことができている。 レポート課題において課題に関して調査を行い、課題背景と自身の意見を論理的にまとめることができている。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、論理的でわかりやすい資料を作成できている。 単位修得試験において満点に近い成績を修めている。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて問いに対応した内容で自身の意見を述べることができている。 レポート課題において、自身の意見を論理的にまとめることができている。 プレゼンテーションにおいて、要点を把握し、わかりやすい資料を作成できている。 単位修得試験においてほぼ満点に近い成績を修めている。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて自身の意見を述べることができている。 レポート課題において自身の意見を述べることができている。 プレゼンテーションにおいて、わかりやすい資料を作成できている。 単位修得試験において標準以上の成績を修めている。</p> <p>【D評価】 ディスカッションに参加することができている。 レポート課題において規定文字数以上の記述ができている。 プレゼンテーションにおいて、資料を作成できている。 単位修得試験において最低限の成績を修めている。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 Microsoft Office Word、Microsoft Office Power Pointの基礎的な操作スキルを身に付けておくこと。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 学習内容と自身の生活を関連付けて推論する態度を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	経営学総論		担当者	藤本 秀俊
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士						
特記事項							
学習目標	初めて経営学を学ぶ初学者の方を対象に、経営に関する基本的な知識や理論を知ると共に、実務に役立つ経営上の知識を獲得します。 具体的な目標： ・企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、実務や実践に活かすことができるようになる。 ・起業や創業を行う時の創業計画や事業計画の立て方について理解し、事業計画を説明できるようになる。						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 企業経営の現状を客観的に掴むため普段から新聞を読んだり、ニュース番組を観たりして、話題になっている企業活動の事例に関心を持って知識を増やしておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 大企業や有名企業のみならず、身近な中小企業も含めて、より多くの企業活動の実例を知ること。						
学習内容	概要			課題			
	第1回 企業経営と経営資源について			レポート(ワークシート)、確認テスト			
	会社とは何か、経営とは何をすることか、を学ぶ。						
	第2回 日本の会社について			レポート(ワークシート)、確認テスト			
	日本国内の会社(法人)の実態を知る。						
	第3回 経営組織について			レポート(ワークシート)、確認テスト			
	経営に必要な組織化、組織形態など、経営組織の基本的知識を学ぶ。						
	第4回 経営戦略について			確認テスト			
	経営戦略についての基本的知識を学ぶ。						
	第5回 経営理念について			レポート(ワークシート)、レポート			
	経営理念の意味と役割について理解する。						
	第6回 基本的な経営戦略について			レポート(ワークシート)、確認テスト			
	企業に広く良く使われている経営戦略の詳細について学ぶ。						
	第7回 経営計画について			確認テスト			
	経営計画および経営計画書について学ぶ。						
第8回 リーダーシップについて			確認テスト				
リーダーシップとは何かについて学ぶ。							
第9回 人事労務管理(人的資源管理)について			確認テスト				
人的資源管理の基本的な研究や理論について学ぶ。							
第10回 人事労務管理(給与制度、人事考課制度)について			確認テスト				
企業で実際に行われている具体的な人事労務管理施策、具体的な制度の内容について学ぶ。							
第11回 会計、経理財務管理について			確認テスト				
企業で実際に行われている会計制度、経理財務管理について学ぶ。							
第12回 営業・マーケティングについて			レポート(ワークシート)、確認テスト				
マーケティングとは何か、マーケティング活動に求められる基本的な知識を理解する。							
第13回 製品・商品と価格、ブランドについて			確認テスト				
製品や商品の持つ価値や価格設定の行い方等について学ぶ。							
第14回 戦略思考について			確認テスト、レポート				
経営判断を支える様々な思考方法について学ぶ。							
第15回 企業倫理について			レポート(ワークシート)、確認テスト				
企業倫理の意味や意義について学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：レポート(第5.14回)、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 学習された内容や用語を使って論旨が展開されると共に、自己体験や身近な事例を盛り込む等、具体的で分かり易く、自己意見を明確にした内容が論理的に展開されている。企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、他者に対しても影響力を発揮するなど、今後の社会経験、実務活動、実践に活かすことができる。</p> <p>【B評価】 学習された内容や用語を使って論旨が展開されると共に、自分の意見を十分に盛り込んだ内容が論理的に展開されている。企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解し、他者に対しても意識や行動に変化を与えることができる。</p> <p>【C評価】 最低限のレポートの基本条件を満たし、テーマに沿って論旨が展開されると共に、自分意見が十分に記されている。企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を理解した適切な行動ができる。</p> <p>【D評価】 最低限のレポートの基本条件を満たし、テーマに沿って論旨が展開されている。企業経営や組織運営についての基本的な知識や理論を持った行動がとれる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> ▽日本が一番大切にしたい会社1』坂本光司、あさ出版、1400円(税抜)、2008年 ▽日本が一番大切にしたい会社2』坂本光司、あさ出版、1400円(税抜)、2010年 ▽日本が一番大切にしたい会社3』坂本光司、あさ出版、1400円(税抜)、2011年 ▽日本が一番大切にしたい会社4』坂本光司、あさ出版、1400円(税抜)、2013年 ▽日本が一番大切にしたい会社5』坂本光司、あさ出版、1400円(税抜)、2016年
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	経営組織論		担当者	小江 茂徳
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	経営組織論の学説を理解し、説明できるようになること、また自分が所属する身近な組織について、自分なりにどのようにうまく運営していけばよいのか考え、説明できるようになることです。						
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の該当する章をあらかじめ読了し、さらにオンデマンド教材を使って学習してください。また、教科書で学んだ箇所のポイントを整理したノートを作成し、知識の定着に努めましょう。各回の学習の最後には、課題を設けていますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に新聞やビジネス雑誌、ニュースに良く目を通しましょう。 ・学習した学説や理論の視点を日常生活に当てはめ、理解を深めるようにしてください。 ・受講後には、講義で学習した概念や理論を使って、現実の経営現象を説明できることを目標としましょう。 						
学習内容	概要					課題	
	第1回 いろいろな組織の捉え方 - 多様な組織を探る -					確認テスト	
	経営組織論にて仮定されてきた10の組織観について学習します。						
	第2回 組織の中の個人 組織の人間モデル					確認テスト	
	組織を理解する上で重要な人間モデルについて学習します。						
	第3回 組織の中の個人モチベーション					レポート	
	モチベーション論を通して、組織の参加者のやる気をいかに高めていけば良いのが学習します。						
	第4回 個人と組織のかかり合い					確認テスト	
	個人は、組織に対して、いかに関与していけば良いのかについて学習します。						
	第5回 集団の機能と組織					確認テスト	
	集団に関して、また集団が持つダークサイドについて学習します。						
	第6回 組織におけるリーダーシップ					レポート	
リーダーシップ論を通じて組織の参加者をいかに導いていけば良いのかについて学習します。							
第7回 組織文化					レポート		
組織文化論を通じて、自分の所属する組織の文化を理解する手法について学習します。							
第8回 経営組織の設計					確認テスト		
代表的な組織形態のメリット・デメリットを理解することを通じて、組織設計の考え方を学習します。							
第9回 経営組織の設計					確認テスト		
組織設計における基本的な原理について学習します。							
第10回 経営組織の動態化 - 組織変革 -					確認テスト		
組織変革におけるさまざまな阻害要因について学習します。							
第11回 組織全体の方向づけと働く個人					確認テスト		
良い経営戦略や組織のあり方について学習します。							
成績評価方法	各回の課題(40%)、単位修得試験(60%)						
教科書	著書 『経営組織(経営学入門シリーズ)』 著者 金井 善宏 出版社 日本経済新聞社 出版年度 2011年3月17日 ISBN 9784532105372						
参考書(任意購入)	参考書は、各回の講義ごとにオンデマンド教材上で掲示しています。						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名				授業科目名	経済学基礎			担当者	金森 啓介
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	指定のあるデジタル教材が全て「済」になること。			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・資格試験・公務員試験が必要となるミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論を説明できるようになる。 ・ミクロ経済学に関しては、経済学における需要・供給と市場均衡の概念、市場の価格調整機能、完全競争市場、消費者行動の理論、生産者行動の理論、市場の安定性、社会的余剰、市場の失敗、外部性、公共財、独占・寡占市場、ゲーム理論、そして国際貿易について理論的に説明できるようになる。 ・マクロ経済学に関しては、付加価値、GDP、ケインズ経済学、生産物市場と貨幣市場の概念、IS/LMモデル分析、財政政策、金融政策、労働市場、ADI/AS分析、マクロ経済学のミクロ的基礎づけ、国際収支と為替レートの概念など、現代マクロ経済学の基礎理論について理論的に説明できるようになる。 ・以上の理論を、分析対象に応じて適切に組み合わせることで、経済全体を体系的かつ有機的に捉えることができるようになる。そして、それらを現実の経済問題と関連付け、理論的にとら直すことによって、その構造や原因を自分の力で追及し、解決策を提示することができるようになる。 ・学習の結果として、公務員試験(初級-地方上級)で頻出される経済学分野の問題に正答できるようになる。 								
学習の進め方	<p>この授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、他の授業と比べて学習内容自体がかなり多くなっています。そのため、任意の学習箇所も含め、全体をじっくり勉強したい受講生は、2クールをまたいで余裕をもって受講することをお勧めします。特に将来、公務員を志望している受講者は、積極的に任意の教材・解説動画を活用しましょう。なお、別科目「経済原論」では、任意箇所も含めた知識を前提に授業を進めていきます。ただし、単位修得試験の出題範囲に任意箇所の講義内容は含まれません。これは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。</p>								
授業時間外学習	<p>【学習前に実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習する回のオンデマンド教材の内容と授業の流れを、事前に簡単に予習しておくこと。 <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を見直し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・新聞やテレビ報道、経済関連の雑誌に目を通し、現実、日本経済や国際経済でどのようなことが起きているかに関心を持つように心がけること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 経済学への第一歩				確認テスト				
	経済学とは何を考える学問なのかを学ぶ。そして、その基礎理論にあたるミクロ経済学、マクロ経済学が何を分析対象とする学問なのか、どのように分析するか学ぶ。また、経済学における需要と供給という概念、市場での価格の決まり方について学習する。								
	第2回 消費者行動の理論				確認テスト				
	消費者の満足度を表す「効用」という概念を学び、消費者の嗜好と効用の大小関係を表す無差別曲線について学ぶ。また、無差別曲線、限界代替率、予算制約を用いて、消費者の最適な消費行動をどのように理論的に説明できるか学ぶ。そして、それらの基礎理論をもとに、財の所得や価格が変化したときに、消費選択がどのように変化するかを分析する。最後に、消費者行動の理論から需要曲線を導くことができることを学ぶ。								
	第3回 生産者行動の理論				確認テスト				
	経済学における生産者(企業)と生産物と費用の関係を学び、「利潤最大化」をキーワードに、生産者がどのように最適な生産水準を決定するか理論的にとらえる。また、短期と長期の生産者行動の違いを学ぶ。最後に、生産者行動の理論から供給曲線を導くことができることを学ぶ。								
	第4回 市場均衡と資源配分				確認テスト				
	消費者理論と生産者理論を組み合わせて、改めて市場均衡とはどのような状態を意味するのか学ぶ。そして、市場均衡を分析する手法として部分均衡分析と一般均衡分析を紹介し、それぞれの手法が相互に補完的なものであることを学習する。また、部分均衡分析の応用である余剰分析を用いて、社会全体の経済厚生を分析する。さらに、エッジワースのボックス・ダイアグラムを用いて、純粋交換経済を分析し、パレート最適の概念を学ぶ。最後に、厚生経済学の基本定理を学習する。								
	第5回 不完全競争市場における均衡				確認テスト				
	不完全競争市場とはどのような市場かを学ぶ。1つの市場を1社が独占する場合、複数の生産主体が独占する場合には、生産者が市場の価格支配力を持つことを学ぶ。そのとき、独占・寡占市場におかれた生産者が、どのように自社の利潤の最大化するかを学習する。また、生産者側が価格支配力を持つことで、社会全体での経済厚生が完全競争市場の場合と比べてどうなるかを余剰分析を用いて分析する。								
	第6回 市場の失敗による社会的損失				確認テスト				
	市場の価格調整メカニズムがうまく働かない状態、すなわち「市場の失敗」について学習する。まず、生産費用が低減する産業における価格調整について学ぶ。次に、市場では取り引きの対象にはならないが、経済主体の効用や利潤に影響を及ぼす経済要因である「外部性」を学習する。次に、民間ではなく公共部門によって生産される公共財の性質について学び、どのように最適な供給水準を決定すればよいかを学ぶ。最後に情報の非対称性が経済主体に及ぼす影響について学ぶ。								
	第7回 消費者・生産者行動の応用理論				確認テスト				
	消費者・生産者行動の応用理論である労働供給市場、現在と将来の異時点間の消費選択の問題、期待効用仮説、プロスペクト理論、行動経済学、そしてゲーム理論について学習する。								
	第8回 国際貿易の理論				確認テスト				
リカードの比較優位仮説を始め、それ以降に発見されたヘクシャー=オリン貿易理論、要素価格均等化の定理、スツルパー=サミュエルソンの定理、リプチンスキーの定理、現代の国際貿易理論について学習する。次に、国際貿易による利益を余剰分析を用いて学ぶ。									
第9回 マクロ経済学への第一歩				確認テスト					
まず、マクロ経済の意味について学ぶ。次に、国内総生産(GDP)と付加価値の関係について学ぶ。その際、マクロ経済の基本的なデータ、統計、物価水準の見方について学ぶ。そして、GDPを生産、需要、分配(所得)の3つの側面から見たときの性質である三面等価の原則を学ぶ。最後に、マクロ経済学の基礎であるケインズ経済学の有効需要の原理、45度線分析、乗数理論について学習する。									
第10回 生産物市場と貨幣市場の均衡				確認テスト					
マクロ経済を、生産物市場と貨幣(債券)市場の2つの側面から学ぶ。そして、それぞれの市場の均衡状態を分析する。その際、財市場と貨幣市場は、ともにGDPと利子率の2変数の式によって定式化できることを学ぶ。									
第11回 財政政策の効果と実際				確認テスト					
まず、前回学んだIS曲線とLM曲線を結び付けて、生産物市場と貨幣市場が同時に均衡する状態を見る方法であるIS-LMモデル分析を学ぶ。そして、それを用いて、財政政策の効果、現実の財政政策について学習する。									
第12回 金融政策の効果と実際				確認テスト					
まず、日本銀行(中央銀行)による金融政策の目的と手段について学習する。次に、前回学んだIS-LMモデルを用いて、金融政策の効果を分析する。さらに、現実の金融政策を観察し、そこでの政策の意義や効果をどのように理論的に説明することが可能かを学習していく。									
第13回 雇用水準と物価水準の決まり方				確認テスト					
古典派とケインズでは労働市場(名目賃金の硬直性)のとらえ方が異なることを学習する。そして、その違いによって、総需要(AD)と総供給(AS)で決まる均衡GDPの意味が違ってくる。そして、経済政策の効果が両者で全く異なってしまうことを学ぶ。また、両者の違いは、失業とインフレ率の見方においても見られることを学ぶ。									
第14回 マクロ経済学のミクロ的基礎				確認テスト					
マクロ経済学のミクロ的基礎について学ぶ。ここまではケインズの消費理論、投資理論に基づいてマクロ経済の消費と投資が構成されると考えてきたが、本節では、ケインズ以外のさまざまな消費理論、投資理論を学習していく。									
第15回 国際収支と為替レート理論				確認テスト					
外国との経済活動の記録である国際収支について学習する。そして、国際間での経済取引で重要となる「為替レート」について学ぶ。									

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題に正しく解答できることに加え、応用問題にも対応できるレベルである。 (ここでの基礎的な問題は、解答に微分等の高等数学を必要としない問題を指す。) 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば6割程度取り組むことができる。 (ここでの基礎的な問題は、解答に微分等の高等数学を必要としない問題を指す。)</p> <p>【B評価】 単位修得試験において70点以上90点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題に正しく解答できるレベルである。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば5割程度取り組むことができる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験において60点以上70点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であれば解答できるレベルである。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば4割程度取り組むことができる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験を受験し、50点以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 学習の結果として、公務員試験(初級～地方上級)で頻出される経済学分野の基礎的な問題であれば3割程度取り組むことができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 事前に「経済学入門」などの経済系の授業を受講しておくことをお勧めする。 原則として、経済学の学習において必要な知識・技術は授業で解説するが、可能であればグラフの見方、中学・高校レベルの数学(具体的には1次関数と連立方程式)を復習しておく、学習がよりスムーズになる。特に、経済学を使って問題を解くときのつまずきを減らすことができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	経済学入門			担当者	大沼 種
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名	社会福祉主事【任用資格】								
特記事項									
学習目標	日常生活の様々な場面を題材としながら、身近に感じられる経済学を学ぶ。国内外の金融・経済についての新聞記事やニュースの意味がわかるようになることを目指す。 具体的な学習目標 ・日本経済の問題点や課題を指摘し、さまざまな施策を公平に評価できるようになる。 ・自国のみならず、他国の現状も考慮に入れ、経済問題に対するさまざまな解決策を比較検討できるようになる。 ・経済の仕組みや専門用語を一般の人に対して理解できるように、わかりやすく説明できるようになる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。 ただし、第1回は理論的な内容なので、ひととおり学習を進めた後にまわしてもよいでしょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 新聞の経済記事の切り抜きはとも役立ちます。 【学習後に復習として実施すべきこと】 経済雑誌(「エコノミスト」「東洋経済」)に毎週記載されている経済指標一覧は、現状を数字でつかむのに便利です。日本経済新聞月曜朝刊にも記載されます。成長率や失業率の推移について時々数字を見比べることをすすめます。								
学習内容	概要								課題
	第1回 経済とは 経済学の代表的な理論を学ぶ。 具体的には、まず初めに経済原論と呼ばれる分野を学習する。経済を一国全体でみるマクロ経済学と、企業行動の視点からみるミクロ経済学があり、数式を中心に相対立てられており難しいと言われる。 経済科目のある各種試験・資格では必須なので、受験する方はこのレベルまでは押さえておくこと。								レポート
	第2回 金融 金融のマクロ的な含意について学ぶ。 具体的には、財政・金融という経済各論の2大分野のうち金融を学ぶ。まず金融の仕組みで必須事項を学び、次に株式と債券について学ぶ。 最後にアベノミクスについて説明し、財政、金融が全く別の動きをしているわけではなく現実には連動していることを知る。								レポート
	第3回 財政 財政の本質や国の借金について学ぶ。 具体的には、税や社会保障を学ぶ機会が少ないが、給与明細表の内容や社会保障身近な所から財政を理解していく。財政は経済から見た国家そのものと言える。								レポート
	第4回 国際経済の原理 ヒト・モノ・カネの移動について理論的に学ぶ。 具体的には、まず為替レートの仕組みを学ぶ。円高・円安とは何か。経済にどのような影響を与えるのだろうか。 次にPPPという言葉をよく聞かすが、貿易自由化はよいことなのだろうか悪いことなのだろうか。 更に世界的な貿易の枠組みについて学ぶ。								レポート
	第5回 国際経済の論点 現代の国際経済の論点をいくつか紹介する。 具体的には、国際経済では企業の海外展開を直接投資と呼び、貿易と並んでとても重要である。この直接投資について学ぶ。 次に地球上の経済格差である南北問題の解決への取り組みと現状を学ぶ。 次にリーマン・ショックについて各国は被害から立ち直ったように見えるが、その複雑な原因と経過を学ぶ。 最後に経済活動が引き起こした地球温暖化対策について学ぶ。								レポート
	第6回 規制緩和と民営化 ミクロ経済学にもとづく規制緩和の理論や現状を学ぶ。 具体的には、世の中には経済活動を法で規制した産業がいくつかあるが、それらについて何がどうなっているのか調べていく。鉄道や空港の民間資本の導入、郵政民営化や電力自由化など、具体例を学ぶ。								レポート
	第7回 地域と経済 地方消滅が予言される中、各地で行われる努力を紹介する。 具体的には、日本の多くの商店街にはなぜシャッターが下りてしまったのだろうか。そしてどうすればよいのだろうか。 地域経済の歴史をたどり地域再生への動きを探ってみる。								レポート
	第8回 社会と経済 多様な人間観が多様な経済観を生み出し、政策の選択の違いにつながることを学ぶ。 具体的には、経済学を効率の視点のほかに、もう1つの公正の視点を付け加えて考える。 更に2つの視点に対応する小さな政府と大きな政府の理論を紹介する。 最後にこの2つの視点から現実を見た場合、日本の政党はどのような分布になるのかを考える。 そして国民性の相違との関連を比べる。								レポート
	成績評価方法	毎回の課題(小レポート)と単位修得試験(大レポート) 【A評価】 経済現象の全体的な因果関係が理解できる。 幅広く経済問題を理解しており、今後の経済変化を見通した選択肢を想定できること。 【B評価】 個別の経済現象の因果関係が理解できる。 対立する見解を調整し、適切な選択肢を想定できること。 【C評価】 経済用語の意味の専門的な用法が理解できる。 対立する見解のそれぞれの主張を述べることができること。 【D評価】 経済用語の意味が一般的に理解できる。 論点の意味を自分の言葉に置き換えて説明ができること。							
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト ・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	経済原論			担当者	金森 啓介
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	指定のあるデジタル教材が全て「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	社会福祉主事【任用資格】								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎・応用理論を、現実の経済現象・問題と関連付けて説明することができるようになる。 ・ミクロ経済学では、微分を使った最適消費・生産の問題を理解し、1次関数、2次関数で表した需要・供給曲線から市場均衡の状態を計算できるようになる。 ・ミクロ経済学の数学的理解をもとに、市場均衡の安定条件や社会的余剰、不完全競争市場の均衡モデル分析、ゲーム理論、さまざまな市場の失敗(自然独占、外部性、公共財、情報の非対称性)、国際貿易の交易条件、そして異時点間のミクロ消費選択理論とマクロ消費理論のつながりを理論的に、数学的に説明できるようになる。 ・マクロ経済学に関しては、生産物市場におけるGDP(国内総生産)の45度線分析、産業連関分析、マクロ投資理論、金融理論、IS-LMモデル分析による財政・金融政策の評価、国際マクロ経済学、AD-ASモデル分析、経済成長と経済循環の理論、経済政策論争がどのようなものか理論的に、数学的に説明することができる。 ・以上の理論を、分析対象に応じて適切に組み合わせることで、経済全体を体系的かつ有機的に捉えることができるようになる。 ・そして、それらを現実の経済問題と関連付け、理論的にとらえ直すことによって、その構造や原因を自分の力で追及し、解決策を提示することができるようになる。 ・学習の結果として、公務員試験(地方上級レベル)で頻出される経済学分野の問題を80%以上正答できるようになる。 								
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。								
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を見直し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・新聞やテレビ報道、経済関連の雑誌に目を通し、現実には、日本経済や国際経済でどのようなことが起きているかに関心を持つように心がけること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 消費者行動の理論と数学的分析								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・「効用最大化」を前提とした消費者の消費行動をどのように理論的に、数学的に説明することができるか学ぶ。 ・そして、それらの経済理論をもとに、所得や財の価格の変化によって最適な消費がどのように変化するか学ぶ。 								
	第2回 生産者行動の理論と数学的分析								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・「利潤最大化」を前提とした生産者の生産行動をどのように理論的に、数学的に説明することができるか学ぶ。 ・微分を用いて生産者の利潤最大化行動を学ぶ。 								
	第3回 市場均衡の安定条件と数学的分析								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の均衡条件を数学的に学ぶ。 ・部分均衡分析と一般均衡分析の応用問題を数学的に学ぶ。 ・パレート最適の状態を数学的に学ぶ。 								
	第4回 不完全競争市場の理論と数学的分析								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・微分を用いて独占モデル、寡占モデルの市場戦略の理論を学ぶ。 								
	第5回 複占・寡占市場とゲーム理論								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・複占・寡占市場の価格戦略モデルを学ぶ。 ・ゲーム理論の基礎と応用を学ぶ。 								
	第6回 市場の失敗と余剰分析								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・費用逓減産業における自然独占、外部性、公共財による市場の失敗を余剰分析を通して学ぶ。 								
	第7回 国際貿易の理論と数学的分析								確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際貿易の交易条件と貿易パターンの決まり方を学ぶ。 ・さまざまな貿易理論を学ぶ。 ・貿易政策による総余剰の変化を学ぶ。 								
	第8回 ミクロとマクロの消費者理論								確認テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ消費理論とマクロ消費理論を数学を用いて学ぶ。 									
第9回 45度線分析、産業連関分析から見るGDP								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・GDPを45度線分析、産業連関分析を用いてマクロ経済を分析する方法を学ぶ。 									
第10回 マクロ投資理論								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学における投資の決定理論を数学的に学ぶ。 ・金融理論を用いて資産価格がどう決まるか学ぶ。 									
第11回 IS-LMモデル分析の基礎								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・IS-LMモデル分析を用いて、財政・金融政策の有効・無効になる条件を学ぶ。 									
第12回 IS-LMモデル分析の応用								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・IS-LMモデルを応用問題を学ぶ。 ・不胎化政策の欠点と利点を学ぶ。 ・クラウディングアウトを分析する。 ・さまざまな金融政策の手段を学ぶ。 									
第13回 国際マクロ経済学								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな為替レート決定理論を学ぶ。 ・マンデルブレイフモデルを用いて開放経済における財政・金融政策の効果を学ぶ。 									
第14回 労働市場と物価の理論								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・ケインズ派と古典派の経済理論の違いを学ぶ。 ・物価と雇用水準の関係をAD-ASモデル分析を通して学ぶ。 ・インフレ需要・供給曲線分析を通じて各学派の経済政策の認識の違いを学ぶ。 									
第15回 経済成長の理論								確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> ・3つの経済成長率を学ぶ。 ・経済成長と景気循環の理論を学習する。 									

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において90以上の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的、応用的な問題に正しく解答できることに加え、発展的な応用問題にも十分対応できるレベルである。</p> <p>【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的、応用的な問題に正しく解答できることに加え、基本的な応用問題であれば、対応できるレベルである。</p> <p>【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは各授業回で扱った基礎的な問題であれば解答できるレベルである。</p> <p>【D評価】 単位修得試験を受験し、50以上の点数を取得している。これは各授業回で扱った問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。</p>
教科書	<p>著書 『大卒程度 公務員試験準拠テキスト - ミクロ経済学 - 』 『大卒程度 公務員試験準拠テキスト - マクロ経済学 - 』</p> <p>編著 東京アカデミー</p>
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>本授業は別科目「経済学基礎」の上級編に相当するため、「経済学基礎」を受講した後に本科目を受講することを強く推奨する。本科目においても、各経済理論の解説は随時行うが、基本、「経済学基礎」で学ぶ内容を事前に知っていることを前提に授業を進める。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	計量言語学			担当者	中俣 尚己
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コーパスを用いて言語を分析する理念や方法、使用上の留意点について説明することができる。 ・日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析することができる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 Excelに関して学習したことがあれば、その時の資料などを用意しておく、理解の助けになることがあります。また、日ごろから日本語で「どちらが正しいのだろう」「どちらをよく使うのだろう」という疑問を持つようにしておいてください。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 コンピュータは基本的に手を動かすことを通して習熟するものです。授業で扱った内容以外についても、検索作業を行うようにして下さい。結果、作業スピードが速まり、今後の人生の様々な作業が短縮化されます。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 「コーパス」って何？				確認テスト				
	計量言語学の基本である、「コーパス」について説明します。								
	第2回 中納言で検索してみよう！ 1				確認テスト				
	「中納言」を実際に使い、1つの語の検索を行います。								
	第3回 中納言で検索してみよう！ 2				確認テスト				
	複数の語の検索の仕方を学び、コロケーションを検索する方法を学びます。								
	第4回 コロケーション・クイズを作ってみよう！				ディスカッション				
	これまでに学んだ知識を使って、自分でクイズ問題を作ってみます。								
	第5回 得られたデータを分析しよう				確認テスト				
	検索したデータを使って、さらにコロケーションについて深く調べます。								
第6回 語の「かたさ」を分析しよう				確認テスト					
ある表現がどのジャンルに偏っているのかを調べます。									
第7回 いろいろなコーパスとそれを利用した研究				確認テスト					
B C C W J以外のコーパスの活用法を学ぶとともに、一括検索を利用した研究方法についても紹介します。									
第8回 コーパスを使って日本語を分析し、レポートを書こう！				レポート					
自分で研究課題を立ててコーパスを使った研究をしてみよう。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（確認テスト・ディスカッション・レポート）、単位修得試験（Web試験）</p> <p>【A評価】 ・確認テスト・単位修得試験：全ての範囲において、おおむね正しく正答しておりコーパスの概念、検索法、使用上の留意点についてきちんと説明することができる。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析し、そのプロセスが正確に記述されている。さらに、独創的で深い考察を行うことができる。</p> <p>【B評価】 ・確認テスト・単位修得試験：全ての範囲において、ある程度の間違いはあるものの正しく正答しており、コーパスの概念、検索法、使用上の留意点について十分説明することができる。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析し、そのプロセスが正確に記述されている。一定の考察が行われている。</p> <p>【C評価】 ・確認テスト・単位修得試験：ほぼ全ての範囲において、ある程度の間違いはあるものの正コーパスの概念、検索法、使用上の留意点について一定の理解をしている。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、客観的な方法で観察・分析し、そのプロセスが正確に記述されている。不十分ではあるが考察が行われている。</p> <p>【D評価】 ・確認テスト・単位修得試験：半数以上の範囲において、ある程度の間違いはあるものの正コーパスの概念、検索法、使用上の留意点について一定の理解をしている。 ・ディスカッション・レポート：日本語の問題について、コーパスを適切に使い、明示的にプロセスを記述することはできていないものの、妥当と認定される方法で観察・分析が行われている。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> 『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』李在鎭・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版、2,400円(税抜)、2018年 『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』森篤嗣(編)、朝倉書店、2,400円(税抜)、2018年 『現場に役立つ日本語教育研究6 語から始まる教材作り』岩田一成(編)、くろしお出版、2,400円(税抜)、2018年 								
必須ソフト・ツール	ウェブアプリ「少納言」「中納言」 Microsoft Office Excel、サクラエディタ								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 Excelの関数がなにかひとつでも使えること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語学に関する知識を有していること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン		授業科目名	健康・医療心理学		担当者	北島 順子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学系の基礎科目を履修済であること。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。 						
学習の進め方	本科目では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」を熟読し、学習しておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・授業内で紹介したWebサイトを閲覧し、確認すること。 ・「健康・医療心理学」に関するテーマへの興味・関心を深め、書籍・新聞・雑誌等の関連書籍・文献を収集し、さらに理解を深めること。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 健康の概念			ディスカッション			
	健康の定義/QOL (Quality of Life ; 生活の質) / ポジティブ心理学からみた健康: ウェルネスからポジティブヘルスへ						
	第2回 医療・保健の健康心理学			レポート			
	健康心理学とは / 健康心理学台頭の背景 / 健康政策の変遷/医療・保健のための健康心理学						
	第3回 健康長寿の秘訣			ディスカッション			
	平均寿命 / 健康寿命 / 健康長寿の秘訣						
	第4回 パーソナリティと健康・医療心理			確認テスト			
	長寿と性格 / 疾病とパーソナリティ / 健康とパーソナリティ						
	第5回 ストレスと健康・医療心理			確認テスト			
	ストレスに関する調査の概況と健康政策 / ストレスの概念 / ストレスとパーソナリティ						
	第6回 生活習慣と健康・医療心理			ディスカッション			
	健康習慣 / 生活習慣病 / がん / 糖尿病						
	第7回 食習慣と健康・医療心理			ディスカッション			
	肥満と健康 / メタボリックシンドロームとは / 健康とダイエット						
第8回 食行動と健康・医療心理			ディスカッション				
ダイエットとストレスマネジメント / 食行動の心理学 / 痩せすぎ・痩せ志向の健康リスク / 痩せ志向と文化							
第9回 運動習慣と健康・医療心理			ディスカッション				
運動習慣 / 身体活動・運動の効果 / 健康づくりのための身体活動・運動の実践							
第10回 喫煙行動と健康・医療心理			ディスカッション				
喫煙行動と健康・医療心理 / 喫煙に関する健康政策・法律							
第11回 嗜癮行動と健康・医療心理			ディスカッション				
嗜癮の定義 / 禁煙の秘訣 / 飲酒行動と健康・医療心理 / 薬物依存と健康・医療							
第12回 睡眠習慣と健康・医療心理			ディスカッション				
睡眠習慣と健康 / 睡眠障害 / 健康づくりのための睡眠指針							
第13回 家庭・学校における健康教育			ディスカッション				
家庭における健康教育 / 子どもの健康と生活習慣 / ストレスマネジメント教育							
第14回 職場・地域における健康教育・対策			ディスカッション				
職場におけるメンタルヘルス対策 / 地域における健康教育・保健対策							
第15回 公認心理士必須重要キーワード			ディスカッション、確認テスト				
ストレスと心身の疾病との関係 / 医療現場における心理社会的課題と必要な支援 / 保健活動における心理的支援 / 災害時等の心理的支援 / 保健医療分野に関する法律・制度 / 産業・労働分野に関する法律・制度 / 心の健康教育に関する事項等							

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験（Web試験）、各回課題（レポート、ディスカッション、確認テスト）</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が顕著に優れたレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求されている的確な答えを選択できていること。 下記項目について、顕著に優れたレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が優れたレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 下記項目について、優れたレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が普通程度のレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 下記項目について、普通程度のレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べていること。 レポートにおいて、内容の質、レポートの書き方のルール、論理的思考力が単位修得に相当する最低限のレベルであること。 また確認テスト、単位修得試験では、要求される選択可能な答えを選ぶことができていること。 下記項目について、単位修得に相当する最低限のレベルである。 ・「健康・医療心理学」の基礎的事項に関する知識を理解し、課題を通して述べることができる。 ・学習の成果を、実生活において活用することができる。 ・学習を総括して、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育について考察し、自分の考えを述べることができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	随時紹介
必須ソフト ・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 心理学系の基礎科目を履修済であること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	言語とコミュニケーション論		担当者	石井 誠
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	この科目を学習することにより、学習者に日本語を教える意義、どのように教えたらいいのか明確にすることができるようになる。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から言語および日本語に関心を持ち、情報収集に努めること。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した専門用語を正確に理解し、整理しておくこと。</p>							
学習内容	概要						課題	
	第1回 言語の役割						確認テスト	
	言葉にはどんな役割があるのだろうか。							
	第2回 言語の起源						確認テスト	
	言語の起源について考察する。							
	第3回 コミュニケーションの手段						ディスカッション	
	空間、時間を越えたコミュニケーションについて考えてみよう。							
	第4回 言語の種類						確認テスト	
	世界にはなぜこれほど多くの言語が存在するのか。また、言語と言語の関係はどうなっているのか。							
	第5回 多言語国家の実情						レポート	
スイスやベルギーなど国内に複数の公用語を持っている国の実情はどうなっているか考察する。								
第6回 文化とコミュニケーション						確認テスト		
言語は文化と密接に結びついている。日本と多民族国家とのコミュニケーション方法の違いについて考察する。								
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題(ディスカッション、レポート)、単位修得試験</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、適切な内容の自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。単位修得試験において、満点に近い成績をおさめている。 下記のB、C、D評価の内容に加え、異文化コミュニケーションの事例について説明することができる。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、自身の意見を積極的に述べ、他者の意見に適切なコメントをすることができる。レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。単位修得試験において、優秀な成績をおさめている。 下記のC、D評価の内容に加え、多民族国家のコミュニケーション状況について、現在の日本の言語状況と比較しながら説明することができる。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、自身の意見を述べることができる。レポート課題において、所定の条件を満たしている。単位修得試験において、標準以上の成績をおさめている。 音声言語、文字を使った言語の違いと特徴について説明することができる。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。レポート課題において、所定の条件を満たしている。単位修得試験において、最低限の成績をおさめている。 言語とは何のためにあり、言語を知っているとどんなことができるかきちんと説明することができる。逆に言語を知らないとどんな不便があるか、具体例を挙げるることができる。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 意味論、語用論の入門書を読んでいることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>							

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	憲法		担当者	山谷 真
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	憲法の基本原理などを理解した上で基礎的な知識を習得する。今後の学習を自主的にすすめるための基礎学力を身に付ける。						
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 特になし 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回受講後、すぐにその回に取り扱った内容につき市販されている過去問集で演習問題を実施し、これを繰り返し、一通り受講した後にも、その過去問集を繰り返し演習するとよい。						
学習内容	概要			課題			
	第1回 憲法総論・人権総論			確認テスト			
	憲法の特質や、外国人の人権享有主体性や法人の人権享有主体性、「公共の福祉」の意義につき特に解説する。						
	第2回 人権総論・幸福追求権			確認テスト			
	公務員・在監者の人権、憲法の私人間効力等の諸問題、憲法13条につき解説する。						
	第3回 法の下での平等			確認テスト			
	憲法14条の文言解釈についての通説を解説する。また憲法14条をめぐる諸判例につき解説する。						
	第4回 参政権・精神的自由権			確認テスト			
	参政権、思想・良心の自由、信教の自由につき解説する。						
	第5回 精神的自由権			確認テスト			
	学問の自由と表現の自由の意義につき解説する。						
	第6回 精神的自由権			確認テスト			
	表現の自由に関する諸問題につき解説する。						
	第7回 経済的自由権			確認テスト			
	職業選択の自由や財産権につき解説する。						
	第8回 人身の自由・受益権			確認テスト			
法定手続きの保障、憲法が保障する被疑者・被告人の権利、受益権につき解説する。							
第9回 社会権			確認テスト				
生存権、教育を受ける権利、勤労の権利や労働三権につき解説する。							
第10回 国会			確認テスト				
国会の地位、二院制のしくみにつき解説する。							
第11回 国会			確認テスト				
国会の会期制、国会・議院の権能、衆議院の優越につき解説する。							
第12回 内閣			確認テスト				
議院内閣制、内閣の組織、内閣総理大臣と内閣の権能につき解説する。							
第13回 裁判所			確認テスト				
司法権の意味、裁判官の任命につき解説する。							
第14回 裁判所・財政			確認テスト				
司法権の独立、違憲審査権、租税法律主義や予算につき解説する。							
第15回 地方自治・憲法保障			確認テスト				
地方自治や憲法保障につき解説する。							
成績評価方法	評価材料：単位修得試験 【A評価】単位修得試験において90点以上の点数を獲得している。これは、基礎的な知識（公務員試験に出題される条文や判例に関する知識）の習得だけでなく、思考力・判断力を駆使して発展的な応用問題にも対応できるレベルである。 【B評価】単位修得試験において75点以上90点未満の点数を獲得している。これは、基礎的な知識を習得しているレベルである。 【C評価】単位修得試験において60点以上75点未満の点数を獲得している。これは、ある程度基礎的な知識を習得しているレベルである。 【D評価】単位修得試験を受験し、50点以上の点数を獲得している。これは、基礎的な知識を習得しているといえないが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。						
教科書	著書 『大卒程度 公務員試験準拠テキスト - 憲法 - 』 編著 東京アカデミー						
参考書 (任意購入)	『憲法第七版』、芦部信喜（高橋和之補訂）、岩波書店、¥3,200（税抜）、2019年						

索引へ

必須ソフト ツール	日本国憲法の全条文が記載されているもの（『公務員試験六法2019』三省堂、『ポケット六法』有斐閣など）
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 憲法について興味を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	考古学の世界			担当者	川口 宏海
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学とはどのような学問かを説明することができる。 ・考古学の研究方法を理解し、概略を説明することができる。 ・考古学の研究成果を理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、説明することができる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <p>el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。 「考古学の世界」のシラバスをよく読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 新聞記事で、考古学に関連するものを探し、読んでおくこと。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 考古学とは何か - 1				確認テスト				
	考古学とはどんな学問なのかについて学ぶ。 考古学の誕生について学ぶ。								
	第2回 考古学とは何か - 2				確認テスト、ディスカッション				
	日本の考古学はどのように歩んできたのかについて学ぶ。								
	第3回 考古学とは何か - 3				確認テスト				
	考古学は何を研究するのかについて学ぶ。								
	第4回 考古学とは何か - 4				確認テスト				
	考古学は何を研究するのかを生産や祭祀に関わる遺物・遺構・遺跡から学ぶ。								
	第5回 発掘調査1 事前調査				確認テスト				
	考古学の基礎知識にはどのようなものが必要かを発掘調査の事前調査と探査方法から学ぶ。								
	第6回 発掘調査2 準備				確認テスト				
	考古学の基礎知識にはどのようなものが必要かを発掘調査の準備と道具から学ぶ。								
	第7回 発掘調査3 実施				プレゼンテーション				
	発掘調査の実施方法と記録方法について学ぶ。								
	第8回 発掘資料の整理1 出土遺物の処理				確認テスト				
	発掘資料の整理、結果発表、保存処理はどのように行うかについて学ぶ。 遺物の実測図を描くにはどのような知識・技術が必要かについて学ぶ。								
第9回 発掘資料の整理2 遺物の写真撮影と報告書作成、遺構・遺物の保存と展示				確認テスト					
遺物の写真撮影と報告書作成および遺構・遺物の保存と展示には、どのような知識・技術が必要かについて学ぶ。									
第10回 層位学と型式学および考古学と理化学的研究				確認テスト、レポート					
考古学の基本的研究方法である層位学的研究と型式学的研究とはどのようなものかについて学ぶ。 考古学の年代測定法と遺物の産地同定などに理化学的研究法が用いられていることについて学ぶ。									
第11回 旧石器時代の研究成果				確認テスト、ディスカッション					
人類の歴史と日本の旧石器時代の研究成果について学ぶ。									
第12回 縄文時代の研究成果				確認テスト					
日本の縄文時代の研究成果について学ぶ。									
第13回 弥生時代の研究成果				確認テスト					
日本の弥生時代の研究成果について学ぶ。									
第14回 古墳時代の研究成果				確認テスト					
日本の古墳時代の研究成果について学ぶ。									
第15回 歴史時代の研究成果				確認テスト					
日本の歴史時代の研究成果について学ぶ。									

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（確認テスト、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 毎回の確認テストが、ほぼ満点であること。ディスカッションも、すべてに参加し、的確な受け答えができること。プレゼンテーションは、適切でわかりやすい資料を作成でき、積極的に多くの人とコミュニケーションができていないこと。レポートは、課題内容に沿って的確な内容を論理的に矛盾なく書き、文章の体裁もきちんとしていること。単位修得試験では90点以上の正解であること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 (1)考古学とはどのような学問かを、詳細に説明することができること。 (2)考古学の研究方法を漏れなく理解し、概略を説明することができること。 (3)考古学の研究成果をきちんと理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、ほぼ説明することができること。</p> <p>【B評価】 毎回の確認テストが、平均して8割方正解していること。ディスカッションも、すべてに参加し、ある程度の意見を述べていること。プレゼンテーションは、わかりやすい資料を作成でき、積極的に他者とコミュニケーションができていないこと。レポートは、課題内容に沿って論理的に矛盾なく書き、文章の体裁も8割方きちんとしていること。単位修得試験では80点以上の正解であること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 (1)考古学とはどのような学問かを、8割方説明することができること。 (2)考古学の研究方法をおおむね理解し、概略を説明することができること。 (3)考古学の研究成果を8割方理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、かなり説明することができること。</p> <p>【C評価】 毎回の確認テストが、平均して7割方正解していること。ディスカッションも、すべてに参加し、少しでも意見を述べていること。プレゼンテーションは、資料を作成でき、他者と通常のコミュニケーションができていないこと。レポートは、課題内容に沿って論理的に書き、文章の体裁もある程度きちんとしていること。単位修得試験では70点以上の正解であること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 (1)考古学とはどのような学問かを、7割方説明することができること。 (2)考古学の研究方法を7割方理解し、概略をある程度説明することができること。 (3)考古学の研究成果を7割方理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、ある程度説明することができること。</p> <p>【D評価】 毎回の確認テストが、平均して6割方正解していること。ディスカッションも、すべてに参加し、1つでも意見を述べていること。プレゼンテーションは、資料を作成でき、基礎的なコミュニケーションができていないこと。レポートは、課題内容に沿って書き、文章の体裁も最低限度の形ができていないこと。単位修得試験では60点以上の正解であること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 (1)考古学とはどのような学問かを、6割方説明することができること。 (2)考古学の研究方法を6割方理解し、概略を一定程度説明することができること。 (3)考古学の研究成果を6割方理解し、新聞記事を読んで内容を理解し、少し説明することができること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office WordまたはMicrosoft Office PowerPoint
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 レポートの書き方が理解できていること</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	行動の科学			担当者	櫻本 和也
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士								
特記事項									
学習目標	心理学の興りから、現代心理学に至るまでの多彩な領域への理解を深め、人間と心理学との関係性を説明できるようになる。								
学習の進め方	1.本授業では、オンデマンド教材を主教材とする。 2.オンデマンド教材と教科書を用いることで、学習効果が促進される。 3.各回の学習の最後にある課題に取り組む。								
授業時間外学習	・教科書に目を通しておく。(興味や関心を引く領域だけでも)心理学概論をはじめ心理学関連科目を受講している際は、他の授業で取り扱う教科書等にも目を通しておく尚良い。 ・本授業は心理学及び隣接領域を広く網羅している。本学習を通して、自身の興味や関心を引いた領域は何であったのか、その気づきを基に学習を進め、「心理学」という学問に対する理解の深化を促して欲しい。								
学習内容	概要								課題
	第1回 行動の科学とは								確認テスト
	「行動の科学」とは、「心理学」とは何か、という疑問に対して心理学の歩みを通して理解を深める。								
	第2回 行動の生物学的基礎								確認テスト
	エソロジー(比較行動学)の領域から、ヒューマン・エソロジーの知見を中心に、行動の生物学的理解を深める。								
	第3回 感覚と知覚								確認テスト
	心理学における知覚領域の諸理論をとりあげ、感覚と知覚についての理解を深める。								
	第4回 学習と認知								確認テスト
	「レスポナント条件付け」と「オペラント条件付け」を中心に、刺激と反応との関連で、学習についての理解を深める。								
	第5回 記憶と情報処理								確認テスト
	記銘、貯蔵、検索などの過程を含む「記憶」について、情報処理モデルに基づいて理解を深める。								
	第6回 欲求と動機づけ								確認テスト
	人間や動物に表れる行動について、私達の心の中に存在している欲求や、動機付けの観点から理解を深める。								
	第7回 胎児期から児童期の発達								確認テスト
	生まれて間もない赤ん坊が、新しい環境に対して自立した機能を営むに至る適応の過程について理解を深める。								
	第8回 青年期から以降の発達								確認テスト、ディスカッション
	"疾風怒濤"の時代とされる青年期を中心に、青年期以降の人生を射程に入れて発達の理解を深める。								
	第9回 パーソナリティとは								確認テスト
	パーソナリティ理論を体系的に理解することで、ありのままの人間についての理解を深める。								
	第10回 パーソナリティの形成と測定								確認テスト
パーソナリティ形成における論争を踏まえ、質問紙法や投影法などの測定方法についての理解を深める。									
第11回 臨床心理と適応への援助								確認テスト、ディスカッション	
価値観が多様化・流動化する現代社会において、きわめて現代的意義を持つ臨床心理学への理解を深める。									
第12回 社会行動 - 対人行動 -								確認テスト	
多くの人と出会う私達は、どういった要因でその人を判断しているのか、対人認知の観点から理解を深める。									
第13回 社会行動 - 集団過程 -								確認テスト	
集団の中で営まれる事の多い人の生活において、他者が個人の行動に与える影響についての理解を深める。									
第14回 社会行動 - 社会的現象 -								確認テスト	
態度、群衆行動、流言などの社会的な現象について、それぞれの特性やメカニズムから理解を深める。									
第15回 まとめ									
本授業のまとめを通して、これまでの学びを振り返る。									
成績評価方法	第1回から第14回にわたっての確認テスト、ならびにディスカッションへ臨む姿勢を踏まえた平常点(40%)、単位修得試験(60%)、それぞれの結果で総合的に評価をする。								
教科書	著書 『人間理解の科学 - 心理学への招待 - 』 著者 鈴木清 編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月10日 2版 ISBN 9784888487153								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考									

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	心と身体のセラピー演習			担当者	野波 侑里
レベルナンバ	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	1. 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について現代の医療における位置づけ、医療人類学などの観点から説明できるようになる。 2. 心と身体のセラピーの実習(ヨガ・瞑想とマインドフルネス)を通して、自分の心と身体に向き合い、日常生活の中でセラピーをセルフケアに役立てることができるようになる。 3. 心と身体のセラピーを含む様々な補完代替医療を有効に利用する上で必要な考え方を学び、自らの考えを持ってセラピーを選択することができるようになる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ヨガ、瞑想、マインドフルネスなどの実習を行います。実践した内容をディスカッションやレポートで報告してもらいますので、一冊のノートを用意しておくとう便利です。 【学習後に復習として実施すべきこと】 本授業では、ヨガ、瞑想、マインドフルネスなどの実習を行います。授業後には、各自が継続して行う実践方法を決め、一週間程度、実践してもらいます。その結果は、単位修得試験の内容と関連させて考察の対象となります。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 心と身体のセラピー(補完代替医療)				確認テスト、ディスカッション				
	補完代替医療の特徴と現状と現代西洋医学との違いについて学ぶ、補完代替医療における心と身体のセラピーの位置づけについて学ぶ。								
	第2回 医療人類学的考察				確認テスト				
	補完代替医療、統合医療、ホリスティック医学を医療人類学の観点から学ぶ。								
	第3回 「ヨガ」を学ぶ				レポート				
	ヨガの基本的概念を学び、理解した上で、ヨガ実習を行う。								
	第4回 「瞑想」を学ぶ				ディスカッション				
	瞑想の基本的な概念と多様な瞑想法について学び、理解した上で、瞑想実習を行う。								
	第5回 「マインドフルネス」を学ぶ				レポート				
「マインドフルネス」の概要を学ぶ、医療、企業、大学におけるマインドフルネスの利用について学ぶ、マインドフルネス実習を行い、マインドフルネスの感覚を体感する。									
第6回 生活の中でのマインドフルネス				ディスカッション					
生活の中でのマインドフルネスを体験し、今この瞬間の身体感覚、心(マインド)の動き、感情に意識を向ける。									
第7回 様々な補完代替医療とセルフケア				確認テスト					
セルフケアについて学ぶ、様々な補完代替医療の特徴と利用法を学ぶ、補完代替医療をセルフケアに役立てる方法を学ぶ。									
第8回 補完代替医療の利用(心と身体の健康に向けて)				確認テスト					
補完代替医療の利用の現状と選択について具体例をもとに学ぶ、心と身体の健康に向けて、補完代替医療の利用方法について学ぶ。									
成績評価方法	評価材料：レポート課題、ディスカッションの内容(質問やコメント含む)、単位修得試験 【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができる。 レポート課題において、論理的な説明と共に、実習に積極的に取り組んだ内容について、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、独自の論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について多角的に理解し、実習内容を論理的に分析できる。 健康管理、セルフケアについて論理的に分析し、自らの考えを持って総合的にセラピーを選択することができる。 また、他者のセラピーの選択についても、相手の意見を尊重した上で意見を述べることができる。 【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 レポート課題において、論理的な説明と共に、自らの意見を述べることができる。 単位修得試験では、論理的な説明と共に自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴について理解し、実習内容を分析できる。 健康管理、セルフケアについて論理的に分析し、自らの考えを持って総合的にセラピーを選択することができる。 【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができること。 レポート課題において、所定の条件を充足している。 単位修得試験では、所定の条件を充足し、自らの意見を述べることができる。 心と身体のセラピーを含む様々な補完代替医療を有効に利用する上で必要な考え方を理解し、自らの考えを持ってセラピーを選択することができる。 【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を充足している。 レポート課題において、所定の条件を充足している。 単位修得試験では、所定の条件を充足している。 心と身体のセラピーを含む補完代替医療の特徴を理解し、日常生活の中でセラピーを役立てることができる。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『補完・代替医療 統合医療 改訂2版』、今西二郎、金芳堂、¥2,000(税抜)、2015年 『統合医療の考え方がし方』、小池弘人、中央アート出版社、¥1,400(税抜)、2011年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと仕事			担当者	細見 正樹
レベルナンバ	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てと仕事、女性労働に関する諸問題について、具体的な場面を想定しながら説明することができる。 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について推論することができる。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題の解決策を提案することができる。 								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・レポートを取りながら受講することを推奨。 ・受講後は学んだ内容と、講義中に自身でメモをした内容を読み返して理解してください。また、興味を持った項目については、参考書などでさらに勉強を深めてください。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 女性とキャリア				ディスカッション				
	まず今回の講義の全体像を説明する。その後、人生のステージごとのキャリア論（就職、出産、子育てと女性のキャリアなど）について学ぶ。そのうえで、キャリアデザインに関する理論を学ぶ。								
	第2回 女性雇用と法制度				確認テスト				
	まず、女性雇用のこれまでの流れを説明する。次に、男女雇用機会均等法について説明する。そのうえで、ポジティブ・アクション、セクシャルハラスメントと相談機関についても学ぶ。								
	第3回 子育てと雇用環境				確認テスト				
	まず、男女間格差の実態やM字カーブについて説明する。次に、統計的差別や雇用のミスマッチについて説明する。そのうえで、子育てに対する意識について学ぶ。第1～3回の講義を振り返る。								
	第4回 ワーク・ライフ・バランス				ディスカッション				
	まず、育児・介護などファミリー・フレンドリーも含めて、ワーク・ライフ・バランスを学ぶ。このワーク・ライフ・バランスについての企業の取り組みについても説明する。最後に、ワーク・ライフ・バランスを促進するための職場の条件について学ぶ。								
	第5回 柔軟な働き方				確認テスト				
まず、短時間勤務制度と職場での課題について学ぶ。次に、在宅労働の分類と、メリット・デメリットについて学ぶ。さらに、正規雇用と非正規雇用について学ぶとともに、非正規雇用の基幹労働化、限定正社員など最近の流れについて学ぶ。									
第6回 能力開発				確認テスト					
まず、日本の賃金構造（能力給など）について説明する。次に、企業内の職業訓練や政府の公共職業訓練についても説明する。さらに、学歴・資格と仕事の関係も説明する。第4～6回の講義を振り返る。									
第7回 起業とNPO				確認テスト					
まず、起業家の男女別の特徴や支援策について起業にあたっての課題について説明する。次に、ソーシャル・ビジネスについて述べる。さらに、NPOの制度概要と課題についても述べる。									
第8回 行政の関連施策				確認テスト					
まず、雇用や子育て支援に関する、国、地方自治体の政策について説明する。そのうえで、子育て支援、ワーク・ライフ・バランス施策、女性活用支援策について説明を行う。本講義の全体を振り返る。									
成績評価方法	<p>確認テスト、ディスカッション、単位修得試験（レポート試験）</p> <p>【A評価】 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、論理性、独創性、明快さの3つのいずれも有する推論をすることができる。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、論理性、独創性、明快さの3つのいずれも有する解決策を提案することができる。 ・子育てと仕事に関するかなり多くの知識を有している。</p> <p>【B評価】 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、論理性、独創性、明快さの3つのうち2つ有する推論をすることができる。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、論理性、独創性、明快さの3つのうち2つを有する解決策を提案することができる。 ・子育てと仕事に関する多くの知識を有している。</p> <p>【C評価】 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、論理性、独創性、明快さの3つのうちいずれか1つを有する推論をすることができる。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、論理性、独創性、明快さの3つのうちいずれか1つを有する解決策を提案することができる。 ・子育てと仕事に関するある程度の知識を有している。</p> <p>【D評価】 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について推論をしているが、論理性、独創性、明快さのいずれも有していない。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について解決策を提示しているが、論理性、独創性、明快さのいずれも有していない。 ・子育てと仕事に関する知識をあまり有していない。</p>								
教科書	なし								
参考書（任意購入）	『新版 女性のキャリアデザイン：働き方・生き方の選択』、青島祐子、学文社、1,800円（税抜）、2007年 『キャリアのみかた 図でみる110のポイント 改訂版』、阿部正浩・松繁寿和 編、有斐閣、1,900円（税抜）、2014年 『日本のジェンダーを考える』、川口章、有斐閣、1,900円（税抜）、2013年 『ワーク・ライフ・バランスを実現する職場一見どころ』、細見正樹、大阪大学出版会、4,800円（税抜）、2017年								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word								
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 各自が実例をテーマとした事例研究を行うため、会社などの組織で働いた経験や子育て経験を持っているか、身近な親戚や友人から実体験を聞くことができれば、イメージが湧きやすい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと食育			担当者	山下 陽子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等における食育の考え方の拠り所とされる食育基本法の概要を理解し、そこで定義されている6つの食育目標を言えるようになる。 ・6つの食育目標の背景や、目標として掲げられている意味を自分の言葉で説明することができるようになる。 ・食育基本法の考え方を応用して、実生活で自分自身の健康管理はもとより、家族や身の回りの人に対しての、適切な食生活を実践(献立、食材調達、調理)できるようになる。 ・子供の心身の健全な育成のための食について理解し、生活の中で食育が実践できるようになり、実際に子供が6つの食育目標のいくつかを達成できるようになる。 ・食育に関するイベントや教室などに参加する際に、スタッフやボランティアとして運営側の立場で参画できるようになる。 <p>【参考】6つの食育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.豊かな人間性を育む 2.生活能力を養う 3.食文化を学び継承する 4.健康に生きる知恵を学ぶ 5.環境の大切さを学ぶ 6.食料自給力を高める 								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講は、各自で定期的に学習するスタイルを身につけること。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 ・口頭から調理に携わること。 ・食育に関連するシンポジウムや講演会等にも積極的に参加すること。 ・巷に流れる食や健康に関する情報について、広くアンテナをはるとともに、正しく理解できているかどうか、良く考えながら情報収集すること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 生命の健康維持・増進と食との関わりについて				確認テスト				
	人の生命の誕生、成長、健康維持増進に欠かす事の出来ない食についての総論を解説する。								
	第2回 なぜ今食育なのか				ディスカッション				
	高度多様化した現代の食生活で、改めて食育の重要性が見直されている理由について解説する。現代の食事情が招いたさまざまな疾病や弊害の事例や社会問題について、特に子供の成長に重点を置いて解説する。								
	第3回 風土に根ざした伝統的食文化について				レポート				
	日本の伝統的で風土に根ざした食べ方や習わし、食生活、食文化について解説する。文化・歴史的背景からも、日本の食(伝統的和食、地域食、行事食)について解説する。伝統的な食事や習わしが、子供の健康な心と身体の成長にもたらす影響について解説する。								
	第4回 風土に根ざした現代における健全な食生活について				プレゼンテーション				
	現代社会に対応させた、風土に根ざした日本の食(和食)と健康について解説する。								
	第5回 現代の高度情報社会の正しい食情報理解と食生活について				ディスカッション				
経済・情報化社会の急速な進歩で、あらゆる食情報が氾濫する中で、正しく食情報を選択するための情報と、メディアやコマーシャルの利点と欠点について解説する。食の安心・安全についても解説する。									
第6回 子育て家庭のヘルシー食生活実践 (献立・食材選び・お買い物編)				レポート					
第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、献立方法・食材調達方法について解説する。									
第7回 子育て家庭のヘルシー食生活実践 (調理編)				レポート					
第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、調理方法とそのコツについて解説する。									
第8回 次世代・未来へ繋ぐ食育実践について				レポート					
全体のまとめと、次世代や未来に健全な食を継承するために、今私たちがすべき食生活について解説する。子供の食育方法についての具体例を解説する。									
成績評価方法	<p>評価材料：課題、単位修得試験(レポート試験) Web試験での回答率や、レポート課題の中での記述内容から、食についての基本的な知識についての習得度合いを測る。また、4つのレポート課題と、ディスカッション、プレゼンテーション、そして単位修得試験の記述の中で、健康な食の実践、応用の度合いを測る。</p> <p>【A評価】 B評価の基準と以下の項目を満たすこと。 各課題や試験において活発に発言するとともに、食育現場でも応用出来るようなリーダーシップを発揮していること。あらゆる生活パターンに対応できる子育てと食事管理の具体例を考案する高い能力と技力が備わっていること。プレゼンにおいて、他者の食生活改善を促すことのできるプレゼンができていないこと。</p> <p>【B評価】 C評価の基準と下記の項目を満たすこと。 各課題や試験において、前向きで積極的な発言を行うこと。自分自身の生活パターンで実践できる望ましい食生活を考え、実践できる能力と技量が備わっていること。現在での生活パターンで、食生活の問題点を把握しており、今後の改善策について具体的な解決方法を見出せていること。</p> <p>【C評価】 D評価の基準と以下の項目を満たすこと。 各課題や試験において、間違っても良いので何らかの回答を行うこと。6つの食育目標を理解し、実施したこともしくはこれから実践しようと思う具体例を考える能力が備わっていること。</p> <p>【D評価】 各課題や試験において、積極性は見られないが、何らかの反応があること。レポート課題を提出していること。単位取得試験を実施していること。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 Word、Excel、PowerPointのソフトを利用可能な状態にあること、かつ、基本的な操作を修得していること。 自身で調理した献立を撮影し、提出する課題がある。自宅、または、どこか利用可能な場所で最低限の調理設備を有していること。 想定する調理器具は、コンロ(ガス、電気、カセット可)、鍋、包丁、まな板など</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます</p>								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	コミュニケーション概論		担当者	森川 知史
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	確かな人間関係を築き、育てるためのコミュニケーションのあり方を説明することができる。他者とコミュニケーションすることで、私たち自身に起こる様々な変化について説明することができる。私たちが日常的に行っているコミュニケーションとはどのような行為か、説明することができる。						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusのトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し視聴し、授業内容をしっかりと理解した上で、課題および次回の学習に取り組むこと。</p>						
学習内容	概要			課題			
	第1回 コミュニケーションとは			ディスカッション			
	コミュニケーションとは何か、改めて考える。コミュニケーションに必要な不可欠な「ことば」についても考察する。						
	第2回 ことばとはなにか			ディスカッション			
	コミュニケーションとことばについて考察する。						
	第3回 ことばと身体			ディスカッション			
	ことばは人間の身体による分節装置のひとつであるということを考察する。						
	第4回 ことばと身体のコミュニケーション			ディスカッション			
	ことばを用いるコミュニケーションと、ことばを用いないコミュニケーションについて考察する。						
	第5回 交流としてのコミュニケーション			ディスカッション			
	コミュニケーションを「人間的な交流」という観点から考察する。						
	第6回 モノとイメージのコミュニケーション			ディスカッション			
	モノがイメージとしてコミュニケーションに関わっていることを考察する。						
	第7回 コミュニケーションのダイナミズム			ディスカッション			
	関係し影響し合って、相手も自分も成長するものとしてのコミュニケーションの働きについて考察する。						
第8回 意味とコミュニケーション			ディスカッション				
私たちの日常を支えている「意味」というものについて考察する。コミュニケーションの展開の中で立ち現れる「意味」について考察する。							
第9回 コミュニケーションのいま			ディスカッション				
私たちのコミュニケーションの「いま」について考える。							
第10回 メディアとコミュニケーション			ディスカッション				
私たちのコミュニケーションに介在するさまざまなメディアについて考察する。							
第11回 「わたし」とコミュニケーション			ディスカッション				
対人関係が多種・多様化する現代、「わたし」も多様化・分散化していることを考察する。							
第12回 よりよいコミュニケーション			ディスカッション				
コミュニケーションは生きていく上で極めて重要なものだが、そのあるべき姿はどうかを考える。							
第13回 同質な群れからの脱出			ディスカッション				
確かな人間関係を育てるものとしてのコミュニケーションのあり方を考える。							
第14回 人間関係をどう育てるか			ディスカッション				
人間とはどのような存在か？人間が人間として成長して「自我」を形成していく過程を「欲望」キーワードとして考える。							
第15回 聴くことの重要性			ディスカッション				
コミュニケーションについて基本的な考え方・とらえ方を知ったので、自分なりの答をさがすために、常に問い続ける姿勢を忘れないようにする。							

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（ディスカッション）、単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 次の3点が記述できている。 現在の自分についての客観的評価。 社会性の拡大とコミュニケーション能力の高さとの密接な関わり。 受講から得た気づきと学び。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 コミュニケーションの捉え方の基本が分かるようになっている。その理解を基盤に自分の現在あり方への客観的評価ができている。コミュニケーション能力を伸ばすには、社会性を拡大していくことが不可欠であることを理解している。その他の気づき・学びを得ていること。</p> <p>【B評価】 上記3点は記述できているが、何れかひとつに少し欠けたところが見られる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 上記3点が全て理解できているが、そのひとつに多少の理解不足が見られる。</p> <p>【C評価】 上記3点のうち2点は問題なく書けているが、何れかひとつの記述は不十分である。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 上記3点のうち2点は問題なく理解できているが、何れかひとつの理解に不十分さがある。</p> <p>【D評価】 上記3点は記述できているが、何れの記述にも少し問題が見られる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 上記3点は一応理解できているが、何れの理解にも少し不十分な所がある。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『確かな人間関係のためのコミュニケーション論』森川知史著、京都書房、1,714円（税抜）、2013年</p> <p>『今考えたい人と向きあう力』森川知史著、京都書房このは新書、740円（税抜）、2014年</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 el-Campusのトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 オンデマンド教材を繰り返し視聴し、授業内容をしっかり理解した上で、課題および次回の学習に取り組むこと。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	コンピュータと通信			担当者	中崎 修一	
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度				
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-	
資格名										
特記事項										
学習目標	情報通信ネットワークの長所、短所を説明できる 自分のコンピュータのネットワーク設定ができるようになる 情報通信技術を活用したシステムの検討ができる									
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるときには必ず、各回の学習概要を閲覧してから学習を進めてください。参考書については、デジタル教材では取り扱わない情報も掲載されていますので、学習を深めるためにも是非ご覧ください。回ごとに確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。									
授業時間外学習	・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。									
学習内容					概要			課題		
	第1回 情報社会とネットワーク概説				情報社会とネットワーク			確認テスト、意識調査		
	第2回 情報通信ネットワーク				情報、情報通信、情報通信ネットワーク、通信階層モデル、クライアント/サーバシステム			ディスカッション、確認テスト		
	第3回 通信の基礎				2進数・16進数、情報通信、通信のしくみ			確認テスト		
	第4回 伝送媒体				伝送媒体、プロトコル			確認テスト		
	第5回 通信制御				データリンク、パケット、MAC フレーム、イーサネット、データリンク層			確認テスト		
	第6回 IP(Internet Protocol)				ARP、IP、ネットワーク層			確認テスト		
	第7回 TCP、UDP				TCP、UDP、トランスポート層			確認テスト、レポート		
	第8回 通信用アプリケーション(1)				Web ページ、HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)、アプリケーション層			確認テスト		
	第9回 通信用アプリケーション(2)				電子メール、SMTP、POP、IMAP			確認テスト		
	第10回 インターネット				TCP/IP、インターネット			確認テスト		
	第11回 ブロードバンド				ADSL、FTTH、無線通信			確認テスト		
	第12回 LAN 構築				LAN、Windows、Macintosh、Linux			確認テスト		
	第13回 セキュリティ				セキュリティ、Firewall、NAT、通信ポート、アドレス変換			確認テスト		
	第14回 様々な問題点				問題、ネットワーク運用管理			ディスカッション、確認テスト		
	第15回 応用技術とまとめ				身近なネットワーク応用技術の紹介			確認テスト、アンケート		
	成績評価方法	授業期間内完了(30%)、レポート課題(2回)(30%)、単位修得試験(40%)								
	教科書	なし								
	参考書(任意購入)	『情報がひらく新しい世界 情報ネットワークとLAN』、長坂康史、共立出版、2,800円(税抜)、2001年								
	必須ソフト・ツール	なし								
備考										

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	産業・組織心理学		担当者	服部 泰宏
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験	単位修得試験 試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	組織の中で働くということについて「考える力」を養うことを目指す。各回の講義で、組織の中で働くということについて考えるための理論・視点を提供する。みなさんに目指してほしいのは、そうした理論・視点を丸暗記することではなく、それらを使って組織の中で起こっていることについて「考える力」を身につけることである。						
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主教材として学習を進める。各回の学習の最後に提示される課題をクリアし、次の回に進む。 1. デジタル教材での学習 2. 指示に従い、教科書を講読 3. 課題に取り組む						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。 当該講義後には、講義内容に関連する実例(新聞、TV、Webなど)に目を通すこと。 参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講すること。 設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 イントロダクション			レポート			
	「産業・組織心理学」とはどのような学問か、どのような歴史的背景の中で研究が蓄積され、今日この学問を学ぶ意義はどこにあるのか、ということについて理解することを目指す。						
	第2回 人のやる気について考える : モティベーションの3系統			レポート			
	第2回から第4回までは、モティベーション理論を紹介し、人のやる気について考える。第2回では、モティベーション理論の体系について理解し、その全体像を把握することを目指す。						
	第3回 人のやる気について考える : 緊張系のモティベーション			レポート			
	何が欠乏していたり、まだ達成していない課題を自覚したりするとき、私たちはそうした緊張状態を解消しようとして心理的エネルギーを生じさせる。第3回は、このようなマイナスのエネルギーに基づくやる気について考察し、こうした側面のやる気は私たちに必要不可欠であることを理解することを目指す。						
	第4回 人のやる気について考える : 希望系のモティベーション			レポート			
	人はマイナスのエネルギーによってだけでなく、積極的な夢、希望、目標、憧れ、自己実現、楽しみなどによっても心理的エネルギーを発生させる。第3回の講義内容と合わせて、私たちのやる気が単一の理論では必ずしも説明できないことを理解することを目指す。						
	第5回 仕事人生について考える : キャリアとは何か			レポート			
	私たちは「今日は頑張った」「最近やる気がない」といった短期的な視点だけでなく、長い仕事人生をどう過ごすか、「10年後には何をしたいだろうか」といった長期的な視点を持つ必要がある。第5回から第8回では、長期的な仕事人生について考える。第5回では、キャリアとモティベーションの違いを説明したうえで、キャリアに関する理論が大きく分けて3つの系統に分類できることを説明する。自分自身の仕事人生について考える際、キャリアという視点がいかなる意味で有効なのかということを理解することを目指す。						
	第6回 仕事人生について考える : ジグソーパズルとしてのキャリア			レポート			
	第6回はキャリアに関する3系統の理論のうち、ジグソーパズルとしてのキャリアと呼ばれるものについて説明する。個人の特性や能力と様々な仕事に必要な特性や能力をいかにマッチングさせるか、ということについて理解することを目指す。						
	第7回 仕事人生について考える : 階段としてのキャリア			レポート			
	私たち人間の成長は、成人とともに終わるのではなく、生涯にわたって続く。年齢を重ねることに私たち乗り越えるべき課題が現われ、それを克服することによって少しずつ成長していくことができる。第7回は、仕事人生の発達的な側面について理解することを目指す。						
第8回 仕事人生について考える : 旅としてのキャリア			レポート				
私たちの仕事人生は、あらかじめ決められたルートを進んでいくとは限らない。仕事人生は、時として山や谷を越えたり河を渡ったりする旅のように予測のできないものだ。第8回では、仕事人生の偶発的で予測不可能な側面、それらに対処する方法について理解する。							
第9回 集団について考える : 集団の功罪			レポート				
私たちは、個人の限界を克服するために、物事に集団で取り組む。ただし、集団で物事に取り組むことによって、それを個人で行っているときには起こらないような問題点も発生する。第9回から第11回までは、こうした集団の功罪について考えていく。第9回では、集団の功罪について概観する。							
第10回 集団について考える : 集団による課題達成			レポート				
集団の物事に取り組むことが必ずしも優れた結果を生むとは限らないということを、欧米の実証研究を紹介しつつ説明する。どのような場面で、集団は非効率になるのか。それはなぜか。こうした点について理解することを目指す。							
第11回 集団について考える : 集団とリーダーシップ			レポート				
集団は時として非効率になるが、それは効果的なリーダーシップによってある程度解消できる。第11回は、集団とリーダーシップのかかわりについて理解することを目指す。							
第12回 リーダーシップについて考える : リーダーシップとは何か			レポート				
リーダーシップとは何か。リーダーシップとは一体どこにあるのか。こうした素朴な問題について考えた上で、リーダーシップの定義を行う。さらに、リーダーシップ理論には大きく分けて2つの系統があることを説明する。私たちが普段何気なく使っているリーダーシップとは、一体どのような現象なのかということについて理解することを目指す。							
第13回 リーダーシップについて考える : 特性理論と行動理論			レポート				
第13回では、リーダーシップ理論の古典的な2つの系統について説明する。リーダーシップとは人が生まれつき備わった資質・能力であると主張する特性理論と、リーダーシップとは誰もが経験や学習を通じて獲得する行動パターンだと考える行動理論とを紹介する。おなじリーダーシップという言葉をめぐる様々な視点が存在すること、それらはそれぞれに正しいが、どちらも完全ではないということを理解することを目指す。							
第14回 リーダーシップについて考える : 新しいリーダーシップ理論			レポート				
今日のような変化の激しい時代においては、古典的なリーダーシップ理論のようなリーダー像とは異なった種類のリーダーが求められる。第14回では、今日の産業組織にとって必要な、新たなリーダーシップのあり方について考える。リーダーシップという現象には、唯一最善のものなどなく、その時代や状況によって優れたリーダーシップが異なるということを理解することを目指す。							
第15回 人と人とのつながりについて			レポート				
第15回では、人と人とのつながりについて科学的に考える。「人脈が大事だ」とよく言われるが、とにかく知人を多く作ればそれでよいのか。人から人への「口コミ」による情報は、なぜそれほど早くしかも広範囲に広がっていくのか。こうした人と人とのつながりに関する素朴な問題を、科学的に理解することを目指す。							
成績評価方法	成績は、次の項目を総合的に評価します。 (1) 第1回から第15回までの「課題」の実施状況(30%) (2) 単位修得試験(70%)						
教科書	著書 『産業・組織心理学エッセンシャルズ』 著者 田中堅一郎(編) 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2013年10月10日 改訂3版 ISBN 9784779505638						
参考書 (任意購入)	講義内で適宜指定します。						

索引へ

必須ソフト ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	質的調査法		担当者	畑山 直子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	社会調査士						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・質的調査の考え方や基礎的な知識を習得し、それを使って質的調査の具体的な調査技法や分析方法を説明できる。 ・調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができる。 ・調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 新聞記事や参考文献、各種資料などを指示する場合がありますので、事前に目を通してから学習に取り組むこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で取り上げる専門用語の解説等はノートを取りながら受講し、オンデマンド教材の内容と合わせて必ず復習した上で課題に取り組むこと。</p>						
学習内容	概要						課題
	第1回 質的社会調査とは何か						確認テスト
	質的社会調査とは、いかなる調査方法を用いて、どのようなタイプのデータを分析していくのかを学ぶ。特に、質的調査と量的調査のそれぞれの特徴を理解する。						
	第2回 質的調査の技法						確認テスト
	質的データの代表的な収集方法であるフィールドワーク、参与観察、インタビュー調査の3つについて、それぞれの目的や詳細な手順、そこで得られるデータのタイプについて学ぶ。						
	第3回 質的調査の分析						確認テスト
	参与観察やインタビュー調査によって収集した質的データの代表的な分析方法であるライフストーリー分析、会話分析、ビジュアル記録の分析の3つについて、それぞれの詳細な手順について学ぶ。						
	第4回 質的調査の代表的研究						確認テスト
	社会学、人類学、民俗学において行われてきた代表的な(古典的な)質的調査を紹介し、実際に用いられた調査の技法や分析方法の具体例を学ぶ。						
	第5回 質的調査の実施(1): 問いを立てる						確認テスト
	質的調査の実施にあたって最も重要である「問い」の立て方を学ぶ。また、問いと仮説の関係について理解する。						
	第6回 質的調査の実施(2): 先行研究を調べる						確認テスト
	調査対象に関連する先行研究、特に文献資料の種類と探し方を理解し、それぞれの資料の扱い方を学ぶ。						
	第7回 質的調査の実施(3): 方法(技法)を選ぶ						確認テスト
	調査の目的や対象に合わせた調査方法の選び方を理解し、その技法を用いて何をどこまで明らかにしようとするのかを学ぶ。						
第8回 質的調査の実施(4): 調査準備と調査倫理						ディスカッション	
調査を企画・設計し、調査を実地するための一連の手順を理解した上で、プライバシー保護や個人情報保護に関する調査倫理を学ぶ。							
第9回 フィールドに入る(1): フィールドワークの基礎						確認テスト	
調査地域への入り方や対象者との関係性づくりについて、具体例を挙げながら解説し、フィールドワークの「現場」を学ぶ。							
第10回 フィールドに入る(2): フィールドノートの作成						確認テスト	
参与観察や地域の巡検などで、さまざまな記録をとるために必要なフィールドノートの書き方を学ぶ。							
第11回 フィールドに入る(3): フィールドワークを深める						確認テスト	
フィールドワークでは、参与観察やインタビュー調査と合わせて、さまざまな交流会に参加したり、地元の博物館等を利用したりすることに意義があることを学ぶ。							
第12回 インタビュー調査を行う(1): インタビュー調査の企画と設計						確認テスト	
インタビュー調査の企画と設計の手順を解説し、インタビューの一連の流れを学ぶ。							
第13回 インタビュー調査を行う(2): ライフストーリーインタビュー						確認テスト	
ライフストーリーインタビューの基礎を学び、フェイス項目(基本属性)の聞き取り方法を理解する。							
第14回 インタビュー調査を行う(3): ライフストーリーインタビュー						確認テスト	
ライフストーリーインタビューを深めていくプロセスと、インタビューデータの分析方法を学ぶ。							
第15回 報告書の作成						レポート	
調査後にフィールドワークの概要や調査結果をまとめ、報告書として公表する方法を学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション、レポート、単位取得試験（選択式問題と論述問題）</p> <p>【A評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べることに加えて、他者の意見に対するコメントや質問を積極的に行っていること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べていること。 レポートでは、全15回の質的調査に関する調査技法と分析方法の知識を幅広く用いながら、レポート課題に沿った内容を論じていること。 単位取得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を満点に近いくらい正確に回答できること。また、調査目的に合わせた、適切な調査技法や分析方法を選ぶことができること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を幅広く説明できるようになっていること。その際、調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。</p> <p>【B評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べることに加えて、他者の意見に対するコメントや質問を積極的に行っていること。 レポートでは、全15回の質的調査に関する調査技法と分析方法の知識を一部用いながら、レポート課題に沿った内容を論じていること。 単位取得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を回答できること。また、調査目的に合わせた、適切な調査技法や分析方法を選ぶことができていること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を一部説明できるようになっていること。その際、調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。</p> <p>【C評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べていること。 レポートでは、レポート課題に沿った内容を論じていること。 単位取得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を部分的に回答できること。また、調査目的に合わせた、適切な調査技法や分析方法を一部選ぶことができていること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を部分的に説明できるようになっていること。その際、調査の目的に合わせて、適切な調査技法と分析方法を組み合わせることができていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。</p> <p>【D評価】 ディスカッションでは、調査倫理に関する自分の意見を述べていること。 レポートでは、レポート課題に沿った内容を論じていること。 単位取得試験では、質的調査の調査技法や分析方法について、基礎的な内容を部分的に回答できること。 質的調査の具体的な調査技法や分析方法を一部説明できるようになっていること。また、調査の実施にあたって、踏まえるべき調査倫理があることを説明できるようになっていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『よくわかる質的調査技法編』、谷富夫・芦田徹郎編、ミネルヴァ書房、¥2,500(税抜)、2009年 初版</p> <p>『よくわかる質的調査プロセス編』、谷富夫・山本努編、ミネルヴァ書房、¥2,500(税抜)、2010年 初版</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を履修するまでに、「調査研究方法」および「調査研究方法」において社会調査の基礎的事項と量的調査の考え方を理解しておくこと、本科目で取り上げる質的調査の理解をより深めることができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	社会科学			担当者	岩波 薫
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	まず社会科学(行政5科目)を概観するが、基本的事項として公務員試験で問われるような知見については一定以上の理解をしていることが求められる。具体的には地方公務員大卒区分での社会科学の試験問題で合格点を取れるレベルの理解を目標とする。このような知見、高度の常識が受講者のキャリア選択に好影響を及ぼすことになる。								
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習範囲自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。								
授業時間外学習	事前に各授業で扱う範囲の教科書に目を通しておくこと。 授業終了後には、できれば参考書も利用しながら、確認テストの復習を行うこと。 の予習は当然のこととして、合わせて の復習も行わなければ学習目標の達成は難しい。								
学習内容	概要								課題
	第1回 政治学 ~政治制度~								確認テスト
	先進諸国の政治制度(統治機構)についての標準的な理論、知識について学ぶ。								
	第2回 政治学 ~選挙制度と投票行動~								確認テスト
	選挙制度、そして各国の投票行動についての標準的な理論、知識について学ぶ。								
	第3回 政治学 ~政党と政党政治~								確認テスト
	政党と政党政治について学ぶ。先進各国間の比較上の特質を統治機構の理解と合わせて理解すること。								
	第4回 政治学 ~民主主義の構成要素と権力~								確認テスト
	民主主義の発展の歴史を振り返りながら、民主主義の構成要素である、利益団体やメディアの影響、さらには政治の運用を支える権力論やリーダーシップの在り方を学ぶ。								
	第5回 政治学 ~政治思想と理論史~								確認テスト
	政治思想の領域において、イデオロギーの果たす役割を理解した上で、社会契約論から現代の政治思想への発展の歴史、またそれぞれの特徴を学ぶ。								
	第6回 行政学 ~地方自治と行政組織~								確認テスト
	地方自治の特徴、発展の歴史と変遷、中央省庁再編をはじめ行政組織のしくみ、行政改革について知る。								
	第7回 行政学 ~行政統制と人事行政~								確認テスト
	行政統制に関わる内容としてその類型、情報公開と、人事行政に関わる内容として任用制度について学ぶ。								
	第8回 行政学 ~官僚制と行政理論~								確認テスト
近代官僚制像とその課題、また行政の能率と管理法、さらには行政組織の様々な機能に関する理論について理解する。									
第9回 国際関係 ~国際連合と各国の外交~								確認テスト	
国際連合に関する知識と、国連を巡る様々な動き、また外交・対外政策に関する基礎知識について理解する。									
第10回 国際関係 ~外交史・紛争・地域機構~								確認テスト	
米国・日本・中国の現代外交史、また中東をはじめとする国際的な紛争、さらにはEU情勢について理解する。									
第11回 国際関係 ~地域機構・理論~								確認テスト	
世界の主な地域機構について、また軍縮の歴史と関連知識、さらに経済協力関係や環境問題について理解する。									
第12回 社会学 ~集団と社会意識~								確認テスト	
集団の類型について、また社会の変化の捉え方について、さらに社会に対する意識の向け方・あり方の理論について理解する。									
第13回 社会学 ~文化・家族~								確認テスト	
文化に関する議論、家族論の重要なものについて理解する。									
第14回 社会学 ~地域・調査・理論~								確認テスト	
地域社会に関する議論、また社会調査の統計的知識や用語、さらに社会学の基礎的かつ重要な理論を理解する。									
第15回 社会政策 ~労働、社会保障~								確認テスト	
労働分野、社会保障分野の基礎知識や用語について理解する。									
成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 9割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見に基づいて社会現象の理解ができ、現時点の実力を維持できれば地方公務員大卒区分試験にも合格可能なレベル。</p> <p>【B評価】 8割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見に基づいて社会現象が一定以上理解でき、参考書などの問題演習の復習を重ねれば地方公務員大卒区分試験にも合格可能なレベル。</p> <p>【C評価】 7割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見について一定以上理解でき、全体を再度復習し、更に参考書などの問題演習を繰り返すことで、地方公務員大卒区分試験の合格可能性が見えてくるレベル。</p> <p>【D評価】 6割以上の得点を得る。 社会科学の理論や知見についてある程度理解でき、本講座を受講したと言える最低限度のレベル。</p>								

教科書	著書 『公務員試験 行政5科目 まるごとパスワード neo2』 著者 高瀬 淳一 出版社 実務教育出版 出版年度 2019年12月31日 ISBN 9784788948976
参考書 (任意購入)	『公務員試験 行政5科目 まるごとインストール neo』、高瀬 淳一、実務教育出版、¥1,300円(税抜)、2012年 「教科書とセット」で活用する定評ある参考書であり、各自購入することを強く勧める。授業で参考書の内容にも度々触れるし、単位修得試験は言うに及ばず、学習目標の達成のためにも不可欠の教材と言える。
必須ソフト ・ツール	なし
備考	履修条件は特にはないが、学習のモチベーションを高く維持するためにも、自らのキャリア形成に関して、公務員を視野に入れていることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	社会心理学		担当者	森下 朝日
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	認定心理士、プレゼンテーション実務士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	人と人との相互作用や、社会の一員としての自分のあり方について考えることができる。						
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として学習を進める						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段からさまざまな社会事象に関心を持ち、問題意識を持って取り組むこと。 ・ 教科書に目を通し、受講内容に該当する項目を読み込んでおくこと。 ・ 用語や定義を丸暗記するのではなく、自らの日常に照らし合わせてイメージしながら振り返ること。 ・ ディスカッションにおいては、できるだけ多くの意見に目を通すこと。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 社会的認知(1) 私たちの「もの見かた」			確認テスト			
	私たちが何かを理解し、判断するとき、頭の中では、どのような情報処理がなされているのだろうか。この回では、私たちが、あるものを見て、あるアクションを起こすまでの認知過程について学ぶ。さらに、知覚と記憶スキーマのしくみと特徴について学ぶ。						
	第2回 社会的認知(2) ヒューリスティックと判断の偏り			確認テスト			
	私たちの社会的判断には、さまざまな形で偏りが生じやすい。この回では、判断の偏りを生じさせている人間の思考経路であるヒューリスティックについて学び、ヒューリスティックによって生じるさまざまな認知バイアスについて学ぶ。						
	第3回 社会的態度(1) 態度とステレオタイプ			確認テスト			
	この回では、社会心理学を学ぶ上で重要な概念である「態度」について学習する。私たちが日常生活を営む上で、態度がどのように使われ、どのような役割を果たしているのかを知り、態度と深いかかわりを持つステレオタイプについて、その概念や機能、性質を学ぶ。						
	第4回 社会的態度(2) 説得と態度変容			確認テスト			
	前回に引き続き、態度について学ぶ。認知のバランスが態度にどのような影響を与えるかを学んだ上で、説得的コミュニケーションがどのように態度を変容させるのか、その過程や機能について学習する。						
	第5回 原因の帰属(1) 帰属理論と帰属スタイル			確認テスト			
	社会的認知や動機づけに大きな影響を及ぼす「帰属」について学ぶ。まず、帰属の定義と原理について学び、帰属についての基礎知識を身につけたうえで、自分自身の帰属スタイルを確かめる。						
	第6回 原因の帰属(2) 帰属がやる気を与える影響			ディスカッション			
	何かに成功したときや失敗したとき、帰属の仕方によって私たちのやる気がどのように変わるかを学ぶ。さらに、帰属の結果、無力感に陥ってしまったとき、どのようにすれば克服できるか、さまざまなアプローチから考える。						
	第7回 対人関係における心理(1) 対人魅力とその発展			確認テスト			
	対人関係における対人魅力について学ぶ。私たちが誰かに好意を抱くとき、どのような要因が関係しているか、また、そこから対人関係はどのように発展していくかについて学習する。						
第8回 対人関係における心理(2) 対人葛藤とその解決			確認テスト				
前回とは逆に、この回では、対人関係がこじれてしまったときに生じる対人葛藤について学ぶ。まず、対人葛藤のタイプと解決方法、そこで生じる認知バイアスについて学習し、その上で、葛藤の様相が帰属の仕方によってどのように変わるかを学習する。							
第9回 集団における心理(1) 集団とは何か			確認テスト				
私たちは、社会生活を営むうえで、常に何らかの集団に属している。この回では、集団とはどのようなものか、人はなぜ集団に所属するのか、集団はどのようにして形成され、どのような機能を持つかなど、集団についての基本的概念を学ぶ。							
第10回 集団における心理(2) 集団から受ける影響			確認テスト				
個々人が集団から受ける影響について、集団凝集性、すなわち「集団としてのまとまり」を軸に学習する。まとまりが強ければ、その集団は優れた成果を上げることができるのか。また、優れた成果をあげるための集団意思決定は、どのようになされるべきか。これらの点について考える。							
第11回 集団における心理(3) 同調と少数派の影響			確認テスト				
集団から受ける圧力と、そこから引き起こされる同調行動について学習する。まず、同調とは何か、その定義や発生過程を学び、なぜ同調が起こるのか、何によって行動が左右されるのか、その要因を学習する。さらに、少数の人間が一貫した主張を行ったとき、集団内にどのような影響が生じるのかを学習する。							
第12回 集団における心理(4) リーダーシップとそのあり方			確認テスト				
リーダーが集団に与える影響、ならびにリーダーのあり方について考える。全体を通じて、望ましいリーダーシップとは何かを模索するリーダーシップ論について、その内容と変遷を学習する。							
第13回 社会における心理(1) 群衆心理と流言の伝播			確認テスト				
群衆という巨大な存在が私たち個人に与える影響を、平常時と非常時の2側面から学習する。さらに、流言がどのような要因で伝播し、どのように変容するかを学び、情報を正確に伝えるために、メッセージの送り手と受け手がどのような点に気をつけるべきかを考える。							
第14回 社会における心理(2) 道徳的判断			ディスカッション				
さまざまな社会的行動について、そのあり方を判断することを道徳的判断とよぶ。この回では、道徳的判断を左右する判断基準や発達段階について学ぶ。さらに、現代社会で大きな問題となっているインターネットを介した暴力について、道徳的判断の観点から考え、ディスカッションを行う。							
第15回 まとめ 授業のふりかえり			確認テスト				
この回では、まとめとして、第1回から第14回までの授業内容を振り返る。その上で、社会心理学とはどのような学問か、包括的に考える。							
成績評価方法	ディスカッションでの積極的発言(10%)および単位修得試験(90%)で評価する。						
教科書	著書 『図解雑学 社会心理学』 著者 井上隆二・山下富美代 出版社 ナツメ社 出版年度 2011年2月20日 ISBN 9784816329098						
参考書 (任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	なし						
備考							

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	社会福祉援助技術		担当者	須川 重光
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	スクーリング		
単位修得試験受験資格	全授業への出席		単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	社会福祉主事【任用資格】						
特記事項							
学習目標	対人援助とは何かを考え理解する。 障害を有する人への援助過程の基礎を理解する。						
学習の進め方	基本的にはパワーポイントを使用した講義形式となる。簡単な体験等を交えながら授業を進めてゆく。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮する。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連したサイトの閲覧を奨める。 ・配布したプリントにもう一度目を通しておくこと。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 対人援助とは何か						
	人が人を援助することの意味や意義、理由等を考える。						
	第2回 医療保健福祉における対人援助職						
	対人援助過程における専門職の役割を学ぶ。						
	第3回 運動機能障害に応じた援助						
	運動機能障害とそれらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。						
	第4回 高次脳機能障害に応じた援助						小レポート
	高次脳機能障害とは何かを理解し、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。						
	第5回 精神障害に応じた援助						小レポート
精神障害とは何かを理解し、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。							
第6回 知的障害・発達障害に応じた援助							
精神障害とは何かを理解し、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。							
第7回 認知症に応じた援助							
認知症についての理解を深め、それらに対応した基本的な援助過程を学ぶ。							
第8回 講義のまとめと最終レポート						単位修得試験レポート	
成績評価方法	小レポート(40%) 単位修得試験レポート(40%) 出席、ディスカッションの姿勢等の平常点(20%)で総合的に評価する。						
教科書	なし						
参考書(任意購入)	適宜紹介する。						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	活発なディスカッションを望む。						

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	社会福祉概論			担当者	須川 重光
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	社会福祉主事【任用資格】								
特記事項									
学習目標	社会福祉の基本的理念、視座、社会での役割を理解する。 社会福祉に関連する諸問題を学び、自らの生活との関わりを考える。 社会福祉の基本的な体系を説明しながら、社会福祉歴史、現在、将来を考えてゆく。特に社会保障における福祉財源は枯渇状態であるため、今後も福祉性を守っていくためにはどのような方策が必要なのかも考察してゆく。 社会福祉関連の事例を紹介し、受講生同士のディスカッションを通して理解を深めてゆく。								
学習の進め方	基本的にはパワーポイントを使用した講義形式となります。簡単な体験等を交えながら授業を進める。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮する。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連したサイトの閲覧を奨める。 ・配布したプリントにもう一度目を通しておくこと。 								
学習内容	概要							課題	
	第1回 社会福祉とは何か(イメージ・社会福祉の概念)								
	社会福祉とはどのようなものかを受講者同士のイメージより考察する。								
	第2回 社会福祉原理								
	障害者福祉の基本理念、基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インクルージョンについて学ぶ。								
	第3回 社会保障制度の概要								
	我が国における社会保障制度についてを概要を理解する。								
	第4回 諸外国の社会保障(福祉)							小レポート	
	スウェーデン・イギリスの社会保障(福祉)について学ぶ。								
	第5回 社会福祉の歴史(日本)							小レポート	
我が国の社会福祉の歴史を学ぶ。									
第6回 社会福祉の動向と課題									
核家族・ひとり親・保育問題等の現状と課題									
第7回 社会福祉の動向と課題									
格差社会・貧困、高齢社会の現状と課題									
第8回 講義のまとめと最終レポート							単位修得試験レポート		
成績評価方法									
小レポート(40%) 単位修得試験レポート(40%) 出席、ディスカッションの姿勢等の平常点(20%)で総合的に評価する。									
教科書	なし								
参考書(任意購入)	適宜紹介する。								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	活発なディスカッションを望む。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	ジャパノロジー入門			担当者	田中 キャサリン
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	世界における日本のポップカルチャーの重要性を説明することができる。 日本のポップカルチャーに見られる、ジェンダー、人種などさまざまなイデオロギーについて論じることができる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進める。各授業の最後には、課題があり課題を終わらせ、次回に進みます。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 補助テキストを手元に用意して、授業内容をメモしながら学習することを勧めます。 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 ポップ・カルチャーの研究								ディスカッション
	カルチュラル・スタディーズはどういう学問か、またイデオロギーとポップカルチャーの関係を説明する。								
	第2回 日本における戦後ポップカルチャーの歴史								ディスカッション
	日本を代表する文化のひとつとして成長した「ポップカルチャー」が、戦後の荒廃した日本でどのように発展していったのかを説明する。								
	第3回 ポップカルチャーとテレビ								ディスカッション
	テレビはポップカルチャーの浸透や日本のイメージ作りに大きく関わっているということを説明する。								
	第4回 ポップカルチャーと文学								ディスカッション
	文学はポップカルチャーだと説明する。具体的にケータイ小説と村上春樹を例としてみていく。								
	第5回 ポップカルチャーと雑誌								ディスカッション
日本のポップカルチャーにおいて依然として非常に大きな役割を果たしている雑誌について分析を行う。									
第6回 ポップカルチャーとアニメ・マンガ								ディスカッション	
海外では、もっとも影響のある日本文化はアニメとマンガである。ここでは、アニメ・マンガの歴史を紹介し、先駆者の手塚治虫と宮崎駿を紹介する。									
第7回 ポップカルチャーと「桃太郎」								ディスカッション	
日本でもっとも広く知られている昔話の「桃太郎」を例として、時代の社会および文化のイデオロギーによってどのように変容していったのかを検討する。									
第8回 ポップカルチャーと人権								ディスカッション	
人権問題がポップカルチャーにどのように現れているのかを検討する。また、ポップカルチャーは人権問題にどのように関わっているのかについて考える。									
成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 ディスカッション、単位修得試験において、論理的に説得力のある分析と考察が行われており、獨創性がある。またディスカッションで、他者のコメントに対して積極的に返答しており、的確で分かりやすくまとめている。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 歴史的または社会的観点から、日本のポップカルチャーを客観的に見つけ、ポップカルチャーの表象からイデオロギーを、自分なりに探求し、分析する力を備えている。</p> <p>【B評価】 ディスカッション、単位修得試験において、論理的に説得力のある分析と考察が行われている。またディスカッションで、他者のコメントに対して積極的に返答しており、的確で分かりやすくまとめている。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 日本のポップカルチャーを客観的に見つけ、ポップカルチャーの表象からイデオロギーを、自分なりに探求し、分析する力を備えている。</p> <p>【C評価】 ディスカッション、単位修得試験において、論理的に分析と考察が行われている。またディスカッションで、他者のコメントに対して、分かりやすくまとめ返信している。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 日本のポップカルチャーを客観的に見つけ、ポップカルチャーの表象からイデオロギーを、自分なりに探求し、分析する力を備えている。</p> <p>【D評価】 ディスカッション、単位修得試験において、分析と考察が行われている。またディスカッションで、他者のコメントに対して返信できている。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 日本のポップカルチャーを自分なりに探求し、分析する力を備えている。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日頃からポップカルチャーを身近に感じ、それがどのような社会的背景からきているのか分析する意欲を持っていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	宗教学		担当者	中村 玲太
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	日本人は「宗教オンチ」であるとか、「宗教嫌い」であるとかよく言われる。特に特定の宗教を深く信仰していない人は宗教に対して良くないイメージを持つことが多いのではないだろうか。しかしその反面、お正月、お盆、クリスマスなど、私たちの日常生活には本来宗教的な意味をもつ行事、習慣などが数多く存在する。また現代の世界情勢を知るためには、宗教の理解は欠かせない。そもそも宗教は人間の生や死と密接に関わるものであり、私たちの生活から完全に排除することは不可能なものである。なんとなく否定的なイメージを持つだけの宗教理解は貧困で不十分なものではないだろうか。そこで本講義では、宗教について様々な角度からあらためて考えることを目標とする。本講義では現代社会において宗教が問題になる色々な場面が扱われる。それについて受講者の一人一人が問題の所在を把握し、自分で考えるようになることが本授業の最終的な目標である						
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は教科書を中心とした学習と、確認テスト、小レポート、単位修得試験レポートによって構成されている。 ・学習の際にはひとつひとつの課題を順番に進めること。 						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活の中から宗教的事象について考えること。 ・関連の参考文献に目を通すこと。 ・興味をもった問題については、新聞・テレビ・映画・マンガ・インターネット等メディアを通して幅広く情報を集めること。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回(序章) 宗教学への入り口						
	宗教を学問的に考えるということ ・「自分と宗教との関わり」、「日本人は無宗教か」など						
	第2回(第1章) 生と死の意味を問う						
	生や死という事柄について、宗教はどのようにとらえているのか ・「いのちの尊さ」、「妊娠中絶問題」、「脳死判定」、「ホスピス」など						
	第3回(第2章) 生命の循環と継承						
	いのちや世代の循環。環境、家族、共同体における宗教について ・「環境問題」、「人間形成と宗教」、「心の教育」など						
	第4回(第3章) 救いと癒しの現場			確認テスト			
	人間の悩みや苦しみに宗教はどのように答えているのか ・「癒しと宗教」、「宗教性と霊性」、「宗教とボランティア」など						
	第5回(第4章) 差別・暴力・権力と宗教						
	宗教と差別、暴力、権力などの関係を色々な角度から考えてみる ・「男性性と女性性」、「宗教と紛争」、「テロリズム」、「宗教NGO」など						
	第6回(第5章) 政治と宗教の相克			確認テスト			
	宗教と政治はどのように関係しているのか ・「靖国問題」、「慰霊」、「アメリカの公共宗教」、「パレスチナ問題」など						
	第7回(第6章) 現代社会における宗教			第1回小レポート			
	現代社会・消費社会における宗教の諸相 ・「カルト」、「原理想主義」、「メディアと宗教」、「スピリチュアル」など						
第8回(第7章) 宗教における実践							
身をもって生きられた宗教を考える ・「祈りと瞑想」、「祭祀と儀礼」、「修行」、「伝道」、「シャーマン」など							
第9回(第8章) 宗教における言葉			確認テスト				
言葉という角度から宗教をとらえる ・「言霊」、「神話と物語」、「教義と神学」、「声と文字」など							
第10回(第10章) 宗教における本質と規範			第2回小レポート				
「あるべき」宗教の規定とその問題点について ・「神秘主義」、「戒律と禁欲」、「宗教の普遍性」、「宗教の本質」など							
第11回(第12章) 「宗教」概念と宗教学							
「宗教」という概念と「宗教学」という学問の成立について ・「宗教」概念の近代性、「宗教と科学」、「宗教比較の方法」など							
第12回(第13章) 宗教を心理において問う			確認テスト				
「心理」という角度から宗教を考える ・「宗教体験」、「宗教心理学」、「強さと弱さ」、「臨死体験」など							
第13回(第15章) 宗教を思想において問う							
宗教を思想的に考える ・「宗教多元論」、「ポストモダンと仏教」、「無神論」、「神義論」など							
第14回(第16章) 新しい問いと宗教学			第3回小レポート				
20世紀後半以降の「知」と宗教学の動向 ・「ポストコロニアリズム」、「フェミニズム」、「オリエンタリズム」など							
第15回(終章) 宗教学の実践			確認テスト				
宗教を学ぶということの難しさや危険性 ・「他者の宗教とどう関わるのか」など							
成績評価方法	単位修得試験レポート(70%)、小レポート3回(30%)						
教科書	著書 『宗教学 キーワード』 著者 島園進、葛西賢太、福岡信吉、藤原聖子(編) 出版社 有斐閣 出版年度 2011年4月30日 初版 ISBN 9784641058835						
参考書(任意購入)	参考図書は教科書の各章の最後に多く挙げられているので、興味がある場合は自分で読んでみる。						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	障害児・障害者心理学		担当者	楠 敬太
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士						
特記事項							
学習目標	<p>障害分類や障害の捉え方についての変遷を体系的に把握することで、障害について医療モデルと社会モデルの考え方を類別できるようになる。発達最近接領域を理解しつつ、障害児(者)教育の変遷を知ることで、現代における障害児(者)教育にどのような課題があるかを踏まえ、学校教育の場における基礎的環境整備と合理的配慮について具体的な内容を考案し、説明することができるようになる。障害の概要と障害受容のプロセスについて理解し、本人や家族の心理に留意することの重要性を考慮することで、支援の方法について具体的な計画を立案することができるようになる。</p> <p>学校心理学における第1次、第2次、第3次援助サービスの内容とヘルパーの役割を理解することで、個々の障害特性に応じたようなリソース(資源)を用いれば、どのような効果が期待できるかについて整理し、個に応じた内容から集団・環境に及ぶ内容まで、多角的な支援の手立てを立案することができるようになる。様々な障害の定義と障害児(者)の心理・行動特性・支援の実際について理解することで、それぞれの個に応じる必要性を踏まえ、様々な支援方法から適切なものを選択して、提案することができるようになる。</p> <p>障害児(者)の社会参加を促進することについて、これまでの講義で得られた知識を体系的に整理し、障害者の権利に関する条約を引用しながら自らの考えを述べるようになる。</p>						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。配布資料に目を通し、学習の流れについて見直しを持っておくこと。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。事後学習として知識や用語の理解だけではなく、実際の支援の方法等について考察しておくこと。						
授業時間外学習							
学習内容	概要			課題			
	第1回 障害の概念			確認テスト			
	障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。						
	第2回 障害児・障害者の発達と教育			レポート			
	障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。						
	第3回 障害理解・障害受容と家族支援			ディスカッション			
	障害をどのように理解し、どのように受け止めていくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。						
	第4回 障害児・障害者への心理的援助			レポート			
	障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。						
	第5回 聴覚障害について			確認テスト			
	聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。						
	第6回 視覚障害について			確認テスト			
	視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。						
	第7回 肢体不自由について			確認テスト			
	肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。						
第8回 病弱について			確認テスト				
病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。							
第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法			レポート				
知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。							
第10回 知的障害について			確認テスト				
知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。							
第11回 学習障害(LD)について			確認テスト				
学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。							
第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について			確認テスト				
注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。							
第13回 自閉症スペクトラム障害について			確認テスト				
自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害の定義を踏まえ、自閉症スペクトラム障害児(者)の心理・行動特性及び自閉症スペクトラム障害児(者)への支援について学習する。							
第14回 心の理論と自閉症スペクトラム障害			レポート				
自閉症スペクトラム障害の特性をさらに詳細に把握することを目標とし、バロン・コーエンによる「心の理論」課題の概要を踏まえた自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について学習する。							
第15回 障害児・障害者の理解とインクルージョン			ディスカッション				
障害児・障害者の社会参画について理解を深めることを目標とし、サラマンカ宣言や障害者の権利に関する条約を踏まえ、インクルーシブ社会の実現に向けた動向について学習する。							

成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、レポート課題、ディスカッションにおけるコメントの内容、単位修得試験レポートの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストによって知識の定着を測る。 ・レポート課題によって講義で習得したことから考察につなげることができているかを測る。 ・ディスカッションのコメントによって課題に対する応用的な思考力を測る。 ・単位修得試験レポートによって、障害の定義に関する理解度と学校心理学における援助サービスの考え方に関する習熟度を測る。 <p>【A評価】 講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体例を示す等、独自性の高い支援プランが論述できていること。講義内容の引用等を用いながら、課題に応じ、論理的なコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、他者の理解が深まるようなコメントが書き込まれていること。障害の定義・心理・行動特性について正確に説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的かつ社会的に有益と思われる支援プランをそれぞれに立案することができていること。</p> <p>【B評価】 講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体性のある支援プランが論述できていること。講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、さらにコメントが書き込まれていること。障害の定義・心理・行動特性について説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的な支援プランをそれぞれに立案することができていること。</p> <p>【C評価】 講義の内容を踏まえ、具体性のある支援プランが論述できていること。講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案することができていること。</p> <p>【D評価】 規定字数の支援プランが作成できていること。課題に応じたコメントが書き込まれていること。障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案することができていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 『心理学概論』を修得済み、または、その科目のシラバスで示されている内容を学習した経験があり、その内容を十分に理解していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	障害者福祉			担当者	須川 重光
レベルナンバー	400	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全授業への出席		単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	社会福祉主事【任用資格】							
特記事項								
学習目標	障害を有することとはどのようなものを理解する。 障害者福祉の理念と歴史を理解する。 障害者総合支援法に基づく現行の障害者福祉について理解する。							
学習の進め方	基本的にはパワーポイントを使用した講義形式となる。簡単な体験等を交えながら授業を進めてゆく。 受講生同士のディスカッションを多く取り入れ他者の意見を広く取り入れられるよう考慮する。							
授業時間外学習	関連した情報を個々に関心を持ち、様々な媒体から閲覧しておくこと。 講義後は配布したプリントを再度確認すること。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 障害とは(病気・疾病・障害)							
	障害とはなにかを病気、疾病、障害の視点から考える。							
	第2回 障害者福祉の基本理念と定義							
	障害者福祉の基本理念、基本的人権の尊重、ノーマライゼーション、インクルージョンについて学ぶ。							
	第3回 障害者福祉と法(歴史の変遷)							
	我が国における障害者福祉の歴史を学ぶ。							
	第4回 障害者総合支援法						小レポート	
	現在の障害者に対する中心的な法である障害者総合支援法の概略について学ぶ。							
	第5回 身体障害者と福祉						小レポート	
身体障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ。								
第6回 精神障害者と福祉								
精神障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ。								
第7回 発達障害・知的障害者の福祉								
発達障害の状態、生活のし辛さ、支援方法について学ぶ。								
第8回 講義のまとめと最終レポート						単位修得試験レポート		
成績評価方法	小レポート(40%) 単位修得試験レポート(40%) 出席、ディスカッションの姿勢等の平常点(20%)で総合的に評価する。							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	適宜紹介する。							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	活発なディスカッションを望む。							

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン		授業科目名	生涯発達心理学		担当者	松並 知子	
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】							
特記事項								
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間をライフサイクルの観点から広く捉える視野を養う。 ・人間発達の本質を深く考えようとする姿勢を身につける。 ・自らの心の成長とアイデンティティの確立を模索・確認する。 							
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進める。ただし、教科書をよく読んで取りくむこと。デジタル教材の中で教科書のページや図表を参照する指示がある場合は、必ず確認をすること。また、デジタル教材では取り扱わない情報も掲載されているのでよく読んで学習に臨むこと。毎回ごとに課題として確認テストがあるので、確認テストをクリアしてから次の回へ進むこと。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をはじめるときには必ず、各回の教科書の該当箇所を熟読してから学習を進めること。 ・心理学に関連する専門書を活用すること。 ・参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨する。 ・受講後のレポートでは、「レポートの書き方」をよく読むことと、納得できるまで取り組むこと。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 はじめに			確認テスト				
	オリエンテーションと生涯発達心理学の概要を理解する。							
	第2回 人はどこまで発達するのか - 生涯発達の考え方 -			確認テスト				
	人生は誕生から死までの継続した流れの中で発達していくものであることを理解する。							
	第3回 赤ちゃんの誕生			確認テスト				
	赤ちゃんの持つかわり能力とその発達を理解する。							
	第4回 愛着関係の発達 - かわりのなかで育つ心 -			確認テスト				
	かわりの中で育つ愛着が対人関係に与える影響を考える。							
	第5回 自己と情動の発達			確認テスト				
	自己意識の発達と情動の芽生え、さらには情動調整の発達について学ぶ。							
	第6回 知的発達 - その意味と保育者のかわり -			確認テスト				
	幼児期にめざましい発達を遂げる知的能力について、いくつかの理論を紹介しながら、その発達のメカニズムを理解する。							
	第7回 遊びと仲間作りを支える心の発達			確認テスト				
	就学後の仲間関係や仲間遊びの展開をも視野に入れて、子どもたちの保育にあたる者としての心構えを育てる。							
第8回 社会性の発達 - 思いやる心 -			確認テスト					
幼児期において社会性の問題がどのようにとらえられているのか把握し、共感性、他者理解、道徳心の芽生えなど、幼児期を中心とした理論や研究を理解できるようになる。								
第9回 異文化と子どもの発達			確認テスト					
多文化化する現代社会において子どもの育ちについて文化間の違いを学び、国際結婚家庭の子育て観について理解すること。								
第10回 大人への芽生え - 思春期の心の発達と問題 -			確認テスト					
身体的変化と共に心理的变化が出現する思春期の特徴を概観し、この時期に見られる心理的危機とその発生のメカニズムを理解する。								
第11回 大人になること - 自我同一性の獲得 -			確認テスト					
エリクソンの理論に基づいて、高校生後半から成人期30歳くらいまでの範囲で、自我同一性に関する理論を学ぶ。								
第12回 キャリア発達とその支援			確認テスト					
人生におけるキャリア発達を、職業選択だけにとどまらず、生涯発達の視点から自らの能力や対人関係なども含め、考えていけるようになること。								
第13回 親となること			確認テスト					
初めて子どもをもつ親の心の動きをいくつかの視点から見て、本当の意味で親になることについて学ぶ。								
第14回 老いを迎えること			確認テスト					
高齢期の肯定的な側面にも着目し、生きがいを持って人生を生きていく事、人生の意味をその人なりに見出すことの大切さを理解できるようになる。								
第15回 まとめ			確認テスト					
これまでの内容をふまえて、科目のまとめを行う。								
成績評価方法	平常点(60%)は、第1回～第14回に実施する各回の確認テストの結果によって決まる。単位修得試験は(40%)の配分とする。							
教科書	著書 『新時代の保育双書 発達心理学 子どもの発達と子育て支援』 著者 青木紀久代編 出版社 みらい 出版年度 2011年4月20日 ISBN 9784860151058							
参考書 (任意購入)	なし							
必須ソフト ・ツール	なし							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	消費者のための法律知識		担当者	日野 勝吾
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	レポート試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	消費者をとりまく法律問題に対して、関連する法律を踏まえ、法的紛争を未然防止、事後的解決に導くことができる。						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後にある課題を終わらせ、次の回に進むこと。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 参考書籍記載のWebサイトを閲覧しておくこと。 el-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 ・授業内で紹介した各種Webサイトを閲覧しておくこと。 ・基本的な法律用語を理解しておくこと。 ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>						
学習内容	概要						課題
	第1回 消費者法の存在意義と役割						ディスカッション
	本講義で学ぶ内容等について説明した上で、消費者法の意義や役割等について考える。消費者法の全体構造について学ぶ。						
	第2回 現代社会と消費者問題(1)						ディスカッション
	我が国の消費者問題の歩みをたどり、消費者問題の要因等を考える。						
	第3回 現代社会と消費者問題(2)						ディスカッション
	経済社会の変化に伴って、変貌する消費者問題にも様相が変化し、国や自治体の消費者行政の対応状況等を考える。						
	第4回 消費者行政の現状と消費者法政策(1)						ディスカッション
	消費者行政の司令塔としての消費者庁の創設の前後の消費者行政等を一瞥し、消費者庁関連3法や所管・執務内容等を学ぶ。						
	第5回 消費者行政の現状と消費者法政策(2)						ディスカッション
	地方自治体における消費者行政や消費者教育推進法に基づく消費者市民社会に向けた具体的施策等について学ぶ。						
	第6回 消費者法の役割・法学の基礎						ディスカッション
	消費生活をめぐる法律を学ぶ上で重要な法学の基礎を学ぶ。						
	第7回 市民生活と民法の関わり(民法の基礎)						レポート
	市民生活の重要な法律である民法の基礎的理解を得るとともに、基本的な原理原則を学び、消費生活に関わる条文・判例の理解を得る。						
第8回 契約社会の進展と民法(債権法の基礎)						ディスカッション	
市民生活の重要な法律である民法の基礎的理解を得るとともに、基本的な原理原則を学び、消費生活に関わる条文・判例の理解を得る。							
第9回 消費者契約法(1)～紛争事例をもとにして～						ディスカッション	
消費者契約法の概要を説明し、実際の紛争事例をもとにしながら取消類型や無効類型について学ぶ。							
第10回 消費者契約法(2)～紛争事例をもとにして～						ディスカッション	
消費者契約法の概要を説明し、実際の紛争事例をもとにしながら、債務不履行、不法行為、瑕疵担保責任の免責不当条項等について学ぶ。また、法改正点についても学習する。							
第11回 消費者紛争と消費者団体の役割						ディスカッション	
集団的消費者被害救済を含め、消費者紛争と消費者団体との関わりについて学ぶ。							
第12回 特定商取引法～紛争事例をもとにして～						ディスカッション	
特定商取引法の概要を学び、クーリング・オフが可能な類型事例を確認しながら、特定商取引法の役割について学習する。							
第13回 景品表示法～紛争事例をもとにして～						ディスカッション	
景品表示法の概要を学び、実際の措置命令を確認しながら、景品表示法の役割について学習する。							
第14回 公益通報者保護法と消費者の権利利益の擁護						ディスカッション	
内部告発・公益通報による情報が消費者の権利利益の保護につながることを学ぶとともに、公益通報者保護のあり方について考える。							
第15回 消費者紛争の解決手段～消費者ADRを中心に～						ディスカッション	
法律上の権利実現のための手段としての裁判制度を学び、とりわけ消費者の被害救済手段である消費者ADRを中心にその手続(和解の仲介・仲裁)内容を学修する。							

成績評価方法	<p>評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験（レポート試験）</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を主体的に述べていること、また、ディスカッションの内容に適した意見を述べていること。レポートにおいて、論理的に一貫し、指定されたキーワードを適切に用いており、かつ、適切な具体例を挙げて2問とも論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等をすべて適切に明示し解答していること。 顕著に、消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力を修得したといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、紛争解決への道筋をつけることができ、具体的な解決提案ができるレベルである。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。また、ディスカッションの内容に触れる意見を述べていること。レポートにおいて、論理的に一貫し、指定されたキーワードを適切に用いており、かつ、適切な具体例を挙げて2問のうちいずれか1問、論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等を概ね明示し解答していること。 完全とはいえないが、消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力を概ね修得したといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、どのような法的論点があり、その論点に対してどのような法令の適用が可能か理解しているレベルである。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。レポートにおいて、指定されたキーワードを適切に用いていること、かつ、適切な具体例を挙げて2問とも論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等のいずれか二つ以上を明示し解答していること。 消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力の一部を修得したといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、どのような法的論点があるか理解しているレベルである。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べていること。レポートにおいて、論理一貫性はないものの、指定されたキーワードを用いており、かつ、具体例を挙げて2問のうちいずれか1問、論じていること。 単位修得試験では、具体例を交えた用語の説明、法的論点の析出、判断基準に基づいた紛争解決に向けての事実の当てはめ、紛争解決手段・方法の提示等のいずれか一つを明示し解答していること。 消費生活をめぐる法的紛争に対する法的思考力、未然防止（予防）能力や事後的救済能力を形成する一端に触れたといえるレベルである。 具体的には、消費者紛争に遭遇した際には、どのような相談機関・紛争解決機関に問い合わせればよいか理解しているレベルである。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	参考書は指定しない。ただし、消費者庁ホームページ（ http://www.caa.go.jp/ ）及び独立行政法人国民生活センターホームページ（ http://www.kokusen.go.jp/ ）を適宜、閲覧することが望ましい。
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	情報活用 (基礎)		担当者	本田 直也、野波 侑里
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング		
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。		単位修得試験実施方法	現地試験(課題)		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	プレゼンテーション実務士、日本語教員養成課程(新基準)						
特記事項							
学習目標	大学生生活のあらゆる場面に對して身につけておくべきコンピュータの基礎的な活用能力を養う。本学での授業参加に不可欠なコンピュータの適切な利用方法を学ぶ。ワープロソフトでのレポート作成、表計算ソフトを用いた数値の集計やグラフ等の図解表現、スライド作成ソフトでのプレゼンテーション資料の作成などの基礎能力を習得する。						
学習の進め方	本授業は、本学さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行う。スクーリングへの参加前に事前学習として基礎的なタイピング能力を身につけておくこと(備考欄を参照)。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 様々な授業で課されるレポート課題(アカデミックライティング)に必要なWordの機能を実践的に用いてみる。 実際のデータを用いたデータ入力および集計と、グラフを描き適切な加工を行い表現してみる。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 文字入力、基本操作						
	学内ネットワークの利用方法、テキストエディタでの文字入力、印刷、ファイルの保存、ネットワークドライブの利用等の演習を行い、大学生活において最低限必要なコンピュータ操作を習得する。						
	第2回 Word その1						
	文書作成に有用なWordについて学習する。基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字の入力・装飾、罫線の挿入などを習得に向けた演習を行う。						
	第3回 Word その2						
	Wordにて論理的で伝わりやすい文書作成を行う際に必要となる、「表」の作成・編集の基礎、および「クリップアート」や「図」などの挿入・編集の基礎を学習する。						
	第4回 Word その3						
	タブやインデント等のレイアウトに関するテクニックを学習する。						
	第5回 Word その4						
	これまでの学習のまとめとして、指示に基づいた資料作成の演習を行う。						
	第6回 Excel その1						
	データの整理・計算に有用なExcelについて学習する。Excelの基礎的なスキルとして、画面構成の把握、値の入力・訂正、数式の入力による計算を学習する。						
	第7回 Excel その2						
	絶対参照と相対参照について学習する。						
第8回 Excel その3							
基本的な組み込み関数などを習得するための演習を行い、Excelを用いたあらゆるデータの効果的・論理的な整理や計算についての演習を行う。							
第9回 Excel その4							
および視覚的な表現を行うために必要となる、表の作成・編集(書式、移動と複写など)とグラフの作成・編集についての演習を行う。							
第10回 Excel その5							
Excelを使用した総合的な演習を行う。							
第11回 PowerPoint その1							
プレゼンテーションに有用なツールであるPowerPointについて学習する。PowerPointの基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字入力・装飾、スライド構成の編集、デザイン変更、オブジェクトの挿入などを習得するための演習を行う。							
第12回 PowerPoint その2							
Word、Excelと連動させたPowerPointの操作について学習する。							
第13回 複合課題 その1							
これまでに習得した内容を総合的に活用するような複合課題に取り組む。							
第14回 複合課題 その2							
第13回と同じく複合課題に取り組む。							
第15回 まとめ							
単位修得試験実施							
成績評価方法	授業態度(20%)、提出課題(30%)、課題単位修得試験の結果(50%)により総合評価する。						
教科書	著書 『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice2016対応』 著者 noa出版 出版社 noa出版 出版年度 2016年						
参考書(任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint						

備考	<p>受講者上限人数 演習40名 本授業は全員で足並みを揃えながら課題を解き学習を進めてゆく。パソコンの操作や入力に手間取って遅れないように、最低限の文字入力スキルを身につけておくこと。特別な事情を抱えており修得が困難な場合は個別に連絡すること。</p> <p>【文字入力】 日本語文章300文字を10～15分程度で入力できることが望ましいです。参考までに300文字の日本語文章入力サンプルを紹介します。 全国商業高等学校協会主催の「ビジネス文書実務検定試験」では、入力速度を測定する試験問題の過去問題を公開しています。下記のサイトより3級検定問題の速度問題を開き、お試しください。(2018年1月15日アクセス) http://www.zensho.or.jp/puf/examination/pastexams/bido.html</p> <p>入力練習は、市販のタイピングソフト、タイピング練習Webサイト等、何を利用いただいても構いません。おすすめの練習サイトは下記マイタイピングです。 (2018年1月15日アクセス) ひよこでも出来るタイピング練習講座(マイタイピング) https://typing.twi1.me/training</p> <p>ゲーム性の高いタイピング練習ソフトは楽しいが、あまり向上や修得には繋がらない。それらはあくまでタイピング能力を用いた娯楽として利用し、練習は基礎的なトレーニングを行った方が上達する。</p>
----	--

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	情報活用 (基礎)		担当者	畑 耕治郎	
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング			デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。			単位修得試験実施方法	現地試験(課題)		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	プレゼンテーション実務士、日本語教員養成課程(新基準)							
特記事項								
学習目標	大学生活のあらゆる場面に對して身につけておくべきコンピュータの基礎的な活用能力を養う。本学での授業参加に不可欠なコンピュータの適切な利用方法を学ぶ。ワープロソフトでのレポート作成、表計算ソフトを用いた数値の集計やグラフ等の図解表現、スライド作成ソフトでのプレゼンテーション資料の作成などの基礎能力を習得する。							
学習の進め方	本授業は、本学さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行う。スクーリングへの参加前に事前学習として基礎的なタイピング能力を身につけておくこと(備考欄を参照)。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 様々な授業で課されるレポート課題(アカデミックライティング)に必要なWordの機能を実践的に用いてみる。 実際のデータを用いたデータ入力および集計と、グラフを描き適切な加工を行い表現してみる。 							
学習内容	概要				課題			
	第1回 文字入力、基本操作							
	学内ネットワークの利用方法、テキストエディタでの文字入力、印刷、ファイルの保存、ネットワークドライブの利用等の演習を行い、大学生活において最低限必要なコンピュータ操作を習得する。							
	第2回 Word その1							
	文書作成に有用なWordについて学習する。基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字の入力・装飾、罫線の挿入などを習得に向けた演習を行う。							
	第3回 Word その2							
	Wordにて論理的で伝わりやすい文書作成を行う際に必要となる、「表」の作成・編集の基礎、および「クリップアート」や「図」などの挿入・編集の基礎を学習する。							
	第4回 Word その3							
	タブやインデント等のレイアウトに関するテクニックを学習する。							
	第5回 Word その4							
	これまでの学習のまとめとして、指示に基づいた資料作成の演習を行う。							
	第6回 Excel その1							
	データの整理・計算に有用なExcelについて学習する。Excelの基礎的なスキルとして、画面構成の把握、値の入力・訂正、数式の入力による計算を学習する。							
	第7回 Excel その2							
	絶対参照と相対参照について学習する。							
	第8回 Excel その3							
基本的な組み込み関数などを習得するための演習を行い、Excelを用いたあらゆるデータの効果的・論理的な整理や計算についての演習を行う。								
第9回 Excel その4								
および視覚的な表現を行うために必要となる、表の作成・編集(書式、移動と複写など)とグラフの作成・編集についての演習を行う。								
第10回 Excel その5								
Excelを使用した総合的な演習を行う。								
第11回 PowerPoint その1								
プレゼンテーションに有用なツールであるPowerPointについて学習する。PowerPointの基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字入力・装飾、スライド構成の編集、デザイン変更、オブジェクトの挿入などを習得するための演習を行う。								
第12回 PowerPoint その2								
Word, Excelと連動させたPowerPointの操作について学習する。								
第13回 複合課題 その1								
これまでに習得した内容を総合的に活用するような複合課題に取り組む。								
第14回 複合課題 その2								
第13回と同じく複合課題に取り組む。								
第15回 まとめ								
単位修得試験実施								
成績評価方法	授業態度(20%)、提出課題(30%)、課題単位修得試験の結果(50%)により総合評価する。							
教科書	著書 『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice2016対応』 著者 noa出版 出版社 noa出版 出版年度 2016年							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint							

備考	<p>受講者上限人数 演習40名 本授業は全員で足並みを揃えながら課題を解き学習を進めてゆく。パソコンの操作や入力に手間取って遅れないように、最低限の文字入力スキルを身につけておくこと。特別な事情を抱えており修得が困難な場合は個別に連絡すること。</p> <p>【文字入力】 日本語文章300文字を10～15分程度で入力できることが望ましいです。参考までに300文字の日本語文章入力サンプルを紹介します。 全国商業高等学校協会主催の「ビジネス文書実務検定試験」では、入力速度を測定する試験問題の過去問題を公開しています。下記のサイトより3級検定問題の速度問題を開き、お試ください。(2018年1月15日アクセス) http://www.zensho.or.jp/puf/examination/pastexams/bido.html</p> <p>入力練習は、市販のタイピングソフト、タイピング練習Webサイト等、何をご利用いただいても構いません。おすすめの練習サイトは下記マイタイピングです。 (2018年1月15日アクセス) ひよこでも出来るタイピング練習講座(マイタイピング) https://typing.twi1.me/training</p> <p>ゲーム性の高いタイピング練習ソフトは楽しいが、あまり向上や修得には繋がらない。それらはあくまでタイピング能力を用いた娯楽として利用し、練習は基礎的なトレーニングを行った方が上達する。</p> <p>【その他】 本授業は、システムエンジニアとしての実務経験を生かして、実用的な活用事例の紹介などを加えて授業を進めます。</p>
----	---

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	情報機器プレゼンテーション			担当者	佐々木 英洋
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士								
特記事項									
学習目標	情報機器を活用したプレゼンテーション技法を実践できるようになる。プレゼンテーションソフト「PowerPoint」を用い、テキスト表示ならびに図解を用いたビジュアルなスライドを作成することができるようになる。効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか説明することができるようになる。自己の考えや企画を情報機器の特性を活かし、効果的にプレゼンテーションで表現することができるようになる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ、PowerPointの基本操作について「情報活用」のテキスト文献等で調べておくこと。 ・プレゼンテーションについて書籍等で調べておくこと。 <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・新聞・雑誌・ニュース等でプレゼンテーション技法がどのように生かされているかを調べ、理解すること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 プレゼンテーションの概要								レポート
	プレゼンテーションの定義・重要性、プレゼンテーションの計画から発表までの流れ、プレゼンテーションを行う際のツール活用の利点について学習する。								
	第2回 スライドの作成 1								レポート
	ビジュアルツール作成ソフトウェア「PowerPoint」の機能と特徴・ファイル構成・画面構成について学習し、簡単なスライドの作成・スライドのデザイン選択・スライドショーの実行について学習する。								
	第3回 スライドの作成 2								レポート
	スライドの内容をより効果的に理解させるための図解化のツールである表組みとグラフの挿入と編集について学習する。								
	第4回 スライドの作成 3								レポート
	スライドの内容をより効果的に理解させるための図解化のツールである図形・オブジェクト・画像ファイルの挿入と編集について学習する。								
	第5回 効果的に伝えるコンテンツ作成の手法 1								レポート
	効果的に発表内容を伝えるためのスライド作成のテクニックとして図解化のメリット・ポイント・図解作成の流れについて学習する。また図解作成の際に特に効果的であるSmartArtの利用について学習する。								
	第6回 効果的に伝えるコンテンツ作成の手法 2								レポート
	効果的に発表内容を伝えるためのスライド作成のテクニックとして箇条書き・表・グラフを利用するメリットとポイントを学習する。								
	第7回 スライド作成の際の様々なテクニック								レポート
	PowerPointの標準の機能でスライドを作成しても十分だが、オリジナルのデザインをスライドに適用したい場合の、スライドマスターの作成とその利用について学習する。								
第8回 スライドショーにおけるアニメーション機能の活用								レポート	
作成したスライドは、スライドショーで発表するが、その際文字や図形のアニメーションを活用することでより効果的なプレゼンテーションにつながる事が多い。そこでスライドショーにおける文字や図形のアニメーション・スライドの切り替え効果の活用について学ぶ。									
第9回 スライドの印刷・配布資料・スライドショーの実行・ノート作成								確認テスト	
プレゼンテーションを聴き手により理解してもらうために、スライドを印刷して配付する場面が多い。スライド印刷の種類と特徴について学習する。また、スライドショーの実行中の操作の種類・ノートの作成について学習する。									
第10回 評価の視点からのスライド作成								レポート	
よいプレゼンテーションが行われるために「聴き手」からも「発表者」に改善点などを働きかける必要がある。プレゼンテーションの場における「聴き手」側に向けた時の評価の視点・ポイントやスライド作成のポイント・注意点を学習する。									
第11回 プレゼンテーションの実施								レポート	
スライドを作成しただけでは効果的なプレゼンテーションはできない。実際にプレゼンテーションを行う際に、より効果的に聴衆に内容を理解してもらうために準備する点、ならびにプレゼンテーション実施後の重要点について学習する。									
第12回 スライド作成・プレゼンテーション実践編 1								プレゼンテーション	
実例のプレゼンテーションとして大学紹介を行うことを想定し、スライド作成・プレゼンテーションの実行を行うことを学ぶ。									
第13回 スライド作成・プレゼンテーション実践編 2								プレゼンテーション、ディスカッション	
企画を新しく立て説得のプレゼンテーションを行うために必要なスライド作成・プレゼンテーションの実行を行うための技法を学習する。									
第14回 プレゼンテーション実施の際の法規・モラル								ディスカッション	
スライドを作成しプレゼンテーションを実施する際に注意が必要な、個人情報、プライバシーの保護・知的財産権の保護、特に産業財産権、著作権について、それらに関する法規・モラルを考慮しながら学習する。									
第15回 実際の業務で活用される図解								レポート	
企業などで実際の業務において品質管理・工程管理・データの流れや関連のモデル化のために活用される図解の内容を学習する。									

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（レポート・プレゼンテーション・ディスカッション）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 (1) 各回「レポート」「プレゼンテーション」において、すべて出題した条件を満たしており、本授業で学習した以上の工夫が数多く施されている。 (2) 各回「ディスカッション」において、吟味・熟考された発言と他者に対する助言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて、「説得」のプレゼンテーションを積極的に行うことができると判断される。 以上3項目をすべて満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容をすべて十分理解しているだけでなく、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、学習内容を十分に活用して、自らが聴き手積極的に働きかける「説得」のプレゼンテーションに活用できる。</p> <p>【B評価】 (1) 各回「レポート」「プレゼンテーション」において、すべて出題した条件を満たしており、本授業で学習した内容を適切に用いている。 (2) 各回「ディスカッション」において、条件を満たした発言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて「説明」のプレゼンテーションを積極的に行うことができると判断される。 以上3項目をすべて満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容をすべて理解しており、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、学習内容を十分に活用して、自らが聴き手積極的に働きかける「説明」のプレゼンテーションに活用できる。</p> <p>【C評価】 (1) 各回「レポート」「プレゼンテーション」において、すべて出題した条件を満たしており、本授業で学習した内容を部分的に用いている。 (2) 各回「ディスカッション」において、条件を満たした発言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて「説明」のプレゼンテーションを与えられた指示通りに行うことができる。 以上3項目をすべて満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解しており、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、学習内容を用いて与えられた指示通りに「説明」のプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>【D評価】 (1) 各回課題「レポート」「プレゼンテーション」において、出題した条件を最低限満たしている。 (2) 各回「ディスカッション」において、最低限の条件を満たした発言・意見が行われている。 (3) 単位修得試験「レポート」で提出されたファイルを用いて「情報を与える」プレゼンテーションにはなっているが、「説明」のプレゼンテーションを行うには不十分である。 以上3項目をすべて満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解しているが、実際にスライド・シナリオ・原稿作成において、「情報を与える」プレゼンテーションを行うことができるとどまる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint, Microsoft Office Word, Microsoft Office Excel (バージョンは問わない)
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 PowerPointを用いたスライド作成やプレゼンテーション技法を学習するので、コンピュータ操作を行う際に必要な操作を理解し、効率的な日本語入力（タッチタイピング）を身につけておくことが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	情報セキュリティ事例研究			担当者	鳥巣 泰生
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	情報資産に対するいろいろな脅威を分析することが出来るようになり、リスクマネジメントを学習することにより、会社や家庭の情報資産を守るための適切なセキュリティ対策が出来るようになる。結果、安全かつ快適に情報資産を利用運用することが出来るようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、確認テストがありますので確認テストを終わらせ、次の回に進みましょう。なお、確認テストには資格試験の問題なども出題していますので、授業で触れられなかった文言や内容に関しては参考書やネットで独学し研究してください。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 情報セキュリティに関する意識を常にもって、家庭や職場の情報セキュリティの脆弱なところを発見するよう心掛ける。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 理解したいところや興味をもったところに関しては、積極的に書籍や雑誌、ネットなどで調べ知識を深めるようにする。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 情報セキュリティとは何か								確認テスト、ディスカッション
	さまざまなリスクの存在を知り、それらの対策を踏まえた情報セキュリティの必要性を学習する。								
	第2回 ネットワークのしくみ								確認テスト
	ネットワークの構造を知り、通信プロトコルについて学習する。								
	第3回 侵入者から身を守ろう								確認テスト
	通信プロトコルを利用した不正アクセスの事例を知り、その対策方法を学習する。								
	第4回 盗聴を防ごう								確認テスト
	盗聴の事例を知り、その対策方法を学習する。								
	第5回 単純なパスワードはすぐに見破られる								確認テスト
	パスワードの必要性、単純なパスワードの脆弱性を知り、パスワード運用のポイントを学習する。								
	第6回 Webサイトを守ろう								確認テスト
	Webサイトを攻撃する手口を知り、その対策を学習する。								
	第7回 Webサイトを安全に利用しよう								確認テスト
	Webサイトで個人情報が盗まれる危険性を理解し、安全にやり取りする方法を学習する。								
	第8回 メールは不正なデータを送りつけるのに最適								確認テスト
メールを使った嫌がらせの手口を知り、対策のポイントを学習する。									
第9回 そのURLは本当に安全？								確認テスト	
Webサイトやメールを使った個人情報の盗み方を知り、情報の取捨選択を学習する。									
第10回 ウイルスは怖いもの								確認テスト	
ウイルスの危険性を知り、予防の方法を学習する。									
第11回 コンピュータの外も意識しよう								確認テスト	
コンピュータの外で個人情報が漏れる可能性を把握し、それらの対策を学習する。									
第12回 セキュリティポリシーを持とう								確認テスト	
情報セキュリティのポリシーを理解し、PDCAサイクルの重要性を学習する。									
第13回 セキュリティの標準規格とルールについて知ろう								確認テスト	
情報セキュリティの規格と仕組みを理解し、システム監査の重要性を学習する。									
第14回 次世代のセキュリティ技術								確認テスト	
情報セキュリティでは、新たな技術が出てくる事を知り、常に情報を集める姿勢が重要である理由を学習する。									
第15回 まとめ								ディスカッション	
14回の総復習とまとめを行う。									

成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション参加、単位修得試験、各回の確認テスト、授業期間内完了の有無により総合評価する。</p> <p>【A評価】 ディスカッションに積極的に参加し、適切な自己の意見を述べるとともに、他の意見に適切なコメントや質問をしている。 単位修得試験において、80%以上の得点を得る。 授業期間内完了の有無、各回の確認テストで優秀と評価できる結果が見られる。 情報セキュリティポリシーの作成に参加ができる能力がある。</p> <p>【B評価】 ディスカッションに積極的に参加し、適切な自己の意見を述べるとともに、他の意見にコメントや質問をしている。 単位修得試験において、70%以上の得点を得る。 授業期間内完了の有無、各回の確認テストで優秀と評価できる結果が見られる。 ネットワーク環境の管理者として、各種脅威から身を守る能力がある。</p> <p>【C評価】 ディスカッションに参加し、自己の意見を述べるとともに、他の意見にコメントや質問をしている。 単位修得試験において、60%以上の得点を得る。 授業期間内完了の有無、各回の確認テストで評価できる結果が見られる。 職場などの、ネットワーク環境でコンピュータを利用するにあたって、各種脅威から身を守る能力がある。</p> <p>【D評価】 ディスカッションに参加し、自己の意見を述べるとともに、他の意見にコメントや質問をしている。 単位修得試験において、50%以上の得点を得る。 授業期間内完了の有無、各回の確認テストで評価できる結果が見られる。 個人や家庭でコンピュータを利用するにあたって、各種脅威から身を守る能力がある。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ネットワークに関する基本的知識があれば、ネットワークを介する脅威が理解しやすい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	資料分析学		担当者	近藤 伸彦
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	指定のあるデジタル教材が全て「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験の教養(基礎能力)科目のうち、一般知能科目である「判断推理」「空間把握」「数的推理」「資料解釈」における、とくに地方上級をターゲットとしたときの頻出分野において、実際に問題されやすい形式の問題に正しく解答することができる。 ・上の学習目標に示した各科目の学習を通して、資料分析のための次のような基礎的能力を身につける。 【判断推理】与えられたひとまとまりの記述をもとに、論理的な推論を行うことができる。 【空間把握】与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。 【数的推理】数学的に解決できる基本的な課題に対して、適当な数学的方法をもって正しく推論することができる。 【資料解釈】与えられた表やグラフを正しく解釈することができる。 							
学習の進め方	<p>本授業では、みなさん自身が具体的な問題を解くことを中心に学習を進めます。各回のオンデマンド教材では、例題を提示してみなさん自身がまずこれに取り組み、その後解説を視聴して解き方を確認する、という流れの繰り返しを基本とします。ここで学習した内容をもとに各回の最後には4~5問の確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。このように、動画の視聴だけでなく実際にみなさん自身が問題を解きながら学習を進めるため、総合的に多くの学習時間を必要とします。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体もやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、論理的思考により「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。</p>							
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違えたり解答につまずいたりした問題を中心に、再度各回の例題や確認テストに取り組み、速く正確に解答できる状態になるまで繰り返しオンデマンド教材を視聴すること。 ・公務員試験対策においては、本科目で取り扱う頻出分野について、参考書や問題集等に取り組み、多くの問題に触れることで理解を深めること。また頻出分野以外についても、学習コミュニティ等も活用し、各自対策を行うこと(これは本科目の成績評価には関係しませんが、公務員試験対策として自主的な学習を行うことを推奨します)。 							
学習内容	概要							課題
	第1回 【判断推理】順序関係							確認テスト
	「判断推理」の頻出分野である「順序関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。							
	第2回 【判断推理】対応関係							確認テスト
	「判断推理」の頻出分野である「対応関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。							
	第3回 【判断推理】論理(命題)							確認テスト
	「判断推理」の頻出分野である「論理(命題)」について、基本的な解法パターンを学ぶ。							
	第4回 【判断推理】位置関係							確認テスト
	「判断推理」の頻出分野である「位置関係」について、基本的な解法パターンを学ぶ。							
	第5回 【判断推理】数量、手順、その他の判断推理							確認テスト
	「判断推理」の頻出分野である「数量」および「手順」について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまで学んだものの以外の「判断推理」の各分野の概略を理解する。							
	第6回 【空間把握】平面図形							確認テスト
	「空間把握」の頻出分野である「平面図形」について、基本的な解法パターンを学ぶ。							
	第7回 【空間把握】軌跡、立体構成							確認テスト
	「空間把握」の頻出分野である「軌跡」および「立体構成」について、基本的な解法パターンを学ぶ。							
	第8回 【空間把握】展開図、投影							確認テスト
「空間把握」の頻出分野である「展開図」および「投影」について、基本的な解法パターンを学ぶ。								
第9回 【空間把握】切断、回転・移動、その他の空間把握							確認テスト	
「空間把握」の頻出分野である「切断」および「回転・移動」について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまで学んだものの以外の「空間把握」の各分野の概略を理解する。								
第10回 【数的推理】数と式の計算							確認テスト	
「数的推理」における、「数と式の計算」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。								
第11回 【数的推理】方程式・不等式							確認テスト	
「数的推理」における、「方程式・不等式」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。								
第12回 【数的推理】割合・比							確認テスト	
「数的推理」における、「割合・比」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。								
第13回 【数的推理】速さ・距離・時間							確認テスト	
「数的推理」における、「速さ・距離・時間」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。								
第14回 【数的推理】場合の数・確率、その他の数的推理							確認テスト	
「数的推理」における、「場合の数・確率」に関する頻出分野について、基本的な解法パターンを学ぶ。また、ここまで学んだものの以外の「数的推理」の各分野の概略を理解する。								
第15回 【資料解釈】数表・グラフ							確認テスト	
「資料解釈」における頻出分野である「数表」および「グラフ」について、基本的な解法パターンを学ぶ。								

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 90点以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題に対して効率よくかつ正しく解答できることに加え、初歩的な応用問題にも対応できるレベルである。以下の4種類の能力について総合的に高いレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を効率よく行うための基盤的能力が十分に備わっている。</p> <p>判断推理：与えられたひとまとまりの記述をもとに、論理的な推論を行うことができる。 空間把握：与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。 数的推理：数学的に解決できる基本的な課題に対して、適当な数学的方法をもって正しく推論することができる。 資料解釈：与えられた表やグラフを正しく解釈することができる。</p> <p>【B評価】 70点以上90点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であれば、一定程度の速さでほぼ正しく解答できるレベルである。A評価基準に示した4種類の能力について総合的にある程度高いレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行うための基盤的能力が備わっている。</p> <p>【C評価】 50点以上70点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であれば、時間をかければある程度正しく解答できるレベルである。A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しており、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行うための最低限の基盤的能力が備わっている。</p> <p>【D評価】 30点以上50点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った問題形式に近い問題であっても正しく解答できないものが少なからずあるレベルであるが、少なくとも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。A評価基準に示した4種類の能力について総合的に妥当なレベルに達しておらず、文章や図形等で構成される資料から論理的に正しい推論や分析を行うための最低限の基盤的能力が備わっていない。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	人事・労務管理		担当者	中嶋 哲夫
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者として、その企業の人事制度について、建設的な議論ができるようになる。同時に、専門用語のうち、とりわけ人事制度と人事評価に関する用語については専門家では無い人に対してもわかりやすく平易な言葉で説明できるようになる。具体的なある会社の人事制度（例えば成果主義型の人事制度）が示されたときに、その制度の善し悪しを評価し、旧来の一般的な人事制度（例えば年功序列・終身雇用型の人事制度）と比べたときの長所、短所を述べるができるようになる。経営者と従業員、上司と部下の間の円滑な関係を築くことができる人事制度の要素を挙げる事ができ、それを職場で説明したり実践したりすることができるようになる。						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをとりながら受講すること。 ・雇用する立場から授業を理解をすること（従業員としての感想や意見ではなく）。 ・第6回のレポートを書く前に、添付の副教材を読むこと。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 人事・労務管理入門			確認テスト、ディスカッション			
	人事・労務管理を学ぶうえで、どのような観点を持てばよいのかを理解するために、人事・労務管理の学習内容の概要を説明する。						
	第2回 経営環境・労働市場と労働行政			確認テスト			
	企業内の人事・労務管理の仕組みが、経済環境や労働法の影響を大きく受けていることを説明する。						
	第3回 労働力の調達			確認テスト			
	高齢化、高学歴化（労働供給側）、高度知識化、サービス化（労働需要側）の動向を説明した上で、雇用契約の開始と終了にともなう人事・労務管理の内容を説明する。						
	第4回 キャリアの形成とその管理（1）			確認テスト、レポート			
	長期的な雇用契約の中で、個人がキャリアを形成するとき、人事・労務管理をどのようにとらえればよいかを説明する（この回だけは個人の側から見た人事・労務管理を説明）。						
	第5回 キャリアの形成とその管理（2）			確認テスト			
	明文化された人事制度と職場慣行、格付制度、社員区分制度、人事異動、昇格管理などについて説明する。						
	第6回 人事評価制度			確認テスト、レポート			
	人事評価制度を組み立てるときの考え方について説明を行う。評価対象、評価基準、評価方法、評価者の4つの要素を説明する。						
	第7回 評価制度の運用			確認テスト、レポート			
	現在、多くの先進企業で取り組まれている目標管理とコンピテンシー評価の運用を、職場のレベルで説明する。						
第8回 賃金制度の管理			確認テスト				
内的報酬と外的報酬、変動給と固定給、付加給付などの決め方について説明する。そのなかで、職能給や職務給の考え方の違いも説明する。							
第9回 能力開発の管理			確認テスト、ディスカッション				
生涯を通じた能力開発と仕事を通じた学習の理論を説明し、企業内の人材育成のあり方を説明する。							
第10回 働く環境の管理			確認テスト				
労働時間の弾力化と長時間労働、メンタル・ヘルス、ワーク・ライフ・バランス施策などについての企業の責任について述べる。							
第11回 従業員関係の管理			確認テスト				
集团的労使関係、個別的労使関係、労使のコミュニケーションなど、労使の信頼関係を深める手立てについて説明する。							
第12回 モチベーション理論と人事・労務管理			確認テスト、レポート				
角度を変えて、職場での部下の動機づけについて、モチベーション理論とリーダーシップ理論を説明する。							
第13回 戦略的人的資源管理			確認テスト				
1990年代以降に発達している事業戦略と人的資源管理戦略の補完関係に関する理論を説明する。							
第14回 グローバル人的資源管理			確認テスト				
企業がグローバルな活動を行う時代になり、人事・労務管理もグローバルな視野が必要になってきている。その具体的なイメージを描くため、日本企業の活動と、日本国内での外国人雇用の側面について説明する。							
第15回 労働過程の変化と人的資源管理			確認テスト、ディスカッション				
経済活動の内容の変化とそれに伴う近年のトピックスについて話をする。労働内容の分化、サービス労働化、感情労働化、ダイバーシティー、労働市場流動化、ブラック企業などについて説明をする。							

成績評価方法	<p>単位修得試験、第12回レポート課題（各回の課題含む）</p> <p>【A評価】 各回の確認テストに準じた単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、レポート課題において、問題を具体的に指摘し、その改善策を的確に述べている。人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話のポイントを理解することができる（基礎的な能力）うえで、働いている組織の人事制度を正確に理解し、その長所と短所を指摘することができる。</p> <p>【B評価】 各回の確認テストに準じた単位修得試験において満点にやや近い成績を修め、レポート課題においては問題点を具体的に指摘しているが、その改善策についてはやや不十分なものとなっている。</p> <p>【C評価】 各回の確認テストに準じた単位修得試験において最低限として求められる成績を修める。レポート課題においては問題点の指摘に（偏りや曖昧さ）が見られ、改善策が述べられていない。</p> <p>【D評価】 各回の確認テストに準じた単位修得試験において最低限として求められる成績を修めることができず、レポート課題の内容も感想文のレベルに留まる。ただし、各回の課題において学習内容を理解していることを示している。</p> <p>また、現状の人事制度の課題についての確な提案ができる。リーダーの立場にある人については、働いている組織の人事制度を活かして、職場運営を効果的にすることができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『新しい人事労務管理 第5版』、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、有斐閣アルマ、2,000円（税抜）、2015年</p> <p>『正しい目標管理の進め方』、中嶋哲夫著、東洋経済新報社、1,800円（税抜）、2015年</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 組織での勤務体験があるほうが授業内容を理解しやすい（友人などに組織での人事のあり方を質問したりすることで補うことが可能である）。組織での勤務体験に加えて、仕事のなかでリーダーの体験をしていると、より授業がわかりやすい。</p> <p>【その他】 本授業では、企業における12年間にわたる人事制度構築、人事制度運用のノウハウとコンサルタントとしての25年以上の人事制度運用のノウハウを講義の随所で活用し、具体的な内容と理論的内容をマッチさせている。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	身体科学		担当者	渡辺 勉
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	自分の体のことは意外と知らないものだ。人間の体の基本的な構造や機能を理解し、怪我や病気をした際に、適切な対処行動を取れるように自分の身体との付き合い方を学ぶ。また、マスメディアやインターネットにあふれる健康情報に振り回されない知識を身につける。						
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として授業を進める。教科書で事前に予習をしているとより理解しやすい。適宜、参考資料を提示している。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを見て、事前に図書館などでその授業の参考になる本や資料を調べていると、理解が進むことでしょう。 ・レポートに取組む際にはデジタル教材だけではなく、参考になる本を調べる。授業でわかりにくいところは自ら参考になる本などを探す努力をすること。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 身体科学とは何か？						確認テスト
	身体科学を歴史的に概観し、ヒトの体の構造や機能の概略を知る。身体科学のこれからについても考える						
	第2回 歩く、走る、立つ、座る						レポート
	ヒトの骨格や筋肉について学び、二足歩行の巧妙さを知る						
	第3回 食べるということ						確認テスト
	食べ物の栄養素や消化、吸収について学ぶ						
	第4回 メタボリック症候群とは？						レポート
	メタボリック症候群について知り、肥満が万病の元であることを理解する。また、予防法を考える						
	第5回 病気から体を守る						確認テスト
	病気とは何かを知り、人体に備わった免疫システムなど外敵からの防御システムを知る						
	第6回 眠るということ						レポート
	睡眠とサーカディアンリズムについて学び、睡眠障害の現状を知る						
	第7回 体調を整える						確認テスト
自律神経やホルモンについて理解する。環境ホルモンについても学ぶ							
第8回 酸素は体をめぐる						レポート	
心臓、肺、血管の構造と機能を知る。臓器移植についても考える							
第9回 見る、聞く、味わう...						確認テスト	
五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）について学び、痛みとはどういうものかを知る							
第10回 体内をきれいにする						レポート	
人体に備わっている排泄機能とそれを担っている臓器について知る							
第11回 記憶や情動は脳の働き						確認テスト	
脳の基本的な構造や機能を知る							
第12回 子どもを産むということ						レポート	
受精、妊娠、出産について理解する。不妊治療の現状や性感染症についても学ぶ							
第13回 疲れるとは？						確認テスト	
疲労研究の最前線を見る							
第14回 喫煙・飲酒と健康						レポート	
たばこの害、お酒やコーヒーの効用と害、薬物依存症の怖さを知る							
成績評価方法	課題や平常の学習態度が（40％）、単位修得試験が（60％）で評価する。						
教科書	著書 『図解入門 よくわかる生理学の基本としくみ（図解入門 メディカルサイエンスシリーズ）』 著者 當瀬 規嗣 出版社 秀和システム 出版年度 2014年3月20日 1版 ISBN 9784798012223						
参考書（任意購入）	『人体の構造と機能 1 解剖生理学（系統看護学講座 専門基礎分野）』、坂井建雄、医学書院、3,800円（税抜）、2009年 学習内容に沿って適宜提示する						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学概論		担当者	松並 知子
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、社会福祉主事【任用資格】						
特記事項							
学習目標	本講義では、心理学に初めて接する学生を対象に、心理学における基礎的な知識と考え方を紹介する。心理学の主な領域について、つまり、感覚や記憶・思考について解明する認知心理学、刺激と反応から心的過程を類推する行動心理学、人間の発達過程とそのメカニズムを研究する発達心理学、精神病理やパーソナリティについて研究する臨床心理学、脳の仕組みと働きについて研究する生理心理学、そして、個人や集団の心理と行動について研究する社会心理学などについて、学習を進めてゆく。また、これらの各分野の内容と主だった発見や理論を紹介しながら、心理学とは一体どのような学問であるのかを包括的に考え、解明していくことができるようになる。						
学習の進め方	学習意欲の高い受講生の参加を求める。本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進める。学習をはじめるときには必ず、各回の学習内容と学習目標を確認してから学習を進めること。毎回ごとには、確認テストがあるので確認テストをクリアしてから次の回へ進むこと。また、確認テストには納得できるまで取り組むこと。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 心理学に関連する専門書を活用すること、参考書をよく読んで取り組むこと。 参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨する。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 はじめに			確認テスト			
	心理学概論のオリエンテーションで始まり、心理学の歴史と、さまざまな領域について学ぶ。						
	第2回 認知心理学 (1) 感覚・知覚・運動			確認テスト			
	感覚と知覚、視覚、聴覚、運動の知覚について学ぶ。						
	第3回 認知心理学 (2) 知能・記憶・言語			確認テスト			
	知能、記憶、言語について学ぶ。						
	第4回 認知心理学 (3) 思考			確認テスト			
	概念と推理、問題解決について学ぶ。						
	第5回 行動心理学 (1) 学習			確認テスト			
	学習について学ぶ。						
	第6回 行動心理学 (2)			確認テスト			
	要求、行動について学ぶ。						
	第7回 まとめテスト			ディスカッション、まとめテスト			
	要求、行動について学ぶ。						
	第8回 発達心理学			確認テスト			
発達の原理、生物学的発達、社会的発達について学ぶ。							
第9回 臨床心理学 (1) パーソナリティ			確認テスト				
パーソナリティ、適応と不適応について学ぶ。							
第10回 臨床心理学 (2) 精神病理			確認テスト				
精神障害、心理療法、その他の問題について学ぶ。							
第11回 生理心理学			確認テスト				
脳と神経系、覚醒と睡眠、動機と情動の神経機構について学ぶ。							
第12回 社会心理学 (1) 個人			確認テスト				
自己、社会的相互作用、コミュニケーション、対人関係について学ぶ。							
第13回 社会心理学 (2) 集団			確認テスト				
集団の構造化、集団意思決定、集合現象について学ぶ。							
第14回 実験 身近に感じる心理学			ディスカッション				
実験を実際に体験し、さまざまな心理学的現象を理解する。							
第15回 まとめ			まとめのテスト				
最近の心理学の分野、科目の全体的まとめについて学ぶ。							
成績評価方法	平常点(50%)は、第1回～第13回に実施する各回の確認テストとまとめのテストの結果によって決まる。単位修得試験は、(50%)の配分とする。						
教科書	なし						
参考書(任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> 『心理学』、詫摩武俊(編)、新曜社、2010年6月20日 改訂版、9784788503618 『心理学の基礎』、今田寛、賀集寛、宮田洋、培風館、2003年4月 3訂版 『心理学って何だろう』心理学ジュニアライブラリ、市川伸一、北大路書房、2002年11月 						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学研究法		担当者	西本 実苗
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	目に見えない「心」に対し、実証的にアプローチするために使われる、各種の心理学研究法について説明できることを目標とする。さらに、「心」について何らかの仮説を立て、その仮説を検証するための方法について説明できることも目標とする。						
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して授業を進める。また、デジタル教材中で教科書のページを参照する指示がある場合は、必ず教科書も参照すること。回ごとに課題として設置されている確認テストを終わらせてから次の回に進むこと。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書には、一通り目とおしておくこと。 確認テストの受験後、不正解の箇所および、理解が不十分であったところは、デジタル教材や教科書等を確認しておくこと。 						
学習内容	概要					課題	
	第1回 「心」に対する実証的なアプローチ					確認テスト	
	心という「目には見えないもの」に対し、心理学ではどのようなアプローチを行ってきたか概観する。						
	第2回 科学と実証					確認テスト	
	実証的科学としての心理学研究について概観する。						
	第3回 観察法					確認テスト	
	観察法の特徴と方法について学習する。						
	第4回 面接法					確認テスト	
	面接法の特徴と方法について学習する。						
	第5回 実験法					確認テスト	
	実験法の特徴と方法について学習する。						
	第6回 質問紙法					確認テスト	
	質問紙法の特徴と方法について学習する。						
	第7回 セマンティック・ディファレンシャル法(SD法)					確認テスト	
	セマンティック・ディファレンシャル法(SD法)の特徴と方法について学習する。						
第8回 心理検査法1					確認テスト		
心理検査法の特徴と代表的な心理検査について学習する。							
第9回 心理検査法2					確認テスト		
心理検査の質を判断するための統計的な手がかりおよび、心理検査を行う際の留意点について学習する。							
第10回 精神物理学的測定法					確認テスト		
精神物理学的測定法の特徴と方法について学習する。							
第11回 横断的研究法と縦断的研究法					確認テスト		
横断的研究法と縦断的研究法の特徴と方法について学習する。							
第12回 統計的仮説検定					確認テスト		
統計的仮説検定の考え方や、心理学研究においてよく使われる各種検定について学習する。							
第13回 実験計画法					確認テスト		
心理学研究における実験計画法について学習する。							
第14回 心理学研究と多変量解析					確認テスト		
心理学の研究においてよく使われる、因子分析等の多変量解析について学習する。							
成績評価方法	各回の確認テストの結果の合計(50%)、単位修得試験結果(50%)とした総合評価とする。						
教科書	著書 『心理学研究法--データ収集・分析から論文作成まで』 著者 大山正、宮益壽夫、岩脇三良 出版社 サイエンス社 出版年度 2009年5月25日 1版 ISBN 97847819111083						
参考書(任意購入)	『心理学研究法--心を見つめる科学のまなざし』、高野陽太郎、岡隆、有斐閣、2,100円(税抜)、2004年						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学統計法」の学習内容について理解していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習 A			担当者	布井 雅人、櫻本 和也、高橋 裕美、 八木 彩乃
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場 札幌会場 仙台会場 名古屋会場 岡山会場 福岡会場
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】								
特記事項									
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。								
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことも多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、ひとつの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、WordやExcelの基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。特に、Excelの操作について事前学習用ホームページを確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 オリエンテーション								
	心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項についてふれる。								
	第2回 実験レポートの作成について								
	論文やレポートを構成する項目(目的、方法、結果、考察)について学ぶ。								
	第3回 ミュラー・リヤー錯視								
	ミュラー・リヤーの錯視図形を例にとり、刺激条件と知覚判断との間における法則性について学ぶ。								
	第4回 ミュラー・リヤー錯視								
	第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響について考察することを目的とする。								
	第5回 ミュラー・リヤー錯視								レポート
	第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響についてレポートを作成する。								
	第6回 投影法の基礎								
	あいまいな刺激材料を基にして、個人間の反応がどのように変化するのかについて学ぶ。								
	第7回 投影法の基礎								
	第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察することを目的とする。								
第8回 投影法の基礎								レポート	
第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察してレポートを作成する。									
第9回 エゴグラム - TEG -									
心理学において代表的な心理検査の一つであるエゴグラムを用いて、自分自身を客観的に把握する。									
第10回 エゴグラム - TEG -								レポート	
第9回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に、自分自身について考察し理解を深める。									
第11回 レポートについての講評									
成果と課題を中心に、ここまでの取り組みを中心に振り返る。									
第12回 語の記憶									
無意味語の記憶を課題とした記憶実験を通して、記憶・保持・再生などの過程を含む記憶について学ぶ。									
第13回 語の記憶									
第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察することを目的とする。									
第14回 語の記憶								レポート	
第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察してレポートを作成する。									
第15回 まとめ								レポート	
ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。									
成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容(80%)を主にして、出席時の態度(授業への意欲的な参加・姿勢)(20%)を踏まえ、総合的に評価する。								
教科書	著書 『教材心理学(第4版)-心の世界を実験する-』 著者 木下富雄 他編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 4版 ISBN 9784888480123								
参考書 (任意購入)	適宜、参考資料を配布する。								
必須ソフト ・ツール	なし								

備考	<p>本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Aを受講した後に演習Bを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。受講者の上限人数は実習40名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。</p> <p>先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。</p>
----	--

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習 B			担当者	布井 雅人、櫻本 和也、高橋 裕美、 八木 彩乃
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場 札幌会場 仙台会場 名古屋会場 岡山会場 福岡会場
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】								
特記事項									
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。								
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことも多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、一つの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、WordやExcelの基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。また、Aで扱ったレポートの書き方・Excel等について確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 オリエンテーション								
	心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項について確認する。								
	第2回 Y-G性格検査								
	心理学において代表的な心理検査の一つであるY-G性格検査を用い、自分自身を客観的に把握する。								
	第3回 Y-G性格検査								レポート
	第2回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に自分自身について考察して理解を深める。								
	第4回 メンタル・ローテーション(心的回転)								
	2種類(平面・奥行き)の回転図形を用いて、心的回転と心的イメージの関係性について学ぶ。								
	第5回 メンタル・ローテーション(心的回転)								レポート
	第4回で実施した実験データを整理し、心的イメージについて考察してレポートを作成する。								
	第6回 鏡像描写								
	古くから試みられている「学習の成立過程」の分析について、鏡像描写の実験を通して学ぶ。								
	第7回 鏡像描写								
	第6回で実施した実験データを整理し、知覚・運動学習および学習の転移について考察する。								
第8回 鏡像描写								レポート	
第6回で実施した実験データを整理し、知覚・運動学習および学習の転移についてレポートを作成する。									
第9回 情報伝達									
流言が口から口へと伝えられていく過程について、連鎖的再生法を用いて情報変容の法則性を学ぶ。									
第10回 情報伝達								レポート	
第9回で実施した実験データを整理し、情報伝達の心理過程について考察してレポートを作成する。									
第11回 レポートについての講評									
成果と課題を中心に、ここまでの取り組みを中心に振り返る。									
第12回 ストループ効果									
ストループの実験を通して、ストループ干渉がどのように生じているかについて学ぶ。									
第13回 ストループ効果									
第12回で実施した実験データを整理し、ストループ効果について考察し理解を深める。									
第14回 ストループ効果								レポート	
ストループ効果についてのレポートを作成し、あわせて統計法についての理解も深める。									
第15回 まとめ									
ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。									
成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容(80%)を主にして、出席時の態度(授業への意欲的な参加・姿勢)(20%)を踏まえ、総合的に評価する。								
教科書	著書 『教材心理学(第4版)-心の世界を実験する-』 著者 木下富雄 他編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 4版 ISBN 978488480123								
参考書 (任意購入)	適宜、参考資料を配布する。								
必須ソフト ・ツール	なし								

備考	<p>本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Aを受講した後に演習Bを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。受講者の上限人数は実習40名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。</p> <p>先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。</p>
----	--

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学総合演習		担当者	枚田 香、具 英姫
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング		
単位修得試験受験資格	15回の授業のうち2/3以上の出席をしていること		単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)東京会場
資格名	認定心理士、日本語教員養成課程(新基準)						
特記事項							
学習目標	心理学のジャンルは多岐にわたっており、かといってそれぞれが浅いものではなく、深く広く学習することが理想ではあるが、現実には得意な分野についてより専門的な研究をすすめる方がよい。この先専門分野に特化するにしても、主な心理学の理論は知っておくことがないので、一通りの基本を再確認することを目標とする。						
学習の進め方	スクーリング当日までに事前配布資料に目を通しておくことが望ましい。スクーリング終了後に理解できなかった箇所や気になった箇所は各自で復習すること。受け身の講義ではなく、他の受講生とディスカッションしたり、教員に質問したりするような進行となる。						
授業時間外学習	配布された資料等に目を通しておくこと。						
学習内容	概要					課題	
	第1回 ガイダンスおよび心理学の歴史					レポート	
	学派と中心的な研究法						
	第2回 心の進化と発達					レポート	
	ヒトが優れている理由						
	第3回 ライフサイクルと発達課題					レポート	
	生まれてから死ぬまでの心の発達						
	第4回 動機づけと情動					レポート	
	やる気と感情						
	第5回 性格と知能					レポート	
	性格類型、性格検査(心理テスト)、知能検査						
	第6回 ストレスとメンタルヘルス					レポート	
	ストレスの理論とメンタルヘルスケアへの応用						
	第7回 カウンセリングと心理療法					レポート	
	カウンセリング技法と代表的な心理療法						
第8回 感覚					レポート		
人間の五感、刺激を処理する仕組み							
第9回 知覚					レポート		
感覚情報を脳で処理する仕組み							
第10回 記憶					レポート		
記憶のステップ、記憶の種類、忘却							
第11回 学習					レポート		
行動の変容、動機づけ							
第12回 思考					レポート		
問題解決、推論、創造力							
第13回 脳と心					レポート		
脳の仕組み、脳地図、脳損傷の影響							
第14回 社会のなかの人と心理学					レポート		
集団心理、群集心理							
第15回 まとめ					レポート		
全体の振り返り							
成績評価方法	平常点(60%)、レポート(40%)						
教科書	なし						
参考書(任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	随時プリントを配布 受講者上限人数 グループワークを含む講義40名						

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学統計法			担当者	西本 実苗
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、社会調査士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】								
特記事項									
学習目標	実験や調査により得られたデータを適切に集計し、それらの集計結果を第三者にも分かりやすい形式で表現することができるようになる。2変数間の関係性を示す「相関」について理解し、図表や統計的分析結果をもって2変数間の関係性について検討できるようになる。統計的仮説検定について理解し、t検定等、心理学分野でよく使われる各種の検定手法を用いて実験や調査により得られたデータを適切に分析することができるようになる。官公庁等公的機関による統計や、心理学とその隣接分野の論文等、公表された統計的分析結果を読み解くことができるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」の「レポートの書き方」を学習しておくこと。 授業内の「学習を始める前に」掲載の「Excel「分析ツール」アドインの導入方法」を参照し、「分析ツール」を各自のパソコンのExcelに組み込んでおくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に設置している課題で正解できなかったところ、よく理解できていなかったところについて特定し、それらの点についてオンデマンド教材を視聴して復習し理解しておくこと。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 代表値、度数分布表、ヒストグラム								確認テスト
	データの特徴の記述方法について学ぶ。 主な代表値の特徴と求め方、度数分布表およびヒストグラムとはどのようなものか、それらの作成方法について学習する。								
	第2回 散布度のいろいろ								確認テスト
	主な散布度の特徴と求め方について学ぶ。 散布度のひとつ、「標準偏差」の実用例としての「偏差値」について知り、標準得点(z値)の利用について理解を深める。								
	第3回 変動係数・正規分布								確認テスト
	変動係数とはどのようなものか理解し、その求め方と活用について学ぶ。 正規分布とはどのようなものか理解し、データ分析への活用について学ぶ。								
	第4回 パーセントイル・箱ひげ図								確認テスト、プレゼンテーション
	「パーセントイル」とはどのようなものか、そしてその活用法についても学習する。 データのばらつきを視覚化するための手法である「ヒストグラム」について確認する。 「箱ひげ図」についてどのようなものか学び、その作成方法および活用法について学習する。								
	第5回 グラフでデータを視覚化・データの「尺度」								確認テスト
	データを視覚化するためのグラフについて学ぶ。 各種グラフの特徴と目的に応じた使い分けについて学ぶ。 データにはその測定水準により「尺度」という分類があることを知る。 データはその「尺度」により適応できる統計処理方法が異なってくることを学ぶ。								
	第6回 散布図と相関係数								確認テスト
	2つの事柄(変数)の間の関係性について検討するために、散布図や相関係数といったツールが使えることを学ぶ。 さらに、そのような関係性=相関を調べるときに注意すべき点についても学ぶ。								
	第7回 擬似相関、偏相関係数、独立変数と従属変数								確認テスト
	Excel関数による相関係数の求め方について知る。 見せかけの相関である「疑似相関」について理解し、データ分析の際の留意点について学ぶ。 相関を検討する際のツールとしての「偏相関係数」の利用について学ぶ。独立変数および従属変数の考え方について学ぶ。								
第8回 クロス集計表								確認テスト	
質的変数どうしの関係性を検討するために用いる「クロス集計表」とはどのようなものか学び、その作成方法と解釈の仕方について学ぶ。									
第9回 推測統計学、そして仮説検定								確認テスト	
「母集団」と「標本」の関係について知る。 一部のデータ=標本から全体=母集団を推定する「推測統計学」の概略について学ぶ。 「仮説検定」の考え方と、その進め方について学ぶ。仮説検定における「第1種の過誤」および「第2種の過誤」について知る。									
第10回 カイ二乗検定								確認テスト	
質的変数についての代表的な統計的検定手法である「カイ二乗検定」について、それがどのようなものか学ぶ。 さらに、カイ二乗検定のデータ分析への適用についても学ぶ。									
第11回 t検定(2群の平均値の差の検定)								確認テスト	
2つのグループ間の平均値の差について検討する統計的検定手法である「t検定」について、それがどのようなものか学ぶ。 さらに、データ分析へのt検定の適用について学ぶ。 Excel「分析ツール」利用									
第12回 1要因の分散分析								確認テスト	
3つ以上のグループ間の平均値の差について検討する統計的検定手法である「分散分析(1要因)」について、それがどのようなものか学ぶ。 さらに、データ分析への1要因の分散分析の適用と分散分析をした後の多重比較について学ぶ。 Excel「分析ツール」利用									
第13回 2要因の分散分析								確認テスト	
要因が2つになった場合の平均値の差について検討する統計的検定手法である「分散分析(2要因)」について、それがどのようなものか学ぶ。 データ分析への2要因の分散分析の適用について学ぶ。 Excel「分析ツール」利用									
第14回 回帰分析								確認テスト	
原因-結果関係にありそうな2変数間の因果関係について検討する手法である「回帰分析」の概略について学習する。 回帰分析は「単回帰分析」と「重回帰分析」の2つに大別できるが、それぞれのデータ分析への適用について学ぶ。									
第15回 多変量解析について・心理学統計法のまとめ								確認テスト	
「多変量解析」について概要を入門的に述べる。 多変量解析の一種で心理学分野でよく用いられる「因子分析」について例題データをもとに入門的に扱う。 本科目の第1回から第15回第2節までに学習した各種統計的手法のふりかえりをおこなう。									

成績評価方法	<p>評価材料：毎回の確認テスト、プレゼンテーション課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】 確認テスト：トータルで90%～100%の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し、代表値と散布度のそれぞれについて複数求めることができている。「報告書」としての見やすさや分かりやすさについて工夫がみられる。データ分析の結果について自分なりの考察を加えている。他者の課題について積極的にコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題は全て正解できている。与えられたデータについて図表で表現する、基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題について全て正解できている。正規分布の考え方や、正規分布のデータ分析への適用に関する問題についてほぼ正解できている。推測統計学の考え方や、与えられたデータについて指定された方法で統計的検定をおこなうことにかかわる問題についてはほぼ正解できている。多変量解析の概要について問う問題は6～7割程度正解できている。記述統計分野の知識と統計処理スキルについて高度なレベルで習得できている。データの尺度水準に合わせ適切な統計手法を選択することができる。正規分布の考え方について理解し、データ分析に適用することができる。推測統計学の考え方について理解し、処理すべきデータについて適切な統計的検定をおこない、その結果について判断することができる。多変量解析の手法について入門的な内容を理解し、説明できる。</p> <p>【B評価】 確認テスト：トータルで80%台の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し、代表値と散布度のそれぞれについて複数求めることができている。「報告書」としての見やすさや分かりやすさについて工夫がみられる。他者の課題について積極的にコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題は全て正解できている。与えられたデータについて図表で表現する、基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題について全て正解できている。正規分布の考え方や、正規分布のデータ分析への適用に関する問題について半数以上は正解できている。推測統計学の考え方や、与えられたデータについて指定された方法で統計的検定をおこなうことにかかわる問題について半数以上は正解できている。多変量解析の概要について問う問題は4～5割程度正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについて高度なレベルで習得できている。データの尺度水準に合わせ適切な統計手法を選択することができる。正規分布の考え方について理解し、データ分析に適用することができる。推測統計学の考え方について理解し、与えられたデータについて指定された方法で統計的検定をおこなうことができる。多変量解析の手法について入門的な内容を理解し、簡単な説明をすることができる。</p> <p>【C評価】 確認テスト：トータルで70%台の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し、代表値と散布度のそれぞれについて複数求めることができている。他者の課題についてコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題は全て正解できている。与えられたデータについて図表で表現する、基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題について全て正解できている。2変数間の関係性（相関）について授業で扱った手法を使い検討することにかかわる問題についてはほぼ正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについて十分に習得できている。収集したデータについてその尺度水準に合わせた記述統計手法を判断することができる。2変数間の関係性（相関）について散布図や相関係数、クロス集計表などの手法を使い検討することができる。</p> <p>【D評価】 確認テスト：トータルで最低合格ラインの60%台の得点。 プレゼンテーション課題：集めたデータについて度数分布表とヒストグラムを作成し、代表値と散布度のそれぞれを最低1種類ずつ求めることができている。他者の課題についてコメントをできている。 単位修得試験：記述統計分野の知識と統計処理スキルについて問う問題はほぼ正解できている。与えられたデータについて図表で表現する、基本的な記述統計量を求めるといったことにかかわる問題についてはほぼ正解できている。 記述統計分野の知識と統計処理スキルについては習得できている。与えられたデータを整理し、図表で表現するとともに、基本的な記述統計量を求めるなど、集計結果をまとめることができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel (Windows版はバージョンは問わない。Mac版は2016以上。)
備考	<p>【履修の前提とするもの】 四則演算、平方根、べき乗といった基本的な計算スキル。なお、これらの計算については、Excelや電卓などのツールを使って計算できればOKです。 Excelを用いた統計処理を行うため、Excelの基本的な操作に習熟している必要があります。例えば、オートフィル、四則演算とべき乗、SUM関数など関数の挿入、絶対参照と相対参照、円グラフ・棒グラフ・帯グラフ・折れ線グラフの挿入といったスキルや知識は必須です。 Excelの「分析ツール」を統計処理に用いるため、「分析ツール」をExcel上で使えることが前提となります。したがって、各自で学習に使うパソコンの環境（Windows10等OSのバージョンとExcelのバージョンの組み合わせ）でExcelの「分析ツール」が利用可能であることを確認した上で、あらかじめ「分析ツール」を各自のパソコンのExcelに組み込んでおくことが必要です。 Wordを用いて統計処理結果報告文書を作成するため、Wordの基本的な操作に加えて、図を用いた文書の作成に習熟している必要があります。例えば、Excelグラフを図として貼り付け、画像の挿入、図のレイアウト（文字列の折り返し）といったスキルです。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 前述の「履修の前提とするもの」に挙げたこと以外、特にありません。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	スイーツ学でお菓子探訪			担当者	松井 博司
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	・全授業への出席 ・課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スイーツを学術的に捉えるとはどういうことかを説明できる。 2. 専門的スキルを論理的に表現できるようになる。 3. スイーツの経済的発展の経緯について説明できる。 4. 洋菓子の発祥地神戸について、歴史・文化の概要を解説できる。 								
学習の進め方	スイーツ学を理解し神戸スイーツの歴史と文化を学ぶ。さくら夙川キャンパスにて、「スイーツ学」の講義、レポート作成、実習室でのスイーツ演習(試食付き)、グループディスカッションを行う。2日目は、見学・講習会を行ったうえ、レポート課題を期日までに提出する。								
授業時間外学習	・神戸のスイーツに関する参考資料などを調べておく。								
学習内容	概要								課題
	第1日目								レポート、プレゼンテーション、ディスカッション
	「スイーツ学」の講義をさくら夙川キャンパスの学内教室で実施する。 午前、スイーツ学の内容を理解しスイーツの歴史と文化(世界史、日本史)を学ぶ。さらに、神戸の洋菓子文化について解説する、講義のあと、課題をレポート作成する。(A4用紙1枚) 午後からは、実習室でスイーツ演習としてデモンストレーション授業(試食付き)を行う。デモンストレーション授業後には、課題についてのグループディスカッションを行う。								
	第2日目								レポート、ディスカッション
9:10集合 阪神西宮駅前に集合し実地見学を行う。 当日の予定の確認および課題についての説明 9:45~11:00《見学・講習》 株式会社シュゼット ハーバースタジオ43 見学・講習 11:30~12:00 阪神西宮駅から阪神元町駅に移動 12:00~15:30 昼食および元町周辺を自由見学 その後、15:30に大手前大学L11集合 課題レポートを期日までに提出									
成績評価方法	講義内容についての課題レポート、プレゼンテーション、実地見学講習時の課題レポートにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	一部授業中に紹介								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 見学先企業について、変更の可能性があります。								

メジャー(専修)名				授業科目名	数学			担当者	浦畑 育生
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	現代社会のビジネスにおける「数学」の活用の場を知る。また、実務や実生活で「数学」を使いこなせるようになることを目標にする。								
学習の進め方	教科書に沿ったデジタル教材を主として学習を進めます。なお、数学に自信がない人、長い間遠ざかっている人、数学アレルギーの方も無理なく楽しく学習できるカリキュラムになっています。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に教科書の該当範囲の教科書を一読しておく、より理解が深まります。そのあとでデジタル教材を閲覧して下さい。 受講後は確認テストを復習し、教科書の該当範囲の例題や練習問題に取り組んでください。 								
学習内容	概要								課題
	第1章 微分積分 1-1 関数とは？ 関数とは何か？グラフの読み方は？など、数学を学習する上での基本事項をおさらいする。 1-2 微分 「微分」の意味を理解し、株価変動の分析などの実生活での実用例を考察する。 1-3 積分 「積分」の意味を理解し、v-tグラフなど実生活での実用例を考察する。								確認テスト
	第2章 確率 2-1 確率とは？ 確率の基本的な考え方を学ぶ。 2-2 条件付き確率 誤解しやすい条件付き確率を、トランプゲームを用いて考察する。 2-3 期待値 期待値の基本的な考え方を理解し、実生活での活用を目指す。主に丁半・ルーレット・競馬などのギャンブルを例にとり研究する。								確認テスト
	第3章 PERT/CPM 3-1 PERT 代表的なスケジュール管理法であるPERTの基本をマスターする。 3-2 CPM PERTをさらに発展させた、積極的な納期・コスト管理のフレームワークを習得します。								確認テスト
	第4章 ゲーム理論 4-0 ゲーム理論とは？ 近年、ビジネス界で脚光を浴びているゲーム理論とは何か？を考察する。 4-1 同時ゲーム 出店競争の事例を用いて、同時ゲームの解き方をマスターする。 4-2 事例研究 「囚人のジレンマ」「コミットメント」などをテーマに発展的な同時ゲームの事例研究をします。 4-3 交互ゲーム 出店競争のビジネス事例を用いて、交互ゲームの解き方をマスターする。								確認テスト
	第5章 線形代数 5-0 線形代数の基礎 線形代数の基本的な考え方をマスターする。 5-1 行列式 行列式の仕組みについて学習する。 5-2 行列式 行列式の計算方法を習得する。								確認テスト
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)								
教科書	著書 『ラストリゾート数学』 著者 花島健吾 出版社 じゃあそれで堂 出版年度 2011年6月10日 1版								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト ・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	政治学		担当者	石黒 太
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 政治および政治学において用いられる基礎的な概念について正確に説明できるようになる。 日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国の政治制度（選挙制度を含む）の概要について正確に説明できるようになる。 日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国における政治の実態について、政治学上の諸概念を用いて正確に説明できるようになる。 現代の政治においてあらわれる様々な政治現象やそれを説明する理論について、正確に説明できるようになる。 自由主義や民主主義といった現代の政治の基盤となっている重要な政治原理について、その歴史的な意味や現代における意義、具体的な制度上の現れなどを含め、正確に説明することができるようになる。 歴史上の重要な政治思想家の思想、政治の発展に寄与した政治原理について、正確に説明できるようになる。 <p>上記の知見をもとに、現状の政治現象の捉え方や対策、政治的問題に対する意見、あるいはあるべき政治の姿について、自分なりの考えをまとめ、説明することができるようになる。</p>							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 興味関心をもって新聞を読む習慣をつけておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内容を理解して、課題や次回の学習に取り組むこと。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 政治とは何か。政治学とはいかなる学問か							確認テスト
	学習のキックオフとなる。「政治」とはどのような営みであるかを学び、同時に、政治を対象とする「政治学」という学問がどのような科目であるのかを学ぶ。							
	第2回 政治思想（古代～近代の政治思想）							確認テスト
	古代から近代にかけての著名な政治思想家（ソクラテス・プラトン・アリストテレス・マキャベリ・ボダン・ホッブズ・ロック・ルソー等）の政治に関する思想・哲学を学ぶ。							
	第3回 政治思想（自由主義と民主主義）							レポート
	現代の政治を支える最も重要な政治原理である自由主義と民主主義についての基本的な理解を深める。							
	第4回 現代の自由主義（政府の役割の変化）							レポート
	自由主義の思想がどのように発展し、そして変化したのかについて学び、現代の国家・政府の役割を理解する。							
	第5回 君主制と共和制、議院内閣制と大統領制							レポート
	現代の国家の分類・整理方法を学ぶ。特に、議院内閣制と大統領制の区別を学び、それぞれの特徴について理解する。							
	第6回 政治制度（アメリカ合衆国）							レポート
	アメリカ合衆国の政治制度の基本について、大統領制と連邦制を中心に学ぶ。							
	第7回 政治制度（日本）							確認テスト
	日本の政治原理及び日本の議院内閣制について学ぶ。							
第8回 議会と立法過程							レポート	
議会の性質に関する2類型である変換型議会とアリーナ型議会の違いについて学ぶ。日本の国会の特徴について学ぶ。日本の国会の立法過程の実態、流れについて学ぶ。								
第9回 選挙制度							レポート	
選挙制度の分類法について学ぶ。日本の選挙制度について学ぶ。								
第10回 選挙制度							確認テスト	
日本が採用する選挙制度について学ぶ。拘束名簿式と非拘束名簿式の違いを理解し、衆議院と参議院の選挙方法の違いについて学ぶ。実際にドント式の計算方法を用いて、衆議院と参議院の比例選挙区の獲得議席数を計算する。								
第11回 投票行動							ディスカッション	
投票行動に関する理論の展開の流れについて学ぶ。投票行動研究の起点である二つのグループの研究の、調査方法・結果の違いを学ぶ。日本の有権者の投票行動の傾向について学ぶ。								
第12回 マス・メディアと政治							レポート	
マス・メディアの意味と社会的な役割について学ぶ。マス・メディアの発展の歴史を学ぶ。マス・メディアの政治的な機能について学ぶ。								
第13回 政党と利益集団							確認テスト	
政党の政治的機能について学ぶ。政党制とは何かについて学ぶ。政党制の分類法と各国の政党制について学ぶ。								
第14回 政党と利益集団							確認テスト	
利益集団の機能について学ぶ。利益集団の活動に関する二つのモデルについて学ぶ。日本の利益集団の活動について、その特徴を学ぶ。								
第15回 現代政治の諸問題と講義のまとめ							レポート	
現代政治における主要な対立軸を学ぶ。グローバル・イシューと世界の現状について学ぶ。一連の講義を振り返る。								

成績評価方法	<p>毎回の課題の出来と、単位修得試験の到達度の両者をあわせて評価する。政治学の基礎的な知識が身についているかを確認するとともに、講義中に扱った政治学上の問題や考え方を基に自分の考えを説明できるかどうかを問う。</p> <p>【A評価】 以下の項目を確認すべく出題した課題及び単位修得試験において、全ての項目において概ね正しく解答することができており、また政治学上の問題や考え方を理解したうえで、自分の意見を述べる事ができている。 ・政治および政治学において用いられる基礎的な概念について正確に説明できる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国の政治制度（選挙制度を含む）の概要について正確に説明できる。 ・日本・アメリカを中心に講義中に扱った諸外国における政治の実態について、政治学上の諸概念を用いて正確に説明できる。 ・現代の政治においてあらわれる様々な政治現象やそれを説明する理論について、正確に説明できる。 ・自由主義や民主主義といった現代の政治の基盤となっている重要な政治原理について、その歴史的な意味や現代における意義、具体的な制度上の現れなどを含め、正確に説明することができる。 ・歴史上の重要な政治思想家の思想、政治の発展に寄与した政治原理について、正確に説明できる。 ・上記の知見をもとに、現状の政治現象の捉え方や対策、政治的問題に対する意見、あるいはあるべき政治の姿について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。 詳細は授業内の「成績評価方法について」を参照のこと</p> <p>【B評価】 上記の項目のうち、1～2項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、政治学上の問題や考え方を理解したうえで、自分の意見を述べる事ができている。</p> <p>【C評価】 上記の項目のうち、2～3項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、時に政治学上の問題や考え方を踏まえていないことがあるが、自分の意見を述べる事はできている。</p> <p>【D評価】 上記の項目のうち、3～4項目について正しく解答することができていないが、それ以外の項目については概ね正しく解答することができている。また、時に政治学上の問題や考え方を踏まえていないことがあるが、自分の意見を述べる事はできている。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 毎朝、新聞に必ず目を通し、政治情勢や社会の出来事に目を配っていること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	精神分析学		担当者	赤坂 和哉
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フロイトから始まる精神分析について、主要な研究者の名前を挙げて、それぞれの研究対象や分析技法、功績や業績について説明することができる。 ・精神分析における様々な学派の理論や主張の相違点について、その原因や経緯も含めて比較しながら、説明することができる。 ・精神分析が日常生活においていかに身近なものであるのかを、自分自身の経験をもとにして、具体例を挙げて説明することができる。 ・芸術・文学作品を取り上げて、精神分析の観点から作家や作品の分析ができる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進むこと。レポート課題があるので、事前にeL-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと(特に文字数に関して)。精神分析学の専門用語には似ている言葉が多いので、その違いに注意を払いながら、一つ一つの専門用語を把握しておくこと。						
授業時間外学習	・本授業を聞いて重要と思う点をノートに取り、それを補足する形で自己学習をすることが望ましい。						
学習内容	概要			課題			
	第1回 フロイトの精神分析			確認テスト、ディスカッション			
	精神分析の創始者フロイトを取り上げ、その人物像からはじめ、精神分析の誕生過程を最初に確認する。そして、無意識などの精神分析の中心概念を概観し、精神分析でよく批判の対象となる性愛に関して解説する。						
	第2回 フロイトの精神分析			レポート			
	フロイトの代表的な著作『夢判断』をもとに夢の意味を読み解く方法を概観し、臨床的に精神分析を学ぶ基礎と言われる5つの症例に触れ、最後にフロイト以降の精神分析の展開を大まかに確認する。						
	第3回 ユングの分析心理学			確認テスト			
	フロイトと決別し、分析心理学を打ち立てたユングを取り上げ、その生涯を最初に概観し、「内向的」等の言葉で知られるタイプ論を解説し、集約的無意識を形作る元型とその表現として箱庭やマンダラを取り上げる。						
	第4回 アドラーの個人心理学			確認テスト			
	フロイトと決別し、個人心理学を作ったアドラーを取り上げ、その人物像や考えなどをまず確認し、初期の劣等性に関する研究、中期のライフスタイルに関する研究、後期の共同体感覚に関する研究を順に見てゆく。						
	第5回 アンナ・フロイトらの自我心理学			レポート			
	フロイトの娘であり、自我心理学の礎を築いたアンナ・フロイトの生涯と防衛機制に関する研究を最初に概観し、自我の自律性を強調したハルトマンと自我の心理・社会的発達を研究したエリクソンを取り上げる。						
	第6回 クラインの対象関係論			確認テスト			
	アンナ・フロイトと理論・実践面で対立したクラインを取り上げ、その対立の中心となった空想概念をまず確認する。そして、クラインが基礎を作り上げた対象関係論の鍵概念である投影同一化などを取り上げる。						
	第7回 ボウルビィらの母子研究			確認テスト			
	自我心理学的な発想に端を発した、乳幼児の直接観察に基づく母子関係の実証的研究を取り上げる。具体的には、ボウルビィの愛着理論、マラーの分離-個体化理論、スターンの自己感の研究を解説する。						
第8回 コフトの自己心理学			確認テスト				
自己心理学を考案したコフトを取り上げ、その人物像や生涯をまず概観し、自己心理学の中心概念である双極性自己と自己対象を解説し、最後に、そうした概念と現象面の結びつきを有名な症例「X氏」で確認する。							
第9回 ウィニコットの対象関係論			ディスカッション				
現代の精神分析で重要な理論的な柱である対象関係論から、間にあるものに重きを置いたウィニコットを取り上げ、その生涯と中心概念を概観します。具体的には、ほど良い母親、移行対象、遊ぶことなどを取り上げる。							
第10回 ビオンの対象関係論			ディスカッション				
精神分析の対象「O」を追求したビオンを取り上げ、まずその人物像と集団に関する考え方を確認する。そして、容器・内容モデル、アルファ機能、対象「O」といったビオンの中心的な概念について解説する。							
第11回 ラカンの精神分析			レポート				
フロイトへの回帰を主張し、精神分析を現代的に甦らせたラカンを取り上げ、まずその生涯を概観する。そして、言語的な無意識について解説し、その動きを症例で確認し、最後に、ラカンの理論的展開を説明する。							
第12回 ドルトの児童分析			確認テスト				
子供の精神分析において特に評価が高く、「魔法を使う」とまで言われた類い希な臨床力を持つドルトを取り上げ、その人物像の説明からはじめ、ドルトが注目した去勢概念を理論および実践面から解説する。							
第13回 精神分析と診断学			ディスカッション				
精神疾患の診断には、DSM-IV等に見られる、症状を記述して分類した操作的診断基準が使用されている。このような診断基準には社会的な圧力が影響する問題点があり、それを精神的な懐疑を用いて考察する。							
第14回 精神分析と現代社会			ディスカッション				
父権主義・家父長主義などの様々な権威が失墜した現代社会では、精神分析の観点からは、普通精神病と普通倒錯という二つの現代に特徴的な人間のあり方が想定されている。この回では、この二つについて解説する。							
第15回 精神分析と病跡学			レポート				
フロイトはダ・ヴィンチ等の有名な人物を精神分析の手法を用いて間接的に分析した。こうした病跡学の観点から、フロイトによるダ・ヴィンチ論、ラカンによるジョイス論、他には宮崎駿を取り上げる。							

成績評価方法	<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッション課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】 B評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念を適切に用いて、自らの体験を熟考し、自分自身等について精神的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、受講者全体にさらなる理解や修得を促すような発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が非常に多く、精神分析の基礎的な概念をよく理解していること。</p> <p>【B評価】 C評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念と自らの体験を基にして、自分自身等について部分的にでも精神的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、前向きで積極的な発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が多く、精神分析の基礎的な概念を十分に理解していること。</p> <p>【C評価】 D評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業内容に適切に言及し、自分自身等について精神的に考えようとしていること。 ディスカッション課題で、間違ってもよいので自分の意見を述べること。 単位修得試験を受け、正解が半分はあり、精神分析の基礎的な概念を半分以上理解していること。</p> <p>【D評価】 以下の項目を満たし、総合的に見て単位を取るに足る習熟度を示していること。 レポート課題を提出していること。 ディスカッション課題に参加していること。 単位修得試験を受けていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> ▽ラカン派精神分析の治療論^a、赤坂和哉、誠信書房、3,300円(税抜)、2011年 ▽はじめてのラカン精神分析^a、赤坂和哉、誠信書房、2,000円(税抜)、2013年 ▽集中講義・精神分析<上>^a、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,700円(税抜)、2008年 ▽集中講義・精神分析<下>^a、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,700円(税抜)、2010年 ▽露出せよ、と現代文明は言う^a、立木康介、河出書房新社、2,400円(税抜)、2013年 ▽精神分析の迅速な治療効果^a、ジャック＝アラン・ミレール監修(森綾子訳)、福村出版、2,500円(税抜)、2018年
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 本授業を履修するまでに、参考書にあげた6冊の書籍、またはそれ以外の書籍でもよいので、精神分析の専門書(書店の精神分析の棚にある本)を一冊以上は読んでおくこと。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	青年心理学		担当者	芳田 茂樹
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	本授業では、青年期の諸理論を通して、身体的・生理的発達や自己意識の形成を中心に青年期の心身の発達が人間形成において重要な時期であることを認識し理解することを目的に行う。						
学習の進め方	本授業では、指定した教科書を活用して学習を進めます。学習をスタートするときは、必ず各章の学習のポイントやねらいを十分把握して学習を進めて下さい。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する教科書等は必ず目を通しておくこと。 ・辞典、専門書及び関連サイトを活用すること。 ・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。 ・各自で定期的に学習するスタイルを身につけること。 ・興味・関心を持って取り組むこと。 						
学習内容	概要					課題	
	第1章 青年期と青年心理学					確認テスト	
	青年期は発達段階では、どのような時期に位置づけられ、どのような課題に直面しているのかを考えてみよう。						
	第2章 青年期の思考と感情					確認テスト	
	青年期特有の感情や思考的方向性を通して、価値観や生きがいについて考えてみよう。						
	第3章 身体とジェンダー					確認テスト	
	思春期以降の身体・生理的発達特徴や性役割観について考えてみよう。						
	第4章 自己とアイデンティティ					確認レポート	
	自己意識やアイデンティティとは青年にとってどのような概念で位置づけられているのか。またそれはどのようにして形成されていくのかを考えてみよう。						
	第5章 家族と友人					確認テスト	
	青年期の親子関係や友人関係は、どのように発達し、どのように構築されていくのかを考えてみよう。						
	第6章 学校と学習					確認テスト	
青年期の多くの時間を過ごす「学校」での生活や就学することの意味を通して、青年期の生活意識について考えてみよう。							
第7章 進路と職業					確認テスト		
青年期のキャリア形成と職業観について考えてみよう。							
第8章 社会と政治					確認テスト		
青年期における社会的期待と役割、また社会参加について考えてみよう。							
第9章 障害と臨床					確認テスト		
思春期・青年期の問題解決にはどのようにしてサポートしていくべきかについて考えてみよう。							
第10章 大人になること					レポート		
大人になることとはどのようなことか？さまざまな社会的イニシエーションを通して考えてみよう。							
成績評価方法	レポート(25%)、確認テスト(25%)及び単位修得試験(50%)により総合評価する。						
教科書	著書 『よくわかる「青年心理学」』 著者 白井利明 出版社 ミネルヴァ書房 出版年度 2010年10月5日 1版 ISBN 9784623044733						
参考書(任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	本授業は、本学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。						

メジャー(専修)名				授業科目名	生物学概論		担当者	杉本 敬美
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	ヒトを含めた多細胞生物の生命活動の営みについて、生物の階層構造・DNAの転写と翻訳・タンパク質の機能、代謝・体内環境・刺激と運動・生体防御、生殖・発生・分化・遺伝、遺伝子疾患と遺伝子治療・バイオテクノロジー、シグナル伝達、分子生物学と医学、などの観点から説明できるようになる。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で、課題および次回の学習に取り組むこと。 授業内容の理解をより深めるために、積極的に参考書を活用することが望ましい。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 生物の基本単位である細胞						確認テスト	
	多種多様な細胞であっても、その基本構造は共通していることを学び、また、動物細胞と植物細胞、真核細胞と原核細胞では、それぞれ異なる構造体が含まれていることも知る。							
	第2回 生物の階層性-細胞から個体へ-						確認テスト	
	細胞数や細胞同士のつながりの強弱によって、多種多様な生物が個体として存在することを学ぶ。また、細胞内共生説についても学ぶ。							
	第3回 生命活動に必要な物質						確認テスト	
	生体を構成する主な物質を質量比の高い順に取り上げ、各物質がどのように生命活動に利用されているのかを学ぶ。							
	第4回 代謝						確認テスト	
	動物は、植物によって合成された栄養(有機物)を摂取し、それを分解(消化)することでエネルギーを得ている。この一連の過程を、物質とエネルギー、それぞれの観点から包括的に学習する。							
	第5回 体内環境と恒常性の維持						確認テスト	
	ヒトを含む動物では、体内環境を一定に保つ働き(恒常性)が備わっている。ここでは、体内環境を形成する体液について、主に、血液とリンパ液を中心に、体内での働きを学ぶ。							
	第6回 刺激と反応						確認テスト	
	生物は、常にさまざまな刺激を受取り、それに対する活動を起こしている。ここでは、私たちヒトの持つ受容器と効果器、さらに、それらをつなぐ神経について詳しく学ぶ。							
	第7回 生物の生体防御の仕組み						確認テスト	
	ヒトや動物などが持つ、異物(非自己)を排除する免疫の仕組みを学ぶ。また、ヒトの免疫異常による疾患について知ると共に、さまざまな免疫療法についても学習する。							
第8回 生殖と発生・分化						確認テスト		
さまざまな生物の生殖法を理解し、さらに、生殖細胞の形成・受精・発生・分化などの一連の過程を詳しく学習する。								
第9回 遺伝のしくみ						確認テスト		
メンデルの唱えた遺伝の基本概念を知ると共に、メンデルの法則に従わない遺伝について学ぶ。また、モーガンが作製した染色体地図の原理についても学ぶ。								
第10回 DNAの構造と複製のしくみ						確認テスト		
遺伝子の本体であるDNAの発見、DNAの化学構造の同定、DNAの複製の仕組みの解明などについて学ぶ。								
第11回 細胞分裂と細胞周期						確認テスト		
生物は細胞分裂を行うことによって、娘細胞にゲノムの分配を行うが、その分配の仕方は、体細胞と生殖細胞とで大きく異なることを学ぶ。								
第12回 遺伝情報の発現とその応用技術						確認テスト		
DNAの遺伝情報に基づいて、タンパク質が合成される仕組みを理解し、また、近年の遺伝子解析技術の進展によって、遺伝子の人工合成や改変が可能になったことなどを学ぶ。								
第13回 細胞の情報伝達						確認テスト		
細胞に影響を及ぼすシグナルと、細胞応答の仕方について学ぶ。さらに、シグナルを受容することによって生じる、さまざまな細胞の変化についても理解を深める。								
第14回 分子生物学と医学						確認テスト		
遺伝子変異と異常タンパク質がさまざまな疾患をもたらすことを理解した上で、遺伝子診断法や癌の発症メカニズムなどを詳しく学ぶ。また、いくつかの遺伝性疾患の治療法についても理解を深める。								
第15回 まとめ						ディスカッション		
第1回～14回の内容を振り返り、ヒトを含めた多細胞生物の生命活動の営みについて、総合的に理解を深める。								

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験（レポート試験）</p> <p>【A評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造を説明でき、また、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、特に興味を持った現象については、正確に説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、生殖・発生・分化・遺伝、生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、正確に説明できる。</p> <p>【B評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造をおおまかに説明でき、また、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、特に興味を持った現象については、おおまかに説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、生殖・発生・分化・遺伝、生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、おおまかに説明できる。</p> <p>【C評価】 レポート試験において、授業で得た知識を活かしながら、独自の視点で、生物の階層構造をおおまかに説明でき、あるいは、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象を理解し、ある現象については、おおまかに説明できると判断する場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、生殖・発生・分化・遺伝、生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、部分的に説明できる。</p> <p>【D評価】 レポート試験において、説明不足な部分も見受けられるが、授業で得た知識を活かして、生物の階層構造を説明しようとしている、あるいは、私たちヒトに備わるさまざまな生命現象について、不十分なながらも説明しようとしていると判断できる場合。 ヒトを含めた「多細胞生物の生命活動の営み」について、生物の階層構造・DNA情報の転写と翻訳・タンパク質の機能、生殖・発生・分化・遺伝、生体防御・体液と恒常性などの仕組みを、説明できていない部分もあるが、生物学の一定レベルの知識は身につけている。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『好きになる 生物学 第2版』、吉田邦久、講談社、¥2,000（税抜）、2012年</p> <p>『大森徹の最強講義117講 生物』、大森徹、文英堂、¥2,500（税抜）、2015年</p> <p>『Essential 細胞生物学 (原書第4版)』、中村桂子、松原謙一、南江堂、¥8,800（税抜）、2016年</p> <p>『アメリカ版 大学生物学の教科書 第3巻 分子生物学』、D・サダヴァ（ほか著）、石崎泰樹 / 丸山敬（監訳・訳）、講談社、¥1,600（税抜）、2017年</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提となるもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 高校で「生物基礎」または「生物」の履修経験があれば、よりいっそう理解を深めることができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	生命科学		担当者	渡辺 勉
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	生命科学は難しいと思われがちだが、実際の日常生活に深く関わっている。生命科学の基礎と現状を知り、どのような形で生活の中に入っているのかを具体的にみる。そして、生命科学の及ぼす影響がメリットばかりでなくデメリットもあることを理解し、生命科学の成果について批判的に考える力を身につける。						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主に活用して学習を進めます。毎回ごとに課題があるので、クリアしてから次の回へ進みましょう。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をはじめるときには必ず、各回のシラバス(学習概要)を見て、事前に授業に関連することに関して、調べておくことで、よりよく理解できる。 ・各回の受講後は、授業の内容に関して、関連のある報道などに常に関心をもち、わからないことは調べるという習慣を身につけることで理解が深まる。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 生命科学とは何か?						確認テスト
	生命科学とはどのような科学かを歴史や具体例を通して理解する						
	第2回 ヒトの進化						確認テスト
	ヒトがサルから進化した歴史を知り、ヒトとは何かを知る						
	第3回 生命の誕生						確認テスト
	海から生命が誕生し、突然変異と環境適応により多様な生物が誕生してきたことを知る						
	第4回 細胞						確認テスト、ディスカッション
	生物の体を構成する細胞の構造や機能を理解する						
	第5回 DNAとRNA						確認テスト
	DNAとRNA、ゲノムや遺伝子の基礎を学ぶ						
	第6回 遺伝子について						確認テスト
	遺伝子の基本的な働きを学び、遺伝子がわかることで何が出来るようになったかを理解する						
	第7回 がんと遺伝子						確認テスト、ディスカッション
	がんと遺伝子の関係を学び、がんのメカニズムと予防について理解する						
	第8回 ウィルスと細菌						確認テスト
細菌とウィルスの違いを知り、感染症について理解を深める							
第9回 免疫のシステム						確認テスト	
ヒトの生体防衛機構である免疫の基本を知り、その重要性を理解する							
第10回 老化						確認テスト	
老化のメカニズムについて、最新の知見を織り込みながら学ぶ。アンチエイジング医学についても理解を深める							
第11回 生命を操る						確認テスト、ディスカッション	
遺伝子組み換えやクローンなど具体例を挙げながらその基礎知識や問題点を探る							
第12回 生殖と発生、分化						確認テスト	
生殖や発生の基礎的なメカニズムを知り、不妊治療についても考える							
第13回 生物の多様性						確認テスト	
生物多様性の重要性を知り、危機に瀕する多様性の問題点を理解する							
第14回 生命倫理						確認テスト、ディスカッション	
生命倫理の生まれてきた歴史を知り、その重要性を理解する							
第15回 まとめ						確認テスト	
これまでに学んできたことを振り返り、生命科学のこれからを考える							
成績評価方法	各回の確認テスト(15%)、平常の学習態度(期間内学習)(15%)、ディスカッションへの参加(30%)、単位修得試験(40%)により総合評価する。						
教科書	なし						
参考書 (任意購入)	学習内容に沿って適宜提示する。						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名				授業科目名	世界の日本語教育			担当者	塚塚 千代
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	海外で日本語を教えるという仕事の具体的なイメージをつかみ、自分自身の教育目標が持てるようになる。また、各国における体験者の話を聞き、その国における学習者のニーズを知り、現実的な教育戦略が立てられるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 国際交流基金の国別サイト等を参考にして、各国の教育ポリシーや文化、日本語教育事情を簡単に調べておくこと。 【学習後に復習として実施すべきこと】 自分なら、どのようなスタイルで教え、現地の人達と接するかをイメージしておき、各国の日本語教育事情をまとめておくこと。								
学習内容	概要								課題
	第1回 外国で日本語を教えるということ								ディスカッション
	外国で日本語を教える状況を考える。								
	第2回 ヨーロッパにおける日本語教育① - ポルトガル編 -								レポート
	日本語教師経験者の体験談を通して、ポルトガルにおける日本語教育の概要を考える。								
	第3回 ヨーロッパにおける日本語教育② - イギリス編 -								レポート
	日本語教師経験者の体験談を通して、イギリスにおける日本語教育の概要を考える。								
	第4回 ヨーロッパにおける日本語教育③ - ロシア編 -								ディスカッション
	日本語教師経験者の体験談を通して、ロシアにおける日本語教育の概要を考える。								
	第5回 アジアにおける日本語教育① - インド・ウズベキスタン編 -								レポート
	中央アジアにおける日本語教育のニーズや教師の役割、また、どのような日本語の授業が行われているのかを体験談を通して考える。								
	第6回 アジアにおける日本語教育② - 台湾編 -								ディスカッション
	日本語教師経験者の体験談を通して、台湾における日本語教育の概要を考える。								
	第7回 アジアにおける日本語教育③ - タイ編 -								レポート
日本語教師経験者の体験談を通して、タイにおける日本語教育の概要を考える。									
第8回 アジアにおける日本語教育④ - 台湾編 -								ディスカッション	
韓国における日本語教育のニーズや教師の役割、また、どのような日本語の授業が行われているのかを体験談を通して考える。									
成績評価方法	【評価材料】 レポート、ディスカッション、単位修得試験(レポート試験) 【A評価】 レポート課題において、インタビュー内容の要点を踏まえた説明ができており、自分の意見が論理的に述べられている。ディスカッションにおいて、適切な内容で自分の意見が述べられるとともに、論理的に他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。単位修得試験(レポート試験)において、様々な国における日本語教育の実情や海外における日本語教師の役割をよく理解し、それぞれの国の学習者事情や日本語のニーズ分析ができている。また、その現場を考慮して、適切で効果的な日本語教育の戦略がイメージできており、すぐに現場で教えることができる。 【B評価】 レポート課題において、インタビューの内容の要点をまとめることができ、自分の意見も論理的に述べられている。ディスカッションにおいて、自分の意見が述べられるとともに、積極的に他者の意見に適切なコメントや質問ができる。単位修得試験(レポート試験)において、海外における日本語教師の役割を理解し、様々な国における日本語教育事情や日本語のニーズが分析できている。また、参考書や助言者のアドバイスがあれば、外国で日本語を教えるための準備ができています。 【C評価】 レポート課題において、インタビューの内容を要点ごとに説明することができる。ディスカッションにおいて、自分の意見が述べられるとともに、他者の意見に適切なコメントや質問ができる。単位修得試験(レポート試験)において、海外における日本語教師の役割を理解し、様々な国における日本語教育事情や日本語のニーズが分析できている。 【D評価】 レポート課題において、所定の条件を満たしている。ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。単位修得試験(レポート試験)において、海外で日本語を教えるために、どのようなことに留意すれば良いかは理解している。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	【履修の前提とするもの】 海外における日本語教育に興味・関心があり、多文化理解に積極的であること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」「日本語教授法A」「日本語教授法B」を履修済み、または、同時に受講していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	対照言語学			担当者	石井 誠
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	対照言語学の研究方法を利用し、日本語の特徴を具体的に明らかにすることができ、学習者にも説明できるようになる。また、日本語学習者が日本語運用で間違いを犯した場合、その間違いの原因がどこにあり、どうしたら間違いを克服できるか助言できるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で学習した専門用語を整理し確実に身につけること。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 対照言語学とは何だろうか				確認テスト				
	対照言語学とはどんな研究を行い、それが日本語教育にどのように役立つのだろうかということを確認する。								
	第2回 音声から見た対照言語学				確認テスト				
	言語が違えば使う音声が違うということを確認する。								
	第3回 語彙論、文字と語彙、さらに翻訳				レポート				
	対照言語学の研究成果を利用し、語彙の問題を考える。								
	第4回 対照研究を利用した文法研究(形態論)				確認テスト、ディスカッション				
	単語レベルの文法に関して言語を比較しながら考える。								
	第5回 対照研究を利用した文法研究(統語論)				確認テスト				
文レベルでの文法を2つあるいはそれ以上の言語を比較しながら考える。									
第6回 対照言語学から見た表現方法				確認テスト、ディスカッション					
文を使った表現方法は言語を比較することによってその特徴を明らかにすることができることを確認する。									
第7回 外国語教育と対照言語学				確認テスト					
外国語教育に対照言語学がどのように利用されているか、歴史的流れも含めて調べて。									
第8回 対照言語学の日本語教育への応用				確認テスト					
対照言語学の考え方を日本語教育に利用するとどんなことが可能になるか考察する。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題(ディスカッション、レポート)、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、適切な内容の自分自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。 単位修得試験において、独創的で、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。 対照言語学の知識を身につけ、学習者の母語を想定し、どういった点に注意して教材作りをしたらいいなどの配慮ができるようになる。学習者が間違えたときに、その間違いがどうして起こったのか、自身で分析することができる。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、自身の意見を積極的に述べ、他者の意見に適切なコメントをすることができる。 レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。 単位修得試験で、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。 対照言語学の考え方を理解し、参考書、助言者のアドバイスがあれば、誤用分析ができる。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、自身の意見を述べることができる。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験で、所定の条件を満たしており、自らの意見が述べられている。 対照言語学の基本的な考え方を理解し、学習者の誤用に対して原因の仮説が立てられる。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。 レポート課題において、所定の条件を満たしている。 単位修得試験で、所定の条件を満たしている。 自分では学習者の誤用分析などは難しいが、どういった資料を探せば原因がつかめるのかは理解している。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『日本語教師のための入門言語学-演習と解説-』、原沢伊都夫、スリーエーネットワーク、1,800円(税抜)、2016年 『言語学入門』、斎藤純男、三省堂、2,100円(税抜)、2010年 『日本語と外国語』、鈴木孝夫、岩波新書、860円(税抜)、1990年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって満たしていることが望ましいもの】 言語学の基礎的な知識を持っており、言語学の専門用語について理解していることが望ましい。そのために参考文献に挙げた言語学入門書のどちらかを読むとよい。 「日本語教育と音声」を履修済み、または同時に履修することが望ましい。 日本語以外の言語についての知識を持っていることが望ましい。日本人学習者なら英語教育を受けていると思うが、それ以外に第2外国語の知識、または学習経験があるとともに理解しやすくなる。日本語を母語としない履修者は日本語以外の母語の正確な知識があるはずだが、そのほかにも第2外国語の知識、学習経験があるとともに理解が深まる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン		授業科目名	対人関係論		担当者	森下 朝日
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	認定心理士、プレゼンテーション実務士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について、適切に説明できる。 ・対人関係で予想されるトラブルを理解し、解決法を考えることができる。 ・対人関係における自己のあり方について分析し、自らの行動改善に繋げることができる。 ・自己と他者の双方を尊重した対人コミュニケーションとはどうあるべきかを指摘できる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 参考書に目を通しておくことが望ましい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>						
学習内容	概要						課題
	第1回 自己のなりたち(1) 自己意識とその発達						確認テスト
	対人関係における自己のあり方を考えるために、自己意識の概念ならびにその発達過程について学ぶ。						
	第2回 自己のなりたち(2) 自己概念と社会的比較						確認テスト
	前回到引き続き、対人関係における自己のあり方を考えるために、自己の中核をなす自己概念、社会的比較と自尊心、および自尊心を保つための様々な方略について学ぶ。						
	第3回 対人認知(1) 対人認知とそのプロセス						確認テスト
	他者と出会い、関係を築く際に生じる対人認知のメカニズムと、対人認知が態度の決定に至るまでのプロセスについて学ぶ。						
	第4回 対人認知(2) 印象のゆがみ						確認テスト
	対人認知のフィールドワークについて紹介し、印象形成の歳に生じやすい様々な認知バイアスについて学ぶ。						
	第5回 自己呈示と自己開示(1) 自己呈示						確認テスト
	他者に対して自己の印象を操作する際に用いる様々な自己呈示について、それぞれの型の中でどのような意図や行動が見られるかを学ぶ。						
	第6回 自己呈示と自己開示(2) 自己開示とフィードバック						ディスカッション
	より深い対人理解において必要不可欠である自己開示とフィードバックについて、その意味と効果を学び、ジョハリの窓の概念を通じて両者の関係を学ぶ。また、実際に作成したジョハリの窓をもとにディスカッションを行う。						
	第7回 対人好悪(1) 相手要因と自己要因						確認テスト
	他者に好意や嫌悪感情を抱く要因について考え、その一端である相手要因と自己要因について学ぶ。						
第8回 対人好悪(2) 相互要因と相互作用要因						確認テスト	
前回到引き続き、対人好悪の主な要因の一端である相互要因と相互作用要因について学ぶ。							
第9回 援助と攻撃(1) 援助行動における心理						確認テスト	
対人援助の傍観者効果、援助する心理、援助行動の促進・阻害要因やソーシャルサポートについて学ぶ。							
第10回 援助と攻撃(2) 攻撃と対立における心理						確認テスト	
攻撃の定義と攻撃行動起因の諸理論、および対立の状況で生じるジレンマの心理について学ぶ。							
第11回 対人コミュニケーション(1) ポジティブな会話の流れ						確認テスト	
対人コミュニケーションの意味とあり方について学び、ポジティブコミュニケーションとネガティブコミュニケーションの流れを学ぶ。							
第12回 対人コミュニケーション(2) コミュニケーション・チャネルとその諸相						確認テスト	
対人コミュニケーションの媒体となる様々なチャネルについて学んだ上で、その大半を占めるノンバーバルコミュニケーションのうち、アイコンタクト、身体動作、表情、パーソナルスペースの特徴について学ぶ。							
第13回 コミュニケーションと対人関係(1) 自己表現とアサーション						ディスカッション	
対人コミュニケーションにおける自己表現の3つのタイプとアサーションの概念について学び、葛藤状態を改善するための自己表現のあり方についてディスカッションを行う。							
第14回 コミュニケーションと対人関係(2) 傾聴と共感的理解						確認テスト	
対人コミュニケーションにおける傾聴の概念と方法について学んだ上で、対人理解のレベルと共感的理解の重要性について学ぶ。							
第15回 まとめ 授業のふりかえり						確認テスト	
これまでのまとめとして、第1回から第14回までの授業内容をふりかえる。							

成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション、単位修得試験（選択式問題）</p> <p>【A評価】 単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、テーマに沿いつつオリジナリティのある意見を十分に述べ、かつ、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について十分に理解し、自分の言葉で適切な説明ができる。また、対人関係で予想されるトラブルに対し、解決法を多角度から考え、実践することができる。さらに、対人関係における自己のあり方について正確に分析し、自らの行動改善、ならびに自己と他者の双方を尊重した対人関係へと繋げることができる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験において優秀な成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、自己の意見を十分に述べると共に、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について理解し、適切な説明ができる。また、対人関係で予想されるトラブルに対し、解決法を自分で考えることができると共に、対人関係における自己のあり方について考察することができる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験において標準以上の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について一応の説明ができる。また、対人関係で生じるトラブルについて予想できると共に、対人関係における自己のあり方について考えることができる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験において最低限の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 対人関係で生じる様々な心理状態や対人行動について最低限の説明ができる。また、対人関係における自己のあり方について考えることができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	『図解雑学 人間関係の心理学』、齊藤勇、ナツメ社、1,300円（税抜）、2003年
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日常でみられるさまざまな社会的・時事的問題に注意を向けつつ、自らの対人関係について考察しておくこと。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	対人コミュニケーションのトレーニング			担当者	後藤 亮子
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	レポート課題 を試験とする。レポート を提出するには、全授業へ出席する必要がある。参画型授業のため、一部でも欠席した場合は単位を与えない。		単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本校(さくら夙川キャンパス) 東京会場
資格名	日本語教員養成課程(新基準)							
特記事項								
学習目標	対人コミュニケーション能力をブラッシュアップし、対立や葛藤が起きている状況で建設的なコミュニケーションをとりながら合意形成を得ていく話し合いの進め方を身につけることができるようになる。							
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク、グループワークなど演習はすべて人と協力して行う参画型で構成されている。(一人で演習はない) ・各自、対人コミュニケーションにおける悩みや課題を考察しておくこと。個別の悩みをテーマに相互にコーチングを行う。 ・グループ演習で、話す力、聴く力を鍛え、総合的に話し合う力を磨いていく。仲間と協力し、実践を通して学びあう授業のため心得て受講すること。 							
授業時間外学習	各自、対人コミュニケーションにおける悩みや課題を考察しておくこと。授業で得た学びを日常で活用すること。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 対人コミュニケーションの基本							
	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業のオリエンテーションを実施する。 ・対人コミュニケーションとは何かについて考察する。 							
	第2回 対人コミュニケーションの基本							
	対人コミュニケーション能力を磨く演習を行う。							
	第3回 コーチングの基本							
	相手の答えを引き出す対人コミュニケーション方法であるコーチングを学ぶ。							
	第4回 コーチングの実践							
	演習を通してコーチング・スキルを磨く。演習後は振り返りを実施し、個人のコミュニケーション課題を探索する。							
	第5回 学びの整理						レポート課題	
	第1回～第4回の学びを整理する。授業時間内にレポート課題 がある。							
	第6回 振り返り							
	1日目の学びを振り返る。							
	第7回 コーチングの実践							
	演習を行う。							
第8回 アサーションの理論								
アサーティブなコミュニケーションを学び、日頃の自分を振り返る。								
第9回 アサーションのトレーニング								
演習を通してアサーション・スキルを磨く。演習後は振り返りを実施し、個人のアサーション課題を探索する。								
第10回 学びの整理						レポート課題		
第6回～第9回の学びを整理する。授業時間内にレポート課題 がある。								
第11回 振り返り								
2日目の学びを振り返る。								
第12回 協働的問題解決の演習								
win-winを目指す協働的問題解決の演習を体験する。								
第13回 協働的問題解決の演習								
win-winを目指す協働的問題解決の演習を体験する。								
第14回 協働的問題解決の演習 続き								
演習を振り返り、学びを整理する。								
第15回 全過程の学びの統合						レポート課題		
全過程を振り返り学びを統合する。授業時間内にレポート課題 がある。								
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業への出席が必要 ・成績評価は、出席時間(50%)と平常点(50% レポート 、 、 の提出と受講態度)で行う。 							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	スクーリングに筆記用具を持参すること。受講者上限人数 グループワークを含む講義40名							

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	多変量解析法		担当者	安藤 仁朗
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	社会調査士						
特記事項							
学習目標	多変量解析で用いられる用語が説明できるようになる。 多変量データが与えられたときに、適切な解析方法を選択でき、結論を導くことができるようになる。						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 学習が始まる前にその回の補助テキストに目を通してから受講することが望ましい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次の学習に取り組むこと。						
学習内容	概要						課題
	第1回 多変量解析の目的						レポート
	多変量解析で用いられる用語(説明変数、目的変数等)を例とともに示し、様々な手法で何が出来るのかを学習する。						
	第2回 1変量の解析(1)						確認テスト
	変数、確率変数、確率分布、標準化、平均、分散、標準偏差等の基本的な統計学の用語を確認する。						
	第3回 1変量の解析(2)						確認テスト
	関数を用いて代表値と散布度を求める。 分析ツールを使って基本統計量を求める。 度数分布表とヒストグラムでデータの分布を示す。						
	第4回 平均値の推定と検定(1) 平均値の信頼区間						確認テスト
	標本調査とはどのようなもので、何を目的としているのかを学習する。また、平均値の信頼区間を学習する。						
	第5回 平均値の推定と検定(2) 平均値の検定						確認テスト
	検定の基本的な考え方と手順を学習する。 平均値の差の検定の「流れ」を学習する。 分析ツールを使って、等分散性の検定と平均値の差を検定する						
	第6回 2変数の解析(1) 相関						確認テスト
	相関と相関関係の説明と相関係数の算出方法および疑似相関について学習する。						
	第7回 2変数の解析(2) ~単回帰分析(1)						確認テスト
	最小二乗法から求められた公式を使って回帰式を求める。さらにその回帰式を使って、回帰推定値と呼ばれる値を求める。						
第8回 2変数の解析(2) ~単回帰分析(2)						確認テスト	
回帰式の「当てはまりの良さ」、および相関係数と決定係数の関係について学習する。							
第9回 重回帰分析(1) ~単回帰分析から重回帰分析へ						確認テスト	
重回帰分析の目的と、ダミー変数、回帰式と偏回帰係数の貢献度について学習する。							
第10回 重回帰分析(2) ~回帰推定値の予測と精度						確認テスト	
重回帰分析の予測モデル式の作成し、説明変数の重要度を明らかにし、予測値、潜在能力の算出を行う。							
第11回 重回帰分析(3) ~重回帰分析の全体像						確認テスト	
説明変数が2個以上になる場合における、変数選択の考え方を学習する。							
第12回 主成分分析						確認テスト	
主成分分析を行う。説明変数の潜在変数への貢献度および重要度、サンプルの潜在変数での評価を明らかにする。							
第13回 因子分析						確認テスト	
主成分分析との類似点と相違点の説明を通じて、因子分析の目的と位置づけについて学習する。							
第14回 判別分析とクラスター分析						確認テスト	
判別分析とクラスター分析それぞれについて、明らかにできることを確認する。							
第15回 講義全体のまとめ						確認テスト	
一変量の解析方法、二変量の解析方法、多変量解析法、それぞれの意味と目的を復習する。							

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験（Web試験）、確認テスト、レポート</p> <p>【A評価】 確認テスト平均9割以上の得点を得る。 レポートにおいて、授業内容を十分に理解し、まとめることができている。 単位修得試験において、8割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができる。多変量データが与えられたときに、適切に解析方法を選択でき、適切に解析手続きを踏み、確実に結論を導くことができる。</p> <p>【B評価】 確認テスト平均8割以上の得点を得る。 レポートにおいて、授業内容を十分に理解し、まとめることができている。 単位修得試験において、7割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができる。多変量データが与えられたときに、結論を導くことができる。</p> <p>【C評価】 確認テスト平均7割以上の得点を得る。 レポートにおいて、授業内容をおおむね理解し、まとめることができている。 単位修得試験において、6割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができる。多変量データが与えられたときに、なんらかの結論を導くことができる。</p> <p>【D評価】 確認テスト平均6割以上の得点を得る。 レポートにおいて、条件を満たしてまとめることができている。 単位修得試験において、5割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 多変量解析で用いられる用語を正しく適切に使用することができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『Excelによる統計入門』、縄田 和満、朝倉書店、2,800円（税抜）、2007年</p> <p>『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』、石村真夫・劉晨・石村友二郎、東京図書、2,200円（税抜）、2013年</p> <p>『Excelで学ぶ多変量解析入門』、菅 民郎、オーム社、2,800円（税抜）、2013年</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 Excelを用いた統計処理を行いますので、Excelの基本的なスキルを身に付けておく必要があります。具体的には、操作スキルはオートフィル、折れ線グラフの描画、計算スキルは、四則演算と基本的な関数（合計・平均・最大値・最小値・IF）、絶対参照あたりになります。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本科目「多変量解析法」を履修するまでに「統計入門」および「心理学統計法」の学習内容を理解していることが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	地域デザイン演習			担当者	谷村 要, 坂本 理郎, 藤田 昌弘, 森元 伸 枝
レベルナンバー	300	単位	4	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	-
資格名	社会調査士								
特記事項									
学習目標	実際のフィールドワーク体験を通じて、調査デザインから報告書の作成まで至る社会調査の全過程について学習することで、卒業研究などで実施する社会調査を独力で行うことができるようになる。								
学習の進め方	実際のフィールドワーク体験を通じて、調査デザインから報告書の作成まで至る社会調査の全過程について学習することで、卒業研究などで実施する社会調査を独力で行うことができるようになる。								
授業時間外学習	調査設計書、インタビュー趣意書の作成、フィールド・ノーツの清書、最終報告書の作成など。								
学習内容	概要								課題
	第1回 フィールドワークに向けた全般的準備 (1日め)								
	社会調査の基本的事項の確認								
	第2回 フィールドワークに向けた全般的準備								
	フィールドワークの基本的事項の確認								
	第3回 フィールドワークに向けた全般的準備								
	インタビューの作法と技術								
	第4回 フィールドワークに向けた全般的準備								
	フィールド・ノーツの書き方と分析の方法								
	第5回 フィールドワークに向けた全般的準備								
	報告書の書き方								
	第6回 フィールドワークの全般的準備 (2日め)								
	調査地(兵庫県および西宮市)の概況、地域活性化の意義など								
	第7回 フィールドワーク の準備								
	リサーチ・クエスションと、調査対象の設定および情報収集								
	第8回 フィールドワーク の準備								
	調査の企画・設計のブラッシュアップ								
	第9回 フィールドワーク の準備								調査設計書の作成
	仮説の構成、調査対象の情報収集								
	第10回 フィールドワーク の準備								インタビュー趣意書の作成
	インタビュー(質問)項目(調査項目)の設定								
	第11回 フィールドワーク (3日め)								
	西宮市北部・船坂地域にて調査を実施								
	第12回 フィールドワーク								
	西宮市北部・船坂地域にて調査を実施								
第13回 フィールドワーク									
西宮市北部・船坂地域にて調査を実施									
第14回 フィールドワーク の整理									
フィールド・ノーツの整理と共有									
第15回 フィールドワーク の整理								フィールド・ノーツの清書	
リサーチ・クエスションに関するディスカッション									

	概要	課題
学習内容	第16回 フィールドワーク (4日め)	
	地域情報発信サイト・西宮流(西宮スタイル)にて聞き取り調査を実施	
	第17回 フィールドワーク	
	地域情報発信サイト・西宮流(西宮スタイル)にて聞き取り調査を実施	
	第18回 フィールドワーク	
	地域情報発信サイト・西宮流(西宮スタイル)にて聞き取り調査を実施	
	第19回 フィールドワーク の整理	
	フィールド・ノーツの整理と共有	
	第20回 フィールドワーク の整理	フィールド・ノーツの 清書
	リサーチ・クエスチョンに関するディスカッション	
	第21回 報告書案の作成 (5日め)	
	アウトラインの考案	
	第22回 報告書案の作成	
	アウトラインの考案	
	第23回 報告書案の作成	
	パワーポイントによるアウトラインの作成	
	第24回 報告書案の作成	
	パワーポイントによるアウトラインの作成	
	第25回 報告書案の作成	
	パワーポイントによるアウトラインの作成	
	第26回 報告書案の発表 (6日め)	
	受講者1人ずつによる発表と質疑、および講評	
	第27回 報告書案の発表	
	受講者1人ずつによる発表と質疑、および講評	
	第28回 報告書案の発表	
	受講者1人ずつによる発表と質疑、および講評	
	第29回 報告書の完成に向けて	
	発表結果を踏まえて各自で改善案を考える。	
	第30回 まとめ	最終報告書の完成
		授業全体を通じて学んだこと、今後の課題などを共有。
成績評価方法	<p>評価材料：フィールドワークへの積極的参加、最終報告書の提出。 (最終報告書の提出をもって、単位修得試験=レポートとする。) (全日程の出席を単位修得の条件とする。)</p> <p>【A評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを独力で行う力がある。 報告書の体裁および内容ともに完成度が高い。</p> <p>【B評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを独力で行う力がある。 報告書の体裁および内容ともに優れているが、改善すべき点が一部に認められる。</p> <p>【C評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを、一部を除いて独力で行う力がある。 報告書の体裁および内容ともに基本的な点はクリアできているが、不十分な点が散見される。</p> <p>【D評価】 調査デザインから報告書の作成までの一連のプロセスを、一部を除いて独力で行う力がある。 報告書としておさえるべき基本的な点はクリアしているが、体裁や内容に不十分な点が目立つ。</p>	
教科書	なし	
参考書 (任意購入)	なし	
必須ソフト ・ツール	なし	
備考	・受講者上限人数を、20人とする。 ・本学において「調査研究方法 および 」の単位を修得済みでないと、履修できない。	

メジャー(専修)名				授業科目名	地域の日本語教育		担当者	清水 泰生
レベルナンバ	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	地域の日本語教育にどのようなものがあるかを理解し説明することができる。 地域の日本語教育、言語政策等の歴史を理解し時系列に沿って説明することができる。 地域の外国人に対する政府等の施策について理解し、分かりやすくかつ端的に説明することができる。 地域の日本語教育の情報等を随時入手するようにし、対応することができる。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 普段から地域の日本語に関心を持つこと、地域の日本に関する知識・情報をインターネットや新聞から収集すること。 【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し実施して確実に身に着けること 授業内で紹介した地域の日本語に関連した専門用語を理解しておくこと。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 地域の日本語教育とは						レポート	
	地域の日本語教育における現状と問題点について考える。							
	第2回 地域の外国人政策等について						ディスカッション	
	外国人に対しての国、地方自治体の政策等を学ぶ。							
	第3回 子どもの日本語教育						レポート	
	子どもの日本語教育の歴史、子どもの日本語教育の特徴や指導方法などを学ぶ。							
	第4回 余暇、観光と日本語教育						ディスカッション	
	外国人に対する観光政策、言語政策について考える。							
	第5回 「やさしい日本語」を使った地域で暮らす外国人への支援						レポート	
	やさしい日本語とは何か、やさしい日本語が作られたいきさつ、やさしい日本語が使われている場面について学ぶ。							
	第6回 EPAにおける看護師・介護福祉士候補者の日本語教育						レポート	
EPAにおける看護師・介護福祉士候補者に対する日本語教育の特徴は何か、現状と課題について学ぶ。								
第7回 労働、ビザ、在留資格と日本語教育						ディスカッション		
ビザと在留資格との違いは何かを知り、新しい在留資格「特定技能」について学び、外国人労働者の問題点について考える。								
第8回 多文化共生、言語政策と日本語教育						レポート		
多文化共生とは何か、言語政策とは何かについて学び、日本語教育、多文化共生を支える機関、日本語のテストについて学ぶ。								
成績評価方法	評価材料：第1回、第5回、第8回のレポート課題、単位修得試験(レポート) 【A評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた事柄を十分に理解し、的確にそして、論理的に表現することができる。 単位習得試験では、地域の日本語教育における問題点、課題点を的確に指摘し、問題点、課題点を解決するにはどうすべきなのかについて、自分の意見、考えを説得力を持って表現することができる。 【B評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた事柄を理解し、それを表現することができる。 単位習得試験では地域の日本語教育の問題点、課題点について取り上げ、問題点を解決するにはどうすべきなのかについて、自分の意見、考えを表現することができる。 【C評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた基本的なことを理解し、それを一応表現することができる。 単位習得試験では、地域の日本語教育の実情を把握し何が問題、課題なのかを説明することができる。 【D評価】 各回のレポートでは、講義で取り上げた基本的なことを何とか理解することができる。 単位習得試験では、地域の日本語教育の実情を何とか把握し、何が問題、課題なのかを苦労しながらも説明することができる。							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	【履修の前提とするもの】 普段から日本語教育を必要とする外国人の立場や状況に関心をもっていること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」「日本語教授法A」「日本語教授法B」を履修済み、または、同時に履修していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名				授業科目名	中国語応用		担当者	公文 三佐子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)							
特記事項								
学習目標	平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけて行きます。すべての授業を終了した段階で中国語検定試験(日本中国語検定協会)4級レベルに達することが目標です。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 授業開始後に補助テキストをダウンロードの上、印刷をし、目を通しておきましょう。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 学習した内容を、各回第3節の「チャレンジ」を中心に復習しましょう。発音教材にて繰り返し練習をし、中国語の発音をマスターしましょう。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 「食事はしましたか。」你吃饭了吗?							確認テスト
	単語の発音や会話文を通して、動態助詞・語気助詞の二つの“了”、いくつかの前置詞、“一点儿”“有点儿”について学ぶ。さらに感覚に関するいくつかのことは学ぶ。							
	第2回 「彼女はスキーがうまいです。」她滑雪滑得很好。							確認テスト
	単語の発音や会話文を通して、様態補語“得”、時量補語、“怎么”の用法、“多”+形容詞、値段の言い方について学ぶ。							
	第3回 「何の本を見えていますか。」你在看什么书?							確認テスト
	単語の発音や会話文を通して、進行を表す表現、“要~了”“快~了”“快要~了”、“对~有兴趣”“对~感兴趣”、名詞を修飾する形容詞について学ぶ。							
	第4回 「試験はついに終わりました。」(日記) 考试终于考完了。							確認テスト
	単語の発音や本文を通して、動作の結果を表す表現“完、到、懂、好”、持続を表す助詞“着”、存現文、自然現象の表し方、“一边~一边~”の用法について学ぶ。							
	第5回 「メニューを見てもわかりません。」我看不懂菜单。							確認テスト
単語の発音や会話文を通して、動作の方向を表す表現、可能・不可能を表す表現、“是~的”の表現について学ぶ。								
第6回 「中国語の本をたくさん読むべきです。」你应该多看中文书。							確認テスト	
単語の発音や会話文を通して、“把”構文、助動詞“应该”、禁止の用法、不定を表す“什么、几”について学ぶ。								
第7回 「荷物を誰かに持って行かれたのでは?’ 行李是不是叫谁拿走了?							確認テスト	
単語の発音や会話文を通して、受け身、比較、“再~又”、可能性を表す“会~(的)”、“了~了~”の文型、感情を表すことばについて学ぶ。								
第8回 「忘れられません。」(メール) 令人难忘。							確認テスト	
単語の発音や本文を通して、使役を表す表現、中国料理の名前、四字固定連語の表現について学ぶ。中国の地名・名所旧跡について学ぶ。								
成績評価方法	<p>評価材料：各回の確認テストに合格した上で、単位修得試験(選択式問題・リスニングを含む)の成績にて評価する。</p> <p>【A評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、リスニング・筆記いずれの試験でも満点に近いくらいに正解していること。 授業で学習した中国語の基本的な語法(文法)のルールがしっかりと理解できている。中国語検定試験4級に十分合格できるレベルである。</p> <p>【B評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、多少の欠けや弱みがあるものの、リスニング・筆記いずれの試験でも高得点を獲得していること。 授業で学習した中国語の基本的な語法(文法)のルールがほぼ理解できている。中国語検定試験4級に合格できるレベルである。</p> <p>【C評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、一定以上の水準で点数を獲得し、同試験を目指せる状態にあること。 授業で学習した中国語の基本的な語法(文法)のルールに対して一定の理解ができている。中国語検定試験4級合格を十分に目指せるレベルである。</p> <p>【D評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、点数は高くはないものの、学習の成果がみられること。 授業で学習した中国語の基本的な語法(文法)のルールをある程度理解できている。中国語検定試験4級合格を目指すレベルである。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	『中検4級試験問題2019[第95・96・97回]解答と解説』、日本中国語検定協会編、白帝社、2,000円(税抜)、2019年 『中検4級問題集 2019年版 第94回~第96回』、中検研究会編、光生館、2,300円(税抜)、2019年							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	<p>【履修の前提とするもの】 中国語を学習する上で必要不可欠な中国語の発音と発音表記(ピンイン)を習得していること。簡体字を正しく書き、中国語の基本的な(語法)文法のルールを理解できること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 『中国語入門』を履修済みであることが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>							

メジャー(専修)名				授業科目名	中国語入門			担当者	公文 三佐子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	初心者を対象とし、基礎から中国語を学習します。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけることができます。すべての授業を終了した段階で中国語検定試験(日本中国語検定協会)準4級レベルに達することが目標です。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始後に補助教科書をダウンロードの上、印刷をし、目を通しておきましょう。 学習した内容を、各回第3節の「チャレンジ」を中心に復習しましょう。 発音教材にて繰り返し練習をし、中国語の発音をマスターしましょう。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 「こんにちは。」 你好!								確認テスト
	単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の声調と子音の一部について学びます。								
	第2回 「買い物しますか。」 你买东西吗?								確認テスト
	単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の母音・子音(無気音・有気音)、人称代名詞、動詞述語文、疑問文 “吗” “呢” について学びます。								
	第3回 「私は学生です。」 我是学生。								確認テスト
	単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の子音(そり舌音)・母音(はねる音)、肯定・否定の言い方、勧誘・推量・命令の表現や否定を表す副詞 “不”、その他の副詞 “也” “都” について学習します。								
	第4回 「それは何ですか。」 那是什么?								確認テスト
	単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の“儿化”、指示代詞、疑問詞疑問文、所有を表す構造助詞 “的”、動詞の重ね型について学びます。								
	第5回 「我が家に来てください。」 欢迎大家来我家。								確認テスト
単語の発音や自己紹介文、常用用語を通して、いくつかの形容詞、形容詞述語文、「ある；いる」の表現などについて学びます。									
第6回 「中国語は難しいですか。」 汉语难不难?								確認テスト	
単語の発音や会話文を通して、数の数え方、モノの数え方、「いくつ・どのくらい」など不定の数を使った表現、反復疑問文について学びます。									
第7回 「いま何時ですか。」 现在几点钟?								確認テスト	
単語の発音や会話文を通して、日付・曜日・時刻の表現、前置詞 “在” “跟”、助動詞 “要” “想” について学びます。									
第8回 「泳げますか。」 你会游泳吗?								確認テスト	
単語の発音や会話文を通して、可能や許可を表す助動詞 “能” “会” “可以”、経験を表す “过” について学びます。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の確認テストおよび単位修得試験(選択式問題)の成績にて評価する。</p> <p>【A評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、リスニング・筆記いずれの試験でも満点に近いくらいに正解していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールがしっかりと理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級に十分合格できるレベルである。</p> <p>【B評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、多少の欠けや弱みがあるものの、リスニング・筆記いずれの試験でも高得点を獲得していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールがほぼ理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級に合格できるレベルである。</p> <p>【C評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、一定以上の水準で点数を獲得し、同試験を目指せる状態にあること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールに対して一定の理解ができていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級合格を十分に目指せるレベルである。</p> <p>【D評価】 単位修得試験では中国語検定試験(日本中国語検定協会)と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、点数は高くないものの、学習の成果がみられること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法(文法)のルールをある程度理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級合格を目指せるレベルである。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『中検準4級試験問題 第86・87・88回 解答と解説』、日本中国語検定協会編、白帝社、1,900円(税抜)、2016年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	調査研究方法			担当者	谷村 要, 坂本 理郎, 酒井 健, 中嶋 哲夫
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	社会調査士							
特記事項								
学習目標	<p>本授業は、社会調査全般の入門科目として、社会調査の意義や類型別の基本的知識、社会調査に臨むにあたっての姿勢を身につけることを目的とする。社会調査の種類、意義、歴史、倫理などについて概観したうえで、社会調査の実践例についても学び、調査におけるデータの収集から分析に至る過程について理解する。社会調査士資格を取得する場合には、最初にこの科目を履修することを強く勧める。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を説明できるようになる。 ・社会調査にどのような種類があるかを理解し、調査目的に応じた選択ができるようになる。 ・社会調査のプロセスを踏まえて、調査企画を立案できるようになる。 ・調査テーマを設定したうえで、関連する文献・資料を収集できる。 ・調査の結果を、レポートや論文にまとめることができるようになる。 							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進むこと。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜メモを取れるよう筆記用具を準備しておくこと。 ・資料がel-Camorusを通じて配布されている場合は、必ず学習前にダウンロードしておくこと。 <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において出された課題に取り組むこと。 ・授業のテーマ上、新聞やWEB上のニュースサイトを通じて時事問題について日常的に知識を得ていることが望ましい。 ・授業で紹介した文献やウェブサイトを確認すること。 							
学習内容	概要				課題			
	第1回 社会調査とは何か				確認テスト			
	ここでは社会調査を「データを収集し社会について考えること」と捉え、事例を紹介しつつ、さまざまな種類の社会調査を紹介する。							
	第2回 社会調査の目的と意義				確認テスト			
	社会調査は何を目的として行われているのか？そして、調査を行う意義はどのようなものか？事例を踏まえながら、解説する。							
	第3回 社会調査の歴史				確認テスト			
	これまで社会調査が歩んできた歴史とその社会的背景について、具体的事例を取り上げながら説明する。							
	第4回 社会調査がはらむ危うさ				確認テスト			
	社会調査はときに人を傷つけ、社会を見誤らせる危険性を持っている。社会調査の持つ危うさについて、具体的な事例を示しながら説明しつつ、社会調査に取り組む際の姿勢を涵養する。							
	第5回 社会調査のファースト・ステップ（調査設計）				確認テスト			
	社会調査のプロセスを踏まえたうえで、社会調査を企画・設計をするために、どのような点に注意する必要があるかを解説する。							
	第6回 社会調査のファースト・ステップ（プレ調査）				レポート			
	よい調査を企画するためには、そのために事前にテーマに関連した知識を修得する必要がある（プレ調査）。この回では、その基本的な方法について解説する。							
	第7回 質的調査の基本（質的調査の概要）				確認テスト			
	社会調査としての質的調査とは何かを理解し、その大まかな進め方を学ぶ。							
第8回 質的調査の基本（質的調査の実践）				確認テスト				
質的調査の実践を、インタビュー調査、参与観察、ドキュメント分析という3つの代表的な方法から学ぶ。								
第9回 調査事例の紹介（質的調査の事例）				ディスカッション				
過疎地で15年間維持されてきた企業組合「生業の里」の調査過程を写真も使いながら、説明する。								
第10回 量的調査の基本 調査の手順				確認テスト				
社会調査としての量的調査とは何かを理解し、その大まかな進め方を学ぶ。								
第11回 量的調査の基本 サンプリング				確認テスト				
社会調査の方法論の中でも重要な部分であるサンプリング（標本抽出）について説明する。								
第12回 量的調査の基本 サンプリング				確認テスト				
量的調査の具体的な方法である調査票調査における調査票作成に必要な事を学ぶ。								
第13回 量的調査の基本 調査票の作成				確認テスト				
量的調査で得られたデータは、分析する前にどのようなチェックが必要かについて説明する。								
第14回 調査事例の紹介（量的調査の事例）				ディスカッション				
ある企業で実施した従業員意見調査の内容を説明し、集計から調査結果のフィードバックまでの一連のステップを思い描く。								
第15回 社会調査を取り巻く環境				確認テスト				
社会調査を取り巻く環境を改めて捉えなおし、社会調査の企画・実施にあたり必要となることを確認する。また、調査倫理への理解を深めるため、「社会調査協会倫理規程」について解説する。								

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験で85%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して90%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において自らが設定したテーマに沿った適切な文献を5点以上示すことができている。また、書誌情報もすべて示されている。 第9回課題において、適切な目的・方法・計画を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対して適切なコメントを投稿できている。 第14回課題において、適切な目的・方法・計画を示した量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対して適切なコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理をしゅつぶん踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を具体的に説明できる。 社会調査にどのような種類があるかをしゅつぶん理解し、目的に応じた調査方法を適切に選択できる。 目的と方法を具体的にかつ適切に設定し、自ら実践可能な調査計画を立てることができる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験で80%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して80%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献を5点以上示すことができている。また、書誌情報もすべて示されている。 第9回課題において、適切な目的・方法・留意点を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第14回課題において、適切な目的・方法・留意点を示した量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を具体的に説明できる。 社会調査にどのような種類があるかをしゅつぶん理解し、目的に応じた調査方法の選択ができる。 目的と方法を明確かつ適切に設定した調査計画を立てることができる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験で70%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して70%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献・資料を5点以上示すことができている。書籍の書誌情報がきちんと書かれている。 第9回課題において、目的・方法・留意点を示した質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第14回課題において、目的・方法・留意点を示した量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を複数説明できる。 社会調査にどのような種類があるかを理解し、目的に応じた調査方法の選択ができる。 目的と方法を明確に設定した調査計画を立てることができる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験で60%以上の得点を得ることができている。 確認テストを総合して70%以上の得点を得ることができている。 第6回課題において、自らが設定したテーマに沿った文献を5点以上示すことができている。 第9回課題において、簡易的な質的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 第14回課題において、簡易的な量的調査の計画を立てることができている。他の学生の調査計画に対してコメントを投稿できている。 社会調査の意義や調査倫理を最低限踏まえたうえで、その実行にあたって注意すべき点を1つ以上説明できる。 社会調査にどのような種類があるかを説明できるが、目的に応じた選択が不十分である。 簡易的な調査計画を立てることができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』、大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二編著、ミネルヴァ書房、2,500円(税抜)、2013年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・WORDでレポートの作成ができる。 ・EXCELの基本的な操作(データ入力、計算式入力、オートフィル機能の活用、基本関数の理解、書式設定)ができる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	調査研究方法			担当者	内田 啓太郎
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	社会調査士							
特記事項								
学習目標	<p>本授業では、社会調査の基本から始め、質的社会調査および量的社会調査、中でも量的社会調査を中心に学ぶ。この授業の受講を通じ、自らが社会調査を計画できる能力を取得することが目標である。具体的には以下の通り。</p> <p>社会調査の必要性を問題解決の観点から説明できる。 与えられた、もしくは自らが設定したテーマから調査を通じて分析、検証すべき仮説が構築できる。 構築した仮説の検証に適切な調査対象者ないし集団を想定できる。 仮説検証に必要な調査方法を決定し、それに応じた具体的な調査プロセスを決定できる。 調査を通じて収集したデータを分析するため、調査方法に応じたデータの集計、整理ができる。</p>							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で説明される専門用語を理解しておくこと。必要があれば授業内で紹介する文献を読んでおくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>							
学習内容	概要						課題	
	第1回 社会調査とは何か：イントロダクション						ディスカッション	
	社会調査を学ぶ意味をつかむため、社会調査の全体的なイメージについて解説する。							
	第2回 社会科学者と社会調査の重要性						レポート	
	社会科学分野の研究活動において、社会調査はどう位置づけられているか、その重要性について解説する。							
	第3回 社会調査の目的・対象と方法						確認テスト	
	社会調査の目的に応じて調査対象を決定し、また量的ないし質的社会調査のいずれの方法を取るべきか、その判断の基準および決定プロセスについて解説する。							
	第4回 社会調査における調査資料・データの収集と活用						確認テスト	
	社会調査の設計にて仮説構築の段階で必要となる、既存の社会調査データをどのように収集し、活用すべきか、その手順と方法について解説する。							
	第5回 調査設計と仮説構築						レポート	
	社会調査の設計における仮説構築の手順と具体的な方法について、「ロジカル・シンキング」の手法を活用しつつ解説する。							
	第6回 質的社会調査の方法（1）質的社会調査とは何か						確認テスト	
	質的社会調査を実施するにあたりどのような準備が必要か、複数の手法を紹介し、質的社会調査の手順と方法について具体的なプロセスを解説する。							
	第7回 質的社会調査の方法（2）インタビュー調査の方法と手順						確認テスト	
	質的社会調査におけるインタビュー調査について、インフォーマントの選定や、ラポールの構築や構造化 / 非構造化インタビューの手法などについて解説する。							
第8回 質的社会調査の方法（3）フィールドワークの方法と手順						確認テスト		
フィールドワークの主要な手法であるインタビュー調査や参与観察について具体的な事例を挙げて解説する。								
第9回 質的社会調査の方法（4）フィールドノート作成の方法と手順						確認テスト		
インタビュー調査やフィールドワークの記録であるフィールドノートをどのようにまとめ、作成するのか、またそれらを調査データとして活用可能な形にどう整理していくのかについて解説する。								
第10回 量的社会調査の方法（1）質問紙調査の概要と手順						確認テスト		
量的社会調査における質問紙調査の概要および準備に必要な手順について解説する。								
第11回 量的社会調査の方法（2）質問紙調査における母集団と標本						確認テスト		
質問紙調査の調査票の作成にあたり、適切な母集団の選定および標本となる集団のサンプリング（特に無作為抽出の手順と、それにおける標本数の誤差）について解説する。								
第12回 量的社会調査の方法（3）質問紙調査における調査票の作成と注意点						確認テスト		
質問紙調査の調査票の作成の手順と注意点、特に質問項目の個数や内容・表現（ワーディング）などといった注意すべき点について解説する。								
第13回 量的社会調査の方法（4）調査票の点検と調査票の配布・回収						確認テスト		
質問紙調査において調査票の事前確認から配布、回収に至るまでの手順と注意点について解説する。								
第14回 量的社会調査の方法（5）調査データの集計・整理						確認テスト		
質問紙調査を実施し、得られたデータを入力・集計するうえで、必要な作業（エディティング、コーディング、クリーニング）について解説する。あわせて、データ分析が円滑に行えるよう集計したデータの管理方法についても解説する。								
第15回 全体のまとめ：現代社会における社会調査						レポート		
これまでの授業をふりかえり、現代社会における社会調査の意義や必要性について解説する。								

成績評価方法	<p>評価材料：レポート（第2回・第5回・第15回）および単位修得試験（レポート試験）</p> <p>【A評価】 レポートにおいて、出題の意図を完全に理解した上で、独創的な内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で独創的な仮説の構築ができ、仮説の検証に必要な調査設計を行い、かつそれが現実的に実施可能な状態にまとめられている。 社会調査の実施にあたって必要な準備作業（仮説の構築、そして仮説検証に必要な母集団の選定とサンプリング）が自力で行える状態である。さらに量的ないし質的社会調査を適切な形で（たとえば量的社会調査を実施する場合、質問紙の作成、質問紙の配布および回収が出来ており、そこから得られた調査結果を統計的に解析できること）実施できる能力が備わっている状態である。</p> <p>【B評価】 レポートにおいて、出題の意図を完全に理解した内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築ができ、仮説の検証に必要な調査設計を行える。 社会調査の実施にあたって必要な準備を行えるが、場合により教師からの助力を必要とする状態である。また実際に調査を実施する場合、調査設計から調査の実施、データの収集と解析も基本的に独力で出来るが、適宜教師からの指導が必要だと想定される状態である。</p> <p>【C評価】 レポートにおいて、出題の意図を理解した内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築できているが、仮説の検証に必要な調査設計において一部不十分な箇所がみられる。 仮説の構築も含め社会調査の設計および実施に関する基本的な知識を習得している状態である。したがって、教材をふまえて教師からの指導を断続的に受けることで、任意のテーマで社会調査を設計し、必要な準備を行える状態である。</p> <p>【D評価】 レポートにおいて、出題の意図を最低限理解した内容となっている。 単位修得試験において、与えられたテーマから自力で仮説の構築できているが、仮説の検証に必要な調査設計において不十分な箇所がみられる。 社会科学における社会調査の必要性という観点から、社会調査の設計および実施に関する必要最低限の知識を習得している状態である。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	特定の参考書は指定しない。授業の進行状況や学習者からの反応を確認のうえ、参考となる資料を配布することがある。
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 高校卒業程度の数学の知識を知っていると、本科目の内容をより深く学び、理解することができます。また「調査研究方法」を履修済みか、現在履修中であれば、本科目の内容を理解しやすくなります。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	データベース論		担当者	森本 雅博
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士							
特記事項								
学習目標	データベースの基本理論を理解し、データベースの設計ができるようになる。また、最近のデータベースの種類やリレーショナル・データベースの考え方を理解するとともに、SQLを使用してデータベースの作成や操作ができるようになる。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 各回のまとめポイントを押さえて置くこと。専門用語を理解しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。							
学習内容	概要							課題
	第1回 データベースとは何か							ディスカッション
	生活の中でのデータベースが身近にあることを理解し、データベースの意義について学ぶ。また、情報とデータの違いを確認し、プログラミングで扱うデータファイルの諸問題及ファイル問題の解決策としてのデータベースの働きについて学ぶ。							
	第2回 データモデル							確認テスト
	データベースを構築するとき社会における事象を取り上げ、そこから必要な構造を考えていく作業が必要になる。本時ではデータモデルの意義を学び、3つの種類とそれぞれの特徴について学習する。							
	第3回 データベース管理システム							確認テスト
	DBMSの機能と枠割について学ぶ。							
	第4回 リレーショナル・データベースの仕組み							確認テスト
	データベースの仕組みについて学ぶ。							
	第5回 データベースの設計							確認テスト
	データベースを作成する上でデータベースの設計の基本的な考え方及び作業について学ぶ。							
	第6回 データベースの設計とE-R図							確認テスト
	データベースを計画し、設計する際の知っておくべき概念を学習する。特に3層スキーマの知識を得る。また、データモデルを作成し、テーブルを定義する際に図式化することの重要性について学び、E-R図の内容と使用する図形および意味について学ぶ。							
	第7回 データベース言語SQLとSQLの書き方							確認テスト
	SQLの意義、種類、予約語、基本形、書き方の概要について学ぶ。							
第8回 データベースを定義する							確認テスト	
データベースの定義及びテーブルの定義、削除、リレーションシップの設定やインデックスの作成、削除及びテーブルの定義変更について学ぶ。								
第9回 データを参照する(1)							確認テスト	
レコードの選択、重複データを1つにまとめる、データの並べ替え、条件指定によるデータの抽出に関するSQLについて学ぶ。								
第10回 データを参照する(2)							確認テスト	
2つ以上の条件によるレコードの抽出方法やあいまいな条件によるレコードの抽出方法について学ぶ。								
第11回 データを参照する(3)							確認テスト	
NULL値のレコードの取得方法やレコードのグループ化、テーブルの結合方法について学ぶ。								
第12回 データを使って集計する							確認テスト	
データを使って集計する方法を学ぶ。								
第13回 データを編集する							確認テスト	
DMLのINSERT文、UPDATE文、DELETE文を利用してデータを編集する方法を学ぶ。								
第14回 ビューとストアドプロシージャ							確認テスト	
ビューの定義やビューの内容を参照する方法及びストアドプロシージャの作成と実行方法について学ぶ。								
第15回 まとめ							ディスカッション	
第1回から第14回までの本講義の全体のまとめをする。								

成績評価方法	<p>評価材料：各回確認テスト（学習期間を超過した提出の場合50%減点とする）、ディスカッション、単位修得試験（Web試験）</p> <p>【A評価】 確認テスト平均9割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 単位修得試験において、8割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 情報処理推進機構が提供するITパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、十分合格できるレベルである。</p> <p>【B評価】 確認テスト平均8割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者の手助けや支援するコメントや質問をしている。 単位修得試験において、7割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 情報処理推進機構が提供するITパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、合格できるレベルである。</p> <p>【C評価】 確認テスト平均7割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者へコメントや質問をしている。 単位修得試験において、6割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 情報処理推進機構が提供するITパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、十分合格を目指すレベルである。</p> <p>【D評価】 確認テスト平均6割以上の得点を得る。 ディスカッションにおいて、条件を満たしている。 単位修得試験において、5割以上の得点を得る。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 情報処理推進機構が提供するITパスポートなどの資格試験のうち、データベースに関する設問において、合格を目指すレベルである。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	デジタルデザイン入門			担当者	栗谷 幸助
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士								
特記事項									
学習目標	名刺やバナー、タイプ別のWebサイトのインターフェイスデザインの作成を通して IllustratorとPhotoshopの基礎を習得し、継続して自発的に楽しく学ぶベースを作る。また「フォント講座」などのデジタルデザインを行う上で必要な知識についても学んで行く。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。単位修得試験(制作試験)の標準所要時間は4時間です。適切な学習スピードの自己管理をお願いします。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 なし 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介したAdobeのアプリケーションの機能と専門用語を理解しておくこと 繰り返し映像教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと								
学習内容	概要								課題
	第1回 デザイナーのためのフォント概論と名刺デザイン								レポート
	デザイナーのためのフォント概論と名刺デザイン								
	第2回 ロゴトレースとバナー制作								レポート
	ロゴをトレースする、アプリサイトを想定してバナーを制作する								
	第3回 1ページサイト(アプリサイト)をデザインする(PC用)								レポート
	1ページサイトのデザイン(PC用)								
	第4回 1ページサイト(アプリサイト)をデザインする 第3回の続き								レポート
	1ページサイトのデザイン(PC用) 第3回の続き								
	第5回 1ページサイト(アプリサイト)をデザインする(スマートフォン用)								レポート
	1ページサイトのデザイン(スマートフォン用)								
	第6回 1ページサイト(アプリサイト)をデザインする(スマートフォン用) 第5回の続き/画像の書き出し								レポート
	1ページサイト(アプリサイト)をデザインする(スマートフォン用) 第5回の続き 画像の書き出し								
	第7回 企業サイト(PC)を作る								レポート
	企業サイト(PC)を作る								
第8回 企業サイト(PC)を作る 第7回の続き								レポート	
企業サイト(PC)を作る 第7回の続き									
第9回 企業サイト(PC)を作る 第8回の続き								レポート	
企業サイト(PC)を作る 第8回の続き									
第10回 企業サイト(PC)を作る 第9回の続き								レポート	
企業サイト(PC)を作る 第9回の続き									
第11回 企業サイト(PC)を作る 第10回の続き								レポート	
企業サイト(PC)を作る 第10回の続き									
第12回 企業サイト(PC)を作る 第11回の続き								レポート	
企業サイト(PC)を作る 第11回の続き									
第13回 企業サイト(SP)を作る								レポート	
企業サイト(スマートフォン用)を作る									
第14回 企業サイト(SP)を作る 第13回の続き								レポート	
企業サイト(スマートフォン用)を作る 第13回の続き									
第15回 企業サイト(SP)を作る 第14回の続き								レポート	
企業サイト(スマートフォン用)を作る 第14回の続き									

成績評価方法	<p>評価項目：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において100点満点中90点以上の場合 単位修得試験において適切なアプリケーション および 機能が使用されていれば「20点」まで加点 作品を作る各工程において適切なアプリケーション および 機能が使用されていれば「20点」まで加点 作品に配置する必要な情報がもれなく適切に配置されていれば「20点」まで加点 画像のレタッチや合成などが商用レベルのクオリティに達してあれば「25点」まで加点 レイアウトや配色などが商用レベルのクオリティに達してあれば「25点」まで加点 デザインが仕様に沿ったものになっていて、かつ無駄のないレイヤー管理などが行なわれていれば「10点」まで加点</p> <p>【B評価】 単位修得試験において100点満点中80点以上89点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p> <p>【C評価】 単位修得試験において100点満点中70点以上79点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p> <p>【D評価】 単位修得試験において100点満点中60点以上69点以下の場合 観点は、A評価の欄に書いた通り</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	『グラフィックデザイン Illustrator & Photoshop』、デジタルハリウッド、技術評論社、2015年、2,880円（税抜）
必須ソフト ・ツール	<p>「Adobe Creative Cloud」または、「Illustrator CC」&「Photoshop CC」を各々単体でご用意下さい。 CS6以前のバージョンは不可です。 パソコン側の必要システム構成については、 https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html をご確認ください。 ソフトウェアの動作の確認には、Adobe社の提供する7日間無償の体験版もご利用下さい。 Adobe Creative Cloudデスクトップアプリ紹介ページ https://www.adobe.com/jp/creativecloud/catalog/desktop.html</p>
備考	<p>【履修の前提とするもの】 初学者が前提のため、パソコンの基本操作ができること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 デジタルデザインを通して、自分で発信したいコンテンツを持っていると、具体的に理解を深めることができる。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	哲学		担当者	石毛 弓
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	レポート試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各回で紹介された哲学思想について、簡単にまとめることができる ・各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を読み問いに答えることで学習を進めます。各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ・ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。 						
学習内容	概要					課題	
	第1回 哲学をすることはどういうことか					確認テスト、ディスカッション	
	「哲学」という考え方についての概説および主な授業の進め方について						
	第2回 古代ギリシャ哲学					確認テスト、ディスカッション	
	ソクラテス以前の古代ギリシャ哲学について						
	第3回 古代ギリシャ哲学					確認テスト、ディスカッション	
	ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて						
	第4回 中世哲学					確認テスト、ディスカッション	
	アウグスティヌス、トマス・アクィナスについて						
	第5回 近代哲学					確認テスト、ディスカッション	
	デカルト、スピノザ、ライブニッツについて						
	第6回 イギリス経験論					確認テスト、ディスカッション	
	ベーコン、ホブズ、ロック、バークリ、ヒュームについて						
	第7回 18世紀ドイツ哲学					確認テスト、ディスカッション	
	カントについて						
	第8回 ドイツ観念論					確認テスト、ディスカッション	
フィヒテ、シェリング、ヘーゲルについて							
第9回 現代哲学のはじまり					確認テスト、ディスカッション		
ショーペンハウアー、キルケゴール、ニーチェについて							
第10回 現代哲学のはじまり					確認テスト、ディスカッション		
マルクス、フロイトについて							
第11回 現象学					確認テスト、ディスカッション		
フッサール、ハイデガーについて							
第12回 言語哲学					確認テスト、ディスカッション		
ソシュール、フレーゲ、ラッセル、ウイトゲンシュタインについて							
第13回 構造主義					確認テスト、ディスカッション		
レヴィ=ストロース、ラカン、バルトについて							
第14回 ポスト構造主義					確認テスト、ディスカッション		
フーコー、デリダ、ドゥルーズ=ガタリについて							
第15回 第1～14回の確認					確認テスト		
第1～14回のまとめ							
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の受講状況（確認問題や掲示板への書き込み含む）：20% ・単位取得試験（レポート）：80% レポートは「単位取得試験」の回にある「レポート用紙」をダウンロードしその形式を使用すること。 剽窃の場合は単位を取得できないか成績が極端に下がることがあります。その他、レポートの形式はオンライン教材『レポートの書き方』を参照してください。 『レポートの書き方』 el-Campus その他学習 レポートの書き方 						
教科書	なし						
参考書 (任意購入)	『はじめての哲学史 強く深く考えるために』竹田青嗣・西研、有斐閣アルマ、2,000円（税抜）、1998年						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	統計入門		担当者	浦畑 育生	
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業			デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-	
資格名	認定心理士、社会調査士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】							
特記事項								
学習目標	1. 公的統計資料を収集・理解・活用できる。 2. 調査、研究の目的に合わせて、データを収集・整理・分析・表現できる。							
学習の進め方	1. 節ごとに、授業、演習、ドリル(確認テスト)で知識の定着を行う。 2. 回ごとに、課題(レポート)で知識活用できることを実証する。							
授業時間外学習	1. 各自が興味を持つ新聞、雑誌、学術研究論文誌、政府白書、公的ウェブサイト等に掲載されている図・表・グラフ・統計資料を読んでおく。 2. 授業で行った演習を完成させる。 3. 課題を完成させる。							
学習内容	概要			課題				
	第1回 統計学とは何か	統計学とは何か、データについて、標本の抽出について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第2回 グラフの種類と使い方	グラフの種類と使い方について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第3回 標本の分布と特性値、確率と分布	標本の分布と特性値、確率と分布について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第4回 正規分布	正規分布について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第5回 t分布、2分布	t分布、2分布について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第6回 統計的有意性、標本平均	統計的有意性、標本平均について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第7回 母平均の推定	母平均の推定について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第8回 母標準偏差の推定、仮説検定	母標準偏差の推定、仮説検定について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第9回 因果関係と相関関係	因果関係と相関関係について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第10回 相関分析	相関分析について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第11回 回帰分析	回帰分析について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第12回 相関比	相関比について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第13回 クロス集計	クロス集計について学ぶ。			確認テスト、レポート			
	第14回 多重クロス集計	多重クロス集計について学ぶ。			確認テスト、レポート			
第15回 統計の活用	統計の活用について学ぶ。			確認テスト、レポート				
成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、課題レポート、単位修得試験(レポート)の結果に応じて、以下の基準で評価する</p> <p>【A評価】確認テスト90点以上、課題レポート90点以上、単位修得試験90点以上を同時に満たすこと。</p> <p>【B評価】確認テスト80点以上、課題レポート80点以上、単位修得試験80点以上を同時に満たすこと。</p> <p>【C評価】確認テスト70点以上、課題レポート70点以上、単位修得試験70点以上を同時に満たすこと。</p> <p>【D評価】確認テスト60点以上、課題レポート60点以上、単位修得試験60点以上を同時に満たすこと。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	『はじめての統計学』、鳥居泰彦、日本経済新聞社、2,233円(税抜)、1994年 『統計学入門』、東京大学教養学部統計学教室編、2,800円(税抜)、東京大学出版会、1991年							

索引へ

必須ソフト ツール	電卓（スマホアプリ可）、表計算ソフト（Excel）
備考	【履修の前提とするもの】 表計算ソフト（Excel）、ワープロソフト（Word）の基本操作ができること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名				授業科目名	特別演習 (対話を見える化するコミュニケーション)			担当者	鈴木 沙代
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	「伝える/伝わる力」「傾聴力」「まとめる力」をVisualPractice(話の見える化-グラフィックファシリテーション)を通じて向上させることを目標とする。								
学習の進め方	本授業では、7月25,26日の二日間にわたり、Visual Practice(話の見える化-グラフィックファシリテーション)のスキルの習得を通じて、現代に必要とされるコミュニケーション能力や自身の「伝える/伝わる力」「傾聴力」「まとめる力」を見直します。実際に手を動かすワークを中心に「体験 振り返り 分析 実践」を繰り返しながら進める。 Visual Practiceは、絵や文字、図解を使って、話を見える化することで、その場で「話の内容を確認できるのですれ違いが減る」「イメージを共有できるので共通認識ができていく」「話のプロセスが見える化されるので繋がりが見える」「話を聴いてもらっているという安心感が生まれる」などの効果から、対話の活性化やよりよい関係性の構築に繋がるため、近年注目されている技術である。								
授業時間外学習	事前課題：なし 初日終了後：2日目授業に向けた課題を提示する。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 Visual Practice (グラフィックファシリテーション)とは何か								
	本講義で学ぶ内容等について説明した上で、VisualPracticeの現状と概要について学ぶ。								
	第2回 基本の型を身につける								
	ペンの持ち方からはじめる。アイコン(人、囲み、矢印、表情等)を描くスキルを習得する。								
	第3回 ワーク 自分の顔の中を描き出す/ ストーリーテリング								
	話を聴く力をに着目し、実際に人の話をグラフィックファシリテーションする。								
	第4回 VisualPractice -目的毎の活用シーンについて								
	教育現場、組織開発、カウンセリングやコーチング、コミュニティ、行政における活用について紹介し、実際にデモンストレーションをおこなう。								
	第5回 ワーク さっと描いて「伝える」「対話を活性化させる」「次に繋げる」技術								
	「対話を活性化」させ、本音を引出すスキルとしての描く方法を習得する。								
第6回 ワーク 「人の話をまとめる」/「ノートにまとめる」「まとめる」技術									
「伝える」ために描く方法を習得する。目的、シーンに合わせて既存のテンプレートをつかうことを学ぶ。									
第7回 VisualPracticeと合わせて必要となるスキルの紹介									
ファシリテーション、AoH、NVC等、VisualPracticeと一緒に習得することでより力を発揮するスキルの紹介									
第8回 まとめ/VisualPracticeにおいて大切にしたいこと									
万能薬ではないことを念頭におき、VisualPracticeを活用する際の留意点、リスクについて考える。自分の影響力を自覚的し、活用にあたり、大切にしたいことを考える。									
成績評価方法	授業への参加状況と単位修得試験レポートにより総合的に評価する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『Graphic Recorder 議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書』清水淳子著、ピー・エヌ・エヌ新社、2,000円(税抜)、2017年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>対象者(以下に当てはまる方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率よく勉強したい/頭の整理をしたい ・伝える話し方をできるようになりたい ・相手に寄り添いたい ・パワーバランスがあり、安心して本音を話せない現場に悩んでいる ・話し合いや会議が次に繋がらず上滑りしている気がする ・イノベーションが起きそうな活性化した議論ができていない気がする ・Visual Practiceに関心がある <p>絵が苦手な方でも大丈夫です。ペンの持ち方から一緒に学びますので、安心して受講ください。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	特別演習 (目標達成のための行動変容技術)			担当者	永谷 研一
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名									
特記事項									
学習目標	ありたい姿を実現に向かって目標達成のための行動習慣化と振り返りメソッド「PDCFAサイクル」5つの技術を学ぶ。								
学習の進め方	講義ならびにグループワークを通して、「PDCFAサイクル」5つの技術を順番に習得する。 P: 目標を立てる技術 D: 行動を続ける技術 C: 経験を振り返る技術 F: 人と学び合う技術 A: 自分の軸を見出す技術								
授業時間外学習	授業当日までに教科書を読んでおくこと。また1週間分以上の「ラク達ノート」を記述しておくこと。								
学習内容					概要			課題	
	第1回 PDCFAサイクルの全体像を学ぶ。								
	・ありたい姿に向かって目標を達成するとは ・PDCFAサイクルの全体像とは								
	第2回 P:目標を立てる技術								
	・達成する目標と達成しない目標とは ・達成基準を明確化する								
	第3回 P:目標を立てる技術								
	・問題と課題と成果を整理して考える ・生産性を上げるためには								
	第4回 D:行動を続ける技術								
	・行動計画のNGワードを学ぶ ・行動を習慣化する7つの技術								
	第5回 C:経験を振り返る技術								
・できたことを見つける方法 ・情動知能 Emotional Intelligenceを学ぶ									
第6回 C:経験を振り返る技術									
・ノーマルシンキングによる行動改善 ・クリティカルシンキングによる目的思考									
第7回 F:人と学び合う技術									
・ナナメの関係の有効性を学ぶ ・行動に気づきを与えるフィードバック技術とは									
第8回 A:自分の軸を見出す技術									
・行動を変える技術と目標再設定とは ・貢献や成長から考える「ありたい姿」の再考 ・単位修得試験レポート作成									
成績評価方法	授業への参加状況と単位修得試験レポートにより総合的に評価する。								
教科書	著書 『科学的にラクして達成する技術』 著者 永谷 研一 出版社 クロスメディア・パブリッシング 出版年 2019年 ISBN 978-4295403678 ワークシート ラク達ノート (株式会社ネットマン作成オリジナルノート)								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト ・ツール	なし								
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語学研究			担当者	石井 誠
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	言語の研究はどのように行うのか理解し、その研究成果をどのように教育に役立てていったらいいのか説明できるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から言語に関心を持ち、どうしてこういった言い方をするのだろうかといった態度で言語に対する感覚を鋭くするよう努力すること。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 一通り学習した後、再度冒頭のインタビューを見直し、インタビューで話されている内容をしっかり理解すること。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 方言を研究する意味								ディスカッション
	日本の方言研究がどのように進められたのか、方言を研究する意味とは何かを学ぶ。								
	第2回 現代日本語を研究するという事								レポート
	日本語文法研究の方法について学ぶ。研究会では何を行うのか、先行研究調査ではどんなことを行うのか、日本語研究の実際の流れを理解する。								
	第3回 日本語研究と日本語教育								確認テスト
	日本語研究と日本語教育とはどういう関係になっているのか、研究成果を日本語教育へつなげるにはどうするのかを考える。								
	第4回 日本語教師の養成								ディスカッション
	大学における日本語教師養成はどのように始まり、何を目標しているのか理解する。								
	第5回 日本語教科書の作成								確認テスト
日本語研究の応用という観点から日本語教育、日本語教科書作成について考える。									
第6回 母語と日本語								確認テスト	
南米日系社会の言語調査を例に海外の日系社会の言語調査で何がわかるのかを考える。									
第7回 言語接触論という見方								確認テスト	
沖縄の例を見ながら言語接触という現象を考え、言語の変化について考察する。									
第8回 総括と展望								確認テスト	
日本語研究の成果を日本語教育にどのように役立てていったらいいか、そして今後どのような研究が必要となるのかを考える。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題(ディスカッション、レポート)、単位修得試験</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、適切な内容の自身の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い、積極的に参加している。レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見がきちんと述べられている。単位修得試験において、満点に近い成績をおさめている。以下に記したB評価基準に加え、日本語の研究方法を深く理解し、実際に自身のテーマで研究を進める能力を身に付けている。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、自身の意見を積極的に述べ、他者の意見に適切なコメントをすることができる。レポート課題において、論理的な説明ができ、自らの意見が述べられている。単位修得試験において、優秀な成績をおさめている。以下に記したC評価基準に加え、言語とアイデンティティ、言語接触などの理論を理解し、多様性のある日本語という視点を生かして日本語の特徴を説明できる。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、自身の意見を述べることができる。レポート課題において、所定の条件を満たしている。単位修得試験において、標準以上の成績をおさめている。以下に記したD評価基準に加え、日本語学の研究には様々な分野があることを理解し、それぞれの研究の概要を説明することができる。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、所定の条件を満たしている。レポート課題において、所定の条件を満たしている。単位修得試験において、最低限の成績をおさめている。日本語学の研究に関して基本的なことを理解し、日本語文法の研究が日本語教育に役立っていることを説明できる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	<p>『複数の日本語方言からはじめる言語学』工藤真由美・八尾裕美著、講談社、1,500円(税抜)、2008年</p> <p>『にほんごだいすき2 れんごのほん』鈴木重幸・工藤真由美編、むぎ書房、1,200円(税抜)、2000年</p>								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 言語学の基礎的知識を持っていること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本科目を履修するまでに『複数の日本語方言からはじめる言語学』講談社を読んでおくことが望ましい。本科目を履修するまでに「対照言語学」を修得済みになっているか本科目と同時に履修することが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育			担当者	加藤 恵梨
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教師に必要な資質・能力の基礎知識を獲得する 日本語教育の社会的意義について学ぶ 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 日本語教育に関するニュース、関連図書に目を通すことが望ましい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 日本語教育とは				確認テスト				
	日本語教師、日本語教育人材の仕事について学ぶ 海外での日本語教育機関数、教師数、学習者数や日本での在留外国人数について学ぶ 日本語教師あるいは日本語教師養成講座受講生が受ける日本語教育に関する試験について学ぶ								
	第2回 言語と教育				確認テスト				
	異文化へ適応するためにはどのような側面が必要であるかについて学ぶ 外国語を学ぶ上で必要な学習ストラテジーについて学ぶ コンピュータを使った学習にはどのようなものがあるかについて学ぶ								
	第3回 言語と社会				確認テスト				
	言語政策とは何かについて学ぶ 日本および他国においてどのような言語政策・言語計画がなされているか学ぶ 日本においてどのような言語サービスが行われているか学ぶ 日本語に関する試験にはどのようなものがあるか学ぶ								
	第4回 言語と文化				ディスカッション				
	文化とは何か、文化の特徴や文化理解の方法について学ぶ コミュニケーション能力とは、どのような能力かについて学ぶ 非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるかについて学ぶ								
	第5回 談話理解				レポート				
	談話とは何か、談話を成立させるために必要なことは何かについて学ぶ 発話と発話の文法的・語彙的なつながり(結末性)には具体的にどのようなものがあるかについて学ぶ 談話において、聞き手が理解しやすいよう、話し手はどのように情報を提示すると良いかについて学ぶ 記憶とは何か、記憶と言語産出との関係について学ぶ								
	第6回 言語学概説 1				確認テスト				
	日本語を教える上で理解しておく必要がある言語学とはどのような学問分野であるのかについて学ぶ 音声学・音韻論、形態論、統語論とは、何を研究する分野であるのかについて学ぶ								
	第7回 言語学概説 2				確認テスト				
	言語学の一つの研究分野である、意味論について学ぶ								
	第8回 言語学概説 3				確認テスト				
	言語学の一つの研究分野である、語用論について学ぶ 言語学の知識を日本語教育でどのように生かすのかについて学ぶ								
第9回 語彙と社会				レポート					
ことばは同じ時代においても、それを使う人の属する性、年齢、階層、職業、地域、集団などによって違うことを学ぶ 人は、相手や場所、話題などの場面によってどのようにことばを使い分けるかについて学ぶ									
第10回 日本語の語彙				確認テスト					
日本語の語彙の特徴について学ぶ 日本語の語彙を教える際の基礎知識として語彙をどのように分類することができるかについて学ぶ									
第11回 日本語の文字				確認テスト					
日本語の文字・表記の特徴について学ぶ 日本語学習者が漢字を学習する際、どのような点が難しいと感じているのかを学ぶ 漢字を教える際に必要となる漢字の基礎知識について学ぶ									
第12回 第二言語習得				確認テスト					
第一言語習得とは何か、また、第二言語習得とは何かについて学ぶ 第一言語習得と第二言語習得の類似点と相違点について学ぶ コミュニケーション能力の構成要素について学ぶ									
第13回 年少者日本語教育				ディスカッション					
外国人児童生徒に対する教育の充実の必要性について学ぶ JSLの子どもたちのことばの育成のために何が必要かを学ぶ JSLの子どもたちを指導する際、どのような点に注意する必要があるのかについて学ぶ									
第14回 CLIL				確認テスト					
CLILとは何かについて学ぶ CLILの授業の構成の仕方や、教師の役割について学ぶ									
第15回 これからの日本語教育				確認テスト					
「生活者としての外国人」に対する日本語教育について学ぶ 外国人留学生に対する日本語教育について学ぶ									

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（レポート・ディスカッション）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する十分な基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識および能力について適切に記述することができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解するとともに、日本語教育に関する十分な基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識および能力について適切に述べるができる。</p> <p>【B評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者へ適切な発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識および能力について適切に記述することができる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解し、日本語教育に関する基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識および能力について適切に述べるができる。</p> <p>【C評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識および能力について記述することができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教育に関する基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識および能力について述べるができる。</p> <p>【D評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教育に関する基礎的知識をもとに、日本語教師に求められる知識あるいは能力について記述することができる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教育に関する基礎的知識をもち、日本語教師に求められる知識あるいは能力について述べるができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	各回の最後に記載しています。
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育演習			担当者	梅野 由香里
レベルナンバ	300	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初級の日本語学習者向けの授業を行うために、学習者のレディネス、ニーズ調査を行い、授業シラバスを設計することができるようになる。 ・「初級文型」について、「教師が知っておくべき知識」と「学習者に提示すべき点」とを明確に分類し、「学習者に提示すべき点」については、非常に簡単で分かりやすい日本語に言い換えて、説明することができるようになる。 ・文献や他者の教案を参考にしながら、入門～初級学習者向けの授業教案を記述することができるようになる。 ・自分で書いた教案をもとに、入門～初級学習者向けの日本語の模擬授業を実施することができるようになる。 ・他者の模擬授業を見て、相手のことを考えながら、直すべき点を批評したり、いい点を評価したりすることができるようになる。 ・模擬授業を通して、同じ志を持つ者同士がマナー良く話し合うことができるようになる。 								
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>【模擬授業について】 第4回の模擬授業は、スクーリング形式(大手前大学さくら夙川キャンパス)、もしくはインターネット経由でのオンライン授業システムのいずれかで実施する。詳細については、後日周知する。</p>								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講中に分からない言葉などが出てきたとき、すぐに調べられるように辞典や日本語教育能力検定用の用語集を準備しておくこと。 <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 コースデザイン				レポート、ディスカッション				
	日本語教育の現状を理解し、その上で初級学習者向けの日本語の授業を行う前の準備段階として、コースデザイン(学習者のレディネス調査、ニーズ調査、シラバス作成)の方法を学ぶ。								
	第2回 初級文型の指導				レポート、プレゼンテーション				
	構造シラバスで使われる「初級文型」の中から、初級前半で指導すべき文型をいくつか取り出し、授業の前に教師が知っておくべき文型の知識(形、意味・機能、場面・使い方)を調べる方法を学ぶ。								
第3回 教案作成				プレゼンテーション					
「初級文型」の中から、特に、入門期に導入すべき文型に基づいた教案を作成する方法を学ぶ。									
第4回 模擬授業				レポート					
「初級文型」の中から、初級前半で指導すべき文型の模擬授業を行う。									
成績評価方法	<p>評価材料：レディネス・ニーズ調査(第1回の課題)、教科書分析、文型分析のレポート(第2回の課題)、教案(第3回の課題)、模擬授業実施報告(第4回の課題)、および受講者に対するコメント(第2回、第3回の課題)、単位修得試験</p> <p>【A評価】 課題及び単位修得試験において、以下の項目が概ね達成できている。 <ul style="list-style-type: none"> ・過不足なく学習者のレディネスとニーズが正確に調査できるような質問紙を作成することができる。 ・複数の文献を用いて、様々な角度から教科書及び文型分析をすることができる。 ・教案において当該文型を、「導入」「基本練習」の流れに沿って、効果的で、かつ飽きさせないような工夫がある授業を展開することができる。 ・教案において教師のアクションや授業で使用する教材・教員が全て記載されており、授業の様子が想定しやすい。 ・実施報告書がすべて記載されており、改善点を含め、十分に内省してあることが確認できる。 ・他者の課題を読み、相手の気持ちに配慮しながら有益で、かつ広い視野にたったコメントを付けることができる。 上記の項目に加え、単位修得試験において、模擬授業で得られた他者からのフィードバックや自身の内省を生かし、非常に優れた最終教案の作成ができている。</p> <p>【B評価】 上記の項目のうち、1～2項目については不十分であるが、それ以外の項目については概ね達成できている。 また、単位修得試験においては、模擬授業で得られた他者からのフィードバックや自身の内省を生かし、優れた最終教案の作成ができている。</p> <p>【C評価】 上記の項目のうち、2～3項目については不十分であるが、それ以外の項目については概ね達成できている。 また、単位修得試験においては、模擬授業で得られた他者からのフィードバックや自身の内省を生かし、最終教案の作成ができている。</p> <p>【D評価】 上記の項目のうち、3～4項目については不十分であるが、それ以外の項目については概ね達成できている。 また、単位修得試験においては、修正された教案が作成されているが、他者からの意見のフィードバックが生かし切れているとはいえ、また、内省も不十分である。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> 『みんなの日本語初級 第2版 本冊』スリーエーネットワーク編著、スリーエーネットワーク、2700円(税込)、2012年 用語集は、 『日本語教育能力検定試験に合格するための用語集』アルク編著、2012年 『新合格水準 日本語教育能力検定試験 用語集 改訂版』アークアカデミー編、2012年 などから一冊選ぶことをお勧めする。								
必須ソフト・ツール	第4回の模擬授業でオンライン授業システムを用いる場合は、各自で専用アプリをインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロード可能。詳細については、後日周知する。								
備考	<p>以下を履修条件とする。履修登録までに配布するチェックリストに基づき、自身で確認すること。</p> <p>【履修の前提とするもの】 日本語教員養成課程の「日本語教育」、「日本語教育と音声(旧:日本語の特徴と発音)」、「日本語教育文法(旧:日本語の文法と表現)」、「日本語教育文法(旧:日本語の文法と表現)」 「日本語教授法A」、「日本語教授法B」、「対照言語学(旧:日本語教育文法研究)」、「言語とコミュニケーション論(旧:日本語教育論研究)」、「計量言語学(旧:日本語教育聴解研究)」、「日本語学研究(旧:日本語教育文法研究)」、「世界の日本語教育(旧:第二言語習得研究)」、「地域の日本語教育(旧:第二言語習得研究)」をすべて修得していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 初級日本語学習者向けの指定の参考書に目を通しておくこと。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育会話演習			担当者	吉崎 奈々
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	「会話」教授法を理解し、また、「話す力」とはどのようなものか客観的にとらえることができる。教室活動の特徴と流れを理解し、レベルに合わせた「話す力」を伸ばす教案づくりが行えるようになる。日本語の基礎的な特徴を理解し、適切な教室活動計画することができるようになる。								
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後にeI-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。								
授業時間外学習	課題を実施し、授業内容を復習すること。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 授業の概要説明と世界の日本語教育について				授業後に提示される課題の実施				
	講義概要の説明および、目的を理解する。進め方、評価の方法、履修上のルールについて説明。世界でどのような日本語教育が行われているか説明する。								
	第2回 日本語教育における会話・スピーチ・ディスカッション授業とは				授業後に提示される課題の実施				
	日本語教における会話、スピーチ、ディスカッションの授業の位置づけ、アプローチ、メソッドなどの説明をする。								
	第3回 日本語学習者のレベル、背景に合わせた「話す」授業の進め方、教材選びと教案作成の意義				授業後に提示される課題の実施				
	外国人の話す能力を引き出し向上させるためには、日本語教員はレベルに応じた学習方法の知識はもちろん、進め方とテーマ選びも重要。また教室活動には事前の準備が大切で、教案を作成し、事前に準備することの必要性を理解する。								
	第4回 スピーチ、ディスカッション授業の教案作成、テーマ選びなど事例紹介 初級				授業後に提示される課題の実施				
	日本語を使って人前で話すことが抵抗なくできるようになるための指導法、取り組み、シラバス作成のポイントなど事例を挙げ説明する。初級のテーマ選び、教材集めについても説明する。								
	第5回 スピーチ、ディスカッション授業の教案作成、テーマ選びなど事例紹介 中級				授業後に提示される課題の実施				
	日本語を使って自分の意見を的確に述べるようになるための指導法、取り組み、教案作成のポイントなど事例を挙げ説明する。応用能力を向上させるディスカッション・メソッドの実践について説明する。中級のテーマ選び、教材集めについても説明する。								
第6回 スピーチ、ディスカッション授業の教案作成、テーマ選びなど事例紹介 上級				授業後に提示される課題の実施					
聞き手と交流しながら自分の意見を述べ、状況、雰囲気、相手に合わせた話し方ができ、コミュニケーションが上手にとれるために必要な指導方法、取り組み、教案作成のポイントなど事例を挙げて説明する。上級のテーマ選び、教材集めについても説明する。									
第7回 会話、スピーチ、ディスカッションにおける日本語らしい日本語の取り入れ方(より豊かな表現)、理解の指導について				授業後に提示される課題の実施					
日本語にはコミュニケーション文化における特徴(ハイコンテクスト)があり、聞き手に自分の意見を誤解なく理解してもらうためには、これらの文化をすることが必要である。このような言語と文化、発話と意図理解について、事例を挙げて説明する。									
第8回 会話、スピーチ、ディスカッションにおける日本語らしい日本語の取り入れ方(より豊かな表現)、理解の指導について				授業後に提示される課題の実施					
社会における目に見える文化としての日本語、目に見えない文化としての日本語について説明する。									
成績評価方法	評価材料：単位修得試験(レポート試験)、授業態度 【A評価】 各回の受講内容が十分に理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することが十分にできる。 【B評価】 各回の受講内容がほぼ理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することができる。 【C評価】 各回の受講内容がある程度理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えは少ないが産出することができる。 【D評価】 各回の受講内容の基本的事項が理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えはほとんど含まれないが産出することができる。								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。								
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育作文演習			担当者	清水 泰行
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」がコミュニケーションの1つであることを説明することができる。 ・「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインを検討することができる。 ・「書く力」を高めるための評価を設計することができる。 								
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後にeI-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解が不十分であったところは、関連する参考書で確認すること ・授業に関連するテーマに常に興味を持ち、「書くこと」全般に注意を向けること ・適宜紹介する参考文献なども積極的に読んでみる 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 「書くこと」とは?				確認テスト				
	「書くこと」の教え方を考える前に、日常生活の「書くこと」、授業での「書くこと」を振り返り、後に続く各回への導入とする。								
	第2回 「書く力」を高めるための指導				確認テスト				
	作文の指導における、文型、書きことばのスタイル、文と文のつながりについて考察する。								
	第3回 「書く力」を高めるための指導				確認テスト				
	作文の指導における、文章構成、読み手の想定、書くプロセスについて考察する。								
	第4回 「書く力」を高めるための活動や授業のデザイン				確認テスト				
	授業における、「書くこと」に慣れるための活動について考察する。								
	第5回 「書く力」を高めるための活動や授業のデザイン				確認テスト				
	授業における、コミュニケーションを大切に「書く」活動について考察する。								
	第6回 「書くこと」の評価				確認テスト				
作文の添削とコメントの方法について考察する。									
第7回 「書くこと」の評価				確認テスト					
「パフォーマンス評価」と評価基準について考察する。									
第8回 まとめと補足				レポート					
これまでの内容を振り返り、授業での意見交換を通して、自己の課題を知る。									
成績評価方法	<p>評価材料：課題(レポート)、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 ・各回の内容を十分に理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインを十分に検討でき、「書く力」を高めるための評価を十分に設計することができた。</p> <p>【B評価】 ・各回の内容をほぼ十分に理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインをほぼ十分に検討でき、「書く力」を高めるための評価をほぼ十分に設計することができた。</p> <p>【C評価】 ・各回の内容をある程度理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインをある程度検討でき、「書く力」を高めるための評価をある程度設計することができた。</p> <p>【D評価】 ・各回の内容を部分的に理解し、「書く力」を高めるための指導、活動や授業のデザインを部分的に検討でき、「書く力」を高めるための評価を部分的に設計することができた。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第8巻「書くことを教える」』、国際交流基金、ひつじ書房、2010年9月30日 初版1刷								
必須ソフト ・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。								
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育実習			担当者	石井 誠、鈴木 基伸、加藤 恵梨、井上 里鶴
レベルナンバー	400	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	教案・教材作成、授業見学、模擬授業等の実施を通して、実際の授業を運営するうえで日本語教師に求められるスキルを身に付ける。								
学習の進め方	<p>【本学さくら夙川キャンパス】 【東京福祉保育専門学校(実習会場)】 実際に行われている日本語の授業見学を行った後、教案作成をする。その後、他の学習者の模擬授業を見学し、自らも模擬授業、教壇実習を行う。</p> <p>【ヒューマンアカデミー日本語学校】 実際に行われている授業の見学を行いながら、教案作成、模擬授業の実施を行う。また実際の授業にアシスタントとして加わり、最終的に教壇実習を行う。実習終了後に振り返り(実習の成果)のプレゼンテーションを行う。</p> <p>【ヒューマンアカデミー日本語教員養成講座】 教案作成を行った後、他の学習者の模擬授業を見学し、自らも模擬授業、教壇実習を行う。</p>								
授業時間外学習	<p>【本学さくら夙川キャンパス】 【東京福祉保育専門学校(実習会場)】 【ヒューマン日本語学校】 【ヒューマン日本語教員養成講座】 事前学習動画を見て、教育実習開始1週間前までに、模擬授業で用いる教案のベースとなるものを作成し、提出する。</p>								
学習内容	概要								課題
	【本学さくら夙川キャンパス】 / 【東京福祉保育専門学校(実習会場)】								
	1日目～5日目 ガイダンス 実習の進め方、課題、単位修得方法、注意点等について説明する。 授業見学 実際の日本語の授業を見学し、授業の運営方法について学ぶ。 教案・教材物等の作成 模擬授業で使用する教案、教材、絵カード等を作成する。 模擬授業 自らの模擬授業の実施及び他の学生の模擬授業見学を行う。 教壇実習 模擬授業実施後にブラッシュアップした教案をもとに留学生に対して実際に教壇実習を行う。 まとめで振り返り 教育実習を振り返り、フィードバックを行う。								
	【ヒューマンアカデミー日本語学校】								
	授業実践に向けて 実習に関する諸注意とスケジュールの確認。 1日目 授業見学(初級) 初級初期クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。 2日目 授業見学(中級)、1回目模擬授業 中級クラスの授業見学を行い、授業の流れを知る。模擬授業を行う。 3日目 2回目模擬授業、授業参加 模擬授業を行う。実際のクラスにアシスタントとして参加する。 4日目 3回目模擬授業、授業実践模擬授業、教壇実習を行う。 5日目 上級クラスに授業参加 上級クラスにアシスタントとして参加する。 実習終了後 研修 1～2週間後に実習の成果をプレゼンテーションする(20～30分)								
成績評価方法	【ヒューマンアカデミー日本語教員養成講座】								
	第1回 オリエンテーション・教案作成 オリエンテーションを行い、教案作成にとりかかる。 第2回～3回 教案作成教案作成を行う。 第4～11回 実習の実施 模擬授業の実施及び見学を行う。受講生、外国人参加者からコメントを貰い、ディスカッションを行う。								
教科書	<p>【本学さくら夙川キャンパス】 / 【東京福祉保育専門学校(実習会場)】スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級 本冊』スリーエーネットワーク 【ヒューマンアカデミー日本語学校】『つなく日本語初級1』アスク出版 【ヒューマン日本語教員養成講座】なし</p>								
参考書(任意購入)	<p>～ 共通 市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク 国際交流基金 日本語教授法シリーズ4『文法を教える』ひつじ書房</p>								
必須ソフト・ツール									
備考	<p>「日本語教育実習」の授業内に、「事前・事後学習動画」があるので、実習前、実習後に必ず視聴し、期日までに課題等を提出すること。 【本学さくら夙川キャンパス】(1クラス定員：30名) 【東京福祉保育専門学校(実習会場)】(1クラス定員：24名) 【ヒューマン日本語学校】(1クラス定員：東京校6名・大阪校6名・佐賀校4名) 【ヒューマン日本語教員養成講座】(各コース定員：12名)</p> <p>【履修の前提とするもの】 ・在学2年目以降(10月入学者は翌年の10月以降)で、履修登録時において以下の必修12科目13単位を修得済みであること。 ・「日本語教育」「日本語教育と音声(旧:日本語の特徴と発音)」「日本語教育文法(旧:日本語の文法と表現)」「日本語教育文法(旧:日本語の文法と表現)」「日本語教育文法A」「日本語教育文法B」「対照言語学(旧:日本語教育文法研究)」「言語とコミュニケーション論(旧:日本語教育読解研究)」「計量言語学(旧:日本語教育聴解研究)」「日本語学研究(旧:日本語教育文法研究)」「世界の日本語教育(旧:第二言語習得研究)」「地域の日本語教育(旧:第二言語習得研究)」 ・初級学習者向けの教案が作成でき、またその教案を用いて模擬授業を行えるだけの基礎理論と技能を習得していること。</p> <p>学修ガイダンスの『「日本語教育実習」履修前チェックシート』をダウンロードし、履修登録時までに基準を満たすよう各自で学習を進めておいてください。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育聴解演習			担当者	吉崎 奈々
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	聴解授業の進め方と必要なスキルを習得し、聴解授業とは何かを理解できるようになる。 発展的な授業の進め方を理解できるようになる。 教案を作成できるようになる。								
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後にel-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。								
授業時間外学習	課題を実施し、授業内容を復習すること。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 聴解授業とストレッチゴールの設定				授業後に提示される課題の実施				
	聴解の授業でどのような目標設定を行うか考える								
	第2回 実践的授業の進め方 初級				授業後に提示される課題の実施				
	清音、長音、数字、などの取り入れ								
	第3回 実践的授業の進め方 中級				授業後に提示される課題の実施				
	会話文を理解させるために必要なこと								
	第4回 実践的授業の進め方 上級				授業後に提示される課題の実施				
	聞くから聴くへ								
	第5回 発展と展開 初級～中級				授業後に提示される課題の実施				
	シャドーイング、作文								
第6回 発展と展開 上級				授業後に提示される課題の実施					
演劇の取り入れ									
第7回 客観的な評価とテストづくり				授業後に提示される課題の実施					
聞き取りテストの作成									
第8回 教案作成のポイント				授業後に提示される課題の実施					
教案作成のアイデアと意義									
成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験(レポート試験)、授業態度</p> <p>【A評価】各回の受講内容が十分に理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することが十分にできる。</p> <p>【B評価】各回の受講内容がほぼ理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えをもち産出することができる。</p> <p>【C評価】各回の受講内容がある程度理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えは少ないが産出することができる。</p> <p>【D評価】各回の受講内容の基本的事項が理解でき、かつ課題に積極的に取り組み、「話す」能力を育成するための考え方や指導方法について、自分なりの考えはほとんど含まれないが産出することができる。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育と音声			担当者	須藤 潤
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	学習者の音声学習を支援するための心構えが持てるようになった上で、非母語話者の日本語音声聞き、共通語としての日本語の音声の特徴とどのような違いがあるか、日本語の音声の(音声学・音韻論の)基本的な仕組みを踏まえて説明できるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 普段から動画サイト等で日本語非母語話者(日本語学習者)の日本語の話しかた、発音に親しむこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で扱った概念・専門用語を理解しておくこと。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 調音(発音)								確認テスト
	母音・子音の発音のしかた(調音)を扱います。その上で、調音がことばの印象に関わっていることについても触れます。								
	第2回 音素								確認テスト
	日本語の発音を見ると、日本語としては1つの音(=音素)とみなしているにもかかわらず、実際には発音のしかたが複数あることもあります。そういった現象に迫ります。								
	第3回 音のまとまり								確認テスト
	ある言語で単語の長さを知りたいとき、母音を中心とした音のまとまり(=音節)がいくつあるか数えます。日本語の「かな」1つが示す音のまとまり(=モーラ)も似たような概念です。音節やモーラを単位としたリズムや単語の構造について理解を深めます。								
	第4回 アクセントの仕組み								確認テスト
	日本語(東京方言をベースとした共通語)のアクセントについて、他の言語との違い、機能、調べ方について理解を深めます。そして、身近な例として人の名前のアクセントを取り上げます。								
	第5回 様々な単語のアクセント								確認テスト
	外来語のアクセント、活用がある動詞・形容詞のアクセントなど、単語の種類によって、アクセント型に特徴が見られるものを取り上げます。								
第6回 イントネーション1								確認テスト	
イントネーションの概要について説明し、機能について、主にフォーカスの面から説明します。									
第7回 イントネーション2								確認テスト	
イントネーションの機能について、主に聞き手への働きかけやキャラクターに関係する面から説明します。									
第8回 学習者と音声								レポート	
学習者の音声をとりまく過去・現在、そして、未来について考えます。									
成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト・レポート・単位修得試験</p> <p>【A評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識が十分定着しており、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いて、あらゆる項目について、ほぼ正確な説明ができる。音声学習の支援に対する考えもしっかり持つことができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を適切に行うことができる。</p> <p>【B評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識がおおむね定着しており、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いて、いくつかの項目について、ある程度正確な説明ができる。音声学習への支援に対する考えもある程度持つことができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を適切に行うことができる。</p> <p>【C評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識の定着が限定的であり、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いて、項目は少ないものの、ある程度正確な説明ができる。音声学習への支援に対する考えも十分ではないが、学習者の立場に立って考えることができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を、助言を受けながら一人で行うことができる。</p> <p>【D評価】 授業で扱った音声学・音韻論の基礎的な知識の定着が極めて限定的であり、日本語学習者の具体的な発音に対して、知識の枠組みを用いた正確な説明ではないものの、違和感については説明ができる。音声学習への支援に対する考えも十分ではないが、学習者の立場に立って考えることができる。日本語の音声学習の場面で、学習者の指導・支援を、経験者の助言や補助を受けながらなんとか行うことができる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ・パソコンの基本操作に精通していること。 ・講義の一部で音響分析ソフトの紹介があります。パソコンに内蔵マイク(または外部マイク)があれば実際にソフトを試すことができます。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育読解演習			担当者	加藤 恵梨
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の読む力を伸ばすために何が必要かを考えることができるようになる。 ・学習者のレベルにあわせて読解授業を組み立てられ、練習問題を作成することができるようになる。 								
学習の進め方	オンラインライブ授業システムを使用して授業を受け、授業後にel-Campusで課題を実施し、理解度を確認する。授業内では時折発言を求め、双方向コミュニケーションをはかる。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料には必ず目を通しておくこと。 ・確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、関連する参考図書で確認すること。 ・日本語教育に関連する参考図書で自己学習すること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 学習者の読む力を育成するために								
	読解学習の目的について理解し、指導する上で注意すべき点について学ぶ。								
	第2回 読解のストラテジー								確認テスト
	文章を読むときに使うストラテジーについて理解する。								
	第3回 読解授業の組み立て方								
	読解授業を「読む前」「読む」「読んだ後」という3つの段階に分け、「読む前」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。								
	第4回 読解授業の組み立て方								レポート
	読解授業を「読む前」「読む」「読んだ後」という3つの段階に分け、「読む」「読んだ後」にはどのような活動を行うかについて学ぶ。								
	第5回 コース全体の読解指導計画								
	コース全体の読解指導をどのように計画するかについて学ぶ。								
成績評価方法	第6回 初級の教え方								確認テスト
	初級レベルでどのような読解活動や練習をしたら良いかについて考える。								
	第7回 中・上級の教え方								
	中・上級レベルでどのような読解活動や練習をしたら良いかについて考える。								
教科書	第8回 さまざまな読解活動								ディスカッション
	読解活動にどのような技能を取り入れるとより効果的であるかについて考える。								
	評価対象活動：単位修得試験(レポート)、レポート、ディスカッション								
	【A評価】 各受講回の内容を十分に理解し、学習者のレベルに適した読解の授業計画が立てられ、適切な練習問題を作成することができた。 【B評価】 各受講回の内容を十分に理解し、学習者のレベルに適した読解の授業計画が立てられ、適切な練習問題を作成することができた。 【C評価】 各受講回の内容を理解し、レベルにあっていない部分はあるものの読解の授業計画が立てられ、練習問題を作成することができた。 【D評価】 各受講回の内容を理解し、読解の授業計画が立てられたか、あるいは練習問題を作成することができた。								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『日本語教育叢書「つくる」読解教材を作る』、館岡洋子、スリーエーネットワーク、2012年5月22日 初版第1刷 『日本語教師の7つ道具シリーズ5「読解授業の作り方編」』、大森雅美・鴻野豊子、アルク、2013年12月18日 初版 『国際交流基金 日本語授業法シリーズ 第7巻「読むことを教える」』、国際交流基金、ひつじ書房、2015年2月5日 初版4刷								
必須ソフト・ツール	オンラインライブ授業システムの専用アプリを各自でインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロードすることが可能。Webカメラ・マイク必須。詳細については後日周知する。								
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育特講		担当者	鈴木 基伸, 大和 祐子, 小森 万里
レベルナンバ	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する、「日本語教育能力検定試験」の過去問題に取り組み、その出題範囲、出題傾向、問題の解き方等について学ぶ。							
学習の進め方	本授業では、平成23年度から平成28年度の実施問題を使用しながら項目の説明と問題の解説を行う。当然だが、過去問のすべての問題を扱うわけではなく、一部抜粋して使用する。							
授業時間外学習	平成23～28年のいずれかの年度の問題を解いておくことが望ましい。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 教授法							
	『教授法』について過去問を使用しながら説明・解説する							
	第2回 コースデザイン/教材						確認テスト	
	『コースデザイン/教材』について過去問を使用しながら説明・解説する							
	第3回 評価法							
	『評価法』について過去問を使用しながら説明・解説する							
	第4回 第二言語習得						確認テスト	
	『第二言語習得』について過去問を使用しながら説明・解説する							
	第5回 文法							
『文法』について過去問を使用しながら説明・解説する								
第6回 言語学/社会言語学						確認テスト		
『言語学/社会言語学』について過去問を使用しながら説明・解説する								
第7回 音声/聴解						確認テスト		
『音声/聴解』について過去問を使用しながら説明・解説する								
第8回 まとめと振り返り								
これまで学んできた内容をまとめ、特に重要な点を振り返る。								
成績評価方法	単位修得試験の得点割合によって評価する A評価：90%以上 B評価：80%以上 C評価：70%以上 D評価：60%以上							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	平成23～28年度 日本語能力検定試験 試験問題/新・初めての日本語教育基本用語辞典 アスク出版 ISBN-13:978-4872175165							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法		担当者	建石 始
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	普段何気なく使っている日本語を客観的に見つめることで、文法に対して新たな発見をし、日本語教育文法について明確に説明できるようになることが目標となります。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には課題がありますので、課題を終わらせてうて次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 普段の生活の中でも日本語について意識してください。また、日本語教育や日本語文法に関する知識・情報を収集する習慣を身につけてください。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 オンデマンド教材を繰り返し視聴して、授業内容を確実に身につけてください。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 日本語教育文法とは							確認テスト
	学校文法との違いを意識しながら、日本語教育文法とはどのようなものかを理解します。							
	第2回 ヴォイス(その1) 受身							確認テスト
	ヴォイスがどのようなものかを確認したうえで、日本語の受身の特徴を探ります。また、日本語教育における受身の扱いについても触れます。							
	第3回 ヴォイス(その2) 使役							確認テスト
	ヴォイスがどのようなものかを復習したうえで、日本語の使役の特徴を探ります。また、日本語教育における使役の扱いについても触れます。							
	第4回 ヴォイス(その3) 可能							確認テスト
	ヴォイスがどのようなものかを復習したうえで、日本語の可能の特徴を探ります。また、日本語教育における可能の扱いについても触れます。							
	第5回 テンス・アスペクト(その1) 辞書形とタ形							確認テスト
テンスがどのようなものかを確認したうえで、日本語の時制の特徴を探ります。また、日本語教育におけるテンスの扱いについても触れます。								
第6回 テンス・アスペクト(その2) テイル形							確認テスト	
アスペクトがどのようなものかを確認したうえで、日本語のアスペクトの特徴を探ります。また、日本語教育におけるアスペクトの扱いについても触れます。								
第7回 モダリティ(その1) 対事的モダリティ							ディスカッション	
モダリティがどのようなものかを確認したうえで、日本語のモダリティの特徴を探ります。また、日本語教育におけるモダリティの扱いについても触れます。								
第8回 モダリティ(その2) 対人的モダリティ							ディスカッション	
モダリティがどのようなものかを復習したうえで、日本語のモダリティの特徴を探ります。また、日本語教育におけるモダリティの扱いについても触れます。								
成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 ディスカッションにおいて、よく吟味し、非常に熟考された発言と他者に対する積極的な助言や意見が行われている。 単位修得試験(レポート)において、出題した条件を全て満たしており、本授業で学習した内容だけでなく、それ以上の工夫を数多く取り入れられている。 日本語教育文法について、明確、かつ詳細に説明することができ、自分自身も日本語教育文法に関する研究を行うことができる。日本語教育の現場において、文法に関して困ることが全くない状態。</p> <p>【B評価】 ディスカッションにおいて、吟味し、熟考された発言と他者に対する助言や意見が行われている。 単位修得試験(レポート)において、出題した条件を全て満たしており、本授業で学習した内容が部分的に用いられている。 日本語教育文法について詳細に説明することができ、自分自身も日本語教育文法に関する簡単な研究を行うことができる。日本語教育の現場において、文法に関して困ることがない状態。</p> <p>【C評価】 ディスカッションにおいて、条件を満たした発言や意見が行われている。 単位修得試験(レポート)において、出題した条件を満たしており、本授業で学習した内容が部分的に用いられている。 日本語教育文法について明確に説明することができ、もう少し訓練を積めば、自分自身も日本語教育文法に関する簡単な研究を行うことができる。日本語教育の現場において、時間をかければ、文法に関して困ることがない状態。</p> <p>【D評価】 ディスカッションにおいて、最低限の条件を満たした発言や意見が行われている。 単位修得試験(レポート)において、出題した条件を最低限満たしている。 日本語教育文法について説明することができるものの、あまり明確ではなく、日本語教育の現場において、文法に関して困る可能性がある状態。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	<p>『現代日本語文法1-4』、日本語記述文法研究会編、くろしお出版、2,800円(税抜)、2003~2010年</p> <p>『基礎日本語文法 改訂版』、益岡隆志・田窪行則、くろしお出版、2,200円(税抜)、1992年</p> <p>『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘、スリーエーネットワーク、2,200円(税抜)、2000年</p> <p>『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘、スリーエーネットワーク、2,200円(税抜)、2001年</p> <p>『新しい日本語学入門ことばのしくみを考える第2版』、庵功雄、スリーエーネットワーク、2,000円(税抜)、2012年</p> <p>『みんなの日本語初級 第2版本冊』、スリーエーネットワーク、2,700円(税抜)、2012年</p> <p>『みんなの日本語初級 第2版本冊』、スリーエーネットワーク、2,700円(税抜)、2013年</p>							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育文法 との同時履修が望ましいです。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>							

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法		担当者	野田 大志
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本語文法に関する様々な特徴を客観的に観察し、適切な言葉で分かりやすく説明できるようになる。 ・日本語教育の現場で、現代日本語文法をどのように扱うか、具体的にイメージできるようになる。 							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 日頃から、身の回りの様々な日本語表現を、意識的かつ意欲的に見つめること。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業内で紹介した文法項目について、その特徴を十分に理解した上で、他者にやさしい日本語で説明できるようにしておくこと。加えて、授業内で紹介した文法項目の関連項目を自分自身で探し、考察してみる。</p>							
学習内容	概要						課題	
	第1回 単語に潜む文法 複合語と派生語の語構成						確認テスト	
	この授業ではまず、「合成語」(「複合語」と「派生語」)とは何かについて簡単に確認します。その上で、様々な合成語に関して、その構成要素がどのようなルール(文法的・意味的特徴)によって結び付いているのかを具体的に考えていきます。							
	第2回 様々な品詞その1 名詞						確認テスト	
	この授業では、名詞を取り上げ、その様々な意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。							
	第3回 様々な品詞その2 助詞						確認テスト	
	この授業では、助詞を取り上げ、その様々な意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。							
	第4回 様々な品詞その3 副詞・連体詞・指示詞						確認テスト	
	この授業では、副詞、連体詞、指示詞という3つの品詞を取り上げ、それぞれの品詞の様々な意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。							
	第5回 文の骨格 格成分・余剰成分・使用パターン						レポート	
	この授業では、格成分、余剰成分、使用パターンという3つの概念を取り上げ、文と、それを構成する(複数の)単語との様々な関わりについて具体的に考えていきます。							
	第6回 名詞修飾表現をめぐって						確認テスト	
この授業では、様々なタイプの名詞修飾表現を取り上げ、その意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。								
第7回 様々な複文：その1						確認テスト		
この授業ではまず、「複文」とは何かについて簡単に確認します。その上で、条件節を従属節とする複文、時間節を従属節とする複文を取り上げ、その意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。								
第8回 様々な複文：その2						確認テスト		
この授業では、時間節、等位節、並列節を含む複文を取り上げ、その意味的・文法的特徴について具体的に考えていきます。								
成績評価方法	<p>評価材料：第5回レポート、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を極めて深く、かつ体系的に理解できている。また、それを分かりやすい日本語表現を用いて論理的かつ明快に説明できている。加えて、授業で扱った文法項目以外の様々な関連項目についても、同様のアプローチに基づいて多角的に観察し、十分に説明できている。</p> <p>【B評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を、十分に理解できている。また、それを分かりやすい日本語表現を用いて論理的に説明できている。加えて、授業で扱った文法項目以外の様々な関連項目についても、同様のアプローチに基づいて観察し、説明できている。</p> <p>【C評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を理解できている。また、それを自分自身の言葉で論理的に説明できている。加えて、授業で扱った文法項目以外にどのような関連項目があるか見出せている。</p> <p>【D評価】 授業で扱った文法項目の様々な特徴を、最低限理解できている。また、それを自分自身の言葉で説明できている。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> ・『ここからはじめる日本語文法』、森山卓郎、ひつじ書房、1,800円(税抜)、2003年 ・『一歩進んだ日本語文法の教え方1』、庵功雄、くろしお出版、1,400円(税抜)、2017年 ・『一歩進んだ日本語文法の教え方2』、庵功雄、くろしお出版、1,500円(税抜)、2018年 							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 この授業を受講する前に、あるいはこの授業と並行して「日本語教育文法」を履修すると、現代日本語文法についての理解がより深まると思います。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>							

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文字・語彙演習			担当者	井上 里鶴
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業 (ライブ型)	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格				単位修得試験 実施方法				単位修得試験 試験会場	
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標									
学習の進め方									
授業時間外学習									
学習内容									課題
成績評価方法									
教科書									
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

調整中

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法 A		担当者	加藤 恵梨
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	教授法の基礎知識を踏まえ、一回一回の授業を組み立てることができる。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 自身が関わりたいと考えている日本語教育の現場についての情報を集め、現場を不明瞭にでもイメージできることが望ましい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 教師の役割とコースデザイン							確認テスト
	授業実践に影響を及ぼす教師の役割とコースデザインについて理解を深める。							
	第2回 外国語教授法							確認テスト
	外国語教授法の変遷、またそれぞれの特徴について学ぶ。							
	第3回 教室活動と環境デザイン							ディスカッション
	教室という場において教師はどのような活動を行うのか、また「学び」につなげるために、どのような環境をデザインしていけば良いかについて学ぶ。							
	第4回 教材と教具							確認テスト
	授業に使用する教材や教具にはどのようなものがあるか、また教材を分析するときの観点や新たに教材を開発する理由、開発時の注意点について学ぶ。							
	第5回 文法の教え方(初級を例に)							レポート
初級を例にあげ、文法の授業の基本的な流れや教えるときの具体的な活動について学ぶ。								
第6回 4技能の教え方(初級を例に)							確認テスト	
「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つの技能の教え方について、そのポイントを掴み、どのように教えていけば良いかを学ぶ。								
第7回 教案作成							確認テスト	
教案とはどのようなものか、具体的に何を書けば良いのか、その際、どんなことに注意すれば良いのかについて学ぶ。								
第8回 評価							確認テスト	
コースにおける評価の位置付けを知り、どのような目的でどのようなことを行うか、また評価の方法にはどのようなものがあるのか、その中でもテストにはどのような形式のものがありどのような特徴があるのかについて学ぶ。								
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題(レポート・ディスカッション)、単位修得試験</p> <p>【A評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解するとともに、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもち、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べるができる。</p> <p>【B評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者へ適切な発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べるができる。</p> <p>【C評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について記述することができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について述べるができる。</p> <p>【D評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、初級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について記述することができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、初級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について述べるができる。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	『みんなの日本語初級 第2版 本冊』、スリーエーネットワーク 編著、2,500円(税抜)、2012年							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」をすでに履修している、もしくは同時に履修するとより理解が深まるものと思われる。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>							

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法B			担当者	加藤 恵梨
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	教授法の基礎知識を踏まえ、中・上級レベルの授業を組み立てることができる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 「日本語教育」「日本語教授法A」で学んだことを復習しておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 中級・上級の教え方について				確認テスト				
	学習者の日本語レベルの分け方について学ぶ 中級・上級のコースデザインについて学ぶ 中級・上級レベルではどのように教えるかについて学ぶ 中級・上級レベルのシラバスを考える際に必要なことについて学ぶ								
	第2回 中級・上級のリスキングの指導				確認テスト				
	中級・上級レベルでのリスキングの教え方について学ぶ 教室活動では何をしたら良いかについて学ぶ								
	第3回 中級・上級のリーディングの指導				確認テスト				
	中級・上級レベルでのリーディングの教え方について学ぶ 教室活動では何をしたら良いかについて学ぶ								
	第4回 中級・上級のスピーキングの指導				確認テスト				
	中級・上級レベルでのスピーキングの教え方について学ぶ 話す力を伸ばすために、どのような教室活動をしたらよいかについて学ぶ								
	第5回 中級・上級のライティングの指導				レポート				
中級・上級レベルでのライティングの教え方について学ぶ 書く力を伸ばすために、どのような教室活動をしたらよいかについて学ぶ									
第6回 中級・上級の語彙指導				確認テスト					
類義語とは何か、どのような種類があるかについて学ぶ 辞書にはどのような種類があるかについて学ぶ 中級以上のレベルの学習者に、類義語の意味の違いをどのように説明するかについて学ぶ									
第7回 テスト作成と日本語教師の役割				ディスカッション					
中級および上級レベルのテスト作成方法について学ぶ 日本語教師の役割について学ぶ 教師の成長のために何が必要であるかについて学ぶ 教育実習の際に注意すべき点について学ぶ									
第8回 CLILを日本語教育にいかす				確認テスト					
CLILを日本語教育の授業でどのようにいかすのかについて学ぶ 授業設計の仕方、実際の授業の流れ、評価法について学ぶ									
成績評価方法	評価材料：各回の課題(レポート・ディスカッション)、単位修得試験								
	<p>【A評価】</p> <p>(1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。</p> <p>(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、積極的に他者への助言・意見を提示している。</p> <p>(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。</p> <p>以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解するとともに、日本語教授法に関する十分な基礎的知識をもち、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べるができる。</p>								
	<p>【B評価】</p> <p>(1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。</p> <p>(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者へ適切な発言が行われている。</p> <p>(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に記述することができる。</p> <p>以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について適切に述べるができる。</p>								
	<p>【C評価】</p> <p>(1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。</p> <p>(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられているとともに、他者への発言が行われている。</p> <p>(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について記述することができる。</p> <p>以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法および教室活動について述べるができる。</p>								
	<p>【D評価】</p> <p>(1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。</p> <p>(2) 課題の「ディスカッション」において、適切な意見が述べられている。</p> <p>(3) 単位修得試験のレポートにおいて、日本語教授法に関する基礎的知識をもとに、中・上級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について記述することができる。</p> <p>以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、日本語教授法に関する基礎的知識をもち、中・上級レベルの学習者に対する指導法あるいは教室活動について述べるができる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	各回の最後に記載しています。								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「日本語教授法A」を履修していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「日本語教育」を履修していることが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	日本語表現		担当者	秋田 久子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士						
特記事項							
学習目標	社会生活の中で正しく情報を受信し、また相手に自分の意図が正しく伝わるように発信するための日本語能力を養う。日本語の発声や発音、慣用句やことわざなども学び、さまざまな文章に触れることで「読む」能力を伸ばすと共に、課題発表などを通して「書く」能力も身に付ける。						
学習の進め方	(第1回～第14回) 本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。提出課題は、学んだ知識を基礎に、自らの日本語力を磨く機会として、取り組むこと。回ごとに確認テストがありますので、その確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・普段無意識に使っている「日本語」に対して、客観的な視点を持ちながら、受講を進めること。 ・受講後には、学んだことを、実際の日常生活の中で活用していくこと。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 社会生活と自己表現			ディスカッション 確認テスト			
	コミュニケーションと日本語、話しことばと書きことば、挨拶やその受け答えなどについて、学ぶ。						
	第2回 音声表現			確認テスト			
	日本語の発声や発音について学ぶと共に、美しい日本語や魅力的な話し方、また話し方の基本とスピーチの方法を身に付ける。						
	第3回 語彙と表現			確認テスト			
	語彙の特徴や分類、修辭法や慣用句、比喩、ことわざ、四字熟語、漢字の標記、同訓・同音意義語などについて学ぶ。						
	第4回 ディスカッション			ディスカッション 確認テスト			
	設定されたテーマについて発表し、他の受講者の発表についての感想を述べる。						
	第5回 敬語の基本			確認テスト			
	尊敬語・謙譲語・丁寧語の違いを理解し、正しく用いることができるようになる。						
	第6回 間違いやすい敬語			確認テスト			
	社会生活の中で間違いやすい敬語について考え、正しい敬語を身に付ける。						
	第7回 ビジネスでの日本語			プレゼンテーション課題 確認テスト			
ビジネス場面での日本語について学び、社会人としての基本を身に付ける。							
第8回 中間まとめ			中間まとめ				
第9回 さまざまな文章			確認テスト				
文章の種類を理解し、美しい日本語の文章に触れる。							
第10回 原稿用紙の用法			確認テスト				
原稿用紙に正しい規則で文章を書くことを学ぶ。							
第11回 文章の構成と推敲			確認テスト				
序論や本論といった文章構成やパラグラフなどについて学び、目的に合った文章を作成する。							
第12回 手紙とはがき			確認テスト				
手紙やはがきの書き方のルールを学び、美しい文書を書くことを目的とする。							
第13回 ビジネス文書			プレゼンテーション課題 確認テスト				
さまざまな種類のビジネス文書について学び、目的に合った正しい文書を作成する。							
第14回 レポート作成			確認テスト				
レポートを書くときのルールや構成について学ぶ。また実際に履歴書やエントリーシートなどを書き、社会生活に活かす。							
成績評価方法	前半のまとめ(40%)、単位修得試験(40%)、ディスカッションと課題発表(20%)により総合評価する。						
教科書	著書 『新・日本語表現法』 著者 水原道子、福井霞美、上田知美 出版社 田中印刷出版株式会社 出版年度 2011年6月29日 改訂版						
参考書(任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	日本の文化と歴史			担当者	盛田 帝子, 鈴木 基伸
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	第1回から第4回までは、南殿の桜の歴史的意義や文学的意義について、根拠を挙げながらわかりやすく説明できるようになることを目標とする。第5回から第8回までは、ことばが持つ特徴、日本語の変化、敬語体系、挨拶の特徴について説明することができるようになることを目標とする。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」に掲載されている「レポートの書き方」をしっかりと読んでおくこと。また、普段から日本の文化、日本の文学、日本語に関する関心を持ち、知識・情報を収集すること。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 光格天皇と京都御所				確認テスト				
	江戸時代中期から幕末までの京都御所の歴史の変遷を概観する。								
	第2回 光格天皇と中宮欣子内親王				確認テスト				
	平安朝の復古内裏を造営した光格天皇と中宮欣子内親王が、紫宸殿に植えた南殿の桜を愛で、譲位前に和歌に詠んだこと、および歴代の天皇にとっての南殿の桜の意義について概観する。								
	第3回 南殿の桜と花宴				確認テスト				
	南殿の桜の歴史の変遷を知り、平安時代から室町時代にかけて、南殿の桜が、文学作品の中でどのように描かれ、ことばとして表現されてきたのか、人々に何の象徴として受容されるようになったのかということ概観する。								
	第4回 江戸時代の天皇と南殿の桜				確認テスト				
	江戸時代の天皇(靈元天皇、桜町天皇、光格天皇)は南殿の桜を和歌にどのように詠み、何の象徴として描いたのかということ概観する。特に、譲位する前の最後の和歌御会始で詠まれた和歌に注目して考察する。								
	第5回 日本語の変化				ディスカッション				
	日本語が現代に至るまでにどのように変化してきたのかを、音声、文字、意味の視点から観察する。								
	第6回 日本語と日本の文化				ディスカッション				
	日本語の文法的、構造的特徴について概観したのち、日本語が日本人の思考や文化にどのような影響を及ぼしているのかについて議論を行う。								
第7回 日本人と敬語				ディスカッション					
日本語の敬語体系について学ぶ。また敬語があるがゆえに生じる価値観についても考察する。									
第8回 日本人と挨拶				ディスカッション					
日本人の挨拶文化とコミュニケーションスタイルについて学ぶ。									
成績評価方法	評価材料：ディスカッション、単位修得試験								
	<p>【A評価】 評価材料ごとの行動や結果 <第1回～第4回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、参考文献や根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。 <第5回～第8回> ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。 単位修得試験において、授業内容を理解し、参考文献の記述に基づき自らの意見を論理的に述べることができる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第1回～第4回> 南殿の桜の歴史の変遷や文学史上の価値について十分に理解した上で、参考文献や根拠を挙げながら、光格天皇における南殿の桜の意義について論理的に記述できる。 <第5回～第8回> 日本語の特徴と変化について十分に理解した上で、日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式について説明できる。また各分野の参考文献についても提示することができる。</p>								
	<p>【B評価】 評価材料ごとの行動や結果 <第1回～第4回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。 <第5回～第8回> ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。 単位修得試験において、授業内容を理解し、自らの意見を論理的に述べることができる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第1回～第4回> 南殿の桜の歴史の変遷や文学史上の価値について十分に理解した上で、根拠を挙げながら、光格天皇における南殿の桜の意義について論理的に記述できる。 <第5回～第8回> 日本語の特徴と変化について十分に理解した上で、日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式について説明できる。</p>								
	<p>【C評価】 評価材料ごとの行動や結果 <第1回～第4回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、自らの意見を論理的に記述できる。 <第5回～第8回> ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。 単位修得試験において、自らの意見を論理的に述べることができる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第1回～第4回> 南殿の桜の歴史の変遷や文学史上の価値について理解した上で、光格天皇における南殿の桜の意義について論理的に記述できる。 <第5回～第8回> 日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式について説明できる。</p>								
教科書	なし								
	【D評価】 評価材料ごとの行動や結果 <第1回～第4回> 単位修得試験において、授業内容を理解し、自らの意見を記述できる。 <第5回～第8回> ディスカッションにおいて、テーマに沿った意見を述べることができていること。 単位修得試験において、自らの意見を述べることができる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 <第1回～第4回> 南殿の桜の歴史の変遷や文学史上の価値について理解した上で、光格天皇における南殿の桜の意義について記述できる。 <第5回～第8回> 日本語が日本人に与える影響や敬語の体系、挨拶の様式のいずれか一つ以上について説明できる。								

参考書 (任意購入)	<第1回～第4回> 「寛政期新造内裏における南殿の椽―光格天皇と皇后欣子内親王」、飯倉洋一・盛田帝子編、勉誠出版、2018年、8,000円（税抜） 「近世雅文壇の研究―光格天皇と賀茂季鷹を中心に―」、盛田帝子、汲古書院、2013年、11,000円（税抜） 「幕末の天皇」、藤田寛、講談社学術文庫、2013年、940円（税抜） 「都名所図会を読む」、宗政五十緒、東京堂出版、1997年、2,900円（税抜） <第5回～第8回> 「日本人も悩む日本語」、加藤重広、朝日新聞社出版、2014年、842円（税抜） 「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」、文化庁国語課著、幻冬舎、2015年、1,000円（税抜） 「基本の色彩語」、B.バーリン・P.ケイ著、日高杏子訳、法政大学出版局、2016年、3,500円（税抜） 「ロシア土官の見た徳川日本」、ゴロウニン著/徳力真太郎訳、講談社学術文庫、1985年、932円（税抜）
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	認知行動療法			担当者	池田 浩之
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	認定心理士								
特記事項									
学習目標	認知行動療法の実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場で修得した内容を活かせるようになる。認知行動療法の基本的な理論や背景、意義、そして限界を理解し、実際の臨床現場や日常生活を想定したときに、その知識を適切に活用できるようになる。自身の行動や認知の傾向はどのようなものなのか分析できるようになる。また、それを踏まえて、臨床においてどのように作用しているのが説明できるようになる。								
学習の進め方	本授業は、連続する2日間のそれぞれ1～4時間に開講する。本科目では、近年evidence-basedな心理療法として注目される認知行動療法について学ぶ。基本的な構成理論(学習理論、ABC分析、ABC理論等)や実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場や日常生活において、他者および自身に活かせるようになることを目指す。授業では講義と演習を織り交ぜ、実際の手法を用いたロールプレイを行い、実践力を高める。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 履修にあたっては、行動理論、ABC理論(認知療法の理論)について、あらかじめ調べたり、本を読むなどして概要を把握しておくことが望ましい。また、シラバスを確認して、興味のある内容を整理しておくこと。 受講後には、自身が興味を持った内容について日常生活の中での実践を心がけること。また、講義で通知した研修等に参加することを推奨します。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 認知行動療法と心理療法								
	本授業のガイダンスを行うことで、認知行動療法の概要を知る。臨床的な適応範囲や先進的な研究などについて触れ、認知行動療法の意義と限界について知る。								
	第2回 認知行動療法の位置づけ								ディスカッション
	認知行動療法理論の基礎をなす、学習理論やそれらを基にした行動分析を学ぶ。日常生活に置き換えて行動を見る視点の重要性について押さえる。実際に行動を見るためのワークも行う。								
	第3回 認知行動療法の位置づけ								
	認知行動療法の代名詞的な理論となった、認知療法の基礎理論であるABC理論について学び、その理論を基にして構成されている認知再構成という技法について触れる。								
	第4回 認知行動療法の位置づけ								プレゼンテーション
	認知行動療法と他の心理療法について、比較をし、認知行動療法の意義と限界を知る。認知行動療法を生かすための基本的なカウンセリングマインドを知り、実際に演習も行う。								
	第5回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(精神障害)								
うつ病や神経症圏への認知行動療法の実践例を紹介する。それらを通して、精神障害への認知行動療法の展開について学ぶ。実際に事例で用いているワークシートなどを講義でも用いる。									
第6回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(発達障害)									
近年関心が高まっている発達障害への認知行動療法の実践について知る。アセスメントから介入まで、実践するために必要な要素について、事例を通して学ぶ。									
第7回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(各領域から)								ディスカッション	
療育現場や教育現場、就労現場で行われている認知行動療法の実践を紹介する。各領域に合わせた実践を知り、現場で認知行動療法を行うために必要な要素について学ぶ。先行研究から情報を得るといった視点についても学ぶ。グループ形式でワークも行う。									
第8回 認知行動療法の先進的な研究紹介								プレゼンテーション	
認知行動療法の第3世代と言われる技法について紹介する。また国内ではどのような機関で認知行動療法が実践されているか知り、今後自身で認知行動療法を学ぶ際のリソースを知る。									
成績評価方法	授業中の発言と参加、レポート課題、グループワークでの発言と参加、他者のプレゼンに対する質問とコメントにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	認知行動療法ケースフォーミュレーション入門 マイケル・ブルック、フランク・W・ボンド編著 下山晴彦編訳 金剛出版 2006 ISBN-13: 978-4772409391 認知行動療法入門 短期療法の観点から B・カーウェン、S・パーマー、P・ルデル著 下山晴彦 監訳 2004 金剛出版								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	認知心理学		担当者	高橋 恵司	
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業			デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-	
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	本授業で取り扱った専門的な語句の意味や理論を理解し、正確に説明できるようになる。認知心理学における研究の対象を理解し、それらがどのような手法を用いることによって理論や知見が得られているのかを説明できるようになる。自身の興味のある認知心理学的テーマに関して、自分なりに実験計画を組み立て、その目的や予測される結果を明確に説明できるようになる。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する科目(特に「行動の科学」「学習心理学概論」)について十分に復習をしておくこと。 ・この科目の難易度は高めに設定されているため、短期間で一気にやろうとせずに、計画的に授業を進めること。 ・ノートを取りながら受講し、それを使って復習すること。また、自身の興味のあるテーマに関連する研究を調べることを推奨する。 ・授業で紹介した内容が日常生活とどのように関連しているのかについて考えることを推奨する。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 認知心理学概論	数ある心理学の中でも、認知心理学というのとはどのような心理学なのかについて説明する。特に、心理学において認知とはどのようなものを示すのか、その歴史的背景も含めて紹介する。			レポート			
	第2回 認知心理学の方法論と心理統計	認知心理学の研究がどのような手法を用いて行われているのか、心理統計と合わせて紹介する。			確認テスト			
	第3回 感覚・知覚1	認知心理学における基本的な概念である、感覚・知覚・認知について再確認する。その後、人間にとって最も重要な感覚である視覚を群化の法則や図地分離、錯覚(錯視)の観点から紹介する。			確認テスト			
	第4回 感覚・知覚2	感覚に関する閾値測定などの心理学の研究手法について説明する。また、複数の感覚に関する知見や時間知覚に関する研究についても紹介する。			確認テスト			
	第5回 注意1	覚醒度、選択、制御といった注意の機能を概説した後、さまざまな注意の分類について紹介する。その後、選択的注意についての研究を紹介する。また、注意の視覚や聴覚に関する研究、注意の見落としについて紹介する。			確認テスト			
	第6回 注意2	注意の中でも分離的注意について扱った研究を説明する。ここでは、注意資源の考え方や、注意の自動化について紹介する。			確認テスト			
	第7回 学習1	古典的条件付けや、オペンラント条件、連合学習といった基本的な学習理論を再確認した後、認知心理学との関係を紹介する。学習心理学の分野で行われている研究手法や知見について紹介を行う。			確認テスト			
	第8回 学習2	認知心理学で扱われてきた、知識や技能を身につけていくプロセスについて概説する。ここでは、熟達化や並列分散処理、認知地図、メタ認知についての研究や知見を紹介する。			確認テスト			
	第9回 記憶1	記憶の構造や分類や理論を再確認した後、感覚記憶の特性を扱った研究や短期記憶の保持時間について、ワーキングメモリの理論とその研究といったに関する研究や知見を紹介する。			確認テスト			
	第10回 記憶2	主に長期記憶に関して説明を行う。長期記憶の中でも、意味記憶やエピソード記憶や潜在記憶に関する知見や研究を紹介し、最後に目撃証言といった現実場面を想定した研究についても紹介する。			確認テスト			
	第11回 思考	問題解決と推論についての再確認を行う。その後、ヒューリスティクスやバイアス、意思決定に関する研究を紹介する。			確認テスト			
	第12回 言語	言語と概念の関係を再確認する。その後、語彙プライミングの影響や、文章の理解、会話の理解といった研究について紹介する。			確認テスト			
	第13回 社会的認知	社会的認知は、認知心理学の方法論や理論的な枠組みを取り込んだ社会心理学の研究である。ここでは、対人認知、認知的不協和、観察学習、帰属理論に関する研究や知見を紹介する。			確認テスト			
	第14回 ヒューマンエラー	ヒューマンエラーの原因は様々な種類に分類されている。認知心理学の観点から実際に起きたヒューマンエラーによる事故について取り上げ、どのような対策をすればよいのかを考察する。			レポート			
	第15回 まとめ	認知心理学に関する研究が実生活とどのように関連することができるのか、これまで扱った題材を基に考える。			レポート			
成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験(レポート)、各回の課題(確認テスト、レポート)</p> <p>【A評価】 B評価に加え、自身が考えた認知心理学的研究を実施することによって、どのような知見が得ることができるのか、またどのように応用できるのかを考え、明確に説明できている。</p> <p>【B評価】 C評価に加え、自身で考えた認知心理学的な実験計画で調べたいことを明確に説明でき、どのような手法を用いれば調べたいことを明らかにできるかを説明できている。</p> <p>【C評価】 D評価に加え、認知心理学の研究で用いられる様々な手法や考え方が、どのような研究でどのように用いられるのか説明できている。自分で考えたオリジナルの認知心理学的な実験計画を説明できている。</p> <p>【D評価】 各回の試験およびレポートを提出し、認知心理学における基本的な語句や理論の理解し、説明できている。</p>							
教科書	なし							

参考書 (任意購入)	『マンガ心理学入門』、ナイジェル・C.ベンソン、講談社、920円(税抜)、2001年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「行動の科学」「学習心理学」の内容を修得していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学統計法」の内容を修得していること。</p> <p>【注意】 本授業はこれまでに心理学をすでに学んでいることを前提にして、心理学の知識の幅をさらに広げることを目的とした授業になっております。 確認テストやレポートは難しいと感じるかと思しますので、履修する人は相応の覚悟を持って授業に臨んでください。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	脳の科学		担当者	西村 治彦
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	脳について知ることによって、心というものへの理解に迫ります。そして、「心とは意識と無意識を含めた脳活動の作用である」という観点に立って脳を科学することの大切さを理解します。						
学習の進め方	本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	・参考図書や関連サイトなども活用して、各自で自主的に学習するスタイルを身につけるよう努力してください。 ・設置されたレポート課題に納得できるまで取り組むようにしてください。						
学習内容	概要						課題
	第1回 脳の性質・無意識と脳の解釈						レポート
	はじめに(脳を知り、心に迫る/脳を調べるメソッドロジー/鍵を握る無意識の世界) サイエンスの視点:対象におけるデータの相関関係と因果関係 錯覚・ゲシュタルト群化原理・顔認識に観る脳の癖 変化音・単純接触現象・錯覚帰属に観る脳の性質:行動への感情の妥協 サブリミナルな刺激への脳の反応と学習:やる気と直感のルーツ						
	第2回 脳と記憶・記憶の役割						レポート
	記憶の役割を探る:自我の存続とパターン・コンプリーション 正誤の基準:慣れと記憶 好き嫌いの形成と記憶の再構築						
	第3回 記憶の身体性						レポート
	意識を越えた身体反応と感情の変化 分離脳・海馬損傷と記憶・行動 脳機能の前適応と心の構造						
	第4回 生物の進化と感覚						レポート
	脳のニューロン数と情報量、および生物の定義とチューリング・テスト 脳と聴覚・皮膚感覚・嗅覚:そのしくみと機能 脳と視覚:そのしくみと機能						
	第5回 意志と行動と脳活動						レポート
自由意志の測定とエイリアンアーム・シンドローム 脳のゆらぎと行動 自由否定の存在、および行動の知覚							
第6回 脳の仕組み・自己言及の構造						レポート	
脳の消費エネルギー・遺伝子と設計図・ニューロン活動 脳のフィードバックとリカーション おわりに							
成績評価方法	各回のレポート(60%)、単位修得試験(40%)						
教科書	著書 『単純な脳、複雑な「私」』 著者 池谷裕二 出版社 講談社 出版年度 2013年9月20日 第1刷 ISBN 9784062578301						
参考書(任意購入)	『脳と心のしくみ』、池谷裕二、新星出版社、2015年 『心の脳科学「わたし」は脳から生まれる』、坂井克之、中央公論新社、2008年						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	俳句 - 十七字の世界 -			担当者	水野 達朗
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の「詩」としての特徴や歴史的な背景について、俳句のことを知らない人(例えば外国人)に説明できるようにする。 ・自分が関心を抱いた句について、この句はどのような意味なのか、どこがどうよいのか他人と意見交換できるようにする。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 芭蕉句集を確認できる書籍や、Webサイトを探しておくこと この機会に(もしまだ持っていないならば)、手頃な芭蕉の注付き句集(『芭蕉全句集』角川ソフィア文庫、『芭蕉全句』小学館、山本健吉『芭蕉全句』講談社学術文庫など)を一冊手もとにそなえておけば、生涯の楽しみとなるだろう。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で取り上げた句につき書籍またはWebサイト上の芭蕉句集で確認するとともに、授業で学んだ読み方を用いてそれ以外の句についても読解を進めること</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 俳句とは何か								確認テスト
	俳句という17字の言葉の切れ端が、なぜ深く多彩な意味を生むのか。和歌、和歌から連歌へ、連歌から俳諧連歌へという流れの中で、俳句が獲得した独自の詩的特徴を見定める。								
	第2回 俳句の構造								確認テスト
	俳句はもと「俳諧連歌の発句」だった。「俳諧」の意味を検討し、芭蕉の句「山里は万歳遅し」などをくわしく読み解きながら、俳句の文体的・意味的な二重構造を明らかにする。								
	第3回 芭蕉の名句を詠む								確認テスト、ディスカッション
俳句の「基底部」は文体的興味を支え、「干渉部」は意味の方向づけにかかわる。芭蕉の数々の名句を読み味わいながら、誇張と矛盾という基本的レトリックの働きをたしかめる。									
第4回 俳句の英訳と英語ハイク								確認テスト	
芭蕉の句で検証した俳句の文体的・意味的構造や、その働きを踏まえながら、英語に訳された芭蕉の句、英語で書かれたハイク、現代の高校生俳句を鑑賞する。									
成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 俳句を読み味わうのに必要な知識及び理解がじゅうぶんに獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性を的確に指摘し、句の面白さを精細に説明することができる。</p> <p>【B評価】 俳句を読み味わうのに必要な知識及び理解がおおむね獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性をほぼ的確に指摘し、句の面白さを言い表すことができる。</p> <p>【C評価】 俳句の歴史と構造についての基礎的な知識及び理解が獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性を指摘し、句の意味を明確に説明することができる。</p> <p>【D評価】 俳句の歴史と構造についての基礎的な知識及び理解がおおむね獲得されている。 俳句の解釈において、文体特徴と意味の方向性を指摘し、句の意味をある程度、説明することができる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『日本詩歌の伝統 - 七と五の詩学 - 』、川本皓嗣、岩波書店、4,200円(税抜)、1991年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 可能であれば、参考書「日本詩歌の伝統 - 七と五の詩学 - 」の第二章「俳句の詩学」を読んでおくこと オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	パズルで情報活用			担当者	本田 直也
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	<p>パズルといえば、どのようなパズルを思い浮かべるだろうか。ジグソーパズル、テトリス、脳トレ、スマートフォンでみんな電車の中でやっているやつ、などなど様々なパズルがあるが、この授業では「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」の3つのパズルを厳選し、学習テーマとして扱う。</p> <p>これらの3つのパズルを解く際には、いずれもデータ処理や数値処理を必要とする。能力としては、論理力、数理力はもちろんのこと、情報活用能力も必要となってくる。パズルの解答や、パズルの表現の過程で、楽しみながら、頭も使いながら、情報活用能力を養っていくことを目指す。</p> <p>パズル問題は表計算ソフトExcel上に表現し、Excelの機能を用いて様々な処理を行っていきます。ですから、この授業はExcelの学習も大きなテーマの1つです。</p> <p>【本授業の学びを通してできるようになること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」パズルのルールを理解し、楽しむことができるようになる ・Excelの様々な機能を知り、それらを適切に扱うことができるようになる ・Excelで様々な関数や数式を正しく記述できるようになる ・コンピュータ操作やExcel操作を覚えて暗記するのではなく、思い出し方を身につけることで、時間が経っても修得した内容を再度活用できるようになる ・情報検索、情報分析といった情報活用能力を駆使して課題解決ができるようになる ・課題に直面したときに、それを成し遂げるための必要な学習を自ら定め、自ら修得することができるようになる（自己学習能力の向上） 								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める 各回の学習の最後には、課題があるので課題を終わらせ、次の回に進むこと。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <p>もし以前にExcelに関する学習を行ったことがあり、教科書などの教材があれば、参照できるように手元に用意しておくこと。参照できると学習がスムーズになる場合もある。el-Campusその他の学習教材「レポートの書き方」に一通り目を通しておくこと。必要となったらいつでも参照して活用できるように準備しておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>各回の学習を終えるごとに、どのように情報活用能力を駆使して課題解決を行ったのか、学習の過程でどのように情報活用能力が鍛えられたのか、その都度思い返しておくこと。本科目の学習以外でも、例えば仕事やその他の学習活動や研究活動において、情報活用能力を用いることができた例などがあればその都度気に留めておくこと。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 表計算ソフトでの数式活用				レポート				
	<p>【第1回学習内容】</p> <p>表計算ソフトでの数式の扱い方を学ぶ。教わるだけでなく、情報活用能力を駆使して自ら課題解決できるようになることを目指す。</p> <p>【第1回課題】</p> <p>基礎的な関数の扱い方を確認するための問題を解きます。問題指示入りのExcelブックファイルを配布しますので、指示に従って関数を利用した数式を記述してもらおう。完成したExcelブックファイルをel-Campusでアップロード提出する、という課題である。（文書作成のレポート課題ではない）</p>								
	第2回 覆面算(1)				レポート				
	<p>【第2回学習内容】</p> <p>表計算ソフトを用いて覆面算を解くための補助ツールの製作に着手する。そのために必要な関数と数式の扱い方について学ぶ。</p> <p>【第2回課題】</p> <p>第2回の学習テーマの1つである表検索関数について、その関数の扱い方の修得と定着を目指して、Excel上で演習を行う。完成したExcelブックファイルをel-Campusで提出する。（文書作成のレポート課題ではない）</p>								
	第3回 覆面算(2)				レポート、ディスカッション				
	<p>【第3回学習内容】</p> <p>覆面算を解くための補助ツールを完成させる。完成までの過程で情報活用能力を駆使する。完成後のさらなる発展について考えをめぐらす。</p> <p>【第3回課題】</p> <p>第2回、第3回の学習を通して作成した覆面算を解くための補助ツール（Excelファイル）を提出する課題である。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いだろう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われる。</p>								
	第4回 セレクトワーズ(1)				確認テスト				
	<p>【第4回学習内容】</p> <p>表計算ソフトを用いてセレクトワーズを扱う。関数と数式の扱い方に加えて、数理力を用いた問題解決にも挑む。</p> <p>【第4回課題】</p> <p>第1回～第4回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題する。</p>								
	第5回 セレクトワーズ(2)				レポート、ディスカッション				
<p>【第5回学習内容】</p> <p>セレクトワーズを解答まで導き、ツールの完結まで至る。情報技術の中の特にネットを活用して言葉の意味の検索を行い、課題解決を行う。</p> <p>【第5回課題】</p> <p>第3回課題と同じ形式の課題である。第4回、第5回の学習を通して作成したセレクトワーズ解答ツール（Excelファイル）を提出する。可能であれば、独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ねること。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われる。</p>									
第6回 数独(1)				確認テスト					
<p>【第6回学習内容】</p> <p>世界的に有名となり大流行を起こしたパズル、数独を扱う。数独のルールや特性を把握した上で、解答に向けての処理手続きを表現する。</p> <p>【第6回課題】</p> <p>第1回～第6回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題する。</p>									
第7回 数独(2)				レポート					
<p>【第7回学習内容】</p> <p>論理力を駆使した適切なデータ処理について学習する。セルアドレスの相対参照、複合参照、絶対参照をそれぞれ適切に使い分ける。</p> <p>【第7回課題】</p> <p>第7回の学習の中で作成したExcelファイルを提出する。学習指示通りに適切に数式を記述できていれば課題達成となる。（文書作成のレポート課題ではない）</p>									
第8回 数独のまとめとパズルの情報活用能力				レポート、ディスカッション					
<p>【第8回学習内容】</p> <p>数独ツールの完成と、その後の発展について議論を通して深めていく。パズル問題を扱いつつ養ってきた情報活用能力について振り返る。</p> <p>【第8回課題】</p> <p>第3回、第5回課題と同じ形式の課題である。第6回、第7回、第8回の学習を通して作成した数独解答ツール（Excelファイル）を提出する。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いだろう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われる。</p>									

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題、単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 レポート課題：本授業で学習した以上の成果をもって課題解決のための工夫が数多く施されている。 ディスカッション：他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 単位修得試験：課題解決力や自己学習力について触れつつ、情報活用能力という能力について自分なりに語る事ができており、読み手が十分納得できるようなレポートの仕上がりに到達している。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に課題の特性を見抜き、論理力、数理力、情報活用能力を駆使して総合的な課題解決が可能であり、その解決の方法または方向性を自分の言葉で適切に述べることができること。</p> <p>【B評価】 レポート課題：本授業で学習した内容を適切に用いて的確な課題解決に至っている。 ディスカッション：適切な発言や受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。 単位修得試験：情報活用能力という能力について本授業の教材の中で説明されていたことを踏まえつつ、自分なりに語る事ができていること。形式面においては「レポートの書き方」に準じた仕上がりとなっており、適切な形式に仕上がっていること。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時にいくつかの課題解決のパターンの中からの確かな手法を自ら選択して実際に当てはめて解決ができること。</p> <p>【C評価】 レポート課題：本授業で学習した内容を部分的に用いて課題解決に当たろうとしている。 ディスカッション：双方向に何らかの話題が通じ合っている。 単位修得試験：情報活用能力という能力について本授業の教材や資料を参照したり、他者の意見や手助けを用いたりしながらまとめる事ができている。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決方法のヒントやアドバイスを他者からもらい、自分の持っている知識や能力を引き出して活用することで課題解決ができること。</p> <p>【D評価】 レポート課題：何らかの課題解決を示している。 ディスカッション：参加し、自身が発言することと他者の発言に耳を傾ける事ができている。 単位修得試験：情報活用能力とは何なのか自分なりに何かを語る事ができている。 表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決手順を他人から示されればそれに沿って自力で解決まで辿り着く事ができること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel（バージョンは問わない）
備考	<p>【履修の前提とするもの】 表計算ソフト（Excel）で四則計算（$+$ $-$ \times \div）ができること。 表計算ソフト（Excel）で合計を求める関数（SUM関数）を扱うことができること。 表計算ソフト（Excel）に関する情報検索ができること。（書籍やWebサイトを用いることを想定している）</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 表計算ソフト（Excel）でSUM関数以外の関数も使ったことがあれば望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	働くことを考える			担当者	後藤 亮子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	レポートを試験とする。 レポートを提出するには、全授業へ出席する必要がある。 参画型授業のため、一部でも欠席した場合は単位を与えない。			単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名									
特記事項									
学習目標	働くことを考える意味を理解し、社会を知ること、自分を知ることによってキャリアへの肯定的な意図を創る。「私は何者で」「何のために働くのか」という問いの答えを探索する。								
学習の進め方	ペアワークやグループワークなど、人と協力して演習が進むよう参画型で構成する。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に人生全体や職歴を振り返り、その満足度について話す機会がある。記述用のフォーマットは授業中に配布するが、お互いが自己開示できることを前提に授業が進む。自分について話す準備をして受講に臨むこと。 受講期間中に自分の過去を振り返る宿題に取り組むこと。 								
学習内容					概要			課題	
	第1回 現代社会とキャリアデザイン								
	授業のオリエンテーションを行う。 授業の全体概要を理解する。								
	第2回 現代社会とキャリアデザイン								
	現代社会におけるキャリアデザインの必要性を理解する。								
	第3回 キャリアデザインのための自己理解								
	第3回、第4回、第6回、第7回、第8回、第13回、第14回では、自己のキャリア意識を明確にするために、自己理解の演習を行う。								
	第4回 キャリアデザインのための自己理解								
	自己理解の演習								
	第5回 第1回～第4回の学びの整理							レポート	
	学びの整理として、振り返りを行う。 授業時間内にレポート課題がある。								
	第6回 キャリアデザインのための自己理解								
	自己理解の演習								
	第7回 キャリアデザインのための自己理解								
	自己理解の演習								
第8回 キャリアデザインのための自己理解									
自己理解の演習									
第9回 働き方を考える									
多様な働き方を考察する。									
第10回 第5回～第10回の学びの整理							レポート		
学びの整理として振り返りを行う。 授業時間内にレポート課題がある。									
第11回 働き方を考える									
第11回、第12回では、多様な働き方を考察し、発表する。									
第12回 働き方を考える									
働き方の考察・発表									
第13回 働くことを考える演習									
自己理解を深める総合演習									
第14回 働くことを考える演習									
自己理解を深める総合演習									
第15回 全過程の学びの整理							レポート		
質疑応答と意見交換を行う。 レポート課題として当科目を受講した感想と学びを記述する。									
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 全授業への出席が必要 成績評価は、出席点(50%)と平常点(50%) レポート、 の提出と受講態度で行う。 								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト ・ツール	なし								
備考	筆記具をスクーリングに持参すること 受講者上限人数 グループワークを含む講義40名								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	犯罪心理学		担当者	枚田 香	
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業			デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】							
特記事項								
学習目標	犯罪心理学という学問では基礎心理学をどのように応用して、社会でどのように役立てる学問なのか説明できるようになる。実際に起きている犯罪を例に挙げ、心理学をベースにした理論により考えられる犯罪が発生する要因について説明できるようになる。犯罪者の処遇について説明できるようになる。被害者の心理を理解し、被害者と親しい関係の立場にいると想定した場合に自分にできる被害者への支援について具体案を述べられるようになる。犯罪を防止する環境整備について説明できるようになる。犯罪心理学が社会にどのように役立てるようになればよいか、自身の考えを述べられるようになる。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。また、各回の内容をしっかり理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。							
授業時間外学習	・本授業に関連したサイトの閲覧や心理学概論に関する書籍購読をしておくこと。							
学習内容	概要			課題				
	第1回 犯罪心理学とは			レポート				
	学問としての犯罪心理学はどのように研究が行われているのか、また、犯罪心理学の専門家が活躍する現場はどのようなものなのか学ぶ。							
	第2回 犯罪とは			確認テスト				
	人間の行為が犯罪だとみなされ裁かれるまでの現代社会の仕組みを確認し、犯罪の定義と犯罪が起こる要因について学ぶ。							
	第3回 ささまざまな犯罪			確認テスト				
	暴力犯罪・窃盗・強盗・放火・ホワイトカラー犯罪・サイバー犯罪など、それぞれの犯罪の特徴と現状を学ぶ。							
	第4回 性犯罪と身近な暴力			レポート				
	犯罪として表面化しにくい性犯罪、身近な人が被害を受けている可能性があるストーカー、DV、虐待などの現状を学ぶ。							
	第5回 少年犯罪と非行			レポート				
	少年非行と犯罪、非行少年の心理について学び、社会が少年に与える影響について考える。							
	第6回 犯罪の原因を考える（生物学的アプローチ）			確認テスト				
	遺伝的要因や脳、神経伝達物質、精神疾患などの要因から犯罪の原因を考える生物学的アプローチについて学ぶ。							
	第7回 犯罪の原因を考える（臨床心理学的アプローチ）			確認テスト				
	精神活動および心の発達の理論、パーソナリティ、人間関係などの要因から犯罪の原因を考える臨床心理学的アプローチについて学ぶ。							
	第8回 犯罪の原因を考える（社会学的アプローチ）			確認テスト				
社会との関係に焦点を当てた研究に関する理論から犯罪や非行の原因を考える社会学的アプローチについて学ぶ。								
第9回 捜査の心理学			レポート					
テレビなどの影響で世間一般に知られるようになったプロファイリングやポリグラフ検査をはじめとする犯罪心理学に関連する手法が現実の捜査の現場ではどのように活かされているか学ぶ。								
第10回 成人犯罪者の処遇と矯正			確認テスト					
検挙、起訴、裁判、判決までの流れと精神鑑定、裁判員制度について正しい知識を持ち、我が国での矯正（更生）の考え方や刑務所の役割について学ぶ。								
第11回 非行少年の処遇と矯正			確認テスト					
成人犯罪者とは異なる処遇の流れと目的を理解し、個々の少年に応じた矯正教育を行うための仕組みについて学ぶ。								
第12回 犯罪被害者の心理			確認テスト					
多くの人に正しく理解されていない被害者とその家族の心理について学ぶ。PTSDについての知識を得る。								
第13回 被害者支援の実態			レポート					
被害者支援に携わる人の活動内容を知る。事例を通して被害者の話を聞く上で留意すべき点などを学ぶ。								
第14回 犯罪とメディア			レポート					
マスメディアによる犯罪報道が過熱している現代社会に生きる人間の心理と、インターネット、ケータイ、ゲームが犯罪に与える影響について考える。								
第15回 防犯の心理学			確認テスト					
犯罪を抑止するための環境整備に関する研究と対策について、環境心理学・社会心理学的アプローチについて学ぶ。								

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題、単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 確認テストのほぼ全てが正解しており、犯罪心理学の体系を十分に理解した上で、様々な事例に対して的確な判断、推察、選択できるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをしっかりと論じられている様子が見え、犯罪に関する現代社会の諸問題について基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の観点からの確かな分析と解決案を論じることができている。各回で定めた学習目標をすべて達成し、レポートにおいては考察としてオリジナリティのある自分自身の考えを述べることでできている。</p> <p>【B評価】 確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系を理解した上で、ある一定水準以上の判断ができるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをある程度論じられている様子が見え、基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の体系を踏まえた妥当な提案や主張が述べられている。各回で定めた学習目標をほとんど達成し、レポートにおいては考察として既存の理論や主張に沿った自分自身の考えを述べることでできている。</p> <p>【C評価】 確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系に沿った最低限の判断ができるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子が見え、犯罪心理学の観点を取り入れた主張が含まれている。各回で定めた学習目標をおおむね達成し、レポートにおいては客観性や妥当性はともかく独自の考察が述べられている。</p> <p>【D評価】 確認テストは正解の方が多く、最低限、犯罪心理学に触れたことがあるといえる判断力が身についている。レポートからオンデマンド教材の内容を最低限理解している様子が見え、少なくとも犯罪心理学の用語は間違えずに用いることができている。各回で定めた学習目標を最低限達成し、レポートにおいては犯罪事例に対して独自の考察を述べることができないが、どの理論が当てはまるのか指し示すことができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「心理学概論」の内容を修得していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「臨床心理学」の授業内容と同等の知識があること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の文学めぐり			担当者	盛田 帝子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	本授業や映画『細雪』の鑑賞を通して、『細雪』の内容を把握し、阪神間の文化の魅力をまとめ発表できるようになる。『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題を設定し、実地見学を通して見解を深め、論拠を示した上で、レポート用紙1枚に文章化することができる。								
学習の進め方	1日目は、谷崎潤一郎と『細雪』について概説を聴き、谷崎と『細雪』にゆかりのある阪神間の諸地域や文化について理解します。2日目は、倚松庵、谷崎潤一郎記念館などを見学し、後日谷崎の描いた阪神間の文化の魅力について、レポート用紙に自分の見解をまとめます。								
授業時間外学習	・設置された課題やレポートについて、授業中にとったノートを見直し、図書館にある参考図書や辞書を活用しながら納得できるまで取り組むこと。								
学習内容	概要								課題
	1日目								レポート
	<p>本学さくら夙川キャンパスで講義と演習を行う。</p> <p>《講義：谷崎潤一郎と『細雪』》</p> <p>(1) 谷崎潤一郎と谷崎をめぐる人々</p> <p>(2) 谷崎潤一郎の関西移住と『細雪』の成立</p> <p>(3) 授業内レポート1</p> <p>《講義：『細雪』と阪神文化》</p> <p>(1) 『細雪』のあらすじ</p> <p>(2) 時岡家四姉妹と描かれた阪神文化</p> <p>(3) 授業内レポート2</p> <p>《講義：『映画鑑賞』市川崑監督作品『細雪』》</p> <p>船場とは、着物などの風俗、阪急電車や建物、描かれた阪神間の季節の移りや自然に注目して鑑賞。教科書との違いにも着目する。</p> <p>《まとめ》</p> <p>(1) 本日の授業のまとめ</p> <p>(2) 授業内レポート3</p>								
2日目								レポート	
<p>夙川周辺で実地見学を行う。</p> <p>《実地見学》</p> <p>阪急夙川駅集合 夙川堤 倚松庵(谷崎潤一郎旧家、次女「時岡幸子」の住んでいた家のモデル) 阪神芦屋駅(昼食 阪神芦屋駅周辺)</p> <p>《実地見学》</p> <p>阪神芦屋駅 谷崎潤一郎記念館(資料・ビデオ・展示などを見学) 業平橋(阪神大水書の場面で描かれる橋) 津知バス停(妙子が本山の洋裁学校に通う時の最寄りのバス停) 重信医院(榎田医院のモデル。榎田医院は幸子、三女「雪子」、妙子の掛かり付け医) 『細雪』記念碑 阪急芦屋川駅(幸子の家から一番近い駅、『細雪』にもしばしば登場する) 解散</p> <p>解散時までには授業内レポート4を作成し提出する。</p> <p>授業内レポート4課題：『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題設定(最終レポートのテーマ)後日、『細雪』に描かれた阪神文化について、2日目の最終時間に設定した課題を基にして授業外レポート5を作成・提出。</p>									
成績評価方法	単位修得試験(最終レポート 授業外レポート5)・各時限の授業内レポート(1-4)により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『細雪』(新潮文庫)(上、中、下)、谷崎潤一郎、新潮社、1955年、ISBN-10: 4101005125、ISBN-13: 978-4101005126 『細雪』(中公文庫)、谷崎潤一郎、中央公論新社、1983年、ISBN-10: 412200991X ISBN-13: 978-4122009912								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。 なお、状況によりシラバスの一部を変更することがあります。								

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の歴史紀行			担当者	川口 宏海
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	地域の歴史を自ら探索し、素晴らしさを体感する能力を身につける。阪神間の歴史の特徴などを学ぶことを通じて、歴史史料や遺跡などの歴史遺産を見出し、歴史史料の読み解き方、地域の歴史を考える力、地域の歴史を活用し役立てる力を身につけ、初歩的に活用できるようになる。								
学習の進め方	阪神間の歴史について教室で史料や遺跡の写真などで学び、現地の歴史遺産(遺跡や博物館)を公共交通機関を利用して実地見学し、実物を見るときに、活用のなされ方などについても学ぶ。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史に関するニュースや図書を読むこと。 後日の最終レポート作成では、できる限り自身の地域の歴史を実地確認すること。 								
学習内容	概要							課題	
	1日目							レポート	
	<p>本学いすみ稲野キャンパスとその周辺地域にて講義と演習を行う。</p> <p>《講義》 「阪神地域の原始時代と遺跡」旧石器時代から弥生時代までの様相と遺跡について講義します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の古代と行基」古墳時代から平安時代までの様相と行基の足跡について講義します。 また、最後に御願塚古墳を見学します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の中世・戦国時代と有岡城」鎌倉時代から安土桃山時代までの様相と有岡城について講義します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の近世・近代と酒造業」江戸時代から明治時代までの様相と酒造業について講義します。(小課題) 《演習》 「阪神間の歴史遺産調査」講義で学んだ歴史遺産について、図書館などを利用して、自ら調べてレポートにします。</p>								
2日目							レポート、プレゼンテーション		
<p>伊丹周辺で実地見学を行う。</p> <p>《実地見学》(受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン) 阪急伊丹駅集合 バス 伊丹市立博物館見学・学芸員解説 徒歩 伊丹廃寺見学 バス 阪急伊丹駅 (昼食 阪急伊丹駅周辺) 《実地見学》(受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン) 三軒寺 徒歩 猪名野神社 徒歩 岡田家住宅(酒蔵) 徒歩 柿衛文庫・学芸員解説 有岡城跡 JR伊丹駅 解散 後日、見学についてのレポート提出</p>									
成績評価方法	第1日目の小課題5題(25%)、第2日目の現地プレゼンテーション1回(25%)、後日のまとめレポート1回(50%)により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『伊丹市史』全7巻、『尼崎市史』全13巻、『池田市史』全6巻など								
必須ソフトウェア	デジタルカメラ(必須ではない または、iPhone 代替可)								
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習25名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。見学に際しては、歩きやすい服装で授業に参加してください。								

メジャー(専修)名				授業科目名	ビジネス日本語教授法			担当者	加藤 恵梨
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス日本語指導に必要な基礎的知識を得る。 ・学習者のレベルや置かれている立場、状況や目的に合わせた授業の組み立て方について説明することができるようになる。 ・就職活動で必要となる知識や日本語力と、就職後に向けて必要となる知識や日本語力について説明することができるようになる。 								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進める。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進むこと。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 配布資料に目を通してから学習に取り組むこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 確認テストで不正解の箇所や理解が不十分であったところは、配布資料で再度確認すること。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 ビジネス日本語教育で何を教えるか				確認テスト				
	日本での外国人の就職状況について概観し、外国人が日本で働くために何が必要なのかについて考える。その上で、ビジネス日本語の学習内容について知り、ビジネス日本語を教えるために教師が身に付けておくべき基礎知識について学ぶ。								
	第2回 コース・デザイン				確認テスト				
	学習者の学習目的の調査方法と、その分析方法について理解し、それらに基づいてビジネス日本語コースのデザインの仕方について学ぶ。								
	第3回 初級レベルの学習者への指導法				レポート				
	初級レベルの日本語学習者に対するビジネス日本語の指導法について学ぶ。特に、会話および漢字を指導する際の注意点について理解する。								
	第4回 中・上級レベルの学習者への指導法				確認テスト				
	中・上級レベルのビジネス日本語学習者に、どのような教材を用いてどのように指導するのかについて学ぶ。特に、会話と読解を指導する際の注意点について説明する。								
	第5回 就職活動で必要となる日本語				確認テスト				
学習者の就職活動の準備のために、授業ではどのようなことを学ぶ必要があるのか、また学習者が就職活動のタイミングを逃さないよう、どのように授業計画をたてたら良いのかについて学ぶ。									
第6回 就職後に求められる日本語				レポート					
就職後にどのような日本語が必要となるかを学び、そのために準備としてどのようなことをする必要があるのかを理解する。また、就職後のことを考え、会話と文書作成の練習の仕方について学ぶ。									
第7回 評価の目的と方法				確認テスト					
評価の目的や方法について学び、ビジネス日本語では評価によって何ををはかるのかについて学ぶ。特に、話す・書く能力の評価方法について理解する。									
第8回 ビジネス日本語教育の評価ツール				ディスカッション					
評価の方式について理解し、量的評価と質的評価の違いについて学ぶ。また、ポートフォリオの活用法について学ぶ。さらに、教育評価のための客観的な情報を得るために何が必要かを学ぶ。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題(レポート・ディスカッション)、単位修得試験</p> <p>【A評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業での学習をふまえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2) 課題の「ディスカッション」において、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、目標やレベルにあった授業および評価について考えることができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解するとともに、目標やレベルに合った授業および評価について考えることができる。</p> <p>【B評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を適切に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、他者へ適切な発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、目標にあった授業および評価について考えることができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解し、目標に合った授業および評価について考えることができる。</p> <p>【C評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、やや目標にあっていない部分はあるが、授業および評価について考えることができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、やや目標にあっていない部分はあるが、授業および評価について考えることができる。</p> <p>【D評価】 (1) 課題の「レポート」において、本授業で学習した内容を部分的に活用している。 (2) 課題の「ディスカッション」において、他者への発言が行われている。 (3) 単位修得試験のレポートにおいて、やや目標にあっていない部分はあるが、授業について考えることができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、やや目標にあっていない部分はあるが、授業について考えることができる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	<ul style="list-style-type: none"> 『しごとの日本語 メールの書き方編』奥村真希・釜淵優子(著)、アルク、2008年、2,000円(税抜) 『入社1年目ビジネスマナーの教科書』金森たかこ(著)、プレジデント社、2017年、1,200円(税抜) 『中級から伸ばすビジネスケースで学ぶ日本語』高見智子(著)、筒井通雄(監)、ジャパントイムズ、2014年、2,400円(税抜) 『ビジネス日本語Drills—外国人のための「ビジネス敬語」から「会社訪問」まで』松本節子・長友恵美子・佐久間良子(著)、ユニコム、2007年、2,800円(税抜) 『にほんで働く! ビジネス日本語30時間』宮崎道子・郷司幸子(著)、スリーエーネットワーク、2009年、2,500円(税抜) 『ロールプレイで学ぶビジネス日本語グローバル企業でのキャリア構築をめざして』村野節子・山辺真理子・向山陽子(著)、スリーエーネットワーク、2012年、2,000円(税抜) 『改訂新版ビジネス日本語用例辞典』Jプレザンスアカデミー(著)、アスク出版、2008年、2,400円(税抜) 								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育学や日本語学に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	ひとと動物の心理学			担当者	中島 由佳
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	ひとと家庭動物との絆を見つめることを通じて、家庭動物との関係における心理を理解し、ひとと動物の関係について深く考える機会を持つことを本授業の目的とする。 ・ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を得ることができる。 ・ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。 各週の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習後に復習として実施すべきこと】 参考図書を読むことにより、より詳しい内容を理解する。								
学習内容	概要							課題	
	第1週 ひとはどうして動物と暮らすのか							確認テスト、ディスカッション	
	どうして私たちは、家庭動物とともに暮らすのか。ともに暮らすことによって、私たちと動物の関係はどのように変わったのかについて学ぶ。								
	第2週 動物は「効く」のか							確認テスト、ディスカッション	
	「動物と暮らしていると、心身が健康になりそうだ」、「癒しの力が動物にはある」。そのように感じるひとは多い。動物との暮らしは本当に、ひとの心身の健康に良い影響を与えるのか、もしそうだとしたら、それはいったいなぜなのかについて、学んでいく。								
	第3週 恩恵の光に対する「影」							確認テスト、ディスカッション	
	動物との愛着の絆は、私たちに様々な恩恵を与える。しかし、光があれば必ず影ができるように、私たちと動物との関係も、良い部分、恩恵だけではない。動物との暮らしで得られる恩恵に対する「影」の部分について学ぶ。								
	第4週 子どもたちになにを伝えよう？							確認テスト、ディスカッション	
子どもの心に、動物はどのように映るのだろうか。子どもたちが動物と愛着を築いて幸せに生きていくために、「おとな」は、子どもたちに何を伝えてあげればよいか、学ぶ。									
成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、ディスカッション、単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 確認テスト正答率：90%以上。 ディスカッション：課題文の問いかけをよく理解した上で、答えが述べられている。受講内容を理解した上で自分独自の考えが述べられたコメントである。また、複数の受講者を巻き込んで議論を活性化するようなコメントが含まれる。 単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられており、かつ説得性がある内容である。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができている。</p> <p>【B評価】 確認テスト正答率：90%以上。 ディスカッション：課題文の問いかけに沿った答えが述べられている。受講内容への理解を踏まえてのコメントである。また、他の受講者との議論を活性化するようなコメントが含まれる。 単位修得試験：問いの趣旨を理解した上での答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。</p> <p>【C評価】 確認テスト正答率：80%以上。 ディスカッション：課題文の問いかけに関連する答えが述べられている。受講内容に沿ったコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。 単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上での答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。</p> <p>【D評価】 確認テスト正答率：80%以上。 ディスカッション：受講内容に関連するコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。 単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容に関連した答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している部分がある。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている面が見受けられる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『ひとと動物の絆の心理学』、中島由佳、ナカニシヤ出版、1800円（税抜）、2015年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本講義の基となっている参考図書を読むことで授業内容に対する理解を深める。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	ファイナンシャル・プランニング			担当者	伊藤 亮太
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	子育てや介護、自身に起こるかもしれない不慮の出来事を想定し、受講生自身の人生・生活設計の問題点や課題を金銭面から指摘し、改善策を講じることができるようになる。社会保険と民間保険の適用範囲をそれぞれ説明することができ、適切に保険の選択ができるようになる。源泉徴収票の各項目の意味と、その社会的な役割を説明できるようになる。ファイナンシャルプランナーの資格について、学習体系や取得までの流れ、難易度、取得後の活用について、説明できるようになる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	・受講前には新聞やテレビなどのニュースにおいて、経済動向などを知っておく。また、貯蓄や投資などの本を一冊読んで関心をよせてみましょう。 ・受講後には、実生活において、貯蓄・投資といった側面や贈与・相続などのライフイベントで授業で習ったことがいかせることを望みます。また、FP3級はぜひ受験してください。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 ライフプランに関わるお金				確認テスト、ディスカッション				
	生涯にわたるお金との接し方を考える。家計簿等の金銭管理、入出金管理のみならず、保険、税金、運用、年金、相続など、ライフプランには必要不可欠な金銭的側面について、その種類を学ぶ。								
	第2回 社会保険の仕組み				確認テスト				
	社会保険（医療保険・介護保険・年金保険・労災保険・雇用保険）の仕組みと改正点を中心に、今後の動向も踏まえた社会保険の全体像を学ぶ。								
	第3回 民間保険の仕組み				確認テスト				
	民間の保険（生命保険、損害保険、第三分野の保険）の仕組みを学ぶ。第2回で学習した社会保険でカバーされない範囲を考慮して、どういった場合にどんな保険に加入することが望ましいのか、様々な選択肢についても学ぶ。								
	第4回 保険のプランニング				確認テスト、ディスカッション				
	第2回、第3回での学習内容を、学習者自身の状況に置き換えて、実際の保険のプランニングを行い、具体的な加入プランを導き出す。								
	第5回 税金の仕組み				確認テスト				
	我が国の税制の仕組みについて学ぶ。徴収した税の用途や、社会と個への還元について学び、税は取られるものという意識から、納めるものという意識へと変えていく。今後の税制改正についても学ぶ。								
第6回 源泉徴収と社会保険の仕組み				確認テスト					
第2回、第3回での社会保険と、第5回の税金の仕組みを統合して、税徴収と社会保険料徴収、そしてそれらの仕組みとサービス全体を学ぶ。									
第7回 支払（保険料・税）と受給の計算比較				確認テスト					
実際の保険や税金の例を用いて、将来、加入者・納税者が受給したり還元されたりする金額を算出し、支払と受給のバランスを比較する。									
第8回 ライフプランニングとファイナンシャルプランナー				確認テスト					
ファイナンシャルプランニングには、税と保険のみならず、さらに範囲を広げて資産運用、不動産、相続など、様々な要素を考慮しなければならないことを学ぶ。それらを統合した体系がFP資格であり、その資格そのものについて学ぶ。									
成績評価方法	評価材料：確認テスト、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験 【A評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。単位修得試験では、各内容においてバランスよく（選択式問題18問以上）回答ができていること。また論述試験では問題に対して的を射た意見・解決策（何が問題で、複数の解決策からどういった解決策を行うことが最適なのか）が記載されていること。ライフプランから保険、税の仕組みまで幅広く家計問題を解決できるようなアドバイスができる状態となっていること。 【B評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。単位修得試験では、各内容においてほぼ（選択式問題15問～17問）回答ができていること。また論述試験では問題に対する自己の意見・解決策が複数記載されていること。その解決策が実際の状況において適用できること。ライフプランの設計ができるようになること。 【C評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。単位修得試験では、各内容において7割程度の（選択式問題13問～14問）回答ができていること。また論述試験においては実際の状況において選択可能な解決策として自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。 【D評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。単位修得試験では、各内容において5割程度（10問～12問程度）回答ができていること。また、論述試験においては自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『FP技能士3級最速合格ブック '19 '20年版』家計の総合相談センター著、成美堂出版、1,400(税抜)、2019年 『FP技能士3級重要過去問スピード攻略 '19 '20年版』伊藤亮太著、成美堂出版、1,600(税抜)、2019年								
必須ソフト・ツール	授業時に計算を行うこともあるため、電卓を準備すること。								
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 保険や税金を考慮したプランニングの演習を行うので、契約中の保険の資料、検討中の保険の資料、自身の源泉徴収票などがあれば、具体的に理解を深めることができる。 【その他】 本授業では、保険や税金全般にわたる業務経験をもとに、その制度や仕組み、これら相互の関わり合い、時代背景といった事項を題材にあげ、その考察および実際の実務の場での経験を通じて、意識の変化や気づきを支援する講義を行う。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	物理学概論		担当者	庭瀬 敬右
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	物理学は物に関する考え方を教えてくれる学問です。飛行機や携帯電話などの人が創り出したものは、物理学の発展に依るところが大きいものです。現代社会は物理を基礎とした科学技術の上に成り立っていますが、多くの人は物理の学習を無味乾燥に感じてしまうようです。これは、物理現象に対してのイメージを持ってずに学習を行っているところに原因があるようです。この授業では、図解を特徴とした教科書を用いて、物理学の発展の歴史から、ニュートン力学や熱力学、波動、電磁気学、そして相対性理論に関しての教養レベルでの基礎知識を獲得することを目標としています。							
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。学習を進めるうえで重要なポイントは確認テストを行うことによって確認できるようになっています。また、補足説明をデジタル教材に掲載しますので活用してください。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に教科書やビデオ教材で、専門的な用語および内容の理解に努めること。 確認テストで、理解度をチェックし、より深い内容理解に努めること。 							
学習内容	概要				課題			
	第1章 物理学のはじまり				確認テスト			
	物理学は、様々な星の動きを解明することで発展しました。古代ギリシャで地球を中心に天体が動くと考えた天動説は、以後千数百年にわたり信じられました。中世に太陽のまわりを地球が運動するという地動説に大転換しました。精密な天体観測の解析結果をもとに、ニュートンは万有引力の法則を見いだしました。ここでは、物理学誕生の歴史とその探求の過程について学習します。							
	第2章 ニュートン力学				確認テスト			
	物体の運動に関しての基本的な法則であるニュートン力学を学習します。ニュートン力学の確立によって、人類は月に行き、帰ってくるまでになりました。物体を動かす力に関する考察やガリレオの自由落下の考察、そして物体の運動の基本法則である、ニュートンの運動の3法則を学習します。また、衝突現象に関する運動量保存則やエネルギー保存則を学習します。							
	第3章 熱力学				確認テスト			
	水が凍ったり、沸騰したり、冷房や暖房など、身のまわりには熱的現象がたくさんあります。熱力学は、熱と温度の違いを理解することで発展してきました。物質への熱の流入によって、物質は、固体、液体、気体の状態へと変化します。熱の伝わり方も物質によって違いがあります。気体は温度や圧力の変化に対して大きな変化が現れます。ここでは、熱力学の基本法則から熱エネルギーの利用までを学習します。							
	第4章 波動				確認テスト			
	海辺の波と同様に音や光も波の性質をもっています。波は、重なり合って強めあったり弱めあったりする独特の性質があります。救急車が近づくときと遠ざかるときで音の高さが変化することも波の性質に起因しています。空の青さや虹の七色も波の性質です。地震も波として地中を伝わります。ここでは、これらの現象を記述する波の基本法則について学習します。							
	第5章 電磁気学				確認テスト			
私たちの身のまわりには、電気製品や通信機器など電気や磁気に関係したもので溢れています。モーターや発電機は、電気や磁気の性質を明らかにすることによって作られました。電気や磁気では空間を通して力が伝わり、その連携によって電磁波として伝わります。電磁波は、テレビやラジオの電波として使われています。このような電磁気学の基本法則を学習します。								
第6章 相対性理論				確認テスト				
時間は過去から未来に誰にも等しく進んでいくような絶対的空間が存在していると私たちは考えがちです。しかしながら、マイケルソンとモーリーの実験によって絶対空間は確認できませんでした。アインシュタインは、この実験事実を説明するために相対性理論を構築しました。この理論では、物体の動きが光の速度に近づくとき時間と空間が結び付いた時空での考えが必要となることが示されました。ここでは、相対性理論の基礎的な内容を学習します。								
成績評価方法	確認テスト(40%)、単位修得試験(60%)							
教科書	著書 『図解雑学 物理のしくみ』 著者 井田屋文夫 出版社 ナツメ社 出版年 2005年8月 ISBN 9784816339776							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	なし							
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	プレゼンテーション演習 (基礎)			担当者	福井 愛美
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)							
特記事項								
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの定義やコミュニケーションとの違いを説明できる。 2. プレゼンテーションの目的にあったツールを選択することができる。 3. プレゼンテーションに必要な情報収集と時間管理ができる。 4. ノン・バーバルコミュニケーション技法を活用しながら話すことができる。 5. 身近なテーマで簡単なプレゼンテーションができるようになる。 							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 テレビのニュースや新聞に目を通し、身近な話題から話すテーマを見つけておくこと。 新聞の記事は音読をして滑舌の練習をしておくこと。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>							
学習内容	概要						課題	
	第1回 プレゼンテーションとは プレゼンテーションの基本と定義						確認テスト、ディスカッション、レポート(ワークシート)	
	プレゼンテーションは具体的にどのような場面で行われているのか、プレゼンテーションとはどういうことなのか、その意味を学びます。さらにプレゼンテーションの定義や役割を理解し、実例を見ながら、演習ではプレゼンテーションの基本である原稿を作成しその原稿がどのように構成されているのかを考えます。							
	第2回 プレゼンテーションを行うために プレゼンテーションへの準備						確認テスト、レポート(ワークシート)	
	プレゼンテーションを行うまでの流れを理解します。目的やテーマの設定、構成をどのように組み立てていくかを学びます。							
	第3回 プレゼンテーションのツール ツールの特徴と活用の仕方						レポート、確認テスト、レポート(ワークシート)	
	プレゼンテーションを行う際のツールについて学びます。ツールの種類や特徴、活用する際の注意点やツールを選ぶ際のポイントなども押さえておきましょう。							
	第4回 話し方の基本						確認テスト、レポート(ワークシート)	
	人前で話すことについてさまざまな観点から学びます。呼吸法や発声・発音、魅力的に話すための基本技術、効果的な話し方を身に付けます。							
	第5回 パーバル、ノン・バーバルコミュニケーション						確認テスト、レポート(ワークシート)	
	プレゼンテーションに必要な言い回しのテクニックとしてのパーバル表現と身振り手振りなどのボディランゲージ、表情、身だしなみ、アイコンタクトなどノン・バーバル表現について学びます。							
	第6回 聴衆に好感を持たれる話し方						確認テスト、レポート(ワークシート)	
	どのような話し方をすれば、聴き手に好感を与え、納得、説得させるのかを検証します。							
	第7回 身近なプレゼンテーション						確認テスト、ディスカッション、レポート(ワークシート)	
	日常生活の中のプレゼンテーションの例として、地図を使ったプレゼンテーションと、自己紹介のプレゼンテーションを学びます。自己紹介は、自分自身を知ることから始めていきます。							
第8回 紹介してみよう						確認テスト、レポート(ワークシート)		
第7回に続いて、自己紹介をより具体的に学びます。自分を印象づけるための方法にはどのようなものがあるかを確認していきます。								
第9回 パブリック・スピーキング インタビューをしてみよう						確認テスト、レポート(ワークシート)		
インタビューの心得、態度をはじめ、これまで学んだプレゼンテーションのノウハウやテクニックを使って相手の魅力を引き出すインタビューの実践を学びます。								
第10回 パブリック・スピーキング スピーチをしてみよう						確認テスト、レポート(ワークシート)		
パブリック・スピーキングの中のテーブルスピーチについて学びます。テーブルスピーチの準備や注意点、また記憶に残るスピーチや一歩進んだスピーチとはどのようなものかを考えます。								
第11回 パブリック・スピーキング 司会をしてみよう						確認テスト、レポート(ワークシート)		
プレゼンテーションのノウハウやテクニックを使って司会について学びます。司会者の役割、準備、演出を考えて構成表を作り、シナリオを作成します。								
第12回 学校生活について話してみよう						確認テスト、レポート(ワークシート)		
学生生活をテーマにプレゼンテーションを行います。そのための司会進行の原稿を作成します。実際に学校紹介をするための資料収集・原稿作成・添削・視覚資料作成をして学校紹介をしてみます。								
第13回 テーマに合わせたさまざまな手法						確認テスト、レポート(ワークシート)		
これまで学んだ基本を活用してプレゼンテーションに取り組みます。キャンパスライフでのクラブ活動紹介や学外でのアルバイト、また会社訪問時の面接での話し方などさまざまな場面での手法を学びます。								
第14回 プレゼンテーションの実験1						確認テスト、レポート(ワークシート)		
実際のビジネス現場のケーススタディーから、どのように対応すればよいかを学んでいきます。後半は講義の復習を行います。								
第15回 プレゼンテーションの実験2						ディスカッション		
受講生3名のプレゼンテーションを実際に見て、お互いに意見交換を行います。これまでを振り返り学習の参考にします。								

成績評価方法	<p>評価材料：期間内での学習の有無、各回確認テスト、レポート（第3回）、ディスカッション（第1・7・15回）、単位修得試験により評価する。なお、レポートにおいては、提示した条件を満たし論理的にまとめられているか、また、ディスカッションにおいては、積極的に参加し、最低2回以上のコメントができていないかで評価する。</p> <p>【A評価】 評価対象の課題の平均が90%以上クリアできていること、かつ期間外完了は1回以内であること。 講義で学んだプレゼンテーションにおける基本的事項を十分理解し、実際に原稿を作成し、説得力のあるプレゼンテーションができるレベルである。</p> <p>【B評価】 毎回の教材を期間外も含めてすべて完了させていること、すべての評価対象の課題の平均が80%以上クリアできている。 講義で学んだプレゼンテーションにおける基本的事項を理解し、実際に原稿を作成し、プレゼンテーションができるレベルである。</p> <p>【C評価】 毎回の教材を期間外も含めてすべて完了させていること、すべての評価対象の課題の平均が70%以上クリアできている。 講義で学んだプレゼンテーションにおける基本的事項を理解し、実際に原稿が作成できるレベルである。</p> <p>【D評価】 毎回の教材を期間外も含めてすべて完了させていること、各回の課題の平均が70%以上、単位修得試験が60%以上クリアできている。 講義で学んだプレゼンテーションにおける基本的事項を最低限理解し、ポイントを説明できるレベルである。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『新訂版プレゼンテーション概論』福井有監修、大島武編著、樹村房、1,900円（税抜）、2014年</p> <p>『プレゼンテーション演習』伊藤宏、福井愛美編著、樹村房、1,900円（税抜）、2011年</p> <p>『新版パーフェクトプレゼンテーション』八幡紘史著、生産性出版、4,400円（税抜）、2007年</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特に条件はないが、「プレゼンテーション概論」を学んでいれば、より演習をスムーズに行うことができます。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	プレゼンテーション演習 (応用)		担当者	福井 愛美
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	<p>1, さまざまな場面で効果的な自己表現ができ、説得力を持って自分の考えを話せること。 2, 論理的に物事を考え、新たな内容を作り出すことができること。 3, 学んだ事を実社会で活用できること。 4, テーマを設定してプレゼンテーションができること。</p>						
学習の進め方	<p>本授業では、デジタル教材を活用して学習を進めます。学習を始める前にオリエンテーションをご覧ください。またその回の講義のポイントを閲覧してから学習を始めてください。テレビのニュースや新聞に目を通し、身近な話題から話すテーマを見つけておくといでしょう。また、新聞記事等は音読をして滑舌の練習をしてください。各回の終わりには確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。プレゼンテーションは実施が伴って上達します。さまざまな場面で、発表の機会があれば、学んだ事を生かして積極的にプレゼンテーションしてください。また、授業内での演習問題は納得できるまで取り組んでください。教科書はデジタル教材で扱わない箇所もありますのでぜひ参考になさってください。</p>						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を事前に読んで自己学習すること、ノートをとりながら受講することを推奨します。 ・受講は、各自で定期的に学習するスタイルを身につけてください。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 プレゼンテーション基礎知識			確認テスト			
	プレゼンテーション演習 の復習とプレゼンテーションの評価方法について学ぶ。						
	第2回 就職試験に向けてのプレゼンテーション			確認テスト			
	面接試験の挑み方や企業訪問のマナーについて再確認をする。						
	第3回 就職試験と自己PR			確認テスト			
	自己PR と志望動機の考え方を手順を追って学ぶ。						
	第4回 社会人としての話し方(企業内でのプレゼンテーション)			確認テスト			
	社会人としての敬語の使い方をはじめ企業内スピーチなど基本的な話し方を身につける。						
	第5回 プレゼンテーション・ブレイクタイム(掲示板の活用)			掲示板への参加			
	el-Campus上で他人の意見を聞いて自分の考え方との違いを実感する。						
	第6回 企業内でのミーティングと会議			確認テスト			
	ディベート・ディスカッション・ミーティングとプレゼンテーションとの関係学ぶ。						
	第7回 ホームルーム(ディスカッションをしよう)			ディスカッション			
自分の感想や目標など自由に意見交換をする。							
第8回 業務としての会議(QCサークル活動)			確認テスト				
QCサークルの概要、進め方、データの分析手法について学ぶ。							
第9回 セールストーク			確認テスト				
成功するためのセールストークとはどのようなものかを実感する。							
第10回 セールストーク			確認テスト				
顧客の購買心理を知り、セールストークの話を事例から学ぶ。							
第11回 ポスターセッションとクレームへの対応			キャッチコピー作成 確認テスト				
パワーポイントを使ったポスター作りや、クレーム対応について学ぶ。							
第12回 企画立案をしてみよう			確認テスト				
企画立案から企画書作成までの一連の手順について学ぶ。							
第13回 企画書を書いてみよう			確認テスト				
本格的な企画書づくりを進める。また実際のビジネスの現場で使われた企画書を紹介、そのリアル感を体験する。							
第14回 事例研究			まとめレポート 確認テスト				
学生のプレゼンテーションを見ながら、良い点、改善点など客観的に学ぶ。							
成績評価方法	各回の課題(確認テストとレポート)40%、単位修得試験60%により評価します。						
教科書	<p>著書『プレゼンテーション演習』 著者 伊藤 宏 福井愛美他 出版社 樹村房 出版年度 2016年4月1日 第4刷 ISBN 9784883672134</p>						
参考書(任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいこと】 「プレゼンテーション演習 (基礎)」を先に受講していることが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>						

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	プレゼンテーション概論		担当者	大塚 英美
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの意義を理解したうえで、ビジネスの場面において、効果的なプレゼンテーションを行うための準備ができるようになる。 ・プレゼンテーションを構成する要素として、コンテンツ(内容)スキルとデリバリー(伝え方)スキルを効果的に表現するポイントを挙げるができる。 ・目的に応じたプレゼンテーション資料を作成し、当日のプレゼンテーションを実施する際のポイントを挙げるができる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 日常生活および仕事の場面で、他者とコミュニケーションを図る際に、よりよく伝えることと、伝えたことによって、目的が達成されているかどうかを意識すること。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 特に、表情トレーニングや発声練習は毎日繰り返し行うこと。積極的にプレゼンテーションの機会をつくり、その時の状況に応じたプレゼンテーションを行うこと。</p>						
学習内容	概要			課題			
	第1回 プレゼンテーションとはなにか			ディスカッション			
	プレゼンテーションを定義づけし、良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションを比較する。						
	第2回 プレゼンテーションの基本			確認テスト			
	プレゼンテーションの前提となるコミュニケーションのメカニズム、プレゼンテーションの基礎知識、プレゼンテーションの目的について解説する。						
	第3回 プレゼンテーションの企画			確認テスト			
	プレゼンテーションを企画する上で重要な聞き手の分析、情報収集・分析について解説する。						
	第4回 主張の明確化			プレゼンテーション			
	プレゼンテーションにおいて最も重要な、主張を明確にしていくプロセスを分析の枠組みに準じて解説する。						
	第5回 自己紹介とプレゼンテーション・スキル			ディスカッション			
	自己紹介の場面において、わかりやすく伝えるためのプレゼンテーション要素を説明した上で、演習を通して自己紹介の仕方を解説する。						
	第6回 面接におけるプレゼンテーション			プレゼンテーション			
	採用試験の面接において、自分のセールスポイントを効果的に伝えるプレゼンテーション・スキルについて解説する。						
	第7回 プレゼンテーション資料の作成			プレゼンテーション			
	PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成するための基本的な操作について実演を通して解説する。						
第8回 社内におけるプレゼンテーション			確認テスト				
社内におけるプレゼンテーションの意義を説明し、それに基づいた効果的なプレゼンテーション資料を作成するときのポイントを解説する。							
第9回 経営戦略のためのプレゼンテーション			レポート				
経営戦略のためのプレゼンテーションで用いられている分析枠組み(ポートフォリオ分析)を取り上げ、その分析方法を説明する。							
第10回 プレゼンテーションの設計			レポート				
プレゼンテーションのストーリーをわかりやすく展開するために設計シートを作成する方法を解説する。							
第11回 訴求力の高いプレゼンテーション			確認テスト				
訴求力の高いプレゼンテーション資料の作成のための効果的な表現方法を解説する。							
第12回 訪問先で行うプレゼンテーション			確認テスト				
訪問先で、よりよいプレゼンテーションを行うための前提として、訪問のマナーについて実演を通じて解説する。							
第13回 プレゼンテーション技術を磨く			確認テスト				
プレゼンテーションを実施する上で必要なシナリオ作成、情報伝達のテクニック等のポイントを解説する。							
第14回 プレゼンテーションの実施			確認テスト				
プレゼンテーションを実施する際の準備や発表中の注意点、プレゼンテーションが終了した後のフォロー等について解説する。							
第15回 プレゼンテーションの本番			確認テスト				
自信を持って本番のプレゼンテーションに臨むためにリハーサルの実施方法を解説し、プレゼンテーション本番のポイントについて実演を通じて解説する。							

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（レポート・プレゼンテーション・ディスカッション）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 評価材料ごとの行動や結果 (1)課題の「レポート」と「プレゼンテーション」において、すべての出題要件を満たしており、本授業での学習を踏まえた上で、創意工夫が数多く施されている。 (2)課題の「ディスカッション」において、積極的に他者への助言・意見を提示している。 (3)単位修得試験の「レポート」において、出題要件を全て満たしており、新商品を紹介するにあたり適切な表やグラフや図形を用いて訴求力の高いプレゼンテーションができると判断される。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解しているだけでなく、実際に目的に応じたプレゼンテーションを序論・本論・結論のストーリーで設計し、論理的で訴求力の高いプレゼンテーション資料を作成することができる。</p> <p>【B評価】 評価材料ごとの行動や結果 (1)課題の「レポート」と「プレゼンテーション」において、すべて出題要件を満たしており、本授業での学習した内容を適切に活用している。 (2)課題の「ディスカッション」において、出題要件を満たしており、他者へ適切な発言が行われている。 (3)単位修得試験の「レポート」において、出題要件を全て満たしており、新商品を紹介するにあたり適切な表やグラフや図形を用いたプレゼンテーションができると判断される。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を全て理解し、実際に目的に応じたプレゼンテーションを序論・本論・結論のストーリーで設計し、論理的なプレゼンテーション資料を作成することができる。</p> <p>【C評価】 評価材料ごとの行動や結果 (1)課題の「レポート」と「プレゼンテーション」において、すべて出題要件を満たしており、本授業での学習した内容を部分的に活用している。 (2)課題の「ディスカッション」において、出題要件を満たしており、他者へ発言が行われている。 (3)単位修得試験の「レポート」において、出題要件をほぼ満たし、与えられた課題を指示通りに行うことができる。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解し、実際に目的に応じたプレゼンテーションを設計し、プレゼンテーション資料を作成することができる。</p> <p>【D評価】 評価材料ごとの行動や結果 (1)課題の「レポート」と「プレゼンテーション」において、出題要件を最低限満たしている。 (2)課題の「ディスカッション」において、最低限の出題要件を満たした発言が行われている。 (3)単位修得試験の「レポート」において、十分に出席要件が満たされているとは言えない。 以上3項目を全て満たすこと。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 各回の学習内容を概ね理解しているが、実際にプレゼンテーションを設計し、プレゼンテーション資料を作成することができるにとどまる程度で、目的に対する適切性や妥当性からは、少し離れている。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>『新訂版プレゼンテーション概論』、福井有監修、大島武編著、水原道子・西尾宣明著、樹村房、1,900円（税抜）、2014年 『自信がつくプレゼンテーション 引きつけて離さないテクニック 改訂版』、富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM出版、1,800円（税抜）、2017年 『ロジカル・シンキング』、照屋華子・岡田恵子、東洋経済新報社、2,200円（税抜）、2003年 『社内プレゼンの資料作成術』、前田謙利、ダイヤモンド社、1,600円（税抜）、2015年 『上手なプレゼンが面白いほどできる本』、長尾祐子、中経出版、1,200円（税抜）、2009年</p>
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint, Microsoft Office Word, Microsoft Office Excel（バージョンは問わない）
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 パワーポイントの基本操作ができること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	文化心理学		担当者	鳥山 理恵
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】、日本語教員養成課程(新基準)、日本語教員養成課程(旧基準)						
特記事項							
学習目標	「文化心理学」の理論の基礎となる、文化と心の相互構成過程について理解を深めることを目指す。私たちの心にはどのような文化差が存在し、またそれらはどのような環境の違いから生み出されたものなのか、説明できるようになることを目指す。						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃からメディアなどから得られる「心の文化差」に関連する情報を集めておくこと。 <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。 ・ノートを取りながら受講し、それを使って復習すること。 ・授業で紹介した内容が日常生活の中での自分の考え方や行動とどのように関連しているのかについて考えることを推奨する。 						
学習内容	概要					課題	
	第1回 文化心理学の歴史と研究法					レポート	
	文化心理学の歴史と研究法について紹介する。						
	第2回 知覚と文化					確認テスト、ディスカッション	
	どこに注意を向けるかといったことや、どのように視線を動かすかといった非常に基礎的な知覚様式における文化差について学ぶ。						
	第3回 認知と文化					確認テスト	
	記憶や推論といった認知様式における文化差について学ぶ。						
	第4回 感情と文化					確認テスト	
	表情の認知や感情における文化差について学ぶ。						
	第5回 動機づけと文化					確認テスト	
	どんな時にやる気がでるのか、誰が選んだ物に対してやる気が出るのか、誰のことを考えるとやる気が出るのか、といった動機づけにみられる文化差について学ぶ。						
	第6回 文化と自己					確認テスト	
	文化が異なれば「人とはどういう存在か」という捉え方そのものが異なる、とする「文化的自己観」を始めとする、「文化と自己」について学ぶ。						
	第7回 文化的産物					レポート	
	それぞれの文化内で作り出される「文化的産物」の違いを探ることで、そこに反映されている「心の文化差」を明らかにする。						
第8回 言語と文化					確認テスト		
言語の違いがどのような心の文化差を生み出すのかについて、言語・非言語コミュニケーションの基礎も踏まえつつ、紹介する。							
第9回 社会環境 / 文化差の起源					確認テスト		
国や地域といった文化の枠組みだけでなく、社会階層等の違いによって生み出される「心の文化差」について考える。また、環境の違いがどのような心の文化差を生み出すのか、歴史的背景も踏まえ、考察する。							
第10回 文化と発達					確認テスト		
乳幼児を取り巻く環境の違いや、心の文化差が何歳くらいからみられるかといった発達心理学的観点からの研究を基に、「心の文化差」がどのようにして獲得されていくかを考える。							
第11回 文化と神経科学					レポート		
fMRIや脳波といった手法を用いて、神経基盤のレベルで明らかになってきている文化差について学ぶ。							
第12回 文化の学習					確認テスト		
「模倣」にみられるような社会的学習について、チンパンジーの道具使用といった動物研究の知見も交えて学ぶ。							
第13回 文化進化					確認テスト		
進化心理学的観点からの研究の知見から得られた、心と文化の共進化について学ぶ。							
第14回 文化と健康					確認テスト		
近年の比較文化的疫学調査の結果からわかってきている、健康に影響を及ぼす要因の文化差について学ぶ。							
第15回 文化の変容 / 文化的適応					プレゼンテーション		
移民の人たちが新しい文化に適応する際の心的プロセスや、世界的に見た「文化の変化」について考える。							

成績評価方法	<p>評価材料：各回の課題（レポート、確認テスト、プレゼンテーション）、単位修得試験（Web試験）</p> <p>【A評価】 各回の確認テストにおいて満点に近い成績をおさめている。 プレゼンテーションにおいて、内容に適し、且つオリジナリティのある意見が述べられている。また、テーマについて他者がより深く理解できる形で、論理的に自己の見解がまとめられている。 レポート課題において、独創的で論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。 単位修得試験では満点に近い成績をおさめている。 「心の文化差」に関する専門知識を習得し、他者に説明することができる。文化と心の相互構成過程について、専門的な知識を踏まえながら自らの意見を考察することができる。心の文化差が生み出す現代社会の諸問題に対し、授業で習得した知見を元に自分独自の視点から解決策にアプローチすることができる。</p> <p>【B評価】 各回の確認テストにおいてほぼ満点に近い成績をおさめている。 プレゼンテーションにおいて、適切に自己の見解を他者に述べられており、他者に内容が過不足なく伝えられている。 レポート課題において、論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。 単位修得試験では優秀な成績をおさめている。 文化と心の相互構成過程について、専門的な知識をふまえながら自らの意見を考察することができる。授業で習得した知見を元に、心の文化差が生み出す現代社会の諸問題に対しアプローチすることができる。</p> <p>【C評価】 各回の確認テストにおいて、所定の条件を充足している。 プレゼンテーションにおいて、自己の見解を他者が理解できる形でまとめられている。 レポート課題において、自らの意見を述べるができる。 単位修得試験では、標準以上の成績をおさめている。 文化と心の相互構成過程について、専門的な知識をもとに理解することができる。</p> <p>【D評価】 各回の確認テストと単位修得試験において最低限の成績をおさめている。 プレゼンテーションにおいて、学習内容を理解していることを示している。 レポート課題において、テーマに沿って一般的な意見が述べられている。 「心の文化差」に関する専門知識を習得し、他者に説明することができる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office PowerPoint
備考	<p>【履修の前提とするもの】 「心理学概論」を修得済み、または、その科目のシラバスで示されている内容を学習した経験があり、その内容を十分に理解していること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「認知心理学」や「社会心理学」といった関連領域の学習内容を理解していることが望ましい。また、「心理学統計法」の学習内容についても理解していることが望ましい。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名				授業科目名	法学基礎		担当者	福田 高之
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名								
特記事項								
学習目標	法律を学び始めた者にとって必要な、最も基本的な知識と、法律的なモノの「見方」「考え方」を学ぶ。その上で、今後さらに専門的に法律を学ぶにあたっての足元固めをする。さらに、公務員試験で出題された問題等を素材として、主に「憲法」「民法」「行政法」の基本的な分野についても扱う。知識習得の具体的な到達点としては、資料等を参照すれば標準的な公務員試験の問題が解けるようになることとする。							
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 前回までの講義で扱ったことを見直した上で講義を聴くことが望ましい。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 講義で扱ったことを繰り返し見返す。 新聞やテレビのニュースに触れ、講義内容と関連する出来事があればノートなどにまとめておくことを勧める。</p>							
学習内容	概要							課題
	第1回 法学基礎総論							確認テスト
	初めて法律を学習することを想定して、「法」とは何かを知る。また、「法」にはどのようなものがありどのような場面で使うのかを理解する。							
	第2回 法律学習における暗黙のルール							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 法の解釈とは何かについて説明する。 法解釈の手法について説明する。 法を学ぶにあたっての重要語句について説明する。 							
	第3回 憲法(1) 憲法とは何か							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 憲法とは何かについて説明する。 憲法のしくみについて説明する。 日本国憲法前文について説明する。 							
	第4回 人権とは何か							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 人権の意義について説明する。 人権享有主体性について説明する。 関連判例について解説する。 							
	第5回 人権の種類							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 自由権について説明する。 社会権について説明する。 参政権について説明する。 国務請求権(受益権)について説明する。 							
	第6回 統治概略							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 三権分立について説明する。 国会について説明する。 内閣について説明する。 裁判所について説明する。 							
	第7回 民法の基礎							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 民法の役割について説明する。 民法の構成について説明する。 「総則」「物権」「債権」「親族」「相続」それぞれの意味について説明する。 民法学習の留意点について説明する。 							
	第8回 民法の基礎							確認テスト
	<ul style="list-style-type: none"> 「権利・義務」について説明する。 「要件・効果」について説明する。 「物権・債権」について説明する。 							
第9回 民法の基礎							確認テスト	
私的自治の原則について、身近な事例である「契約」「不法行為」をとりあげて解説する。								
第10回 民法の基礎							確認テスト	
家族法分野(親族・相続)の基本的な事項について解説する。								
第11回 行政法の基礎							確認テスト	
「行政法」という名の統一法典がないことを説明した上で、行政法の分野について解説する。								
第12回 行政法の基礎							確認テスト	
行政作用法分野について説明する。								
第13回 行政法の基礎							確認テスト	
行政救済法分野について説明する。								
第14回 行政法の基礎							確認テスト	
<ul style="list-style-type: none"> 行政手続法について説明する。 地方自治法について説明する。 								
第15回 憲法・民法・行政法の基本事項の確認							確認テスト	
公務員試験に出題された法律科目の問題のうち、比較的基本的なものを素材として法律の基本事項についての定着を図る。								

成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において80以上の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について十分な理解をしていると認められるレベルであり、今後専門的な学習に進むにあたっても問題ないといえる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点を十分に超えているといえる。今後、専門的な分野に進んだ際にも問題なく入っていくことができる状態である。</p> <p>【B評価】 単位修得試験において75点以上80点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について十分な理解をしていると認められるレベルであるが、今後専門的な学習に進むにあたっては一度正確な知識の修得を要すると思われる。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点を超えているといえる。今後、専門的な分野に進んだ際、今後の学習次第で問題なく入っていくことができると思われる状態である。</p> <p>【C評価】 単位修得試験において70点以上75点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について一定程度の理解はしていると認められるレベルである。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点に達しているとは言えないながらも一定程度の成果は見られる状態である。</p> <p>【D評価】 単位修得試験を受験し、60点以上70点未満の点数を獲得している。これは、各授業回で扱った項目について最低限抑えてもらいたい水準には達していると思われるレベルであり、不十分ながらも本科目の学習を一定程度以上行ったといえる基準である。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 条文の解釈、判例の学習を通じて問題解決力が目標としている点に達しているとは言えず、今後、専門的な分野に進んだ際に折りにふれて復習することを推奨するレベルである。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	簿記		担当者	坂元 英毅
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の意義や目的について説明できるようになる。 ・基本的な簿記技術を修得し、最終的に財務諸表を作成することができる。 ・簿記実務の未来像について、現代的な社会・経済環境にもとづき考察し、意見を述べるができる。 ・財務諸表から企業の活動状況を正確に読み取ることができる。 						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 特になし。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 課題は繰り返し実施して、簿記技術を確実に身に付けるようにしてください。</p>						
学習内容	概要			課題			
	第1回 簿記にまつわるあれこれ			確認テスト、ディスカッション			
	簿記の目的や意義、簿記の歴史、基本的な約束事について学ぶ。						
	第2回 財務諸表ってどんなもの？			確認テスト			
	財務諸表の種類や構造について学ぶ。						
	第3回 財務諸表を作るためのパーツ			確認テスト			
	仕訳の構造や作成方法について学ぶ。						
	第4回 財務諸表をつくってみよう			レポート			
	簿記一巡の手続きについて、財務諸表を作成することにより体験的に学ぶ。						
	第5回 現金の管理は最重要			確認テスト			
	現金や預金の会計処理、現金管理の手法について学ぶ。						
	第6回 商品売買取引			確認テスト			
	商業簿記の要である商品売買の会計処理について学ぶ。						
	第7回 いろいろな債権と債務			確認テスト			
	様々な物の売買に伴って発生する債権・債務の会計処理について学ぶ。						
	第8回 いろいろな債権と債務			確認テスト			
	物の売買に関わらず様々な場面で発生する債権・債務の会計処理について学ぶ。						
	第9回 「手形」という便利な仕組み			確認テスト			
	手形取引の意義と会計処理について学ぶ。						
	第10回 いろいろな資産			確認テスト			
	固定資産や有価証券の特徴と会計処理について学ぶ。						
	第11回 繰らぬ債権			確認テスト			
	回収不能となる債権について、一連の流れを意識しながら学ぶ。						
	第12回 商売の元手と持ち分			確認テスト			
	資本について企業と株主との関係を意識しながら会計処理を学ぶ。						
第13回 財務諸表を作成する前に			確認テスト				
期末に行う収益・費用の調整について学ぶ。							
第14回 伝票の仕組みと会計システム			レポート				
「会計システム」という観点から伝票制について学ぶ。会計システムと会計業務の未来について考察する。							
第15回 財務諸表			ディスカッション				
蓄積された会計情報にもとづく財務諸表の作り方、使い方について学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：確認テスト、レポート、ディスカッション、単位修得試験</p> <p>【A評価】 課題や単位修得試験を通じて、以下の観点からほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができています。 簿記・会計の目的や意義について説明できる。 基本的な簿記技術を修得している。 簿記実務の未来について、現代の経済・社会環境を踏まえて自身の考えを述べるができる。 財務諸表から企業活動の状況を正確に読み取ることができる。</p> <p>【B評価】 に不正確さはあるものの、 においてほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができています。</p> <p>【C評価】 および に不正確さはあるものの、 においてほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができています。</p> <p>【D評価】 、 に不正確さはあるものの、 においてほぼすべて正しく解答している、または適切に考察ができています。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	『検定簿記講義 / 3級商業簿記』、渡部 裕豆/片山 覚/北村 敬子 編著、中央経済社、800円(税抜)、2020年
必須ソフト ・ツール	<p>電卓(スマホアプリでも可。四則演算ができる簡易なもの。)</p> <p>Microsoft Office Excel、Microsoft Office Word(バージョンは問わない)</p>
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 なし</p> <p>【その他】 本授業では、財務会計全般にわたる業務経験をもとに、財務そのもの、その制度や仕組み、債権債務との関わり、時代背景といった事項を題材にあげ、その考察および実際の実務の場での経験を通して、意識の変化や気づきを支援する講義を行う。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	マーケティング論		担当者	岡田 裕幸
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングに関する基本的な用語の内容を理解し、活用できるようになる。 ・学習したマーケティングに関する知識を実務に活かせるようになる。 ・学習したマーケティングに関する知識で日常の様々な事象を考察できるようになる。 						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 なし</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 専門用語を確認しより深く理解しておくこと。 授業内で紹介した事例をサイト等で確認しておくこと。 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組むこと。</p>						
学習内容	概要						課題
	第1回 マーケティングの基本概念						確認テスト
	「マーケティングとは何か」というテーマに関し、マーケティングに関する基本的な考え方を学ぶ。						
	第2回 マーケティング・マネジメント・プロセスの理解を深める						確認テスト
	マーケティング戦略をどのような視点でいかに策定し、実行するかについて学ぶ。						
	第3回 マーケティング・リサーチ						確認テスト
	マーケティングを実践するにあたり重要なマーケティング・リサーチの概要を学ぶ。						
	第4回 消費者の購買行動						確認テスト、ディスカッション
	消費者の購買行動をどのように捉え、どう対応するかについて学ぶ。						
	第5回 製品戦略						確認テスト
	製品・サービスに焦点を当て、新製品開発のプロセスとそのマネジメント（管理）、製品ライフサイクル等について学ぶ。						
	第6回 価格戦略						確認テスト
	収益と消費者の購買性向に大きく影響する意思決定となる価格戦略についてそのアプローチや設定パターンについて学ぶ。						
	第7回 流通戦略						確認テスト
	ビジネスにおけるチャネルの役割やメーカーの流通対策としてのマーケティングチャネルについて学ぶ。						
第8回 マーケティング・コミュニケーション						確認テスト	
販売促進（プロモーション）とも言えるコミュニケーションの組み合わせ（コミュニケーション・ミックス）について学ぶ。							
第9回 小売業と卸売業						確認テスト	
小売業と卸売業について学ぶ。							
第10回 オンライン・マーケティング						確認テスト	
マーケティングを学ぶ上で必要不可欠なオンライン・マーケティングについて学ぶ。							
第11回 ブランドとブランディング						確認テスト	
企業にとって重要な経営資源であるブランドの基本的な役割や機能、ブランディングに取り組む目的やステップを学ぶ。							
第12回 ブランド戦略とブランドマーケティング						確認テスト、ディスカッション	
ブランド戦略をどう考えればいいのか、そしてブランドマーケティングにどう取り組めばいいかについて学ぶ。							
第13回 事業戦略とマーケティング						確認テスト	
成長戦略、競争戦略、ランチェスター戦略、市場地位の戦略について学び、マーケティングの理解を深める。							
第14回 マーケティングと社会的責任						確認テスト	
企業の社会的責任という視点から、企業が取り組むべき社会的テーマを学ぶ。また、企業の社会的責任という視点からマーケティングの取り組みについて学ぶ。							
第15回 マーケティング概念の展開						確認テスト	
サービス・マーケティング、生産財（B to B）マーケティング、グローバル・マーケティングの概要について学ぶ。また、ホリスティック・マーケティングの概要について学ぶ。							

成績評価方法	<p>評価材料：ディスカッション、単位修得試験（選択式問題）</p> <p>【A評価】 単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、テーマに沿いつつオリジナリティのある意見を十分に述べ、かつ、他者の意見に的確なコメントや質問を行い積極的に参加していること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 マーケッターとして企業目的に合ったマーケティング活動を率先して実践できる。</p> <p>【B評価】 単位修得試験において優秀な成績を修めた上で、ディスカッションにおいて、自己の意見を十分に述べると共に、他者の意見にコメントや質問を行い積極的に参加していること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 マーケッターとして、日々の業務においてマーケティング活動を実践できる。</p> <p>【C評価】 単位修得試験において標準以上の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 日々の業務においてマーケティングの知識を応用して活用できる。</p> <p>【D評価】 単位修得試験において最低限の成績を修めた上で、ディスカッションにおいて自己の意見を述べていること。 学習目標と照らし合わせた能力の状態 マーケティングの基本的な理論を説明できる。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 マーケティングの基礎を学びたい、確認したいという強い意思をもっていること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	マネジメントとリーダーシップ			担当者	山縣 康浩
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	プレゼンテーション実務士							
特記事項								
学習目標	マネジメントやリーダーシップの理論を学習することで、“人を動かす”基本的な考え方を学習するとともに、そこから一步踏み出して、実践に向けた持論を形成することができる。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 マネジメントやリーダーシップ理論の中で使われる“言葉”について、入門書などで大まかな意味をつかんでおいてください。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 理論から生まれるしくみや制度だけでなく、理論を生み出したその背景や実現しなかった状況にも、思いを馳せてください。正解はありませんので、自分の頭で考え抜くことが重要です。</p>							
学習内容	概要				課題			
	第1回 “人を動かす”意味、意義について							
	歴史的ないきさつを踏まえ、なぜこのような考え方が出てきたのか、その背景を知る。							
	第2回 マイケースの作成について				レポート			
	“人を動かす”を題材に、ご自身の実践するケースを作成する。							
	第3回 理論事始め				ディスカッション			
	「科学的」をキーワードに、経営学的な視点でマネジメントとリーダーシップを解説する。							
	第4回 科学的管理法について				レポート			
	マネジメントのはじまりともいえる理論について、その考え方やしくみ、制度について考察する。							
	第5回 人間関係論について				レポート			
	科学的管理法とは対極とも言える考え方について考察する。							
	第6回 XY理論について				レポート			
	科学的管理法と人間関係論の統合した内容について考察していく。							
	第7回 動機づけ 衛生理論について				レポート			
	マネジメントとリーダーシップの架け橋的な内容について考察していく。							
第8回 ここまでのまとめ				レポート				
ここまで学習した理論を、典型的なケースを用いて考察していく。								
第9回 これまでのまとめと集団における人間				レポート				
リーダーシップを考えるはじまりともいえる理論について、その考え方を考察する。								
第10回 リーダーシップ事始め				レポート				
理論的内容としては確立している、状況理論を考察する。								
第11回 リーダーシップ状況対応理論について				レポート				
実際の管理職やリーダーの行動を見ると、どのようなことが重要なのかを考察する。								
第12回 マネジャーの行動と変革型モデル				レポート				
状況理論を超える理論について考察する。								
第13回 持論紹介1：方法論				ディスカッション				
講師の持論であるシステムの考え方から人の動かし方を考察する。								
第14回 持論紹介2：実践論				ディスカッション				
講師の持論であるコミュニケーションの考え方から人を動かす実践内容を紹介する。								
第15回 “人を動かす”実践にむけて								
マイケースへの取り組みと記入の仕方について説明する。								
成績評価方法	<p>評価材料：第2回レポート、単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 マイケースの課題解決に最もマッチした持論またはこの講義での理論を用い、“人を動かす”実践内容に、論理的な一貫性がみられること。</p> <p>【B評価】 マイケースの課題解決にマッチしたこの講義での理論を用い、“人を動かす”内容に、論理的な一貫性がみられること。</p> <p>【C評価】 この講義での理論を用い、記述内容に論理的な一貫性がみられること。</p> <p>【D評価】 この講義での理論を用いて記述していること。</p>							
教科書	なし							

参考書 (任意購入)	『行動科学の展開』、ポール・ハーシイ、デューイ・E. ジョンソン、ケネス・H. ブランチャード、その他、生産性出版、3,200円（税抜）、2000年
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 組織やチームに所属する中で、自分以外のメンバーと協力しながら目的、目標に向かって物事を進めていく経験や実践する場が存在すること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 組織やチームにおいて、管理職ポストやチームリーダーの役割であること、または今後その役割を担う可能性があること。 【その他】 人事全般の業務経験をもとに、人そのもの、制度やしぐみ、時代背景といった人を動かすということに影響をもたらす要因を題材にあげ、その考察および実際の場での経験を通じて、実践していくマインドづくりを行う。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	民法		担当者	高村 麻実	
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	メディア授業 デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	-	
資格名	社会福祉主事【任用資格】							
特記事項								
学習目標	民法の基礎を理解し、定着させる。 択一式の問題を正答し、誤りの選択肢について説明できるようになる。							
学習の進め方	本授業では、学習した内容をもとに各回の最後に確認テストに取り組み、基準をクリアしたら確認テストの解説動画を視聴して、解き方を確認します。また、本授業が対象とする分野をできる限り網羅するため、学習内容自体がやや多めになっています。これらは、知識の獲得だけでなく、「問題を実際に解ける」状態をめざすために必要な学習量として設定しているものですので、積極的に学習を重ねましょう。							
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 (視聴前に準備しておくことも学修です。)各回の「学習内容」の概要に対応する範囲について、教科書の「ケーススタディ」の上半部分を中心に一読する。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 (視聴後に復習することも学修です。)授業範囲に係る問題演習と授業で指摘した部分を確認する。日常生活の中で、授業で扱った内容と関連する出来事やニュースに接した場合など、あらゆることを復習のきっかけとする。</p>							
学習内容	概要			課題				
	第1回 総則 1	民法の全体構造、権利義務の主体となる「人」と、客体となる「物」について学修する。			確認テスト			
	第2回 総則 2	人の行為としての「法律行為」と、他人のために法律行為を行う「代理」について学修する。			確認テスト			
	第3回 総則 3	民法全体に関わる各種の制度について学修する。			確認テスト			
	第4回 物権 1	人と物との支配関係の基礎について学修する。			確認テスト			
	第5回 物権 2	物の事実上の支配関係、自己の所有物に関する権利、および他人の物を使用する権利について学修する。			確認テスト			
	第6回 物権 3	自己または他人の物をもって債権を担保する制度について学修する。			確認テスト			
	第7回 物権 4	比較的多額の債権を担保するために多用される抵当権について学修する。			確認テスト			
	第8回 債権 1	人が人に請求する権利の基礎について学修する。			確認テスト			
	第9回 債権 2	債権関係の当事者の一方または双方が複数である場合、および他人の責任をもって債権を担保する制度について学修する。			確認テスト			
	第10回 債権 3	人に請求する権利を第三者に譲渡する制度、および債権の消滅について学修する。			確認テスト			
	第11回 債権 4	債権の発生原因の一つである契約、およびその典型である売買について学修する。			確認テスト			
	第12回 債権 5	貸借型の契約およびその他の典型契約について学修する。			確認テスト			
	第13回 債権 6	債権の発生原因のうち、契約以外の類型について学修する。			確認テスト			
	第14回 親族・相続 1	家族としての身分関係および財産関係について学修する。			確認テスト			
第15回 親族・相続 2	制限行為能力者の財産管理、および死亡した人が有していた財産について学修する。			確認テスト				
成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験</p> <p>【A評価】 単位修得試験において90点以上を得たもの。(各授業回で扱った内容をよく理解し、正確な知識を備えていることに加え、それらの理解と知識を応用できるレベル)</p> <p>【B評価】 単位修得試験において75点以上90点未満を得たもの。(各授業回で扱った内容を理解し、正確な知識を備えているレベル)</p> <p>【C評価】 単位修得試験において60点以上75点未満を得たもの。(各授業回で扱った内容をほぼ理解し、最低限の知識を備えているレベル)</p> <p>【D評価】 単位修得試験において50点以上を得たもの。(各授業回で扱った内容のうち、一定の部分を理解し、その部分について最低限の知識を備えているが、全体としての最低限の基盤的能力が備わっていないといえないレベル)</p>							

教科書	著書 『大卒程度 公務員試験準拠テキスト - 民法 - 』 編者 東京アカデミー
参考書 (任意購入)	なし
必須ソフト ・ツール	なし
備考	【履修の前提とするもの】 なし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「法学基礎」の単位を修得している、または履修していること。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	ヨーロッパの文化と歴史			担当者	武内 英公子
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名	日本語教員養成課程(新基準)								
特記事項									
学習目標	ヨーロッパの文化の成立過程や、それが日本に伝わった背景を正確に理解し、ヨーロッパの文化と私たちが生きる現代社会との密接な関係を説明できる。さらに現在ヨーロッパで起きている様々な事象をニュースなどで見聞きした際、講義で学んだ内容を結びつけて理解し説明できる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 el-Campusトップの「その他の学習」に掲載されている「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。また、普段からヨーロッパの文化・歴史に関心を持ち、知識・情報を収集しましょう。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 繰り返しオンデマンド教材を視聴し、授業内容をよく理解した上で課題および次回の学習に取り組みましょう。授業中に紹介された参考文献をできるだけ読んでください。</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 ヨーロッパ世界の形成								確認テスト
	今後の学習の基礎として、まずヨーロッパとはどこなのか、そこに住んでいるのはどういう人々なのか概観したのち、ヨーロッパ文明の重要な源流となったギリシア世界、ローマ世界、ケルト文化について学習する。								
	第2回 西ヨーロッパ中世界								確認テスト
	神や教会を中心とした中世の封建社会の基盤となった荘園制に基づく経済体制と、そこから生まれた文化について学習する。								
	第3回 ルネサンスという時代								確認テスト
	ルネサンスが14世紀～16世紀のイタリアで展開され、その後終焉を迎えた理由について学習する。								
	第4回 近世ヨーロッパ世界の形成								確認テスト
	第4回第5回にわたり、15世紀後半から18世紀後半までの約300年のヨーロッパの歴史を学習する。今回第4回は近世の前半部分、近代国家の原型となる主権国家体制が確立する17世紀前半までを学習する。								
	第5回 絶対王政とヨーロッパの植民地								確認テスト
	ヨーロッパの主権国家体制が近代的な国民国家になる過程、次に絶対王政を倒すことになったフランス革命の思想的な背景である啓蒙思想、最後に、ヨーロッパがアメリカ大陸を植民地化していった過程について学習する。								
	第6回 ヨーロッパの近代								確認テスト
産業革命とフランス革命が起こった背景とその過程について学習する。この二つの革命後、ヨーロッパの近代化がどのように進展したのかについて学習する。									
第7回 二つの世界大戦								確認テスト	
第1次世界大戦と第2次世界大戦の二つの世界大戦の経緯について、ナチス＝ドイツが、ユダヤ人に対して行ったホロコーストについて、当時芸術がどのように戦争のプロパガンダの手段として利用されたかについて学習する。									
第8回 ヨーロッパの未来								確認テスト	
二度の世界大戦の反省を踏まえ、ヨーロッパが恒久平和の実現と経済の発展のため、どのような仕組みを構築し、様々な危機に直面しながら現在も構築し続けているかについて学習する。									
成績評価方法	<p>評価材料：単位修得試験（レポート）</p> <p>【A評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、参考文献や根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。わかりやすくまとめられており、また資料からの引用を適切に使用し、説得力がある。ヨーロッパの文化と歴史の流れを正確に理解し、それを元に現在ヨーロッパで起きている様々な事象を正確に説明でき、さらに日本の文化や歴史と関連づけて説明できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。</p> <p>【B評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、参考文献や根拠を示しながら、自らの意見を論理的に記述できる。ヨーロッパの文化と歴史の流れを大まかに理解し、それを元に現在ヨーロッパで起きている様々な事象を大まかに説明できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。</p> <p>【C評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、自らの意見を論理的に記述できる。現在ヨーロッパで起きている様々な事象を大まかに説明できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。</p> <p>【D評価】 授業内容を理解した上で、各回の確認テストをクリアし、単位修得試験（レポート）において、与えられた課題について十分に調べ、自らの意見を記述できる。ヨーロッパの文化や歴史について興味を持ち、自分なりに探求する力を備えている。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『詳説世界史B 改訂版』、木村靖二 他、山川出版社、848円(税抜)、2017年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 ヨーロッパの文化や歴史への関心があり、授業中に紹介される参考文献を読もうという意欲を持っていること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	臨床心理学		担当者	酒井 健
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	-
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学に関する基礎理論や知識を簡潔に説明できるようになること。 心の病の種類や病理の理解について、心理学を専門としない患者の立場で理解できるレベルで基礎的な内容を説明できること。 臨床心理学の基本的な考え方(本科目で扱う精神分析、行動主義、人間性心理学など)について、知識のない人にわかりやすく説明できるための適切な知識をもっていること。 臨床場面で使用される心理検査(本科目で扱う知能検査、発達検査、パーソナリティ検査)について、正しく説明するために必要な知識を持っていること。 代表的な、心理カウンセリングや心理療法について、それぞれの考え方や位置づけ、特徴などを簡潔に説明できるようになること。 心理援助のために必要な基本的な内容について、説明できるようになること。 臨床心理学と関連する他の心理学分野の基礎理論や知識について説明できるようになること。 学んだ知識を統合して、または関連する必要な知識を自ら学び、事例の理解を深めることができること。 <p>例を挙げると、この授業ではマラーの分離-個体化理論や、ボウルビーの愛着理論、エリクソンの発達論、などは他の授業での学習に任せるなどの理由で取り上げていないが、必要に応じて復習もしくは追加で自ら学ぶことをある程度期待している。</p>						
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。各回の確認テストには、オンデマンド教材で直接取り上げてはませんが、その回の内容と関連する内容、用語、概念等も出題しますので、それらが出てきたときは調べながら考えることで、知識はより深まるものと思います。						
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 各自で読みやすいと思う入門的な位置づけの臨床心理学の図書を手に入れて読んでおくことが望ましいです。入門的なもしくは概念的な図書は、本によってボリュームがずいぶん異なります。講義でそのすべてを網羅することは困難であるので、授業はガイドライン的側面もあると考えて望んでほしいと思います。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回で講義している内容は、扱っているテーマやトピックをすべて網羅できているわけではありませんので、学習前の準備と併せて各自で学習ノートを作るなどの作業を、復習および事後学習として行うことがとても望ましいと考えています。</p>						
学習内容	概要			課題			
	第1回 臨床心理学とは何か	臨床心理学という学問がどういったものかについて、説明します。			確認テスト		
	第2回 主な理論と治療・介入技法1 精神分析	精神分析についての概要を説明いたします。			確認テスト		
	第3回 主な理論と治療・介入技法2 分析心理学	日本でも興味関心の高いユング心理学についての概要を説明します。			確認テスト		
	第4回 主な理論と治療・介入技法3 行動療法、認知・行動療法	臨床心理学における主要な理論である、行動主義と行動療法、さらにそこから認知療法、認知行動療法について説明します。			確認テスト		
	第5回 主な理論と治療・介入技法4 人間性心理学	臨床心理学における主要な理論である、人間性心理学について説明します。			確認テスト		
	第6回 主な理論と治療・介入技法5 その他の心理療法	第2回から第5回で取り上げてこなかった、理論や技法について説明します。催眠療法、短期療法、家族療法、EMDR、内観療法、森田療法などを取り上げます。			確認テスト		
	第7回 心理アセスメントの考え方と心理検査1	臨床心理の実践に関連して、主要なプロセスの一つであるアセスメントについて説明します。			レポート		
	第8回 心理アセスメントの考え方と心理検査2	アセスメントにおける主要な手法の一つである心理検査について、知能検査、発達検査、人格検査にわけて説明します。			確認テスト		
	第9回 様々な心の問題1	心の病をどのように捉え分類しようとしているのか、その考え方にはどのようなものがあるのかを含め疾患分類について説明します。			確認テスト		
	第10回 様々な心の問題2	第9回に続いて、心の病や症状について説明します。			確認テスト		
	第11回 心理臨床の場	心理臨床の場と、関連する法律および専門家の教育と倫理など、心理臨床と社会との関連に関わるトピックについて説明します。			確認テスト		
	第12回 ケースを理解する1	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。			ディスカッション		
	第13回 ケースを理解する2	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。			ディスカッション		
	第14回 ケースを理解する3	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。			ディスカッション		
第15回 ケースを理解する4	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。			ディスカッション			

成績評価方法	<p>評価材料：第12回～15回目のディスカッションにおける、コメントおよび他者へのコメントと単位修得試験の結果</p> <p>【A評価】ディスカッション：適切なコメントや判断を述べ、また他者へのコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、複数の内容を組み合わせることで説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。</p> <p>【B評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠はやや正確さに欠けているが、おおむね妥当である内容を述べており、また他者に対するコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体現していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、多少不十分ではあるにせよ複数の内容を組み合わせることで説明できるレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。</p> <p>【C評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠は正確さに欠くところがあり、知識の不十分さが見られるが、妥当な内容も述べていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、概ね正確な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識に基づいた簡単な回答ができる。</p> <p>【D評価】ディスカッション：テーマに沿ったコメントを行っていること。正しい知識に基づいているとは言いがたい面もあるが、妥当な内容のコメントもできていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。 単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、専門的にみて適切な知識を有しているレベルであること。 臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、少なくとも妥当ではない回答はしない程度の知識を持っていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>・臨床心理学の入門的位置づけの図書 これは各自が読みやすいと思ったものでかまいません。ただし出版時期の古いものは内容も古くなっているため、おおむね7～5年以内の出版（改定版）で見つけることが望ましいと思います。ただし古いものがいけなくないということではありません。古いものも、概念の部分はよくまとめられた良書は多々あります。ただそういった図書の場合は客観的知識として古い面があることに注意してください。 例：『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦編、ミネルヴァ書房、3,300円（税抜）、2009年</p>
必須ソフト・ツール	なし
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学概論」「生涯発達心理学」「青年心理学」「人格心理学」「学習心理学」「行動の科学」の内容はなるべく、また「精神分析学」の内容もできれば、修得していること。</p> <p>オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	臨床心理学実習		担当者	酒井 健, 辻野 達也
レベルナンバ	300	単位	2	授業方法	スクーリング		
単位修得試験 受験資格	3/4以上の出席		単位修得試験 実施方法	現地試験(レポート)		単位修得試験 試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
資格名	認定心理士、2級キャリアコンサルティング技能士【受験資格】						
特記事項							
学習目標	臨床心理学の基本的な理論や技法について学びながら、さまざまなワークやエクササイズを通じて、自己理解および他者理解を深めることを目標とする。						
学習の進め方	講義部分では、実習のときの基本となる理論や考え方の習得をめざす。実習部分では、ワークやエクササイズを通じて、体験的に学習を深める。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、心理学全般の基礎知識について復習しておくこと。任意の臨床心理学の概論的な入門書に当たり、臨床心理学全般についての理解を確かめておくこと。 受講後は、授業で扱った理論や技法、検査等に関して、各自でより専門的な図書に当たり、内容を深めていくこと。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 心理アセスメント 心理アセスメントとは何か 全30回の授業のなかで、前半15回は主に心理アセスメントを中心に授業と実習を行う。 第1回は、実習に備えて、心理アセスメントの意味や役割、内容等の概略を学ぶ。						
	第2回 心理アセスメント 描画法 描画法による心理査定のお考えと、具体的な方法について学ぶ。						
	第3回 心理アセスメント 投影法1 投影法の一つであるTATの実習を通して、投影法について理解を深める。						
	第4回 心理アセスメント 投影法2 パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。						
	第5回 心理アセスメント 投影法3 パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。同じ投影法であるTATも紹介する。						レポート
	第6回 心理アセスメント その他のパーソナリティ検査1 TEGを用いて、質問紙によるパーソナリティ検査について学ぶ。 またPFスタディや20答法、SCTなど、ここまで紹介してこなかった検査について補助的に解説する。						
	第7回 心理アセスメント その他のパーソナリティ検査2 これまで施行した複数の検査を統合してパーソナリティを理解することを学ぶ。						
	第8回 心理アセスメント 知能検査1 ことに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。						
	第9回 心理アセスメント 知能検査2 ことに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。						
	第10回 心理アセスメント 知能検査3 ことに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。						レポート
	第11回 心理アセスメント 発達理解1 発達検査について講義と実習を行う。						
	第12回 心理アセスメント 発達理解2 発達検査について講義と実習を行う。						
	第13回 心理アセスメント 発達理解3 発達検査について講義と実習を行う。						
	第14回 心理アセスメント 神経心理学検査 神経心理学的検査について講義と実習を行う。						
第15回 まとめ 質疑を中心に、ここまで14回の内容についてのまとめを行う。						まとめレポート	

	概要	課題
学習内容	第16回 ストレス・マネジメント	
	ストレス・マネジメントの考え方と方法	
	第17回 認知行動療法	
	認知行動療法の理論と技法	
	第18回 アサーション・トレーニング	
	アサーション・トレーニングの原則	
	第19回 イメージ療法	
	イメージ療法の特徴と種類	
	第20回 人間性・トランスパーソナル心理学	レポート
	人間性心理学およびトランスパーソナル心理学について	
	第21回 ユング心理学	
	タイプ論	
	第22回 ユング心理学	
	元型論	
	第23回 ユング心理学	
	個性化の過程	
	第24回 ユング心理学	
	共時性と布置	
	第25回 ユング心理学	レポート
	夢分析	
	第26回 心理アセスメント	
	エゴグラム	
	第27回 心理アセスメント	
	描画法（バウム・テスト、風景構成法）	
	第28回 心理療法	
	アートセラピー	
	第29回 心理療法	
	箱庭療法	
	第30回 単位修得試験と解説	
成績評価方法	第1回～第15回 二つの小レポート（30%）、授業への取組（授業中やディスカッションでの発言、実習への取り組み方を含む 30%）、まとめレポート（40%） 第16回～第30回 各回のレポート（50%）、単位修得試験（50%） なお、前半15回と後半15回の評価をそれぞれ50%とし、合計したもので最終的な評価とする。	
教科書	なし。適宜レジュメを配布する。	
参考書 （任意購入）	『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦、ミネルヴァ書房、3,000円（税抜）、2011年10月30日	
必須ソフト ・ツール	なし	
備考	受講者上限人数 実習40名 受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。 先修条件は、特にこの科目、という条件はありませんが、心理学関連の科目をなるべく履修していることが望ましく、また必要であれば各自で補ってください。	

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	倫理と道徳		担当者	石毛 弓
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
資格名							
特記事項							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる。 ・すべての授業を受講し終えた時点で、自己の価値判断基準を自覚し、その基準でもって授業で習った課題を評価する(自分なりの考えを書く)ことができる。 						
学習の進め方	<p>本授業では、オンデマンド教材を読み問いに答えることで学習を進めます。 必要に応じて教科書を参照します。 各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。</p>						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ・ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。 						
学習内容	概要					課題	
	第1回 倫理って? 道徳って? 概論					ディスカッション	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「倫理」と「道徳」の概念について ・今後の学習の見通しについて 						
	第2回 「幸福」という基準 功利主義					ディスカッション	
	功利主義について ベンサムを中心に						
	第3回 量の問題、質の問題 功利主義					ディスカッション	
	功利主義について ミルを中心に						
	第4回 「人格」について 義務論					ディスカッション	
	義務論について						
	第5回 「嘘」について 義務論					ディスカッション	
	倫理学における「嘘」のとらえ方について						
	第6回 自然なルールとしての倫理・道徳 社会契約説					ディスカッション	
	社会契約説について						
	第7回 分配のルールとしての倫理・道徳 正義論					ディスカッション	
正義論について							
第8回 徳、ケア、共同体 徳倫理学					ディスカッション		
徳倫理学について							
第9回 「である」と「べきである」のちがひ メタ倫理学					ディスカッション		
メタ倫理学について							
第10回 いかに生きるかということ 生命倫理学					ディスカッション		
QOL、インフォームド・コンセントを中心とした生命倫理学について							
第11回 人格と責任 生命倫理学					ディスカッション		
人格論を中心とした生命倫理学について							
第12回 自然の生存権の問題 環境倫理学					ディスカッション		
自然の生存権の問題を中心とした環境倫理学について							
第13回 地球全体主義、世代間倫理 環境倫理学					ディスカッション		
地球全体主義および世代間倫理を中心とした環境倫理学について							
第14回 現代倫理学あれこれ					ディスカッション		
現代におけるさまざまな倫理学について							
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の受講状況(確認問題や掲示板への書き込み含む):20% ・単位取得試験(レポート):80% レポートは「単位取得試験」の回にある「レポート用紙」をダウンロードしその形式を使用すること。 剽窃の場合は単位を取得できないか成績が極端に下がることがあります。その他、レポートの形式はオンライン教材『レポートの書き方』を参照してください。 『レポートの書き方』 el-Campus その他学習 レポートの書き方 						
教科書	『動物からの倫理学入門』伊勢田哲治、名古屋大学出版会、2,800円(税抜)、2008年						
参考書(任意購入)	なし						
必須ソフト・ツール	なし						
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。						

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	ロジカル・シンキング			担当者	今宮 信吾
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	ツールの使い方について知り、課題に沿って使ってみる。その結果ツールの良さを感じ、日常での思考に生かすことができる。各回の課題を提出し、ツール活用やロジカル・シンキングについてのリフレクションを行う。この授業で学んだことをこれからの生活に生かしていこうという意欲的な学びの姿勢を作ることができる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。第2回～第7回では、ワークシートを使った演習を行います。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 ワークシートを使って演習を行うので、メモしながら学習できるよう、筆記用具を用意すること 現代的な課題を取り扱いつつながら学習を進めるので、テレビや新聞など日常的な話題の情報を集めておくこと 前の回で学習したことを振り返り、ツールの使い方や目的、思考の方法は、どこがどのように違うのかという学習の構えを作ること</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で修得したツールの活用方法を日常生活で使いながら、単位修得試験に備えること、専門用語などわからないことがあれば、調べておくこと</p>								
学習内容	概要								課題
	第1回 ロジカル・シンキングとラテラル・シンキング								ディスカッション
	ロジカル・シンキングをするために、その反対軸にあるラテラル・シンキングを学び、ロジカル・シンキングの必要性について学ぶ。意識的にロジカルな頭を作るために、ツールの活用について紹介する。								
	第2回 ロジカル・シンキングのためのツール活用1								レポート(ワークシート提出)
	ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「比べる」「わかる」という思考の方法を学ぶ。								
	第3回 ロジカル・シンキングのためのツール活用2								レポート(ワークシート提出)
	ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「つなぐ」「組み立てる」という思考の方法を学ぶ。								
	第4回 ロジカル・シンキングのためのツール活用3								レポート(ワークシート提出)
	ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「筋道立てる」「価値づける」という思考の方法を学ぶ。								
	第5回 ロジカル・シンキングのためのツール活用4								レポート(ワークシート提出)
	第2回～第4回で紹介した以外のツールの活用方法について学ぶ。								
	第6回 パブリックスピーチと話し合いのためのロジカル・シンキング								レポート(ワークシート提出)
思考ツールとして活用するものをスピーチや話し合いでも活用できることを学ぶ。									
第7回 ライティングスキルのためのロジカル・シンキング								レポート(ワークシート提出)	
ロジカルに考えたことを記録として残し、文章にしていくための方法について学ぶ。ノート活用と小論文を書くための準備を学ぶ。									
第8回 ロジカル・シンキング活用法								確認テスト	
能動的に学ぶこと、そして見ることでロジカルに考えることを学ぶ。今まで学んだロジカルな頭を活用する方法を学ぶ。									
成績評価方法	<p>評価材料：各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験</p> <p>【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。</p> <p>【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。</p> <p>【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じることができる。各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。</p> <p>【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、意欲的に課題を捉え、記入している。各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方は不十分であるが、課題に対して進んで取り組んでいることをいう。単位修得試験において、ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word 2010以上またはWord for Mac 2011以上								
備考	オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	私のライフデザイン論			担当者	中島 剛
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
資格名									
特記事項									
学習目標	「真の豊かさ」モデルや「キャリア」モデルに関する理解を深めながら、自分らしい生き方や生きがいの本質について自分自身を通して模索し、人生設計を立てることができる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 各回のテーマに関連する社会問題(時事ネタ)やキーワードを新聞・雑誌記事等から探していただくこと 【学習後に復習として実施すべきこと】 各回に提示する参考図書リストの文献を読むことで、自らの学びを深めておくこと								
学習内容	概要								課題
	第1回 ライフデザイン学習のねらい								レポート
	ライフデザインを学ぶ目的と意図を理解し、本講義の全体概要を掴む。								
	第2回 「真の豊かさ」モデルと人生設計								レポート
	「真の豊かさ」について、「個人の生き方」と「社会の在り方」の両側面から模索する。								
	第3回 個人の発達とライフサイクル								レポート
	自分や家族の加齢や環境の変化によって移り行くライフサイクルを概観する。								
	第4回 近代化とライフデザイン								ディスカッション
	人生を展開する土俵である社会空間がどのように作られ、どう進展していくかについて学習する。								
	第5回 希望あふれるライフデザイン								レポート
	自分の特徴や得意な能力が生かせる職業に就けてこそ、いきいきとしたライフデザインが行えることを職業適性の側面から学ぶ。								
	第6回 人生と生活のリスクマネジメント								確認テスト
労働法による保護が必要な層(非正規・女性)ほど、知識が疎いという現状を理解する。労働者の権利について実例を通して学ぶ。									
第7回 豊かさの探求								ディスカッション	
真の豊かさを構成する4つの分野から豊かさを取り上げる。									
第8回 ライフデザインの実践								レポート	
自分の能力を思う存分に発揮するために、自分自身を見つめ直す方法について学ぶ。									
成績評価方法	<p>評価材料：レポート、ディスカッション、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自身を客観的に熟考できていると認め、自分の意見を述べている。ディスカッション課題で、内容に適した意見を述べるとともに、積極的に受講者全体が課題をより深く理解するためのヒントや意見が述べられている。単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえて、各回で行った自身についての分析の集大成として客観的かつ論理的に企画書にまとめられている。</p> <p>【B評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自身を論理的にまとめ、自分の意見を述べている。ディスカッション課題で、内容に適した意見を述べるとともに、積極的に他の受講者に意見が述べられている。単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえて、客観的かつ論理的に企画書にまとめられている。</p> <p>【C評価】 レポート課題で、授業で修得したライフデザインの諸概念に則り、自分の意見を述べている。ディスカッション課題で、内容に適した意見が述べられている。単位修得試験レポートで、授業で修得したライフデザインの諸概念をふまえて、まとめられている。</p> <p>【D評価】 すべての課題を通して、客観的かつ論理的に分析できているとは言えないが、授業内容をおおむね理解していることが示されている。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『改訂新版 ライフデザイン学概論 真に豊かな生活を求めて』宮田安彦著、日本教育訓練センター、2,300円(税抜)、2013年 『キャリアデザイン入門テキスト』中島剛著、学事出版、1,200円(税抜)、2014年 『ブラック企業に負けないリーガル・リテラシー』中島剛著、萌書房、2,200円(税抜)、2016年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本授業を受講する前に自分自身のこれまでの人生について振り返る機会を持つようしておくこと。 オンデマンド教材がモバイル端末で視聴できます。</p>								

2020年度「卒業研究」概要

教員名	石毛弓
研究テーマ	哲学および倫理学に関連するもの
授業概要	<p>哲学および倫理学は、幅広い分野をあつかうことができる。 そのため、テーマ選びが重要となる。 まず自分の興味関心を定め、その関心に基づいて文献を収集・精読する。 そのうえでテーマを絞り込む。 論文を書くまえに研究計画書の提出が求められる。その後アウトラインを作成し、 それに基づいて論文を書き進める。 授業では、テーマ選び・論文作成等についてのアドバイスを行っていく。</p>
卒論テーマ	<p>哲学および倫理学全般 <例> ・心身問題 ・自由 ・ニーチェ研究 ・正義論</p>
先修条件	<p>「アカデミック・ライティング」 「ロジカル・シンキング」 「哲学」 「倫理と道徳」</p> <p>これら4科目すべてを修得していること</p>
授業の運営方法	<p>方法：「通信指導」及び「面接指導」 回数：「面接指導」2回以上を予定 時期：「面接指導」は学生との相談のうえ決定する。「通信指導」は随時行う。 その他：指導方法等は、状況に応じて適宜変更する。</p>
履修生に 伝えたいこと	<p>文献研究が主となるため、文献を読み解く力が必要となる。</p>

2020 年度「卒業研究」概要

教員名	浦畑 育生
研究テーマ	「大学教育」 「自然科学」 「日本語教師を海外で体験してみる（カンボジア、中国）」 など
授業概要	どのような研究テーマでも、一緒に考えていく形で進めます。 日本語教師体験は、過去5年間で8人がカンボジアに行きました。
卒論テーマ	卒論テーマは、学生各人の希望を聞いて、話し合ってから決めます。 過去の例・・・「豪華クルーズ船の旅」「造園業の縄しぼり」「カンボジア日本語教師体験」
先修条件	特になし
授業の運営方法	スカイプで議論しながら、論文をメールで送ってもらい、研究を進めていきます。 日本語教師の海外体験は、実際に現地（カンボジア、中国）で日本語教師を行います。
履修生に伝えたいこと	研究したいテーマがあれば、相談に応じます。一緒に考えましょう。

2020年度「卒業研究」概要

教員名	奥村 紀之
研究テーマ	「コンピュータ上での連想基盤構築に関する研究」 「文書群に基づく著者の感情推定に関する研究」 「顔文字や絵文字などの非言語情報の解析に関する研究」
授業概要	本研究では、主として人間の連想に基づく対話相手の感情推定に関する研究や、感情推定のきっかけとなる非言語情報の解析に関する研究を行う。インターネットを利用したコミュニケーションが盛んになる一方で、文字だけのやり取りでは誤解を生じたり、発話者の意図が正しく伝わらなかったりといった状況が発生し、そういった場合、多くはトラブルに発展している。 日本語を母語とする人間の多くは、ハイコンテキストな情報のやり取りを行う傾向にあると言われ、目は口ほどにものを言うという諺にも現れているとおおり、言葉以外の情報を巧みに読み取ろうとする性質がある。しかし、文字だけでのやり取りを主としたインターネットにおけるコミュニケーションでは、文字以外の情報は皆無であり、話者の情報を推定することができず、誤解が生じてしまう。 こういった問題を解決するため、文章そのものから感情を推定することはもとより、非言語情報をどのように扱うかについて広く検証を進めていく。
卒論テーマ	1. 連想基盤に基づく自然な対訳歌詞の自動生成 2. 顔文字に基づく感情、動作、行為の抽出に関する研究 3. Twitterなどの文書群からの著者の感情推定に関する研究 4. 小説記事の自動解析に基づく登場人物の出現傾向に関する調査 5. 数学における文章題の自動解析に関する研究
先修条件	コンピュータと通信、情報活用I、II、数学、データベース論、統計入門、物理学概論、ロジカルシンキングといった、コンピュータに関する科目、および数学、統計学といった基礎科目を修得していることが望ましい。
授業の運営方法	方 法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。Skypeによる面談も適宜実施する。 回 数：「面接指導」は月に1回程度実施する。Skypeによる対応も可。 時 期：「面接指導」は受講者の意向を重視し、日程を確定する。「通信指導」に関しては、Slack等のコミュニケーションツールを利用して随時行う。 その他：「面接指導」およびSkypeによる指導では、3週間に1回程度プレゼンテーションを実施する。
履修生に伝えたいこと	昨今注目されている人工知能に関する研究テーマです。ここで挙げているテーマ以外にも、学生からの提案による研究指導も受け付けております。 詳細は面談にて確定することとしますので、興味があればご相談ください。

2020年度「卒業研究」概要

教員名	川口 宏海
研究テーマ	「日本考古学に関する研究」 「生活文化(衣・食・住)の歴史に関する研究」 「都市の歴史に関する研究」 「人間環境の歴史に関する研究」 など
授業概要	日本の歴史や、考古学に関する研究、特に都市の歴史や生活文化(衣・食・住)の歴史、あるいは人間環境の歴史、産業の歴史などを専門としているので、それに近いテーマであればかまわない。江戸時代や明治時代でもかまわない。文献史料や考古資料を使って、歴史を解明し、新たな発見をしていけるように指導を行う。過去を振り返ることによって、今後の日本が歩むべき道、あるいは私たちが歩むべき道を見つけていきたい。
卒論テーマ	①「前方後円墳の変遷に関する研究」 ②「奈良時代の衣・食・住に関する研究」 ③「中世都市鎌倉の都市構造に関する研究」 ④「巨大都市江戸のごみ問題に関する研究」 ⑤「近世酒造業の発展に関する研究」など
先修条件	「考古学の世界」を修得していることが望ましい。(※2019年度は不開講)
授業の運営方法	方法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回数：「面接指導」は進捗状況に応じて、1回以上適宜行う。 時期：「面接指導」は8月または9月と進み具合によって適宜行う。「通信指導」は随時実施する。 その他：テーマに応じた現地見学や資料調査を指示することがある。方法や行き先などは相談の上進める。
履修生に伝えたいこと	楽しんで論文を書き、思い出に残るような経験にしてほしい。

2020年度「卒業研究」概要

教員名	酒井 健
研究テーマ	「臨床心理学とその周辺領域に関する、心理学的研究」
授業概要	<p>臨床心理学およびその周辺領域に関するテーマについて、卒業研究制作を通して深く学ぶ。心理学は実証科学であるということ、また臨床心理学分野における証拠に基づく研究の重視を踏まえて、卒業研究では各自の研究テーマについて調査や実験などを行い、データ分析の結果に基づいて論文作成することを基本とするが、文献研究なども含めることとする。</p> <p>テーマは各自の興味や関心から選んでいくことになるが、そのテーマを研究可能な内容にしていくためにも、積極的な自主学習を期待している。</p>
卒論テーマ	<p>①リラクゼーションの心理効果とパーソナリティの関係 ②親子関係が、その後の対人関係に与える影響について ③学校臨床における、教員への有効なサポートの研究 ④統制の所在と自己コントロール感の関連について ⑤コミュニケーションにおける表情の影響について など</p>
先修条件	<p>「心理学研究法」 「心理学統計法」の2科目を修得していること。</p> <p>それ以外の心理学関連科目はなるべく多く履修していることが望ましい。 統計ソフトを含め、パソコンの操作にはなるべく習熟するよう準備しておくこと。</p>
授業の運営方法	<p>方 法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数： 必要に応じて適宜。 時 期：「面接指導」および「通信指導」は必要に応じて随時実施する。 その他：指導は進み具合などにより適宜変更する場合がある。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>卒論テーマで挙げたことはあくまで例ですので、研究雑誌などをみて各自でテーマを温めて臨んで欲しいと思います。卒業研究の作成は、主体的かつ自発的に取り組むほど得られる成果と達成感は大きいと思います。指導はそのお手伝いと思っております。ぜひがんばって取り組んでいただければと思います。</p>

2020年度「卒業研究」概要

教員名	鈴木 基伸
研究テーマ	「日本語と日本語教育」
授業概要	日本語学又は日本語教育学に関連する分野の研究を行います。日本語学であれば、日本語の文法、語彙、音声、方言（地域方言、社会方言）に関する研究。日本語教育学であれば、日本語教授法、第二言語習得、学習者の心のケア等に関する研究が可能であり、その領域は広大です。受講生はそれぞれ興味のある分野、大まかな研究テーマを決定したうえで卒論の指導を行います。
卒論テーマ	①「現代の若者ことばについて」 ②「『させていただく』はなぜ乱用されるのか？」 ③「関西弁の語彙に関する研究」 ④「受身文の効果的な教授法に関する研究」 ⑤「日系ブラジル人日本語学習者が抱える問題について」 など。
先修条件	「日本語教育」 「日本語の特徴と発音」 「日本語の文法と表現Ⅰ」 「日本語の文法と表現Ⅱ」 の4科目をすべて修得していること。
授業の運営方法	方 法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。回 数：「面接指導」3回以上を含み、随時行う。 時 期：「面接指導」は学生との相談のうえ決定する。「通信指導」は随時。 その他：指導方法等については状況に応じて臨機応変に対応する。
履修生に伝えたいこと	履修するからには、自分なりの研究計画をあらかじめ立てておいてください。

2020年度「卒業研究」概要

教員名	武藤 麻美
研究テーマ	「社会心理学とその周辺領域に関する心理学的研究」
授業概要	<p>社会心理学は、社会における人間の心理と行動について学ぶ学問である。卒業研究では、社会心理学やその関連領域に関するテーマについて学びを深める。</p> <p>卒業研究では、各自の研究テーマに関して先行研究をしっかりと調べ、そこから仮説を立てる。次に、その仮説を検証するために調査計画または実験計画を立て、質問紙調査や実験等を行う。そして、そこで得られたデータを分析して、その分析結果に基づく客観的な考察を行う。これら一連の作業を通して卒業論文を執筆していくことを基本とするが、文献研究なども含めることとする。</p> <p>卒業論文のテーマの例や関連するキーワードを下記に挙げているが、必ずしもこの中から選ばなければならないということはない。ただし、実証的研究を行うことを念頭に、各自関心のある研究テーマを探究していくことを期待する。</p>
卒論テーマ	<p>テーマとしていくつかの例やキーワードを挙げる。</p> <p>①自己や他者の認知（対人認知）、ステレオタイプや印象形成 ②対人コミュニケーション、組織内の人間関係やコミュニケーションの取り方等 ③職場のストレスとメンタルヘルスの問題等 （例：ストレスコーピングのタイプがアルバイトの在職期間に及ぼす影響） ④集団力学（グループダイナミクス）：同調行動や集団思考、社会的手抜き等 ⑤リーダーシップやワークモチベーション （例①：女性リーダーに対する男性フォロワーの認知について 例②：大学生の授業に対するコミットメントの程度と学習モチベーションとの関連） ⑥消費者心理（例：若者の高額商品購入時に影響を及ぼす心理的要因について）</p>
先修条件	<p>「社会心理学」 「心理学研究法」 「心理学統計法」の全てを修得していること。</p> <p>それ以外の心理学関連科目もできるだけ履修していることが望ましい。</p>
授業の運営方法	<p>方法：「通信指導」および「面接指導」で行う。 回数：必要に応じて適宜行う。 時期：「通信指導」および「面接指導」は必要に応じて随時実施する。 その他：指導方法等、追って連絡することがある。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>調査等にあたっては、研究倫理を把握したうえで実施することを心がけてください。また、研究は一朝一夕でできるものではなく、時間をかけて主体的に粘り強く取り組むことが重要です。各自で研究計画をしっかりと立て、先行研究の調査や質問紙等の作成、質問紙調査等の実施やデータ分析を主体的に進めてください。研究上の不明な点等は適宜相談に乗りますので、是非良い論文を執筆し完成させて頂けたらと思います。</p>

2020年度「卒業研究」概要

教員名	仲谷 伸子
研究テーマ	「ライフ・サイクルにおける諸事象の発達心理学的考察」
授業概要	<p>人生の中でのさまざまな事象を発達心理学的に考察し、次の発達段階に何が大切かを考える。また、次の世代にとって何が大切か、について考える。</p> <p>授業内容には、問題とそれにともなう適切な研究方法について考え、テーマを確定していくことを含む。</p> <p>「卒論テーマ」の欄に例を挙げるが、この中から選ばなければいけないのではない。主体的に、自分が何をしたいのか、それはなぜか、を考えて決定してほしい。</p>
卒論テーマ	<p>①「乳児期の発達の諸側面（身体・運動・認知・情動・対人関係等）の相互連関、またそれに伴う言語の問題」</p> <p>②「幼児期のことばの発達と対人関係の変化」</p> <p>③「児童期における『集団』の問題」</p> <p>④「青年期の職業観とアイデンティティの発達」</p> <p>⑤「中高年期の自己認知の問題 対人関係の再構築について」</p>
先修条件	<p>「心理学概論」 「生涯発達心理学」 「心理学研究法」 「心理学統計法」の4科目すべてを修得していること。</p> <p>下記の「履修生に伝えたいこと」の内容を合わせて確認すること。</p>
授業の運営方法	<p>方法：通信指導、および面接指導で行う。</p> <p>回数：「面接指導」数回、「通信指導」は随時。</p> <p>時期：「面接指導」は、集団での面接・討論を中心に8月を含み随時。（追って通知する） 「通信指導」は随時。</p> <p>その他：指導方法等、追って連絡することがある。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>「履修決定のための事前面接」の時に、研究したいこと、またその研究の方法について各履修希望者から聴き、話し合っ方向性を決めていくので、事前面談までに各自の研究に対する思いを説明できるようにしておくこと。</p> <p>研究方法として調査・実験を行なう場合、そのフィールドの確保も学生自身がおこなう。このとき、研究の倫理をしっかりとわきまえて計画・実施・報告することが必要となる（該当の学生には改めて確認をおこなう）。</p>

2020年度「卒業研究」概要

教員名	野波 侑里
研究テーマ	「健康・医療・病気に関する社会文化的研究」 「心と身体のセラピー・補完代替医療に関する社会文化的研究」
授業概要	<p>人間の健康・病気・治療について社会文化的な背景をもとに研究を行う。研究は、基本的には医療人類学の観点を視野に入れて考察を行う。</p> <p>西洋医学の台頭と科学の進歩により人間は様々な病いを克服することができるようになった。しかし一方で慢性病への治療効果や薬害、延命治療の問題には様々な議論がある。</p> <p>このような状況において補完代替医療が注目を集めている。代替補完医療の範囲は中国医学やアーユルベータなどの伝統医学からアロマセラピー・音楽セラピーなどの新しい民間医療まで多岐にわたる。また治療や癒しという観点において、心と身体の治療のみならず、霊性（スピリチュアリティ）を含んだ統合的な治療の試みも進んでいる。</p> <p>本卒業研究では、医療従事者・患者・患者の家族といった様々な視点から、健康、病気、治療について学生の興味・関心に応じて研究を行う。</p> <p>目標は、健康・病気・治療を切り口として、社会・文化的背景に基づいた様々な考え、価値観から多面的に事象を考察することができるようになることである。</p>
卒論テーマ	<ol style="list-style-type: none"> ①「漢方と西洋医学の効果的な共存の可能性に関する研究」 ②「笑いが身体や疾患に与える影響に関する研究」 ③「精神疾患の治療とマインドフルネスに関する研究」 ④「医療現場における医療従事者と患者の語り（ナラティブ）に関する研究」 ⑤「高齢者介護におけるスピリチュアルケアに関する研究」など
先修条件	「医療人類学入門」、「心と身体のセラピー演習」を修得していることが望ましい。 また、履修していない学生は「卒業研究」と同時に履修しても良い。
授業の運営方法	<p>方法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。</p> <p>回数：「面接指導」は5回程度行う。 （遠方に在住の方には、希望があればスカイプによる指導も可）。</p> <p>時期：「面接指導」は、個人あるいはグループでのディスカッションなど学生と相談の上、決定する。 「通信指導」は随時。</p> <p>その他：指導方法は、状況に応じて随時変更する場合がある。</p>
履修生に伝えたいこと	医療従事者・患者・患者の家族の立場で病気と向き合った身近な経験などから、現代の医療に関わる疑問点を解明し、新たな角度で医療を見直すことに興味のある学生を歓迎します。